

(公財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
[報告書]

12

2016年3月
ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、(公財)北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、ニッセイ基礎研究所が実施した「北九州芸術劇場 事業評価調査(その12)」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

北九州芸術劇場は、そうした動きに先立ち、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

12年目にあたる2014年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。その結果からは、これまでと同様に、北九州芸術劇場が着実に成果をあげ、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。また、今年度は⑤テーマ調査として、「舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」と題し、在京・在阪の劇団や制作会社等の、舞台芸術作品の流通(ツアー公演)の状況を把握し、国内の舞台芸術環境において北九州芸術劇場が作品流通に果たした役割と今後の展望について、論点整理を行っている。

末筆ではあるが、2003年度以降、12ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた(公財)北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2016年3月
ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室

◎ 目次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成	i
-----------------------------	---

[本編]

第1章 2014年度事業の概要と実績	3
第2章 観客の特性と観客からみた評価	17
第3章 貸館利用者からみた評価	26
第4章 経済波及効果とパブリシティ効果	31
第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果	37
第6章 舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場	61

[資料編]

資料Ⅰ 観客調査結果	資-1
資料Ⅱ 貸館利用者調査結果	資-55
資料Ⅲ 経済波及効果	資-85
資料Ⅳ パブリシティ一覧	資-99
資料Ⅴ 舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場	資-107

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1. 調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

12年目にあたる2014年度は、03年度あるいは04年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

- ①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
 - ②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
 - ③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
 - ④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出
- を実施した。さらに、14年度の「テーマ調査」として、
- ⑤舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場
- と題し、アンケートとヒアリングによる調査を実施した。

(2) 調査の内容

①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から12年間の経年分析を行なった。

②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-1～資-54参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンル等)など、観客特性の把握

③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に05年度から実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、14年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-55～資-83参照)。

④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-85～資-97参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-99～資-106参照)。

⑤舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場

「舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」と題し、在京・在阪の劇団や制作会社等の、舞

台芸術作品の流通(ツアー公演)の状況を把握した。その上で、国内の舞台芸術環境において北九州芸術劇場が作品流通に果たした役割を検証し、その成果と課題や今後の展望について調査した。調査の概要は、以下のとおり。(詳細は、p.資-107～資-144参照)。

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる6つの章によって構成されている。

- 「第1章 2014年度事業の概要と実績」
劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章 観客の特性と観客からみた評価」
自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見(公演やサービスへの満足度など)、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章 貸館利用者からみた評価」
貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章 経済波及効果とパブリシティ効果」
産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果」
第1章から第4章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。
 - A 劇場の設置目的：
鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動支援、地域への貢献
 - B 運営・管理： 場の提供・支援、施設のホスピタリティ・サービス、施設の維持管理
 - C 経営： 経営体制、リサーチ&マーケティング、経営努力
- 「第6章 舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」
アンケート調査とヒアリング調査から得られた論点を整理し、調査結果と考察をまとめた。

(2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「観客調査結果」では、14年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅱ「貸館利用者調査結果」では、08年度～14年度の7ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「経済波及効果」では、14年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅳ「パブリシティ一覧」では、金額換算の基礎となった14年度の新聞記事データの一

覧を掲載した。

- 資料V「舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」では、アンケート調査、ヒアリング調査の概要と調査結果を掲載した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(研究理事・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)

太田真奈美(社会研究部 研究アシスタント)

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2014年度事業の概要と実績

本章ではまず、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2014年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と14年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、開館以来「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードにした事業展開が行われてきた。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州発のオリジナリティのある良質の作品づくりを通じて、地域資源の発掘と北九州市のシティブランド発信に取り組む。
- **【育つ】**: 『交流』と『育成』を柱に、舞台芸術の力を活用し、地域の未来を担う人材を育成する。
- **【観る】**: 幅広いラインナップの充実を図り、市民に良質な公演を提供する。また、新たな観客づくりや、にぎわいづくりに寄与する。
- **【支える】**: 市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を積極的に行う。

(2) 事業の内容と実績、入場者数

- 14年度もこうした4つのコンセプトに基づき、自主事業全体(学芸事業・連携事業は含まず)で、40本の事業・417回の公演・アクティビティが行われた。第1期(03年度～07年度)と第2期(08年度～12年度)の推移を見ると、09年度以降の学芸事業の実施回数が減少したことで、第1期に比べて第2期の公演数が減少しているが、第3期に入って再び増加している。公演事業の公演数に大きな変化はない(図表1-1)。
- 14年度では42,687人が公演鑑賞やアクティビティに参加し(図表1-2)、自主事業で総席数の設定のある公演事業の入場率は、89.6%となった(図表1-3)。
- 03年度からの自主事業における入場者数と入場率の経年の推移を見ると、入場者数は年度によって増減が大きいものの、入場率では8割以上を維持しており、09年度以降は9割前後で推移している(図表1-4)。

図表1-1 事業数・公演数の実績(03年度～14年度)

	創造事業		公演事業		提携・協力事業		オープニング企画		演劇祭		公演事業 計		学芸事業	連携事業 計		総合計
	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	実施回数	事業数	公演数	
2003年度	3	35	15	35	5	8	2	2	2	9	27	89	219	—	—	308
2004年度	4	15	23	46	6	15	—	—	2	9	35	85	320	—	—	405
2005年度	6	45	24	42	6	13	—	—	2	7	38	107	297	—	—	404
2006年度	7	61	18	45	7	16	—	—	2	8	34	130	291	—	—	421
2007年度	5	24	22	49	11	28	—	—	3	8	41	109	283	—	—	392
第1期 平均	5	36	20	43	7	16	—	—	2	8	35	104	282	—	—	386
2008年度	8	41	15	33	5	12	—	—	1	28	29	114	279	—	—	393
2009年度	6	40	16	42	5	16	—	—	1	7	28	105	175	—	—	280
2010年度	5	21	17	39	9	25	—	—	1	17	32	102	178	—	—	280
2011年度	5	37	19	42	8	12	—	—	1	44	33	135	96	—	—	231
2012年度	5	22	18	43	9	20	—	—	6	17	38	102	203	—	—	305
第2期 平均	6	32	17	40	7	17	—	—	2	23	32	112	186	—	—	298
2013年度	4	21	17	46	9	30	—	—	7	22	37	119	200	—	—	319
2014年度	5	16	13	34	13	42	—	—	9	82	40	174	240	1	3	417
累計	63	378	217	496	93	237	2	2	37	258	412	1,371	2,781	1	3	4,155

※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として、2014年度より「北九州舞台芸術フェスティバル『北九州芸術工業地帯』」として開催。

図表1-2 入場者・参加者数の実績(03年度～14年度)

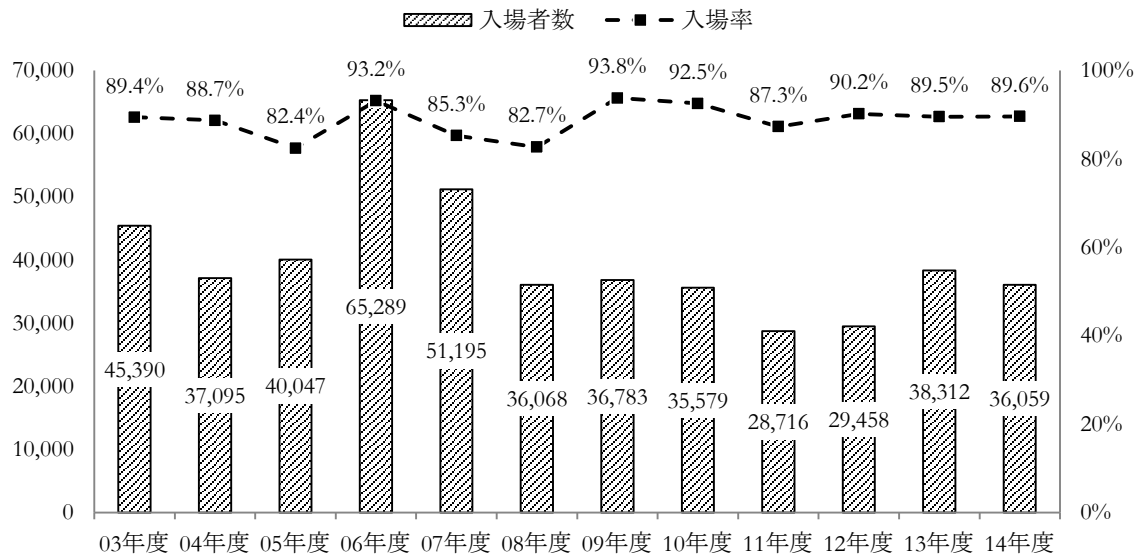
	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング企画	演劇祭	公演事業 計	学芸事業	連携事業	総合計
2003年度	13,350	22,079	7,382	1,592	987	45,390	2,404	—	47,794
2004年度	3,292	26,361	6,211	—	1,231	37,095	4,734	—	41,829
2005年度	9,332	21,294	6,642	—	2,779	40,047	6,327	—	46,374
2006年度	27,107	29,813	7,259	—	1,110	65,289	6,758	—	72,047
2007年度	5,224	32,378	11,869	—	1,724	51,195	6,200	—	57,395
第1期 平均	11,661	26,385	7,873	—	1,566	47,803	5,285	—	53,088
2008年度	12,320	18,164	3,895	—	1,689	36,068	10,577	—	46,645
2009年度	12,841	19,439	3,947	—	556	36,783	5,889	—	42,672
2010年度	3,124	24,229	6,427	—	1,799	35,579	5,404	—	40,983
2011年度	10,846	14,036	2,229	—	1,605	28,716	3,568	—	32,284
2012年度	3,847	18,517	2,996	—	4,098	29,458	5,900	—	35,358
第2期 平均	8,596	18,877	3,899	—	1,949	33,321	6,268	—	39,588
2013年度	3,208	20,319	11,202	—	3,583	38,312	6,554	—	44,866
2014年度	3,974	14,482	13,152	—	4,451	36,059	6,332	296	42,687
累計	108,465	261,111	83,211	1,592	25,612	479,991	70,647	296	550,934

図表1-3 総席数・入場率の実績(03年度～14年度)

	公演事業の入場者数の計(再掲)	総席数の設定のある公演事業の入場者数	総席数	入場率
2003年度	45,390	45,390	50,756	89.4%
2004年度	37,095	37,095	41,808	88.7%
2005年度	40,047	40,047	48,575	82.4%
2006年度	65,289	65,289	70,065	93.2%
2007年度	51,195	51,195	60,036	85.3%
第1期 平均	47,803	47,803	54,248	88.1%
2008年度	36,068	34,379	41,580	82.7%
2009年度	36,783	36,783	39,225	93.8%
2010年度	35,579	35,579	38,447	92.5%
2011年度	28,716	28,716	32,885	87.3%
2012年度	29,458	25,537	28,316	90.2%
第2期 平均	33,321	32,199	36,091	89.2%
2013年度	38,312	33,657	37,585	89.5%
2014年度	36,059	30,678	34,225	89.6%
累計	479,991	464,345	523,503	88.7%

※2008、2012、2013、2014年度は、総座席数の設定をしていない公演を入場率の算出から除いている。

図表1-4 入場者数・入場率の推移(03年度～14年度)



- 以下、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。(14年度事業の実績一覧を図表1-5に整理した。)

①創る:創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
 - 北九州芸術劇場プロデュースとして、別役実による子どもから大人まで楽しめる作品を戯曲、音楽、ダンスで融合した「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」
 - 北九州に住む高齢者の方々に地元の若手作家がインタビューを行い、演劇的に脚色しながら戯曲を作成した「Re:北九州の記憶」
 - 小学3年生から80歳を超える方までが参加しワークショップを重ねた創造事業である、合唱物語「わたしの青い鳥2014」
 - 演劇界の第一線で活躍する演出家を招き、地域の俳優によって国内外の魅力的な戯曲をリーディングとして上演する「リーディングセッション」
 - 世界40カ国以上で活躍し、圧倒的な人気を誇る舞踏カンパニーの山海塾と、北九州芸術劇場、パリ市立劇場、シンガポールのエスプラネイドシアターズ・オン・ザ・ベイの共同プロデュースによる「海の賑わい陸(おか)の静寂-めぐり」の世界初演といった事業が実施された。
- 「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」は北九州(2回)、東京(3回)で公演が行われた。
- 14年度は5事業で16回の公演が行われ、入場者数は3,974人となっている。13年度と比べると、公演数は減少、入場者数は増加となっている(13年度の実績は4事業、21回、3,208人)。入場率では、13年度の92%から14年度では87%と若干減少している。
- 個別の入場率ではリーディングセッションvol.23「書く女」で96%、「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」の北九州・東京の全5公演で91%となっている。「わたしの青い鳥2014」が74%となっているが、それ以外の公演の入場率は80%を超え、市民からの支持の高さがうかがえる。(図表1-5)。

②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
 - 北九州市立美術館のコラボレーション企画の第二弾として、劇場と美術館との合作ならではの特別企画「モテたい売りたい僕らアーティスト～アート界のスター・バスキアに憧れた若者の、愛と青春と勘違いの物語～」
 - 「アーティスト往来プログラム」として、演劇・ダンス分野から国内外の一線で活躍するアーティストを招き、地域、学校、劇場などで行う「ワークショップ」、「アウトリーチ」、「インリーチ」
 - 高校生や高校の演劇部顧問を対象に、大ホール、中劇場、小劇場、創造工房を活用した「高校生のための演劇塾2014」
 - 北九州市の企業や団体等と国内外の第一線で活躍しているアーティストが協働し、地域のアートレパトリーとなりうる作品を創作した「地域のアートレパトリー創造事業」
 - 創造・公演(アウトリーチやワークショップ)参加として、合唱物語「わたしの青い鳥2014」、「Re:北九州の記憶」、「月猫えほん音楽会2014《ワークショップ》」
- など、学芸事業全体では、創造参加も含め、24事業で240回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は6,332人となっている(図表1-5)。
- 13年度と比べると、アクティビティの回数は増加したものの、参加者数は減少している(13年度の実績は200回、6,554人)。

③観る:公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、蜷川幸雄の演出/監修のもと、次々と話題作を送り出してきた彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾「ジュリアス・シーザー」をはじめ、美輪明宏、カンパニー・フィリップ・ジャンティ、ナイロン100℃、フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCAなどの人気の高い舞台芸術公演、「月猫えほん音楽会」や「子供のためのシェイクスピア」といった子どもを対象とした公演など、幅広い観客層を対象とした公演が実施された。
- 公演事業では13事業が上演され、公演数は34回、入場者数は14,482人となっている。10周年を記念した13年度と比べると、公演数、入場者数はともに減少している(13年度の実績は46回、20,319人)。公演事業の入場率は90%と高い(図表1-5)。
- 提携・協力事業では、伝統芸能や小劇場・現代演劇など13事業が上演され、公演数は42回、入場者数は13,152人であった。13年度と比べると、公演数、入場者数ともに増加している(13年度の実績は30回、11,202人)。
- 創造事業、公演事業、提携等事業、フェスティバルを含めた公演事業全体の公演作品数は40本、公演数は174回、入場者数は36,059人である。13年度の年間入場者数と比べて減少したものの、第2期(08年度～12年度)の平均を上回っている。(図表1-4)。

④支える:地元劇団等の創造活動支援、貸館事業

- 「支える」に対応した主催事業では、
 - 全く異なる個性を持つダンサーが集まり、老若男女、どんな人でもダンスにふれることができるプログラムを揃え、小劇場、リバーウォーク北九州、まなびとESDステーションなどを会場におよそ2週間かけて開催された「ダンスダイブウィーク」、
 - 九州各地の劇団が短編作品を上演し勝敗を競う「劇トツ×20分」
 - 「モノづくりの都市」として栄えてきた北九州の地域資源や生活文化を活用し、演劇、ダンス、音楽、アートのプログラムをまちなかで開催した「北九州芸術工業地帯」

- 8日間の限られた時間の中で、街中のカフェなど通常は劇場空間ではない場所で参加者25名とアドバイザースタッフが演劇的な空間を作り出す「シアラボCafe2014」などを行った。
- 「ダンスダイブウィーク」、「劇ツ×20分」、「北九州芸術工業地帯」の入場者数は7,086人（前掲の「観る：公演事業」の入場者数の計に含まれる）、「シアラボCafe2014」の参加延べ人数は766人（前掲の「育つ：学芸事業」の参加延べ人数・入場者数の計に含まれる）。
- また、「支える」では市民の文化活動の支援を貸館として行い、「提案する劇場」として、使用申込みから当日までのケア、催し内容へのアドバイス、施設の安全性や非常時対応の説明等、使用者が安心して催しを開催できるように総合的にサポートした。
- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、14年度に公演や講演など、計196事業が開催された。公演・講演数は270回、貸館事業の入場者数は165,889人となっている。

図表1-5 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧(14年度)

1 創造事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画合唱物語「わたしの青い鳥2014」	中劇場	7/13	1	583	430	74%
2	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.24 「雰囲気のある死体」	小劇場	9/22～24	3	408	335	82%
	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.23 「書く女」	小劇場	2/14～16	3	410	395	96%
	計			6	818	730	89%
3	北九州芸術劇場プロデュース「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」 学校鑑賞公演(高校生)	中劇場	10/3	1	609	567	93%
	〃 北九州公演	中劇場	10/4	1	609	555	91%
	〃 東京公演	あうるすぽっと	3/21・22	3	759	684	90%
	計			5	1,977	1,806	91%
4	北九州芸術劇場＋市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」	小劇場	2/28・3/1	2	117	95	81%
5	北九州芸術劇場×パリ市立劇場×エスプラネイド・シアターズ・オン・ザ・ベイ×山海塾 共同プロデュース 山海塾「海の賑わい 陸の静寂 -めぐり」世界初演	中劇場	3/28・29	2	1,094	913	83%
	計			16	4,589	3,974	87%

2 公演事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	美輪明宏版「愛の讃歌」～エディット・ピアフ物語～	大ホール	5/10・11	2	2,374	2,398	101%
2	フィリップ・ドックフレ カンパニーDCA「パノラマ」	中劇場	6/22	1	604	502	83%
3	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2014 ー海外編ー 「スズの兵隊」	小劇場	7/19・20	2	208	156	75%
	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2014 ー海外編ー 「木のリズム」	創造工房	7/19・20	3	180	178	99%
4	子供のためのシェイクスピア 20周年記念公演「ハムレット」	中劇場	7/26	1	598	331	55%
5	「月猫えほん音楽会2014」	中劇場	7/31	1	612	589	96%
6	平成26年度公共ホール演劇ネットワーク事業 こどもとおとなのためのお芝居「暗いところからやってくる」	中劇場	8/30・31	3	468	408	87%

ダンスダイブウィーク							
	プレ企画 夕暮れダンス「ちよいとごめんよ、じゃまするよ。」	ホテルクラウン パレス小倉 ビ アテラス内	8/1	1	-	89	-
7	DANCE20min. だーのだんす、今村達紀、かえるP	まなびとESD ステーション	9/4	1	50	50	100%
	太めパフォーマンス、Kyoto Dance Exchange、んまつーポス	まなびとESD ステーション	9/5	1	50	48	96%
	ショーケース 21世紀ゲバゲバ舞踊団、康本雅子	小劇場	9/6	1	108	102	94%
	森下真樹、C/Ompany	小劇場	9/7	1	88	86	98%
	フラッシュモブ「アリスモブ」	リバーウォーク 北九州 他	9/13	1	-	1,843	-
	Co.山田うん「ワン◆ピース2014」「十三夜」	小劇場	9/13~15	3	316	290	92%
8	ナイロン100℃ 42nd SESSION「社長吸血記」	中劇場	10/25・26	3	1,686	1,280	76%
9	彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾 「ジュリアス・シーザー」	大ホール	10/31~11/2	4	4,988	4,821	97%
10	劇団太陽族「それからの遠い国」	小劇場	11/2・3	2	192	152	79%
11	カンパニー・フィリップ・ジャンティ「忘れな草」	大ホール	11/16	1	783	637	81%
12	二兎社「鵲外の怪談」	中劇場	11/24	1	514	395	77%
13	劇トツ×20分	小劇場	3/22	1	138	127	92%
計				34	13,957	14,482	
						12,550	90%

※客席数を定めていないプログラムは、入場率の算定には含めていない。

3 北九州舞台芸術フェスティバル「北九州芸術工業地帯2015」

1	「浅田政志とつくるドラマチックキックオフ!」	門司陸上競技場	11/8	1	-	15	-
2	「写真展:ドラマチック・キックオフ」& 「作品展:錆びコラージュ」	リバーウォーク 北九州1階	2/14~3/22	37	-	1,410	-
	「まちなかりーディングマンス」						
3	空中列車「知らないスペース」	engel café	2/20~22	4	80	94	118%
	大猫座「やがて小さなplant」	cream	2/27~3/1	3	70	68	97%
	超人気族「安西さんちのシロツメクサ」	あぶくりキッチン	2/28・3/1	3	50	47	94%
	ブルーエゴナク「春のベーシック・スープ・ソース(SBSS)」	café causa	3/5	3	96	83	86%
	演劇関係いすど校舎「僕と彼女の、花。」	新世界	3/7・8	5	125	90	72%
	劇団C4「三日月探偵社CASE3,5~月に代わって~」	カフェ・ド・ ファンファン	3/7・8	3	84	80	95%
	ワンちゃんあるで! 「さみしいときよこにいたらなんとなくおちつく」	ジュジュハット 小倉店	3/14・15	4	88	80	91%
	成長剤「害獣、トリップ」	engel café	3/17~19	3	90	72	80%
	計			28	683	614	90%
4	「クラシック音楽フラッシュモブ」参加者	小倉駅リバー ウォーク1階	2/22	2	-	13	-
	観覧者				-	411	-
5	「コンタクトとトーク」						
	トーク 「企業とつくるダンスプロジェクト」@WeLove 小倉 夜会	まなびとESD ステーション	2/19	1	22	22	100%
	ワークショップ 「企業とつくるダンスプロジェクト そらだんを踊ろう編」	創造工房	2/21	1	22	22	100%
	トーク 「小学校で広がる演劇の授業」@WeLove 小倉 夜会	まなびとESD ステーション	2/26	1	20	18	90%
	ワークショップ 「田上豊演劇ワークショップ~小学校での演劇プログラム~」	創造工房	3/3・4	2	20	17	85%
	「企業とつくるダンスプロジェクト そらだんを踊ろう」 発表観覧者	リバーウォーク内	2/21	1	-	150	-
6	演劇的工場夜景ツアー「ひかりとけむり」	「かんもん」船上	3/6	1	63	63	100%
7	「Q学」	東筑紫学園高校 劇表現室	3/14	2	126	116	92%
	〃	創造工房	3/15	2	140	130	93%
8	「お買い上げありがとうダンス スペシャル!」	京町銀天街 アーケード内	3/21	1	-	303	-
9	「ダンスダンスリバーサイド」	リバーウォーク 北九州周辺	3/22	1	-	1,089	-
	「フィナーレに参加しようワークショップ」	創造工房	3/22	1	-	58	-
計				82	1,096	4,451	
						1,002	91%

※客席数を定めていないプログラムは、入場率の算定には含めていない。

4 提携等事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	有門正太郎プレゼンツvol.5「とんちんかんちん」	小劇場	5/9～11	4	400	332	83%
2	PARCO PRESENTS「コルトガバメンツ」(協力公演)	大ホール	6/20～22	4	5,076	4,900	97%
3	久光製菓カルチャー・スペシャル「海辺のカフカ」	大ホール	7/11～13	4	4,692	4,442	95%
4	KAKUTA 第24回公演「痕跡(あとあと)」	小劇場	8/20・21	3	426	359	84%
5	サンプル「ファーム」	小劇場	10/11・12	3	240	184	77%
6	千葉雅子×土田英生 舞台製作事業「姐さん女房の裏切り」	小劇場	10/18・19	2	203	184	91%
7	春風亭小朝独演会(協力公演)	小劇場	11/3	2	1,400	1,039	74%
8	飛ぶ劇場vol.36「豚の骨」	小劇場	11/13～16	6	744	587	79%
9	Doosan Art Center+東京デスロック+第12言語演劇スタジオ「ガモメ カルメギ」	小劇場	11/22・23	2	198	186	94%
10	南河内万歳一座「ジャングル」	小劇場	11/29・30	3	300	185	62%
11	不思議少年 第8回演劇公演「水と油」	小劇場	2/6～8	4	360	272	76%
12	「桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。 笑酔亭梅寿謎解晰～立ち切れ線香の章」	小劇場	2/22	2	192	154	80%
13	MONO 第42回公演「ぶた草の庭」	小劇場	3/7・8	3	352	328	93%
計				42	14,583	13,152	90%

合計(創造・公演・提携等事業)				174	34,225	36,059	90%
-----------------	--	--	--	-----	--------	--------	-----

5 学芸事業

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数	
1	北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.2「モテたい売りたい僕らアーティスト～アート界のスター・バスキアに憧れた若者の、愛と青春と勘違いの物語～」公演	北九州市立美術館分館	6/6～8 6/14・15	9	一般	453	453	
2	夏休み！子どもの劇場体験!!2014 [ワークショップ]	中劇場・小劇場 創造工房	7/23～26	4	小学生	19	74	
	[発表公演]	小劇場	7/25	1	一般	49	49	
計				5		68	123	
3	かべとあそぼうー子どもLIVEペインティングー [描こう]	創造支援ロビー	8/29	1	小学生	24	24	
	〃 [観よう!]		8/29	1	一般	76	76	
	〃 [出かけよう!]		8/30～11/30	46	一般	-	-	
計				48		100	100	
4	高校生のための演劇塾2014 [戯曲講座]	会議室	6/21	1	高校生・ 顧問	10	10	
	[夏期講座]	大ホール・中劇場 小劇場・創造工房	8/5～7	4		121	484	
	[高校生(的)土田英生ワークショップ]	創造工房	8/20・21	2		14	23	
	[高校生(的)畑澤聖悟ワークショップ]	創造工房	12/26・27	3		27	43	
計				10		172	560	
5	夏のバックステージツアー2014 「劇場探検隊2014～大ホールの達人を目指せ!!」	大ホール	8/27～29	8	小学生～一般	237	237	
6	シアラボCafé2014							
	[誰にでも書ける、あなたにしか書けない戯曲講座]	創造工房	7/13	1	一般	23	23	
	[本格的戯曲講座]	会議室	8/16～12/9	7		4	28	
	[面接とワークショップ]	創造工房	12/13	1		29	29	
	[稽古・仕込み]	café causa	1/25～30	6		25	150	
	[リーディング公演:「デブと安藤、ハイヒール」]	café causa	1/31・2/1	3	一般	108	108	
	《ステップアッププログラム》							
	①成長剤 [仕込み]	創造工房	7/4～6	4	(参加者) 地域の若手 表現者 (入場者) 一般	12	60	
	[公演:「勝って生きる。」]					184	184	
	②shop [仕込み]					13	65	
[公演:「屋上庭園／かんしゃく玉」]	10/10～12	3	119	119				
計				25		517	766	

7	アーティスト往来プログラム								
	講師:阿部初美	産み育てワークショップ	創造工房	5/31	1	一般	17	17	
		〃	創造工房	6/27	1	一般	13	13	
		〃	創造工房	8/23	1	一般	16	16	
		産み育てワークショップ (PV撮影)	創造工房	10/2	1	一般	61	61	
		産み育てワークショップ	創造工房	10/3	1	一般	11	11	
		〃	創造工房	11/7・8	1	一般	24	24	
		産み育てワークショップ (練習・リハーサル)	子育てふれあい交流 プラザ・会議室	12/5・6 12/12~14	5	一般	20	100	
		発表会	子育てふれあい 交流プラザ	12/14	1	一般	242	242	
		講師:セレノグラフィカ	あゆみの会職員向けインリーチ (あゆみの会連携)	(社福)北九州あゆみ の会あゆみの里	9/26	1	北九州あゆ みの会職員	19	19
			あゆみの会利用者向けアウトリーチ (〃)	(社福)北九州あゆ みの会あゆみの里	11/26	1	北九州あゆ みの会職 員・利用者	29	29
			北九州市障害者芸術祭ワークショップ	ウエルとばた	9/27・28	2	一般(障害の ある方含む)	20	38
			〃	ウエルとばた	10/11・12	2	一般(障害の ある方含む)	18	35
			〃	ウエルとばた	11/22・23	2	一般(障害の ある方含む)	21	41
			〃	ウエルとばた	12/6・7	2	一般(障害の ある方含む)	18	36
		講師:田上豊	アウトリーチ	永犬丸西小学校	11/11・12	2	小学6年生	51	102
			アウトリーチ	寿山小学校	11/13・14	2	小学4年生	42	84
			北九州市子ども・若者応援センターYELL ワークショップ	ユースステーション	2/21・22	2	YELL利用者	11	25
		講師:田村一行	アウトリーチ	富野小学校	11/17・18	2	小学3年生	50	100
			アウトリーチ	鞆ヶ谷小学校	11/20・21	2	小学4年生	54	108
		財団職員向け研修会(インリーチ) (埋蔵文化財センター連携)	大手町練習場埋蔵文 化財センター他	11/19	1	財団職員	15	15	
	講師:内藤裕敬	教員向け研修会(インリーチ) (教育センター連携)	創造工房	6/28	1	教員	16	16	
		アウトリーチ	城南中学校	1/20・21	2	中学1年生	33	62	
		アウトリーチ	高見中学校	1/22・23	2	中学2年生	69	138	
	計				38		870	1332	
8	劇場塾2014	オープンクラス基礎講座	小劇場・中劇 場・創造工房 ほか	11/25	1	一般・学 生・ホー ル関係 者等	44	44	
		地域文化コーディネータークラス		11/10・11	2		17	34	
		劇場制作クラス		11/17・18	2		12	24	
		劇場技術クラス 舞台技術講座		10/21・22	2		58	112	
		計				7		131	214
9	東筑紫学園高等学校演劇類型との連携事業	座学講座	東筑紫学 園 高 等 学 校	9/22, 10/17, 11/10, 1/29	4	東筑紫 学 園 高 校 生	40	160	
		実践講座(製作・広報コース)		2/23~3/2, 3/5・6	9		3	27	
		実践講座(テクニカルコース)		2/23~3/2, 3/5・6	9		10	90	
		実践講座(創作ワークショップ)		2/23~3/2, 3/5・6	9		9	81	
		創作		3/7~3/13	7		22	154	
	計				38		84	512	
10	地域のアートレパトリー創造事業								
		パレードワークショップ	スターフライヤー本社	7/13	1	㈱スター フライ ヤーで 働く人	8	8	
		わっしょい企業パレード	北九州空港	8/3	1		53	53	
		「そらダン」PV撮影	北九州空港	12/2	1		100	100	
		「そらダン」ワークショップ&モブ	北九州空港	12/24	1		12	12	
		「そらダン」モブ観覧者	北九州空港	12/24	1		80	80	
	計				5		253	253	

【創造・公演(アウトリーチ&ワークショップ等)参加】

1	「Re:北九州の記憶」 演出家ワークショップ	創造工房	4/13	1	地域の若手 表現者	8	8
	戯曲講座	会議室	8/18~22・9/7・ 10/26・12/25・ 1/20~22・2/19	12	地域の若手 表現者	8	87
	アウトリーチ リーディング公演「若松のお話」	わかちく史料館	2/1	1	一般	20	20
	計			14		36	115
2	「モテたい売りたい僕らアーティスト」 2倍楽しむプレ講座	アートライブラリー	5/28	1	一般	12	12
3	合唱物語「わたしの青い鳥2014」 ワークショップ	中劇場・小劇場	5/30~7/12	14	小学生~ 一般	93	1219
	アウトリーチ ミニコンサート	門司メディカル センター	6/13	1	患者~ 一般	120	120
4	フィリップ・ドックフレ カンパニーDCA「パノラマ」2倍楽しむプレ講座	アートライブラリー	6/22	1	一般	8	8
5	「スズの兵隊」「ハムレット」 絵本朗読会	アートライブラリー	7/12	1	親子	13	13
6	「月猫えほん音楽会2014」 ワークショップ	創造工房	7/30	1	親子	10	10
7	サンプル「ファーム」 脚本ワークショップ	創造工房	7/30	1	一般	20	20
	演出ワークショップ		7/31	1	一般	18	18
	計			2		38	38
8	飛ぶ劇場「豚の骨」/「姐さん女房の裏切り」/南河内万歳一座 「ジャングル」トークイベント	アートライブラリー	8/19	1	一般	29	29
9	私流俳優育成講座 "土田英生・20代の俳優100人と出会う"北九州講座(協力)	創造工房	8/22・23	2	一般	17	34
10	「暗いところからやってくる」 体験企画	中劇場	8/30	1	小学生	11	11
11	ダンスダイブウィーク						
	ダンスで親子が急接近するワークショップ	創造工房	8/31	1	親子	26	26
	ダンスで夫婦間にハッピーな風を吹かせるワークショップ		8/31	1	一般	14	14
	ダンスラウンジ「舞台人のためのセキララWS~踊ることを話してみる~」		9/8	1	舞台人	9	9
	ダンスラウンジ「インプロジャム!~誰でもダンスセッション~」		9/8	1	ダンサー達	18	18
計			4		67	67	
12	「<<不思議の国のアリスの>>帽子屋さんのお茶の会」 朗読会&オリジナル帽子を作る!	アートライブラリー	9/23	1	一般	9	9
13	連携事業「ひびきあう」小学校アウトリーチ	ひびきが丘小学校	12/8・9	2	小学4年生	42	84
14	山海塾公演を2倍楽しむプレ講座	アートライブラリー	3/15	1	一般	13	13
計				47		518	1,782

合計(学芸事業)				240		3,403	6,332
----------	--	--	--	-----	--	-------	-------

5 連携事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	平成26年度音巡りコンサート						
	「ひびきあう」~音と身体で感じるみずかみかずよの世界~ 「いきる:春夏秋冬」	文学館	1/23	1	70	63	90%
	「いきる:あなたとわたし」	美術館 (本館エントランス)	1/24	1	-	155	-
	「いきる:いのり」	響ホール (舞台上客席)	1/25	1	83	78	94%
計			3	153	296	92%	

合計(連携事業)				3	153	296	92%
----------	--	--	--	---	-----	-----	-----

総合計				417		39,758	42,687
-----	--	--	--	-----	--	--------	--------

⑤利用者数、利用件数

- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は図表1-6のとおりで、14年度には自主事業、貸館事業合わせて1,541件の利用があり、利用者数は約25万人となっている。そのうち、自主事業での利用件数は644件、利用者数は約4万3,000人。貸館事業での利用件数は897件、利用者数は約20万7,000人である。
- 前年度と比べて自主事業と貸館事業の利用件数、利用者数がともに減少しているが、2014年12月1日から2015年1月31日までの改修工事に伴う全館休館が大きな要因となっている。
- 利用者数と利用件数について第1期と第2期の平均を比較すると、利用者数、利用件数ともに自主事業での減少、貸館事業での増加となっており、全体として利用者数と利用件数が増加していることが分かる。
- 中劇場、小劇場のそれぞれで、第2期の利用者数・利用件数の平均が、第1期を上回っているが、大ホールに関しては、利用件数の平均は第2期が第1期を上回っているものの、利用者数に関しては第2期が第1期を下回っている。

図表1-6 利用者数、利用件数(03年度～14年度)

	大ホール						中劇場					
	自主事業		貸館事業		合計		自主事業		貸館事業		合計	
	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数
2003年度	23,937	66	93,100	205	117,037	271	22,890	143	41,524	145	64,414	288
2004年度	22,445	87	175,273	482	197,718	569	29,970	242	71,901	325	101,871	567
2005年度	13,034	102	160,673	467	173,707	569	33,153	289	55,644	229	88,797	518
2006年度	26,027	139	134,966	382	160,993	521	29,814	298	55,050	244	84,864	542
2007年度	34,015	186	132,444	381	166,459	567	29,182	325	58,491	237	87,673	562
第1期 平均	23,892	116	139,291	383	163,183	499	29,002	259	56,522	236	85,524	495
2008年度	17,877	134	133,686	365	151,563	499	17,699	217	77,324	327	95,023	544
2009年度	7,625	64	138,611	415	146,236	479	22,087	213	86,166	369	108,253	582
2010年度	21,429	104	155,767	441	177,196	545	16,140	159	88,614	367	104,754	526
2011年度	2,979	25	163,922	503	166,901	528	20,838	230	70,958	319	91,796	549
2012年度	10,696	80	139,621	470	150,317	550	18,158	197	75,782	340	93,940	537
第2期 平均	12,121	81	146,321	439	158,443	520	18,984	203	79,769	344	98,753	548
2013年度	23,017	131	131,814	452	154,831	583	15,696	158	83,956	379	99,652	537
2014年度	19,526	110	121,017	383	140,543	493	10,645	175	69,397	325	80,042	500
累計	222,607	1,228	1,680,894	4,946	1,903,501	6,174	266,272	2,646	834,807	3,606	1,101,079	6,252

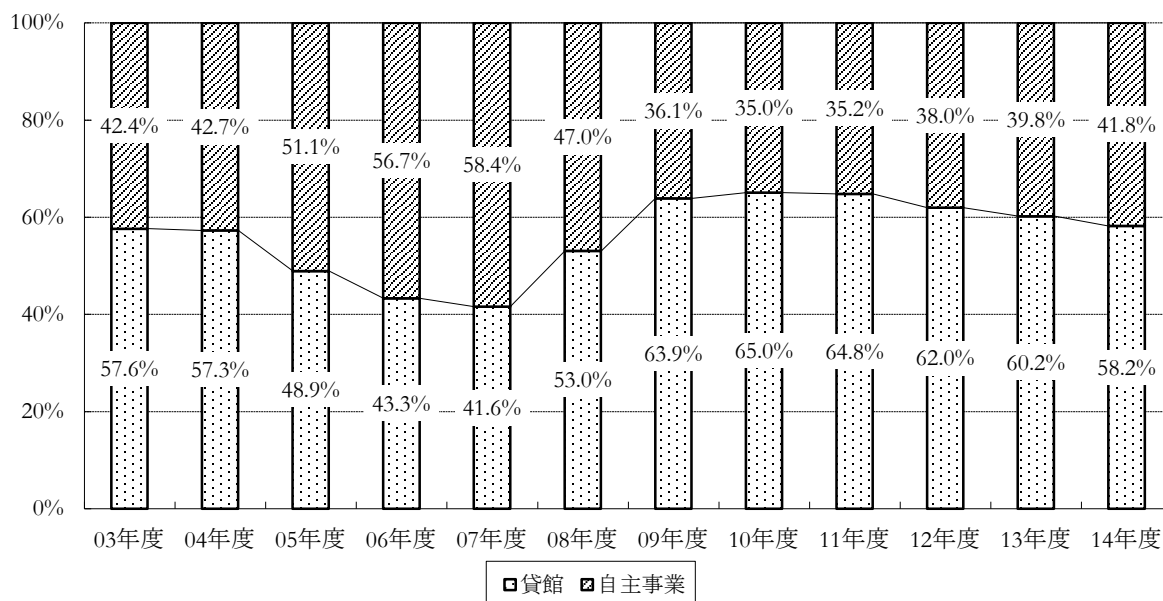
	小劇場						利用者数・利用件数の計					
	自主事業		貸館事業		合計		自主事業		貸館事業		合計	
	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数
2003年度	7,402	121	10,769	99	18,171	220	54,229	330	145,393	449	199,622	779
2004年度	16,996	404	13,626	176	30,622	580	69,411	733	260,800	983	330,211	1,716
2005年度	14,592	471	10,478	130	25,070	601	60,779	862	226,795	826	287,574	1,688
2006年度	15,651	573	8,853	146	24,504	719	71,492	1,010	198,869	772	270,361	1,782
2007年度	17,837	564	10,772	148	28,609	712	81,034	1,075	201,707	766	282,741	1,841
第1期 平均	14,496	427	10,900	140	25,395	566	67,389	802	206,713	759	274,102	1,561
2008年度	14,661	462	17,281	226	31,942	688	50,237	813	228,291	918	278,528	1,731
2009年度	12,873	318	18,186	267	31,059	585	42,585	595	242,963	1,051	285,548	1,646
2010年度	12,457	316	16,967	269	29,424	585	50,026	579	261,348	1,077	311,374	1,656
2011年度	11,947	337	19,011	268	30,958	605	35,764	592	253,891	1,090	289,655	1,682
2012年度	12,954	368	18,014	241	30,968	609	41,808	645	233,417	1,051	275,225	1,696
第2期 平均	12,978	360	17,892	254	30,870	614	44,084	645	243,982	1,037	288,066	1,682
2013年度	15,563	399	13,088	210	28,651	609	54,276	688	228,858	1,041	283,134	1,729
2014年度	12,726	359	16,140	189	28,866	548	42,897	644	206,554	897	249,451	1,541
累計	165,659	4,692	173,185	2,369	338,844	7,061	654,538	8,566	2,688,886	10,921	3,343,424	19,487

- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースでみると、14年度は、自主事業が41.8%、貸

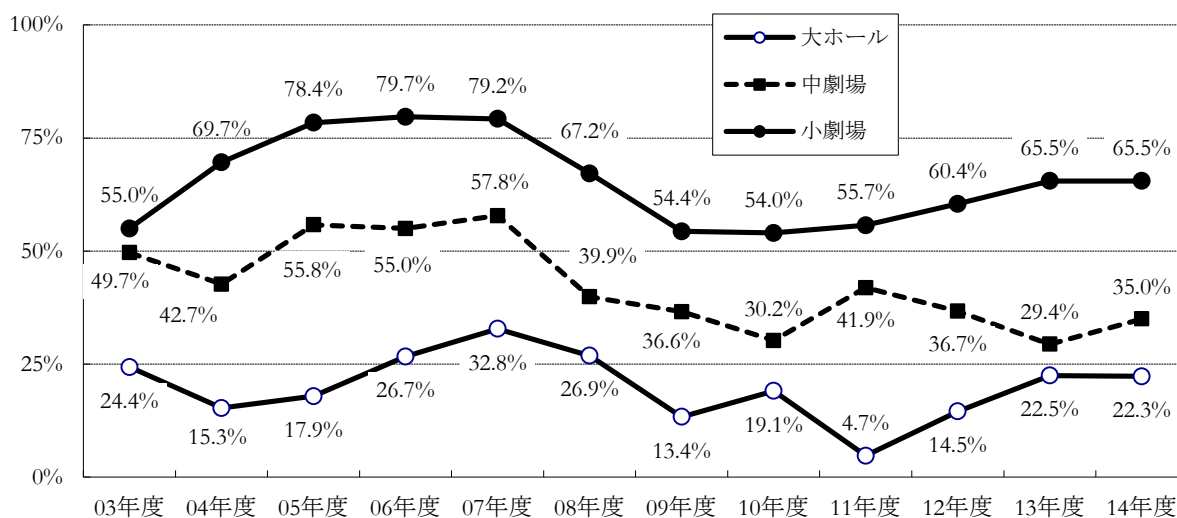
館事業が58.2%と、貸館事業の利用割合が高くなっている(図表1-7)。

- ホールの規模別にみると、大ホールで貸館事業での利用が多く、中劇場と小劇場で自主事業の利用が多いことは、03年度からの変わらない傾向となっている。13年度に比べて中劇場と小劇場で自主事業利用の比率が伸びている(図表1-8)。
- 小劇場の自主事業比率が高いのは、リーディングセッションやプロデュース公演をはじめとする創造事業・創造参加の場として、中劇場では幅広い観客層を対象とした人気の高い公演事業に活用しているためであり、3つの劇場それぞれの役割と用途が明確になっているものと考えられる。

図表1-7 自主事業・貸館事業比率 [件数ベース](03年度～14年度)



図表1-8 ホール別の自主事業比率 [件数ベース](03年度～14年度)



(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の14年度の施設稼働率は、大ホールが84.2%、中劇場が81.4%、小劇場が84.9%である(図表1-9)。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2014年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2014年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70.3%)と比較して高い水準にある。
- 施設の稼働率について第1期と第2期を比較すると、中劇場の稼働率は第2期が第1期を上回っているが、大ホールと小劇場では第2期が第1期をやや下回っている。ただし、限られたスタッフ体制のもとでの施設利用の安全性を考慮すると、稼働率が100%に近づくことが望ましいわけではない。

図表1-9 北九州芸術劇場の稼働率(03年度～14年度)

	大ホール			中劇場			小劇場		
	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率
2003年度	99	103	96.1%	100	107	93.5%	83	86	96.5%
2004年度	219	277	79.1%	207	283	73.1%	220	304	72.4%
2005年度	223	281	79.4%	189	276	68.5%	222	297	74.7%
2006年度	202	285	70.9%	199	282	70.6%	254	306	83.0%
2007年度	220	290	75.9%	205	289	70.9%	257	300	85.7%
第1期 平均	193	247	80.3%	180	247	75.3%	207	259	82.5%
2008年度	192	257	74.7%	203	260	78.1%	249	295	84.4%
2009年度	194	262	74.0%	212	260	81.5%	221	282	78.4%
2010年度	215	261	82.4%	197	267	73.8%	225	285	78.9%
2011年度	211	274	77.0%	202	273	74.0%	234	299	78.3%
2012年度	217	264	82.2%	204	276	73.9%	237	298	79.5%
第2期 平均	206	264	78.1%	204	267	76.3%	233	292	79.9%
2013年度	226	252	89.7%	204	244	83.6%	229	278	82.4%
2014年度	192	228	84.2%	188	231	81.4%	208	245	84.9%
累計	2,410	3,034	79.4%	2,310	3,048	75.8%	2,639	3,275	80.6%

注) 稼働率は「稼働日数/利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、過去11ケ年と同様の分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の14年度の事業費は約1億8,000万円となっており、前年度から減少し、過去最少の事業費となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約6,900万円と全体の38.6%、市の補助金が約7,000万円と39.5%、文化庁と(一財)地域創造による外部資金が約3,900万円と22.0%となっている。チケット収入と外部資金で事業費の約6割(60.5%)をカバーしている(図表1-10)。
- 全国平均の試算値^{*}と比較すると、14年度のチケット収入の割合は平均を上回っている。全国平均の試算値での「設置者からの補助金・委託費」(52.7%)が、北九州芸術劇場における03～14年度累計のチケット収入の割合(51.6%)とほぼ同じ比率となっている。

※(一財)地域創造の悉皆調査結果(2014年)から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの収入」が67.0%、「事業収入」が11.7%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が2.1%である。

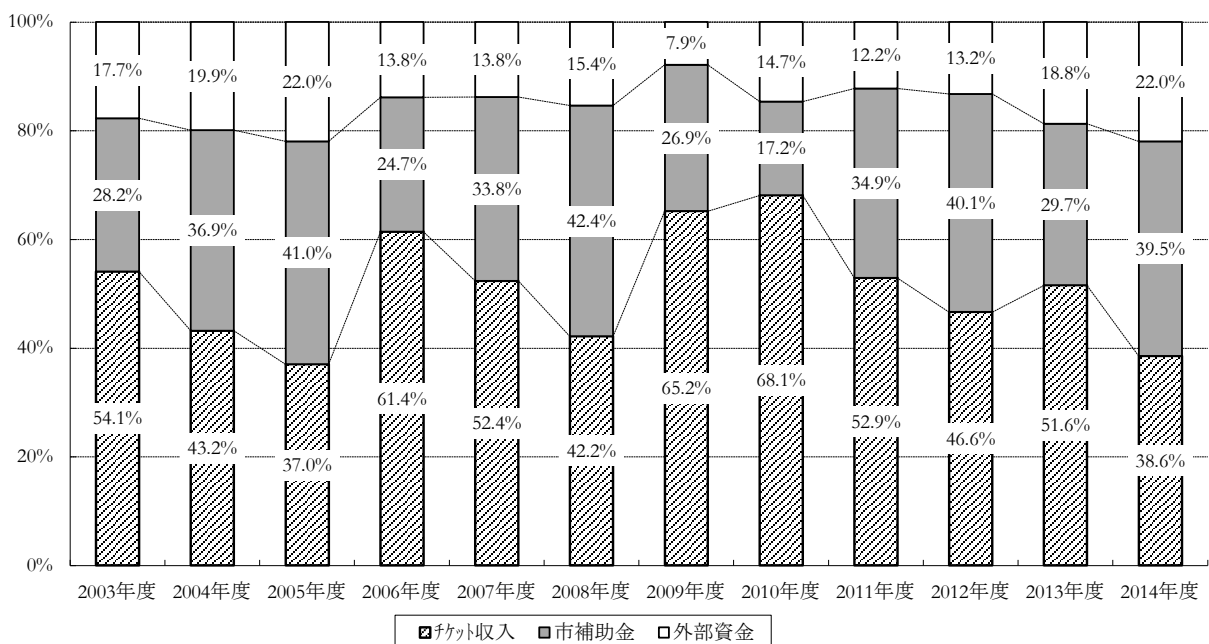
※指定管理施設の平成25年度決算金額平均値の「収入」欄から、それぞれの内訳比率を算出したため、「設置者からの収入」には人件費や運営管理費の財源でもある指定管理料が含まれている。

図表1-10 事業費の財源内訳(03年度～14年度)

上段:金額(千円)／下段:割合(%)

	チケット収入	市補助金	外部資金	(内訳)				計
				文化庁	地域創造	その他助成金	協賛金	
2003年度	215,389 54.1%	112,225 28.2%	70,700 17.7%	49,000 12.3%	10,000 2.5%	11,700 2.9%	0 0.0%	398,314 100.0%
2004年度	145,429 43.2%	124,198 36.9%	67,000 19.9%	49,000 14.6%	18,000 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	336,627 100.0%
2005年度	110,060 37.0%	121,965 41.0%	65,295 22.0%	45,795 15.4%	19,500 6.6%	0 0.0%	0 0.0%	297,320 100.0%
2006年度	263,901 61.4%	106,363 24.7%	59,517 13.8%	45,800 10.7%	13,717 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	429,781 100.0%
2007年度	197,355 52.4%	127,456 33.8%	52,051 13.8%	36,600 9.7%	15,451 4.1%	0 0.0%	0 0.0%	376,862 100.0%
第1期 累計	932,134 50.7%	592,207 32.2%	314,563 17.1%	226,195 12.3%	76,668 4.2%	11,700 0.6%	0 0.0%	1,838,904 100.0%
2008年度	135,979 42.2%	136,854 42.4%	49,579 15.4%	27,400 8.5%	22,179 6.9%	0 0.0%	0 0.0%	322,412 100.0%
2009年度	202,004 65.2%	83,331 26.9%	24,432 7.9%	18,000 5.8%	6,432 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	309,767 100.0%
2010年度	149,051 68.1%	37,726 17.2%	32,072 14.7%	11,000 5.0%	10,572 4.8%	0 0.0%	10,500 4.8%	218,849 100.0%
2011年度	123,355 52.9%	81,302 34.9%	28,509 12.2%	26,902 11.5%	1,607 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	233,166 100.0%
2012年度	99,616 46.6%	85,741 40.1%	28,262 13.2%	25,349 11.9%	2,165 1.0%	748 0.4%	0 0.0%	213,619 100.0%
第2期 累計	710,005 54.7%	424,954 32.7%	162,854 12.5%	108,651 8.4%	42,955 3.3%	748 0.1%	10,500 0.8%	1,297,813 100.0%
2013年度	111,886 51.6%	64,354 29.7%	40,693 18.8%	33,965 15.7%	6,728 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	216,933 100.0%
2014年度	68,803 38.6%	70,401 39.5%	39,222 22.0%	30,552 17.1%	8,670 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	178,426 100.0%
累計	1,822,828 51.6%	1,151,916 32.6%	557,332 15.8%	399,363 11.3%	135,021 3.8%	12,448 0.4%	10,500 0.3%	3,532,076 100.0%

図表1-11 事業費の比率(03年度～14年度)



(2) 事業収支

- 14年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約2,200万円の増収、補助金等収入は約1,500万円の減収となっている。14年度は補助金等の減収分を、事業収入によってカバーした形になった。
- 劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていることとともに、積極的な営業努力を行なっていることがうかがえる。

図表1-9 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額(03年度～14年度)

	事業収入			補助金等収入		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	194,300 48.6%	215,389 54.1%	Δ 21,089	205,700 51.4%	182,925 45.9%	22,775
2004年度	146,346 41.1%	145,429 43.2%	917	209,300 58.9%	191,198 56.8%	18,102
2005年度	130,500 37.3%	110,060 37.0%	20,440	219,500 62.7%	187,260 63.0%	32,240
2006年度	265,709 53.9%	263,901 61.4%	1,808	227,531 46.1%	165,880 38.6%	61,651
2007年度	212,173 50.2%	197,355 52.4%	14,818	210,800 49.8%	179,507 47.6%	31,293
第1期 累計	949,028 46.9%	932,134 50.7%	16,894	1,072,831 53.1%	906,770 49.3%	166,061
2008年度	269,172 54.1%	135,979 42.2%	133,193	228,412 45.9%	186,433 57.8%	41,979
2009年度	157,949 44.7%	202,004 65.2%	Δ 44,055	195,470 55.3%	107,763 34.8%	87,707
2010年度	110,503 43.9%	149,051 68.1%	Δ 38,548	141,200 56.1%	69,798 31.9%	71,402
2011年度	140,284 45.8%	123,355 52.9%	16,929	166,136 54.2%	109,811 47.1%	56,325
2012年度	101,983 38.6%	99,616 46.6%	2,367	162,000 61.4%	114,003 53.4%	47,997
第2期 累計	779,891 46.6%	710,005 54.7%	69,886	893,218 53.4%	587,808 45.3%	305,410
2013年度	84,322 36.7%	111,886 51.6%	Δ 27,564	145,632 63.3%	105,047 48.4%	40,585
2014年度	46,545 27.2%	68,803 38.6%	Δ 22,258	124,423 72.8%	109,623 61.4%	14,800
累計	1,859,786 45.4%	1,822,828 51.6%	36,958	2,236,104 54.6%	1,709,248 48.4%	526,856

補助金等収入における市補助金と助成金の内訳(千円)

	市補助金			助成金		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	135,000	112,225	22,775	70,700	70,700	0
2004年度	135,000	124,198	10,802	74,300	67,000	7,300
2005年度	151,000	121,965	29,035	68,500	65,295	3,205
2006年度	145,000	106,363	38,637	82,531	59,517	23,014
2007年度	149,000	127,456	21,544	61,800	52,051	9,749
第1期 平均	143,000	118,441	24,559	71,566	62,913	8,654
2008年度	149,000	136,854	12,146	79,412	49,579	29,833
2009年度	135,000	83,331	51,669	60,470	24,432	36,038
2010年度	108,000	37,726	70,274	33,200	32,072	1,128
2011年度	128,000	81,302	46,698	38,136	28,509	9,627
2012年度	128,000	85,741	42,259	34,000	28,262	5,738
第2期 平均	129,600	84,991	44,609	49,044	32,571	16,473
2013年度	111,000	64,354	46,646	34,632	40,693	Δ 6,061
2014年度	89,284	70,401	18,883	35,139	39,222	Δ 4,083
累計	1,563,284	1,151,916	411,368	672,820	557,332	115,488

第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に会場した観客に対するアンケート調査の結果から、2014年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

1. 観客調査の実施要領

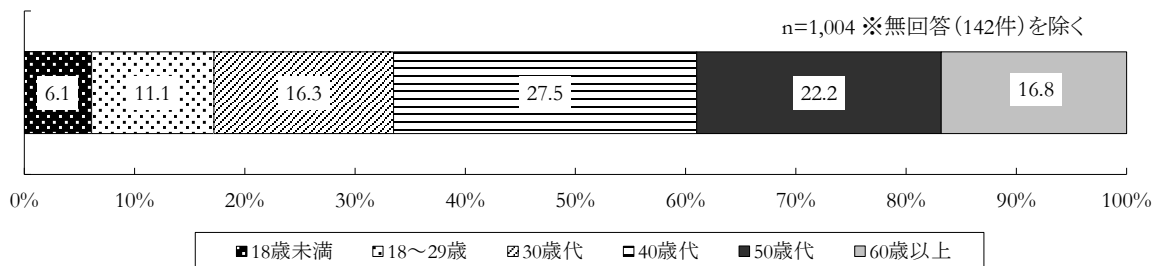
- 調査の対象: 2014年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演 32公演
- 配布・回収方法: 各公演初日の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期: 2014年5月9日～2015年3月29日
- 有効回答数(回収率): 1,146件、回収率: 11.6% (配布数: 9,892件)

2. 観客調査の結果概要

(1) 観客(アンケート回答者)の属性(p.資-10～19)

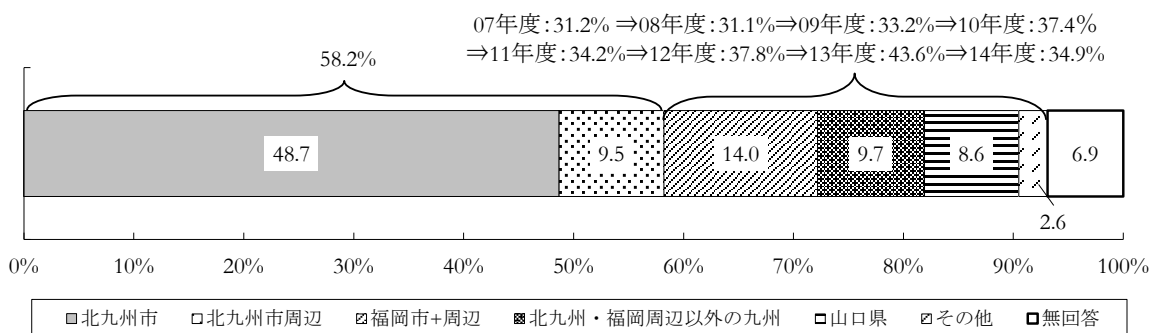
- 観客は、女性が78.2%、男性が21.8%と女性が多い。いずれのジャンルも男性に比べて女性の割合が高い。
- 平均年齢は44.8歳。年齢層に大きな偏りはなく、幅広い年齢層が来場している(図表2-1)。平均年齢に関しては、03年度が45.5歳で、04年から13年度までは40.2歳～43.4歳の範囲で40歳台前半を維持できているが、14年度は03年度に次いで高い平均年齢となった。

図表2-1 年齢層(14年度)



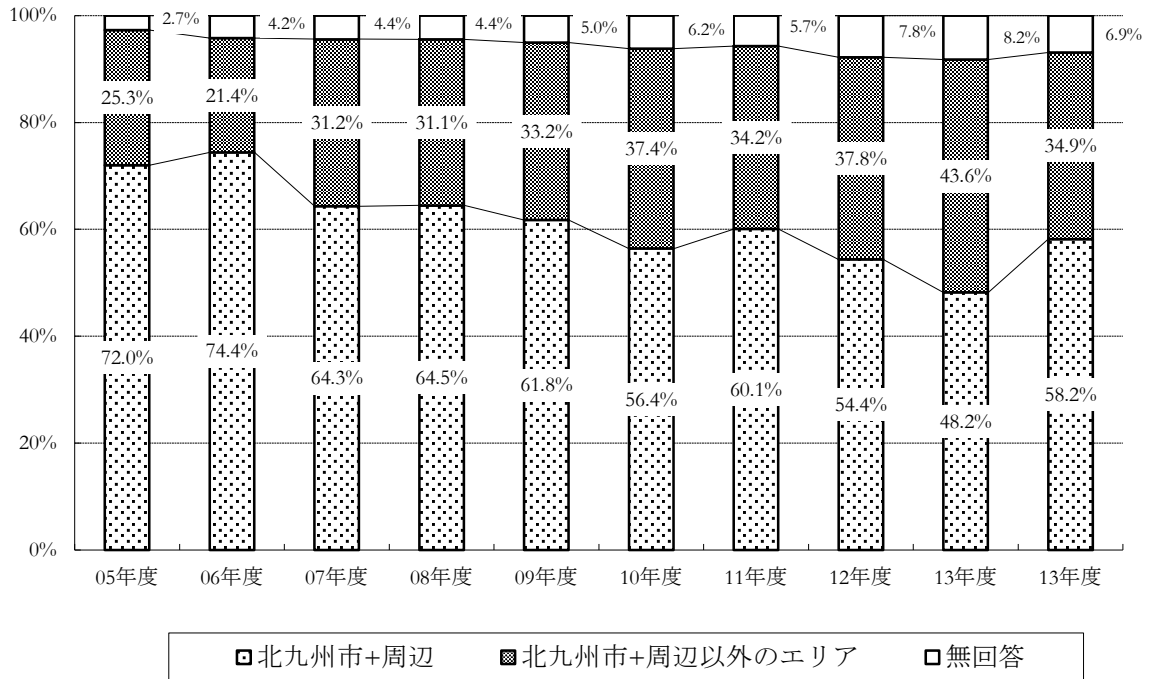
- 居住地域は、北九州市周辺を含めた市域からの来場者が58.2%(うち北九州市内が48.7%)である。福岡市域や福岡県以外の九州各県、山口県、その他からの14年度の来場者は34.9%で、過去最高の割合だった13年度(43.6%)から減少したものの、07年度以降は3割以上を占めている(図表2-2)。

図表2-2 居住地域(14年度)



- 観客の居住地の経年推移を見ると、07年度以降は増減はあるものの、北九州市と周辺以外のエリア（福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など）の割合が3割を超え、08年度以来は北九州市+周辺が減少する傾向にあった。
- 13年度は「北九州市+周辺以外のエリア」が43.6%と過去最高の割合となり、「北九州市+周辺」の48.2%と拮抗したが、14年度は「北九州市+周辺」が58.2%と前年から増加に転じた。

図表2-3 居住地の経年推移(05年度～14年度)



- チケットクラブには回答者の約4分の1(25.2%)が入会している。入会していない場合、今後入会意向があるのは16.0%である。

(2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

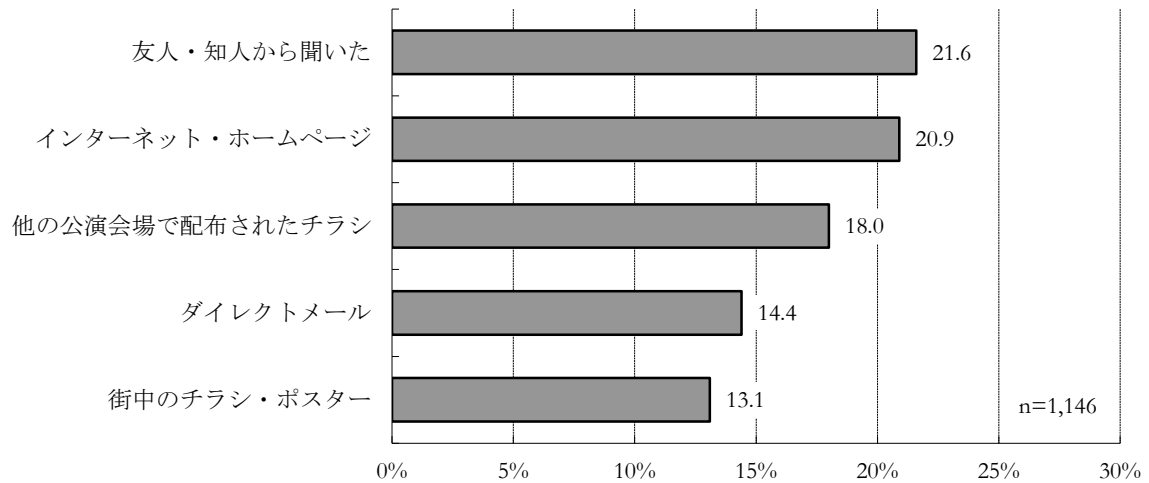
① 来場公演のジャンル(p.資-22～23)

- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が約9割(88.3%)を占める。
※アンケート配布公演32公演のうち28公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 年齢別に来場公演のジャンルをみると、いずれの年代でも「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に、60歳以上で高い(90.5%)。
- 北九州芸術劇場の来館経験が「今日が初めて」という回答者の場合、「小劇場・現代演劇」の割合が85.6%となっている。

② 公演情報の入手経路(p.資-24～25)

- 公演情報の入手経路は、全体では「友人・知人から聞いた」が21.6%で最も高く、続いて「インターネット・ホームページ」(20.9%)、「他の公演会場で配布されたチラシ」(18.0%)となっている(図表2-4)。
- 10年度は初めて「インターネット・ホームページ」が最も高い割合となったが、11年度以降は年度によって「友人・知人から聞いた」と最上位が入れ替わることが多い。

図表2-4 公演情報の入手経路(14年度) ※10%以上回答があった項目を、回答の多い順に掲載



- 公演情報の入手経路を、年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別に見る(図表2-5)。まず年齢別では、18歳未満、18～29歳、30歳代、50歳代は「友人・知人から聞いた」、40歳代は「インターネット・ホームページ」、60歳以上は「新聞」の割合が最も高い。「新聞」は年齢層が高いほど割合が高くなっている。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別に見ると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が6～10回のグループでは「インターネット・ホームページ」が最も割合が高い。一方、5回以下のグループでは、「友人・知人から聞いた」が最も高く、11回以上のグループでは「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高くなっている。
- 劇場での鑑賞経験によって情報の入手経路に特徴があるが、「インターネット・ホームページ」はいずれの鑑賞頻度でも16～26%の回答がある。鑑賞頻度に関わらず、便利な情報入手ツールとして使われていることがうかがえる。
- 鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」、「ダイレクトメール」、「インターネット・ホームページ」の割合は多くなり、「新聞」の割合は減少する傾向にある。

図表2-5 年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別 公演情報の入手経路(14年度)

n=1,146(単位: %)

		インターネット・ホームページ	友人・知人から聞いた	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	新聞
全体		20.9	21.6	14.4	18.0	8.6
年齢層	18歳未満	13.1	31.1	9.8	23.0	3.3
	18～29歳	30.6	30.6	4.5	17.1	1.8
	30歳代	23.2	24.4	12.2	16.5	4.3
	40歳代	25.0	17.8	18.1	18.8	6.5
	50歳代	21.5	24.2	17.5	11.2	10.3
	60歳以上	5.9	16.0	19.5	21.3	21.9
鑑賞経験	今日が初めて	16.2	26.4	1.4	7.4	12.5
	1～2回	15.9	21.0	3.2	12.7	9.6
	3～5回	18.5	26.4	13.2	13.2	7.0
	6～10回	24.6	23.5	21.9	16.6	7.0
	11回以上	26.3	13.0	29.3	34.1	7.0

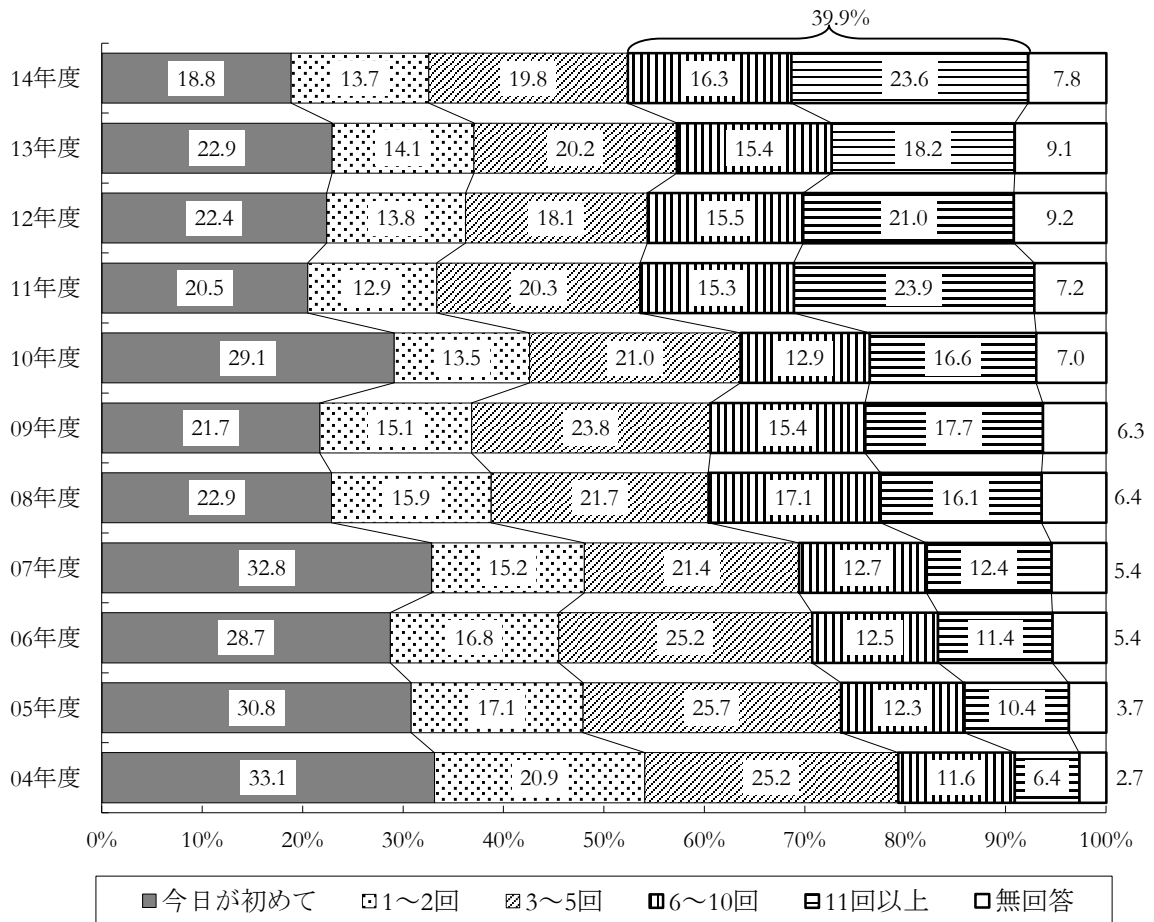
③公演に来た理由(p.資-26～27)

- 公演に来た理由は、「公演内容が面白そうだったから」(51.9%)、「出演者等が好きだから」(44.7%)への回答が多い。18歳未満では他の世代に比べて「人に誘われたから」が高く、40歳代では「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。
- 04年度から13年度までは「出演者等が好きだから」が最も多い割合だったが、14年度の「公演内容が面白そうだったから」が最も高い割合となったのは、03年度以来2度目である。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験(p.資-46～47)

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は「11回以上」が23.6%と最も高いが、「今日が初めて」から「6～10回」まで大差はなく、来場者の鑑賞経験は幅広い。

図表2-6 北九州芸術劇場での鑑賞経験(04年度～14年度)



- 観客の北九州芸術劇場での鑑賞経験が多様であるのは04年度調査からの特徴であるが、年々劇場での鑑賞経験の多い観客(来場経験が6回以上)が増えており、14年度は4割(39.9%)となっている(図表2-6)。6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは、年齢別では「60歳以上」である。

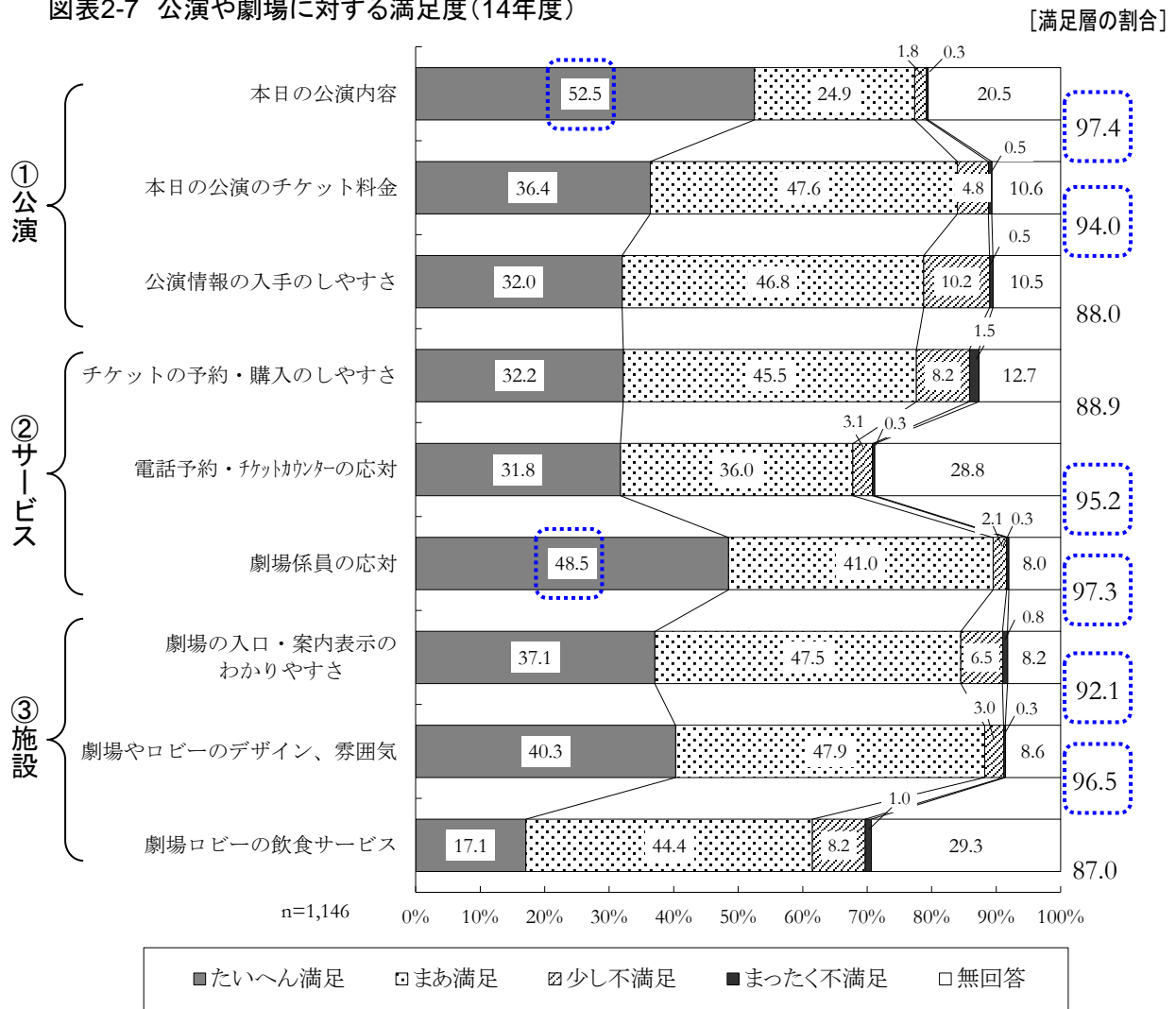
⑤公演前後の飲食やショッピング(p.資-28～29)

- 来場者の49.7%が公演前後に飲食あるいはショッピングをしており、平均金額は、飲食の場合が約1,731円(飲食をしている回答者の割合:全体の42.6%)、ショッピングの場合が約6,098円(ショッピングをしている回答者の割合:全体の18.6%)である。

(3) 公演や劇場に対する満足度(p.資-30~38)

- 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の6項目である(図表2-7)。

図表2-7 公演や劇場に対する満足度(14年度)



※満足層の割合:「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

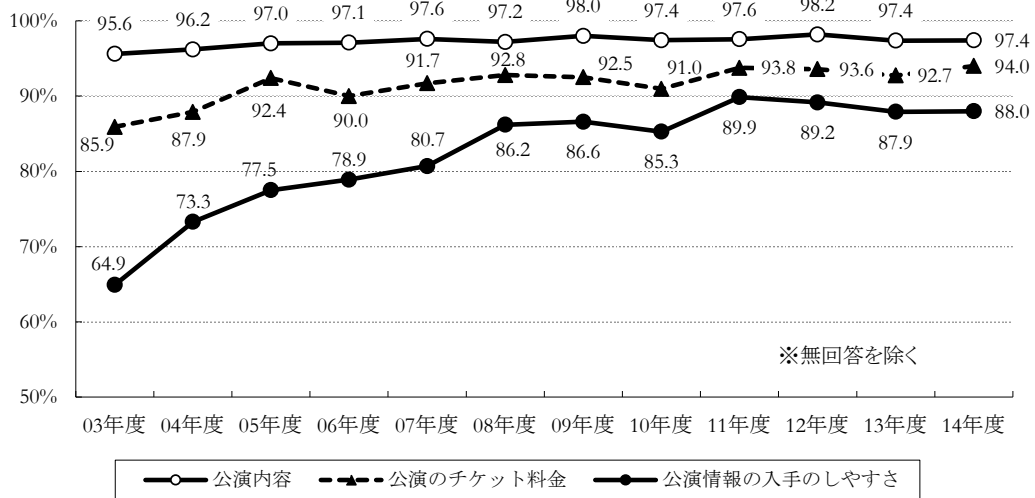
- 特に、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」の2項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ52.5%、48.5%と高い評価となっている。
- 年齢別にみると、いずれの項目も年齢層が高くなるほど満足度は低くなる傾向がある。60歳以上では、ほぼすべての項目で「たいへん満足」の割合が低い。
- 年齢層が高いほど満足層の割合が低くなる傾向は「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」、「劇場ロビーの飲食サービス」で顕著である。
- 無回答が多い「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、利用したことがない人が多いと考えられる。
- 次に、満足度に関する9項目を、①公演、②サービス、③施設の3つに分けて、満足層の

割合の経年変化を見る(図表2-8～2-10)。

①公演について(図表2-8)

- 「公演内容」については、03年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」も05年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも大きく関わっていると考えられる。
- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、満足度が向上し、14年度は満足層の割合が88.0%となっている。

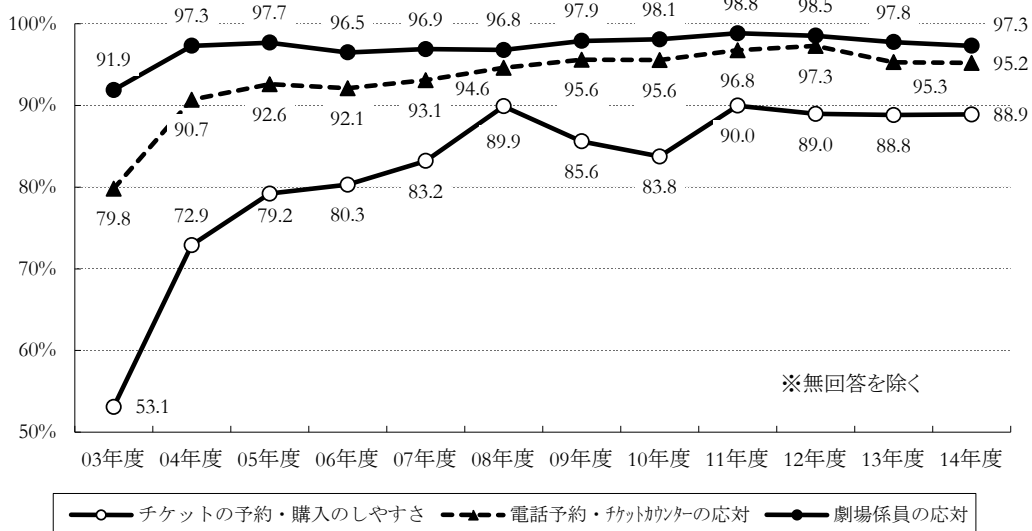
図表2-8 公演関連項目に関する満足層の割合(03年度～14年度)



②サービスについて(図表2-9)

- 「劇場係員の対応」は開館当初から、「電話予約・チケットカウンターの対応」は04年度から満足層の割合が90%を超えており、そのまま高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、満足度の伸びが大きい。ホームページからのオンラインチケット購入が可能となった11年度は90.0%と過去に比べて最も高い割合となっている。

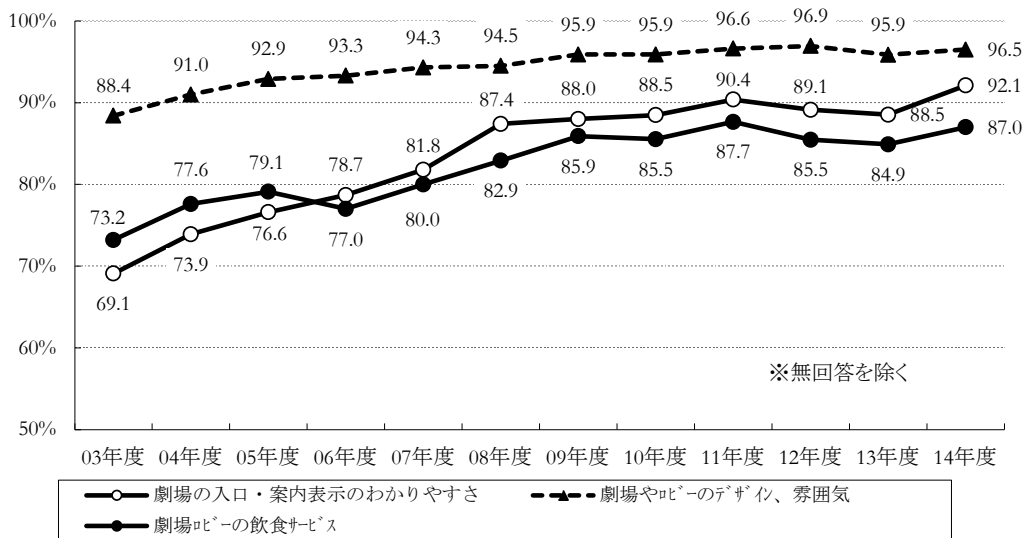
図表2-9 サービス関連項目に関する満足層の割合(03年度～14年度)



③施設について(図表2-10)

- 施設に関わる3項目のうち、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は、開館当初から満足層の割合が高く、そのまま高い水準を維持している。
- 一方、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、複合施設である故の動線の複雑さもあり、開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かったが、年々満足度が高まっており、14年度は92.1%で過去最高の割合となっている。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。

図表2-10 施設関連項目に関する満足層の割合(03年度～14年度)

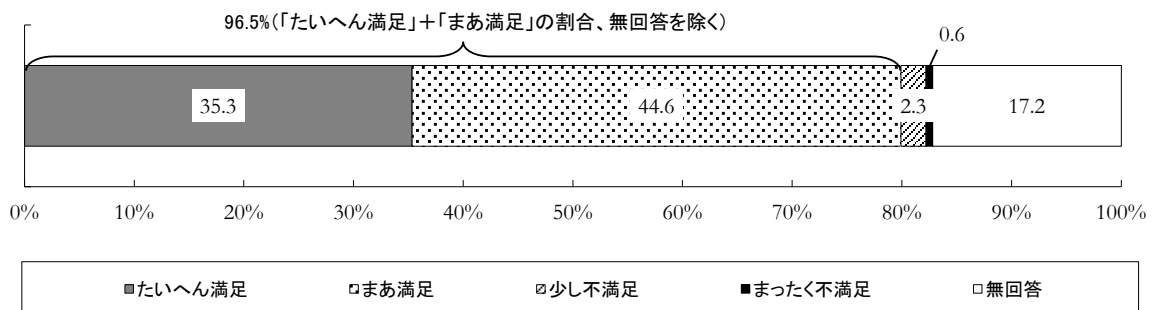


- ①公演、②サービス、③施設、いずれについても、すでに満足度が高い項目は高さを堅持している。

④総合的な満足度について

- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層の割合が96.5%(無回答を除く)。全体では、「たいへん満足」の割合が35.3%、「まあ満足」の割合が44.6%となっている(図表2-11)。

図表2-11 総合的な満足度(14年度)



(4) 劇場の運営方針について(p.資-39~41)

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」については、いずれも95%以上が賛同している(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く)(図表2-12)。

- 「観る」については、「ぜひやってほしい」が76.0%と高い割合となっている(本アンケートが鑑賞者を対象としたアンケートであることには留意が必要である)。「創る」、「育つ」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」が約53～56%と過半数を占めており、14年度は03年度以来最も高い割合となっている。
- 「創る」、「育つ」とともに、29歳以下の若い世代で「ぜひやってほしい」と積極的に賛同する割合が高い。

図表2-12 運営方針への賛同度(14年度)

n=1,146

運営方針	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する人の割合	賛同しない人の割合
観る	76.0%	15.5%	1.4%	0.1%	7.0%	98.4%	1.6%
創る	56.0%	31.6%	2.9%	0.3%	9.2%	96.4%	3.6%
育つ	53.8%	32.9%	3.7%	0.5%	9.2%	95.4%	4.6%

※賛同する人の割合:「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

(5) 日頃の鑑賞活動について

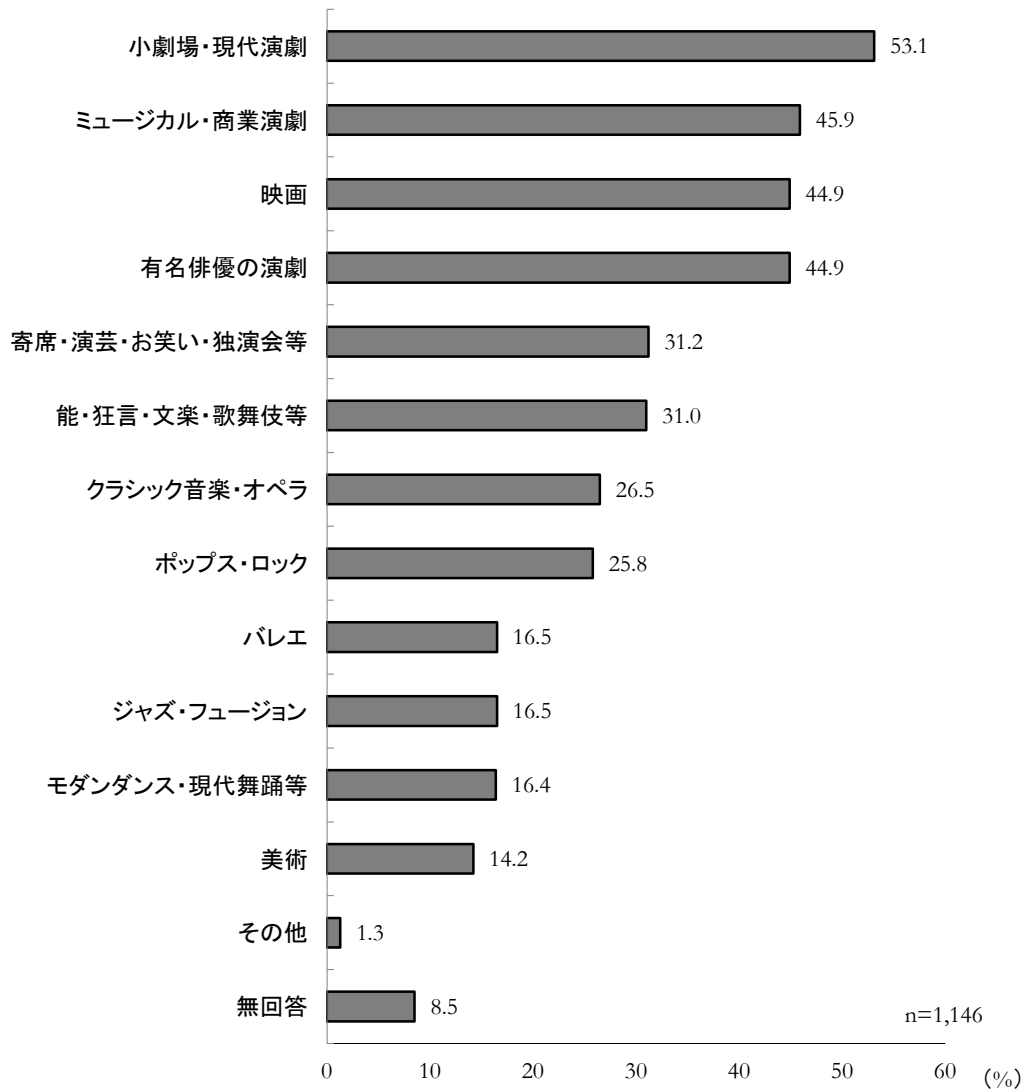
①日頃コンサートや演劇に出かける頻度(p.資-44～45)

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に3～4回程度」(22.8%)、「年に1～2回程度」(20.8%)、「年に5～9回」(14.1%)となっており、日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- 北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は60.7%を占める。北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループでは、年に2回以下の頻度の割合が62.0%を占めている。

②興味のあるジャンル(p.資-48～50)

- 普段興味を持っているジャンルについては、「小劇場・現代演劇」(53.1%)、「ミュージカル・商業演劇」(45.9%)、「映画」(44.9%)、「有名俳優の演劇」(44.9%)への回答割合が高く、興味のあるジャンルは多様である(図表2-13)。
- 興味のあるジャンルは、性別や年齢で特徴がある。性別で見ると、男性は「小劇場・現代演劇」、「映画」、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」、女性は「小劇場・現代演劇」、「ミュージカル・商業演劇」、「有名俳優の演劇」という順で回答割合が高い。
- 年齢別で見ると、18歳未満は「映画」と「ミュージカル・商業演劇」、18歳以上は「小劇場・現代演劇」への回答割合が最も高い。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、鑑賞経験が多いほど、「小劇場・現代演劇」への興味が強い。また、北九州芸術劇場での鑑賞経験が11回以上では、ほとんどすべての項目について回答割合が高く、さまざまな文化・芸術に興味を持っていることがうかがえる。

図表2-13 普段興味のあるジャンル(14年度)



第3章 貸館利用者からみた評価

1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象:2014年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:189件
- 有効回答数(回収率):135件(71.4%)

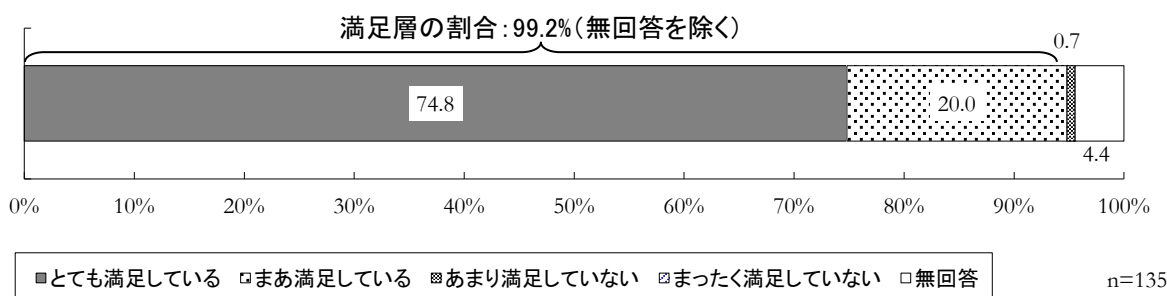
2. 利用者調査の結果概要

※本調査は、統計的な分析を目的とした調査ではなく、有効回答数も少ないため、アンケート結果の記述にあたっては、割合(%)とともに回答数を併記している。

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度(p.資-62)

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足」が74.8%(101件)、「まあ満足」が20.0%(27件)で、満足層の割合(「とても満足」+「まあ満足」と回答した割合、無回答を除く)は99.2%と大変高い。

図表3-1 総合的な満足度(14年度)



(2) 施設に関する意見(p.資-63~67)

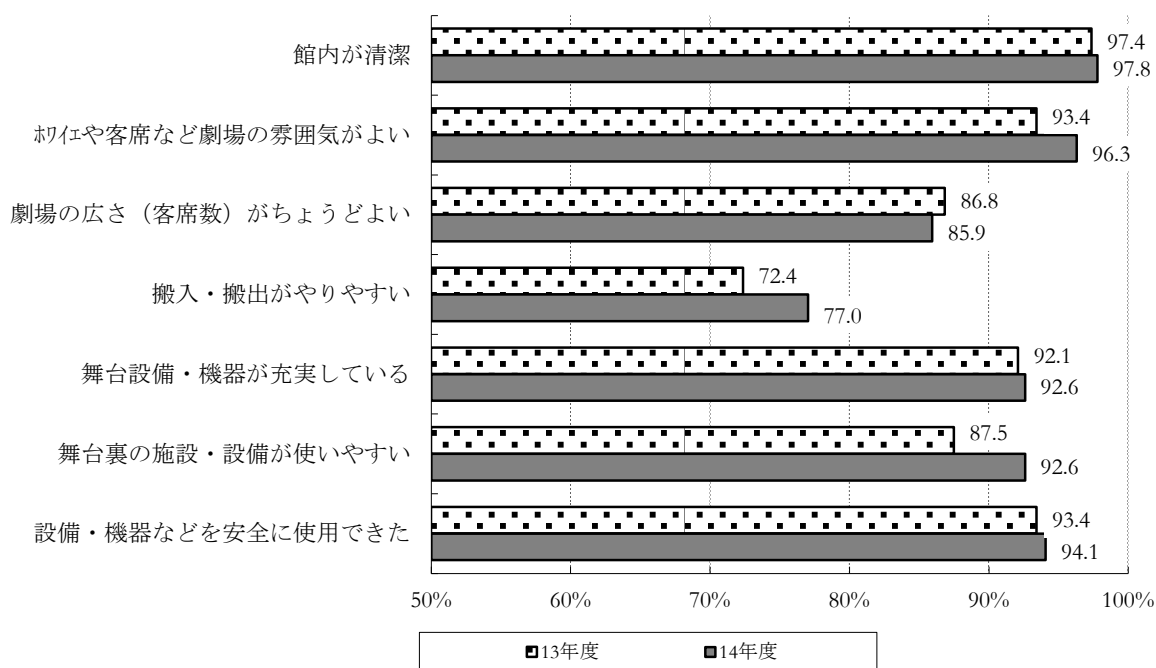
- 施設に関する7項目については、全ての項目で肯定的な評価をしている割合(「はい」+「どちらかといえば『はい』」、無回答を除く)が90%以上と大変高い。とくに「館内が清潔」、「設備・機器などを安全に使用できた」は100%となっている。
- また、「はい」という積極的な評価の割合も高く、特に「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい」、「舞台設備・機器が充実している」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「設備・機器などを安全に使用できた」の5項目は、「はい」が90%以上である(図表3-2)。
- 「はい」という積極的な評価の割合について、09年度からの経年変化をみると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい」、「設備・機器などを安全に使用できた」は6年間連続で9割以上が「はい」と回答している(p.資-65~67)。
- 14年度は、13年度と比べて「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい」、「搬入・搬出がしやすい」、「舞台設備・機器が充実している」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「設備・機器などを安全に使用できた」で「はい」への回答が増加している。「搬入・搬出がやりやすい」については、他の項目に比べて満足層の割合、「はい」への回答と

もに少ないものの、満足層の割合は93.9%となっている。利用者への搬入・搬出に関する説明や案内が周知されてきていること、利用者が慣れてきていることがうかがえる(図表3-2)。
 ※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側(リバーウォーク北九州)と協議・調整する等の対策を講じている。

図表3-2 施設(ハード)に関する意見(14年度)

n=135(単位:%)	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ど ちらかとい えば「はい」 (除無回答)
館内が清潔	97.8	2.2	0.0	0.0	0.0	100.0
ホワイヤ客席など劇場の雰囲気がよい	96.3	3.0	0.7	0.0	0.0	99.3
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい	85.9	9.6	0.7	3.0	0.7	96.3
搬入・搬出がやりやすい	77.0	14.8	5.2	0.7	2.2	93.9
舞台設備・機器が充実している	92.6	4.4	1.5	0.0	1.5	98.5
舞台裏の施設・設備が使いやすい	92.6	5.2	1.5	0.7	0.0	97.8
設備・機器などを安全に使用できた	94.1	5.2	0.0	0.0	0.7	100.0

図表3-3 施設(ハード)に関する意見「はい」の回答割合比較(13年度・14年度)



(3) 運営や応対に関する意見(p.資-68~73)

- 運営、応対に関する12項目についても、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で、肯定的な評価をしている割合が95%以上と高くなっている。また、「はい」という積極的に評価する割合も高い(図表3-4)。
- 「はい」という積極的な評価の割合については、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」が09年度以降6年間連続で9割以上が「はい」と回答している(p.資-71)。
- 14年度は、13年度と比べて、「利用問い合わせや予約が円滑」、「事前打ち合わせが円滑」、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」、「技

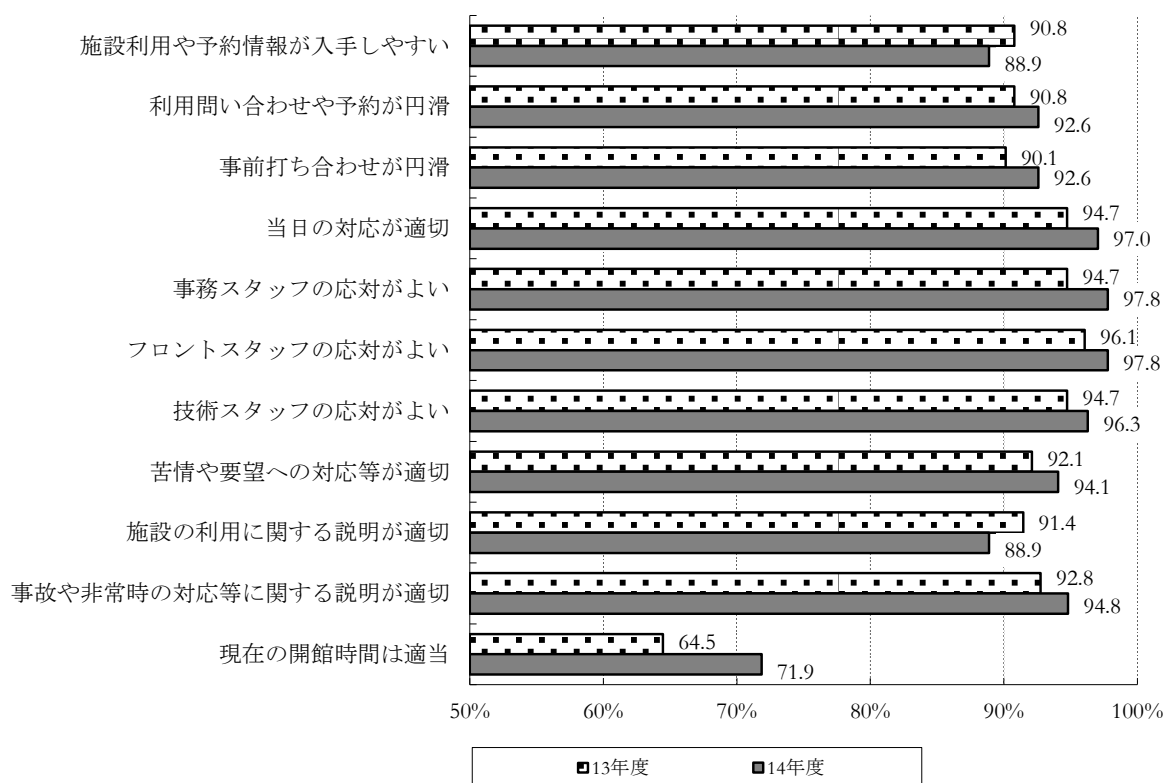
術スタッフの対応がよい」、「苦情や要望への対応等が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」、「現在の開館時間は適当」の項目で「はい」への回答割合が高くなっている(図表3-5)。

- 「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると「はい」の割合が低い。これは管理規則で10時から22時と定められており、より長い開館時間を求める意見や、仕込み等のために柔軟な利用時間の設定を求める意見があがっている。ただし、過去の推移を見ると、管理規則に対する利用者側の理解が浸透してきていることがうかがえる。

図表3-4 運営や対応(ソフト)に関する意見(14年度)

n=135(単位:%)	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ど ちらかとい えば「はい」 (除無回答)
施設利用や予約情報が入手しやすい	88.9	6.7	0.0	0.0	4.4	100.0
利用問い合わせや予約が円滑	92.6	3.7	0.0	0.0	3.7	100.0
事前打ち合わせが円滑	92.6	1.5	2.2	0.0	3.7	97.7
当日の対応が適切	97.0	3.0	0.0	0.0	0.0	100.0
事務スタッフの対応がよい	97.8	2.2	0.0	0.0	0.0	100.0
フロントスタッフの対応がよい	97.8	1.5	0.7	0.0	0.0	99.3
技術スタッフの対応がよい	96.3	2.2	0.0	0.0	1.5	100.0
苦情や要望への対応等が適切	94.1	2.2	0.7	0.0	3.0	99.2
施設の利用に関する説明が適切	88.9	4.4	0.7	0.7	5.2	98.4
事故や非常時の対応等に関する説明が適切	94.8	3.7	0.0	0.0	1.5	100.0
現在の開館時間は適当	71.9	17.8	5.9	3.7	0.7	90.3
機会があればまた利用したい	93.3	5.2	0.7	0.0	0.7	99.3

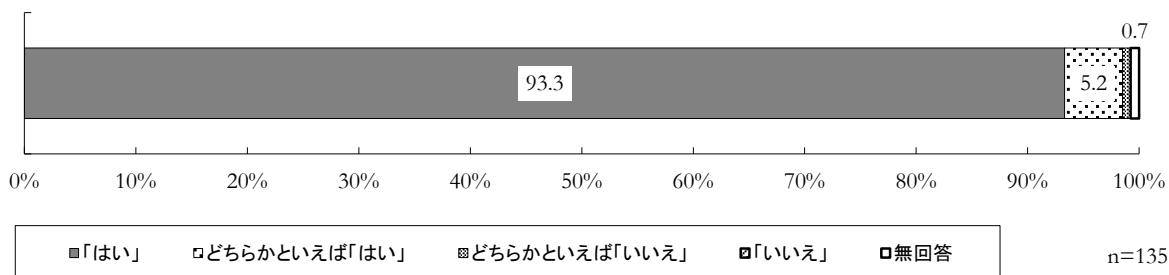
図表3-5 運営や対応(ソフト)に関する意見 「はい」の回答割合比較(13年度・14年度)



(4) 今後の利用の意向(p.資-73)

- 「機会があればまた利用したい」については、「はい」が93.3%(126件)と高い割合を占めており、「どちらかといえば『いいえ』」は0.7%(1件)、「いいえ」は0件であった。利用者の今後の利用意向は大変高い。
- 今後の利用意向の高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものであると考えられる。

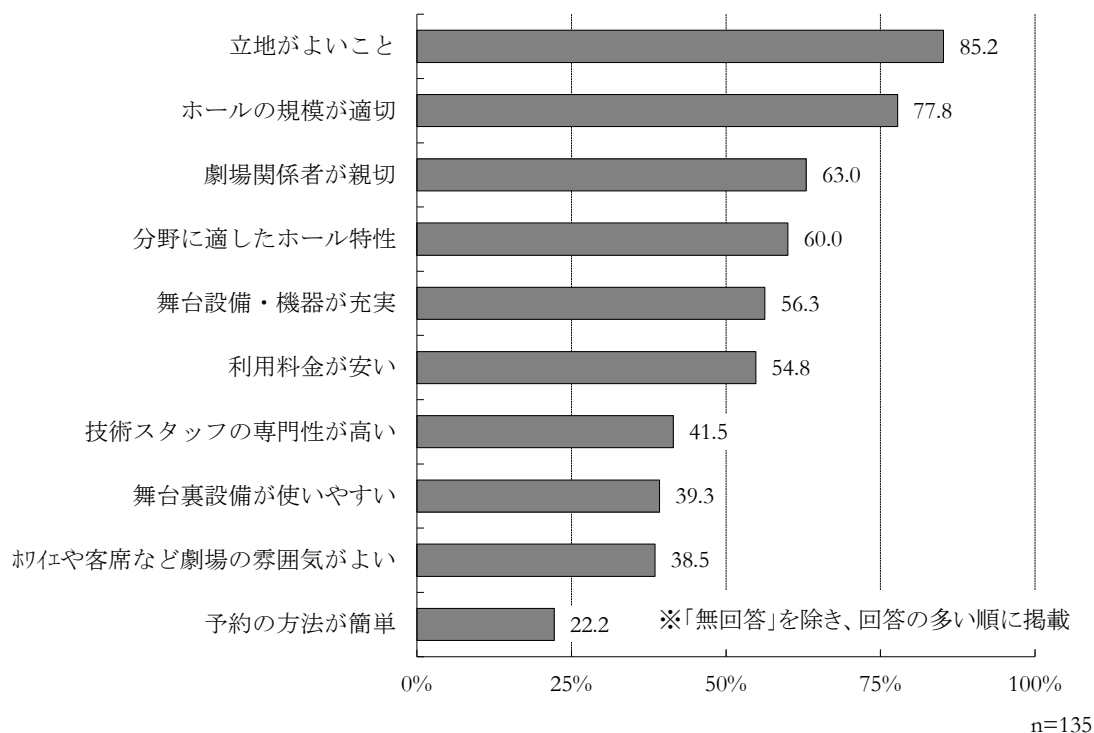
図表3-6 今後の利用の意向(14年度)



(5) 利用の際、重視すること(p.資-74~76)

- 利用の際重視することとしては、「立地がよいこと」(85.2%・115件)と「ホールの規模が適切」(77.8%・105件)への回答が多い。
- そのほか、「劇場関係者が親切」、「分野に適したホール特性」、「舞台設備・機器が充実」、「利用料金が安い」も50%以上の回答となっている。

図表3-7 利用の際、重視すること(14年度)



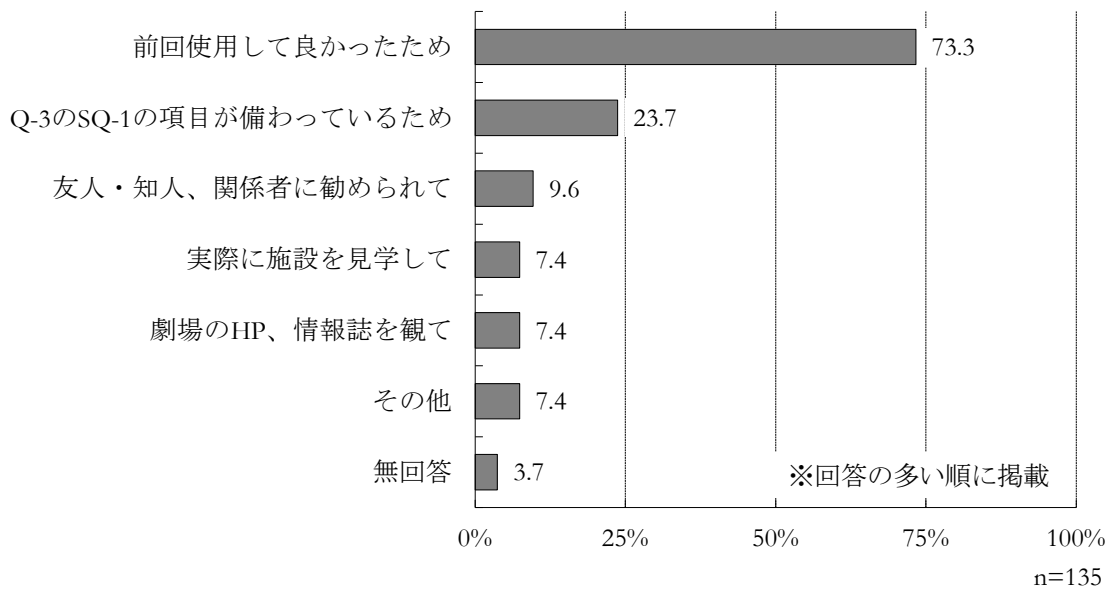
- 最も重視することは、「立地がよいこと」(31.9%・43件)への回答が最も多く、次いで、「分野

に適したホール特性」(25.9%・35件)、「ホールの規模が適切」(23.0%・31件)となっている。

(6) 利用のきっかけ(p.資-77)

- 利用のきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、73.3%(99件)を占めている。利用者の劇場への満足度は高く、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。
- 次いで、「Q-3のSQ-1(利用の際、重視する)の項目が備わっているため」(23.7%・32件)となっており、「立地がよいこと」、「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっていると考えられる。

図表3-8 利用のきっかけ(14年度)



第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

14年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出(最終需要)は、
 - ①劇場の管理運営に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館事業の主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる(図表4-1参照)。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくい。⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。なお、本文中および図表に表記されている個別の項目の数値は100万円未満を四捨五入しているため、小計、合計、誘発係数には四捨五入による誤差が生じている箇所がある。
- ①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億7,200万円、1億7,900万円、2億700万円、合計で10億5,800万円となっている。そのうち、73.3%にあたる約7億7,600万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が9億4,600万円、②が2億8,800万円、③が3億2,400万円、合計で15億5,800万円である。そのうち、68.4%にあたる10億6,600万円が北九州

市内での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.47、北九州市内で1.37である。

- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、約5億8,300万円～6億1,100万円、生産誘発係数は1.40である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約21億4,100万円～21億6,900万円、生産誘発係数は1.45、北九州市内に限ってみると、約16億4,900万円～16億7,700万円、生産誘発係数は1.38となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では137～142人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で121～124人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(14年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億7,200万円 (5億9,500万円)	9億4,600万円 (8億1,500万円)	1.41 (1.37)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	1億7,900万円 (6,200万円)	2億8,800万円 (8,600万円)	1.61 (1.40)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	2億700万円 (1億1,900万円)	3億2,400万円 (1億6,400万円)	1.56 (1.38)
	小計	10億5,800万円 (7億7,600万円)	15億5,800万円 (10億6,600万円)	1.47 (1.37)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	4,000万円 ～6,100万円	5,600万円 ～8,300万円	1.38
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	3億7,700万円	5億2,800万円	1.40
	小計(参考値)	4億1,700万円 ～4億3,700万円	5億8,300万円 ～6億1,100万円	1.40
合計(参考値)		14億7,500万円 ～14億9,500万円 (11億9,300万円 ～12億1,300万円)	21億4,100万円 ～21億6,900万円 (16億4,900万円 ～16億7,700万円)	1.45 (1.38)
		雇用効果 (北九州市内)	137～142人(就業者ベース) 121～124人(雇用者ベース)	

※下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館事業については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。

※図表に表記されている数値は100万円未満を四捨五入しているため、誤差が生じている箇所がある。

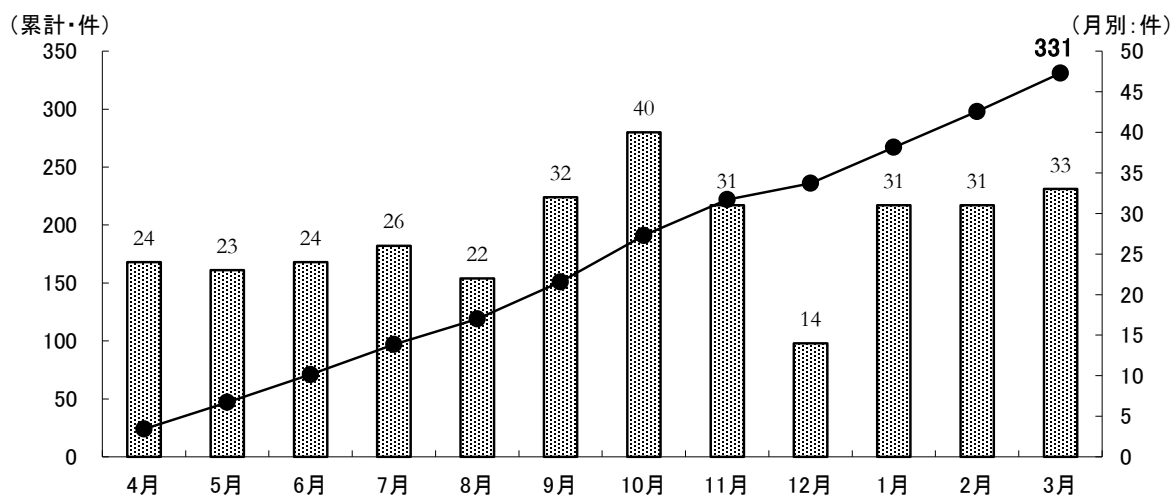
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、03年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、14年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

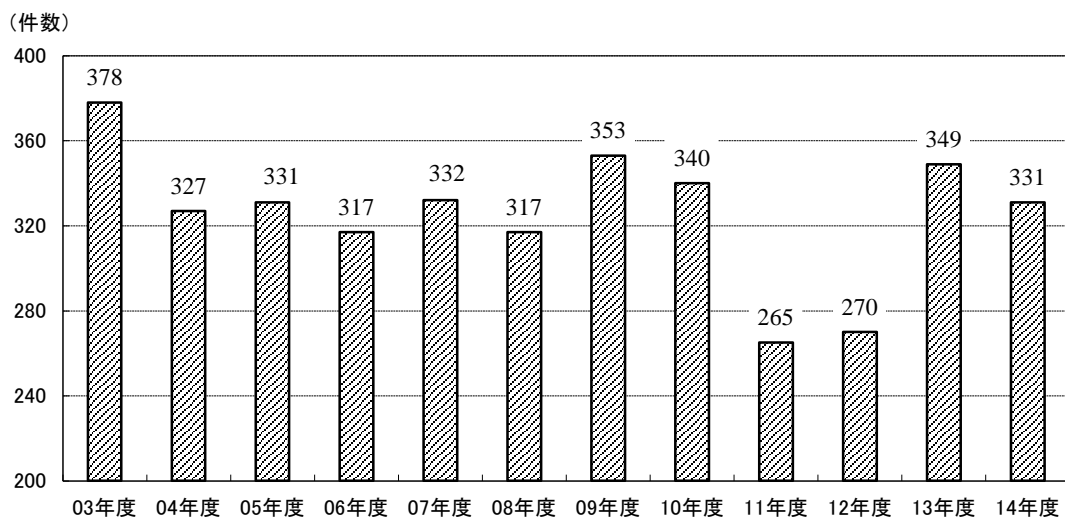
(1) 「北九州芸術劇場」をキーワードとした14年度の掲載記事の件数と内容

- 14年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は331件(図表4-2)である。
- 03年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。11年度は過去最少の掲載件数となったが、その要因は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられる。14年度は13年度に比べて掲載記事件数は減少した(図表4-3)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計(14年度)



図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移(03年度～14年度)



資料) 図表4-2、4-3ともに「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、14年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(120件)、次いで、朝日新聞(61件)、毎日新聞(38件)、読売新聞(35件)、日経新聞(30件)となっている。その他、九州各県をはじめとする地方新聞は47件となっている(図表4.4)。

図表4-4 新聞別件数一覧(03年度～14年度)

	西日本新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	日本経済新聞	その他	計
03年度	151	78	58	40	34	17	378
04年度	147	52	31	61	32	4	327
05年度	149	48	34	46	37	17	331
06年度	149	60	20	31	37	20	317
07年度	120	74	32	28	50	28	332
08年度	119	62	33	36	41	26	317
09年度	131	80	43	45	34	20	353
10年度	146	73	30	31	35	25	340
11年度	101	59	33	28	18	26	265
12年度	111	64	27	30	17	21	270
13年度	128	73	43	36	17	52	349
14年度	120	61	38	35	30	47	331

資料)「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、158件であった(13年度:180件)。
- その内容を、「主催/提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、65件、28件、40件、25件であった(図表4-5)。

(2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら158件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約2億707万円という結果となっている(図表4-6)。
- 03年度は開館、04年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 05年度は全国展開型の創造事業の公演数が多く、06年度は朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙の掲載件数が多かった。広告の単価は全国紙で高いため、05年度と06年度は全体の掲載件数は突出して多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。
- 07年度以降は、コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになっている。
- 14年度の掲載内容をみると、西日本新聞、朝日新聞(西部)、読売新聞(西部)での演劇や

舞台に関する批評・紹介欄で、公演事業に関する記事が掲載されている。九州他県の地方紙でも紹介されており、北九州市域外での劇場事業の定着が新聞記事からうかがえる。

- 14年度は「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」、「ダンスダイブウィーク」、「山海塾」、「海辺のカフカ」といった公演事業の紹介記事が多い。
- 14年度では「北九州芸術劇場×北九州市立美術館」、「そらダン」、「高校生のための演劇塾」などの学芸事業や貸館事業に関する紹介記事が多い。また、その他事業の分類では、山海塾の天児氏によるフランス芸術勲章の受章(12件)に関する記事が数多く紹介されており、14年度のパブリシティ効果全体に影響を与えている。
- 14年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約7,000万円であり、劇場事業のパブリシティ効果(約2億707万円)は補助金の規模を大幅に上回る成果を生み出していると言える。

図表4-5 新聞掲載記事の内容と件数(03年度～14年度)

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	70	8	46	56	180
2004年度	54	5	43	61	163
2005年度	75	25	34	25	159
2006年度	88	17	35	23	163
2007年度	85	12	31	26	154
第1期 平均	74	13	38	38	164
2008年度	55	12	50	32	149
2009年度	86	11	57	23	177
2010年度	82	28	55	22	187
2011年度	41	8	42	15	106
2012年度	37	19	49	17	122
第2期 平均	60	16	51	22	148
2013年度	51	31	58	40	180
2014年度	65	28	40	25	158
累計	789	204	540	365	1,898

図表4-6 新聞掲載記事の内容と金額換算(03年度～14年度)

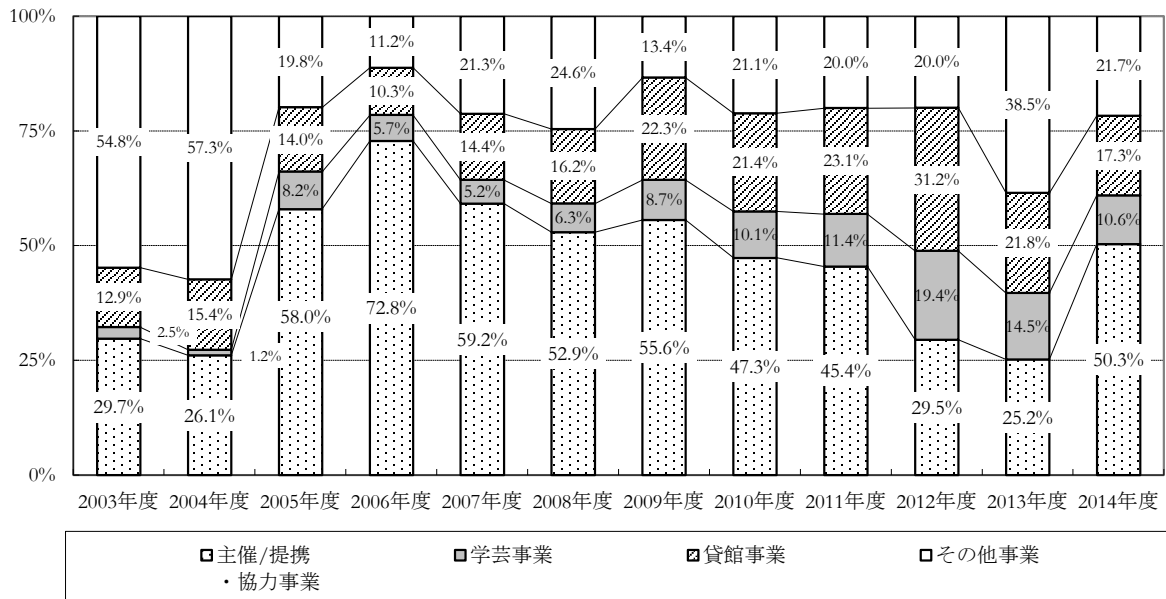
	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	62,140	5,331	27,072	114,683	209,226
2004年度	46,211	2,141	27,235	101,577	177,164
2005年度	110,044	15,505	26,622	37,678	189,849
2006年度	160,243	12,451	22,741	24,680	220,115
2007年度	66,027	5,777	16,056	23,737	111,597
第1期 平均	88,933	8,241	23,945	60,471	181,590
2008年度	66,588	7,926	20,392	30,961	125,867
2009年度	65,542	10,316	26,293	15,755	117,906
2010年度	64,078	13,718	28,986	28,598	135,380
2011年度	42,162	10,621	21,443	18,563	92,789
2012年度	31,969	21,021	33,825	21,646	108,461
第2期 平均	54,068	12,720	26,188	23,105	116,081
2013年度	41,879	24,104	36,272	64,035	166,291
2014年度	104,207	22,050	35,890	44,928	207,075
累計	861,090	150,961	322,827	526,841	1,861,720

※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

- また、事業ごとの掲載割合を金額換算ベースで見た場合、09年度の時点で過半数の割合だった主催/提携・協力事業の割合が年々減少し、学芸事業、貸館事業、その他事業の割合が年々増加してきたが、14年度は主催/提携・協力事業の割合が13年度に比べて大幅

に増加していることが分かる。(図表4-7)。

図表4-7 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース] (03年度～14年度)



第5章 評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、2003年度から14年度までの12ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。07年度までは、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、08年度に、(一財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目(戦略目標)を設定、さらに評価中項目(戦略)とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表5-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表5-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

戦略・評価軸	No	評価大項目
A 劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
	A-1	鑑賞系事業
	A-2	創造系事業
	A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
	A-4	普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)
	A-5	市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)
	A-6	地域への貢献①(地域経済への波及効果など)
	A-7	地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)
	A-8	広域施設としての役割発揮
B 管理運営	B-1	場の提供・支援(貸館)
	B-2	施設のホスピタリティ・サービス
	B-3	施設の維持管理
C 経営	C-1	経営体制
	C-2	リサーチ&マーケティング
	C-3	経営努力

- 14年度は、上記図表5-1の基本フレームに基づいて、03年度から14年度の12ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。 ※割合(%)の記載は、小数点以下を四捨五入して掲載した(図表5-3も同様)。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション 「創る」「育つ」「観る」「支える」

①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。開館10周年の節目を経過し、新たな一歩を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。
- 14年度から、4つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業、市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を展開し、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 10年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。

②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)

- 観客の運営方針への支持率^{*}は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の03年度から継続して90%を超えている。
※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

③劇場の来場者(利用者)数

- 北九州芸術劇場への年間来場者(利用者)数は、05年度以降、毎年27~28万人で推移しているが、14年度は2ヵ月間の改修工事があったため約25万人となった。また、この12年間で利用者数は延べ334万人を超えた。14年4月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約96万であり、すでに人口の3倍以上の利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇術劇場を地域になくてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

A-1 鑑賞系事業 「観る」

[観る]: 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 14年度も、「観る」(鑑賞事業)では、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

②年間延べ観客数

- 14年度の公演事業については、13事業で34回の公演が行われた。入場者数は14,482人、入場率は90%である。
- 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、40事業、公演回数は174回。入場者数は36,059人、入場率は90%となっている。

③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演(主催/提携・協力事業)に対する観客の満足度をみると、開館年度(03年度)から継続して「(本日の)公演内容」への満足度の高さが顕著である。14年度も満足層の割合^{*}は97%で、そのうち無回答を除いた「たいへん満足」の割合が66%と、観客からの高い評価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「(本日の)公演のチケット料金」も満足層の割合は94%であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。

④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 09年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

A-2 創造系事業 [創る]

[創る]: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 14年度も、全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。
- プロデュース作品「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」は北九州(2回)、東京(3回)で公演を行った。
- 入場率ではリーディングセッションvol.23「書く女」で96%、「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」の北九州・東京の全5公演で91%となっている。創造系事業では「わたしの青い鳥2014」が74%となっているが、それ以外の公演の入場率が80%を超えており、市民からの支持の高さがうかがえる。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。また、プロデュース作品の東京などでの公演によって、北九州芸術劇場の全国発信に貢献している。

②年間延べ観客数

- 14年度、「創る」では、5事業で16回の公演が行われ、入場者は3,974人、入場率は平均で87%と高い入場率となっている。

③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 10年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデ

ータベースが必要だとの意見も出された。

- 09年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

[育つ]:アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、普及系事業を継続的に実施している。14年度は、高校生や高校の演劇部顧問を対象に、大ホール、中劇場、小劇場、創造工房を活用した「高校生のための演劇塾2014」といった、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。
- 11年度からの「アーティスト往来プログラム」は、同じアーティストが「アウトリーチ」と「インリーチ」でアプローチの対象や内容を変化させることで、劇場と学校や地域との間に、より多様な関係を生み出そうとする意図がうかがえる。

②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 14年度の主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は144回、参加延人数は3,458人。

A-4 普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)

①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 14年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画の第二弾として、劇場と美術館との合作ならではの特別企画「モテたい売りたい僕らアーティスト～アート界のスター・バスキアに憧れた若者の、愛と青春と勘違いの物語～」を行った。
- 「シアラボCafe2014 リーディング公演」では、8日間の限られた時間の中で、街中のカフェなど通常は劇場空間ではない場所で参加者25名とアドバイザースタッフが演劇的な空間を作り出した。

②学校等と連携したプログラム数と参加人数

- 14年度に学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は96回、参加延人数は2,874人となっている。

A-5 市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)

① ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業を実施しており、14年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2014」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」、「月猫えほん音楽会2014《ワークショップ》」などの14事業で47回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,782人。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」は04年度から継続実施されている事業で、市民に定着していることがうかがえる。

- 10年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。
- ② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)
 - 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」は100%と、満足層の割合は大変高い。関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」をみても、満足層の割合*は100%となっている。これらの項目では、「はい」という積極的な評価も高い。
 - 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い(なお、09年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。)

A-6 地域への貢献①(地域経済などへの波及効果)

- ① 地域外からの来場者割合
 - 観客アンケート結果をみると、07年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け(06年度:21%、07年度:31%、08年度:31%、09年度:33%、10年度:37%、11年度:34%、12年度:38%、13年度:44%)、14年度は35%となっている。
- ② 公演鑑賞に伴う消費行動
 - 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、14年度の飲食またはショッピングをした人の割合は50%。
 - 飲食をしている割合は43%で平均金額は1,731円、ショッピングをしている割合は19%で平均金額は6,098円となっている。
- ② 経済波及効果
 - 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた14年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約6.7億円、主催事業が約1.8億円、主催事業の観客の消費支出が約2.1億円となっている。
 - それらの経済波及効果は、約15.6億円である。
 - また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約4.2~4.4億円、経済波及効果が約5.8~6.1億円である。
 - 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業(観客消費支出含む)で1.47、貸館を含めると1.45となっている。試算を始めた04年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45~1.48となっており、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
 - 雇用効果については、就業者ベースで137~142人、雇用者ベースで121~124人という結果となっている。

A-7 地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップ)

- ① シビックプライドの醸成
 - 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会

* 「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。

③ パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する14年度の記事掲載件数は158件。新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、14年度は約2億707万円となる。
- 14年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約7,040万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模を3倍近い成果を生み出していると言える。

A-8 広域施設としての役割発揮

① 圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。
- また、「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。
- 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。

② 当該文化施設の運営だけにとられない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。
- 今後の北九州芸術劇場あるいは(公財)北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。
- (公社)日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援(貸館)[支える]

① ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、14年度から「支える」として地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

② 貸館事業における入場者数

- 14年度の貸館の公演・講演事業数は196事業。計270回の公演・講演が実施され、入場者数は165,889人となっている。

③ 利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度^{*}は

99%で、利用者のほぼ全員が満足している。また、今後の利用意向^{*}も99%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。

- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度^{*}は、「現在の開館時間は適当である」を除いて97%以上と非常に高い。また、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
- 05年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

①公演や催し物情報に関する満足度

- 開館年度(03年度)に満足度が65%であった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、14年度は88%(06年度:79%、07年度:81%、08年度:86%、09年度:87%、10年度:85%、11年度:90%、12年度:89%、13年度:88%)となっている。開館から12年が経過し、観客が劇場に慣れてきたこともあろうが、劇場側の情報発信への工夫や努力も大きいと思われる。

②ホスピタリティに関する満足度

- 03年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、14年度は92%(06年度:79%、07年度:82%、08年度:87%、09年度:88%、10年度:89%、11年度:90%、12年度:89%、13年度:89%)となっている。
- 満足度の上昇は、①公演や催し物情報に関する満足度と同様に、開館から12年が経過し、観客が劇場に慣れてきたこともあろうが、案内表示の増設や既存サインの大型化など、劇場側の工夫によるところも大きいといえる。
- 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、14年度は97%となっている。

③スタッフの応対や電話対応等に関する満足度

- 03年度から満足度の高かった「劇場係員の応対」は、継続して高い満足度を保っており、14年度も97%と満足層の割合は非常に高い。また、「電話予約・チケットカウンターの応対」の満足度は95%で、劇場の顧客対応は高い評価を受けている。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、03年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、04年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、オンラインチケット購入システムを導入した11年度は90%、14年度は89%となっている。

④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、14年度は87%となっている。

B-3 施設の維持管理

①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、

^{*} 満足度は「たいへん満足」+「まあ満足」の割合、利用意向は「はい」+「どちらかと言えば『はい』」の割合。無回答は除く。

「舞台設備・機器は充実している」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「設備・機器などを安全に使用できた」については、「はい」への回答が90%以上と大変高い評価となっている。また、05年度(利用者調査開始年度)以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが84%、中劇場が81%、小劇場が85%である。
- 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、2014年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2014年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準にある。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。

C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

C-3 経営努力

①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の14年度の事業費は1億7,843万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の39%、市の補助金が40%、文化庁と(一財)地域創造、協賛金による外部資金が22%となっている。

②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 14年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で2,226万円の増収、補助金等収入は1,480万円の減収となっており、経営努力がうかがえる。

3. 事業評価の結果から－今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、03年度の開館年度から図表5-2のと通りの調査を行ってきた。

図表5-2 北九州芸術劇場における実施調査

調査内容	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
【継続調査】												
劇場運営基礎データの収集・分析	→											
観客調査(アンケート)	→											
貸館利用者を対象としたアンケート調査 (実施:05年度～、整理・分析:07年度)			---	---	→							
経済波及効果の算出		→										
パブリシティ効果の把握	→											
【テーマ調査】												
専門家による座談会(開場から1年間の劇場運営の成果について)		○										
市民意識調査(アンケート)			○									
ワークショップ参加者を対象とした学芸調査(アンケート/グループインタビュー)		○										
学校を対象とした学芸調査(アンケート)					○							
(舞台芸術の公演による)劇場使用者へのグループインタビュー				○								
劇場スタッフへのグループインタビュー						○						
北九州芸術劇場の広域的役割と長期的ビジョンに関するグループインタビュー							○					
舞台芸術以外の分野から見た北九州芸術劇場の役割(座談会)								○				
北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化										○		
北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年											○	
舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場												○

最後に、今後の事業評価を継続する上で、検討・留意すべきだと考えられる事項を、次の7点に整理した。

①継続調査

経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望まれる。

②地域や市民への効果を把握するための定性調査

また、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するため、定性調査の実施も検討したい。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客(あるいはチケットクラブ会員)、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域(市民センターなど)でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、成果を把握する機会が必要だと考えられる。また、2005年度の市民意識調査の実施から10年が経過していることから、今後タイミングを見て、同様の市民調査の実施を検討する必要もある。

③劇場内部での事業評価の活用

2008年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①この事業評価調査の結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的である PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフのより積極的な関わりを促していくことが重要だと考えられる。

④評価結果の公表と発信

北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書(本編)をホームページで公開するなど、市民へのアカウントビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目にあたり、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い取り組みだと言える。公共劇場や文化関係者の間でその成果を共有するためにも、より積極的な公表や発信が望まれる。

⑤次の戦略構築への活用

また、次の北九州芸術劇場の戦略構築のために、これまでの事業評価の結果を活用することが望まれる。2009年度のグループインタビュー調査、2010度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけでなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

⑥事業評価の再構築

前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築も視野に入れたい。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も再検討する必要がある。この数年間、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な

観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっている点も否めない。また、観客や利用者以外の市民、舞台芸術以外の芸術分野、あるいは劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー(利害関係者)との関係を広げていくことが2010度の座談会でも期待されている。また近年、文化政策や文化プログラムなどの事業評価の手法そのものが変化しており、評価の理論的なフレームワークとして用いられることの多いロジック・モデルの手法などを北九州芸術劇場の事業評価にも取り入れることも考えられる。その試行として、2012年度のテーマ調査では、10年間の事業評価の主要な項目を、結果(アウトプット)、短期的・中長期的な成果(アウトカム)、直接的・間接的な影響や効果(インパクト)に分けて整理した。それらも踏まえた上で、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進化させることが望まれる。

⑦次の10年を見据えた総括

北九州芸術劇場は、2013年8月に開館10周年を迎えた。これまでの事業評価の結果を見ると、その間、北九州芸術劇場は、積極的な事業や運営を継続、進化させ、それが観客をはじめとした市民や地域からの評価に結びついてきたと言える。開館後数年間で減速する公共劇場が少なくない中、10年間、開館当初のコンセプトに基づいて一定水準の事業や運営を継続してきたこと自体、高く評価すべきであろう。14年度からは、開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、開館以来の事業の基本方針である「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードに加えて「支える」が加わった。今後、4つの基本方針が相互に好循環を生み出しながら、次の10年を見据えた事業を展開していくことが期待される。

図表5-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～14年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

※事業評価の結果を、定量評価(事業実績データ、アンケート調査データ)とともに、定性評価(グループインタビュー等)の結果も含めて総合的に整理した。

※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。

※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価(達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標)項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A:劇場の設置目的

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0 「創る」「育つ」「観る」	①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	<ul style="list-style-type: none"> 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定、14年度から「支える」が加わった。 [専門家との座談会/10年度]では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。
	②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年(03年)度から90%以上。 ○14年度 創る:96%、育つ:95%、観る:98% [観客調査/14年度] 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 ○創る:81%、育つ:90%、観る:90% [市民調査/05年度] ※支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合(%)は小数点以下を四捨五入して掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> 一方で、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくべきとの意見も。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。
	③事業や運営に対する自己評価や振り返り、運営データの蓄積	<ul style="list-style-type: none"> 業務の振り返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。[劇場スタッフへのグルイン/08年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 事業評価データ等を活用し、係を超えた振り返りの機会づくりが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。
	④市民の劇場の認知度や劇場への意見	<ul style="list-style-type: none"> 市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。[市民調査/05年度] 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。[劇場スタッフへのグルイン/08年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。 	<ul style="list-style-type: none"> 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
	⑤劇場の来場者(利用者)数	<ul style="list-style-type: none"> 年間来場者(利用者)数は、05年度から09年度まで毎年27～28万人で推移。10年度は1年間で31万人に増加した。14年度は25万人。開館からの12年間で延べ334万人が来場。 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市の人口(14年4月1日現在)は約96万人であり、すでに人口の3倍を超える利用者が来場。 	<ul style="list-style-type: none"> 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
A-1 「観る」 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊など幅広いラインナップの公演事業を実施。 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 ○年齢層 29歳以下:17%、30歳代:16%、40歳代:28%、50歳代:22%、60歳以上:17% 平均年齢:45歳。 ○北九州芸術劇場での鑑賞経験 今日が初めて:19%、1～2回:14%、3～5回:20%、6回以上:40% 北九州市域外(北九州市内+北九州近隣地域を除く)からの観客は、13年度が過去最高の割合(44%)。 ○06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%[観客調査/14年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。
	②年間延べ観客数	<ul style="list-style-type: none"> 14年度の公演事業は13事業、公演回数は34回、入場者数は14,482人である。入場率は90%。 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、40事業、公演回数は174回、入場者数は36,059人である。入場率は90%。 	<ul style="list-style-type: none"> 公演事業全体で極めて高い入場率。「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。
	③公演に対する観客の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は97%。「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。) ○公演内容 03年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97%⇒11:98%⇒12:98%⇒13:97%⇒14:97% ○公演のチケット料金 03年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91%⇒11:94%⇒12:94%⇒13:93%⇒14:94% [観客調査/14年度] 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/10年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 「観る」という方針では、福岡市と何らかの機能分担をした上で、「創る」や「育つ」に重点を置いていくことも、将来のひとつの方向性だと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
	④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	<ul style="list-style-type: none"> 公演事業での劇場利用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、魅力的なものと呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 [全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。 	<ul style="list-style-type: none"> 公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。 	

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>A-2</p> <p>【創造系事業】</p> <p>「創る」 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、「ものづくりの街」北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます</p>	<p>①ミッションに基づいた創造系事業の実施</p> <p>②年間延べ観客数</p> <p>③創造系事業の公演に対する観客の満足度</p> <p>④創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。 プロデュース作品「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんの…」は北九州(2回)、東京(3回)で公演を行った。 14年度は、5事業で16回の公演が行われ、入場者は3,974人。入場率では平均で87%。 「リーディングセッション vol.23」で96%となっており、創造系事業のうち「わたしの青い鳥2014」以外の公演の入場率が80%を超えている。 鑑賞系事業③を参照 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。 [専門家との座談会/10年度]では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。 [全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。 今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。 美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。 創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
<p>A-3</p> <p>【育つ】</p> <p>アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します</p> <p>【普及系事業①】</p> <p>主に劇場内で実施するワークショップや講座など</p>	<p>①ミッションに基づいた普及系事業の実施</p> <p>②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数</p> <p>③講座・ワークショップ参加者の満足度</p> <p>④参加者が事業から得たもの(事業の効果)ー講座・ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普及系事業を継続的に実施。14年度も、 ○高校生や高校の演劇部顧問を対象に、大ホール、中劇場、小劇場、創造工房を活用した「高校生のための演劇塾2014」 ○「アーティスト往来プログラム」として、多彩な講師を招いた「ワークショップ」、「インリーチ」、「アウトリーチ」などの多様なプログラムを実施。 11年度からの「アーティスト往来プログラム」は、劇場と学校や地域との間に、より多様な関係を生み出そうとする意図がうかがえる。 14年度は、主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は144回、参加延人数は3,458人。 「アーティスト往来プログラム」や「ダンスダイブウィーク」など、地域と劇場との関係を積極的に開拓するような企画内容が多く見られる。 講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。[学芸調査・アンケート/04年度] ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度 満足層:98%、うち「たいへん満足」:56% ○「たいへん満足」の割合が高い項目 講座・ワークショップの内容(63%)、講師(72%)、劇場係員の応対(63%) 講座やワークショップに参加したことで、参加者は次のような効果があったと感じている。[学芸調査・アンケート/04年度] 「人間関係に広がり生まれた」(67%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(65%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(57%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(50%)、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」(43%)など。 グループインタビューでも、鑑賞事業だけでは得られない深い効果を指摘する声が多い。[学芸調査・グルイン/04年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ワークショップや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことで鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生み出されている。 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。
<p>A-4</p> <p>【普及系事業②】</p> <p>アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)</p>	<p>①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容</p> <p>②学校等と連携したプログラム数と参加者数</p>	<ul style="list-style-type: none"> 09年度から小学生から一般市民を対象としたアウトリーチ事業として、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」事業を立ち上げ、地域との連携を強化した。11年度は3ヶ年計画の3年目で、20回のワークショップで参加延人数が440人、公演「冬の盆」は2回行い、242人の入場者であった。 14年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画として、劇場と美術館との合作ならではの特別企画「モテたい売りたい 僕らアーティスト」を行った。 13年度に実施した「アーティスト往来プログラム」は、北九州市障害者芸術祭、特別養護老人ホーム、社会福祉法人との共同によるアウトリーチなど、福祉関係での活動に取り組んだ。 学校との連携事業への評価 [小学校を対象としたアンケート調査/07年度] ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、「自分の考えや気持ちを表現する力」(80%)、「豊かな感受性や想像力」(61%)、「人とコミュニケーションする力」(52%)については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。 14年度に実施した学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は96回、参加人数は2,874人となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 	

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>A-5</p> <p>[市民文化活動支援] 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など</p>	<p>①ミッションに基づいた市民活動支援の実施</p> <p>②貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。 14年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2014」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」、「月猫えほん音楽会2014(ワークショップ)」などの14事業で47回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,782人。 合唱物語「わたしの青い鳥」は、04年度からの継続事業。 [専門家との座談会/10年度]では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。 貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについては、「技術スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」が100%の大変高い満足度。 関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」も100%の高い満足度。[貸館調査/13年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。 貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査の継続。 市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。 開館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
<p>A-6</p> <p>[地域への貢献①] 地域経済などへの波及効果</p>	<p>①地域外からの来場者割合</p> <p>②公演鑑賞に伴う消費行動</p> <p>③経済波及効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 06年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増え続け、13年度は44%と過去最高の割合となっている。 ○地域外からの来場者割合 06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35% [観客調査/14年度] 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、14年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は50%。 ●飲食をしている場合の平均金額は1,731円、ショッピングの場合は6,098円。[観客調査/14年度] 14年度の経済波及効果を算出すると、 ○最終需要 劇場の管理運営:約6.7億円、主催事業:約1.8億円、主催事業の観客の消費支出:約2.1億円(参考値)貸館事業に基づいた最終需要:約42~4.4億円 ※試算 ○経済波及効果 約15.6億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約5.8~6.1億円 ※試算 経済波及効果の誘発係数は、 ○管理運営・主催事業・主催事業観客消費支出:1.47 ○貸館を含めた消費支出:1.45 04年度以降、運営管理・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45~1.48で推移。 雇用効果は、就業者ベースで137~142人、雇用者ベースで121~123人。 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。 観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。 今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 所得増、雇用増、税収増の試算。 貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。 開館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
<p>A-7</p> <p>[地域への貢献②] 地域アピール、ブランド力のアップ</p>	<p>①シビックプライドの醸成</p> <p>②パブリシティ効果</p> <p>③劇場・ホールの存在を肯定的に考えている市民の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。 その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/10年度] 北九州芸術劇場や劇場事業に関する14年度の記事掲載件数は158件。 158件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、14年度は約2億707万円(13年度:約1億6,629万円)。 14年度では、「北九州芸術劇場×北九州市立美術館」、「そらダン」、「高校生のための演劇塾」などの学芸事業や貸館事業に関する紹介記事が多い。また、山海塾の天児氏によるフランス芸術勲章の受章(12件)に関する記事が数多く紹介されており、14年度のパブリシティ効果全体に影響を与えている。 市民調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。 劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。 一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/05年度] 劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのかが、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/08年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がりを評価。 新聞掲載記事の広告宣伝費への換算金額は、市の事業に対する補助金(約7,000万円)を上回る規模であり、北九州芸術劇場の事業や運営が高いパブリシティ効果を生み出している。 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。 北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。 	<ul style="list-style-type: none"> より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>A-8</p> <p>[広域施設としての役割発揮]</p> <p>圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします *「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定</p>	<p>①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携</p> <p>②当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。 ● 「シアターラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度] ● 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。[舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/14年度] <ul style="list-style-type: none"> ● 北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度] ● 国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ビジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度] ● 2003年に開館して以来、「創る」、「観る」、「育つ」という事業の考え方や、事業評価を行うことの二点において、北九州芸術劇場が公共劇場のスタンダードを形成してきたと言える。[北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年/13年度] ● (公社)日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。[舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/14年度] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。 ● 「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。 ● 国や他の地方自治体(とくに九州圏域の県や市)との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。

B:管理運営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～13年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1	「支える」 [場の提供・支援 (貸館事業)]	①ミッションに基づいた貸館事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100%近い割合であることは、利用者からの大きな評価。 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査の継続。 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②貸館における入場者数	<ul style="list-style-type: none"> 14年度の貸館公演・講演は196事業。計270回の公演・講演が行われ、入場者数は165,889人。 		
		③利用者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 劇場利用に関する総合的な満足度は99%。今後の利用意向も99%と満足度はたいへん高い。 ソフト面に関する12項目のうち、「開館時間が適当である」以外は、満足層の割合が97%以上。貸館事業におけるスタッフの対応への評価は高い。[貸館調査/14年度] 14年度では、13年度に比べて、「利用問い合わせや予約が円滑」、「事前打ち合わせが円滑」、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「苦情や要望への対応等が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」、「現在の開館時間は適当」の項目で「はい」への回答割合が高くなっている。 		
B-2	[施設のホスピタリティ・サービス]	①公演や催し物情報に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 開館年度(03年度)に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、14年度の満足層は88%となっている。[観客調査/14年度] ○公演情報の入手のしやすさ 03年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:88%⇒14:88% 	<ul style="list-style-type: none"> 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から10年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		②ホスピタリティに関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、14度は92%であった。 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、14年度は96%となっている。[観客調査/14年度] ○案内表示 03年度:69%⇒04:74%⇒05:77%⇒06:79%⇒07:82%⇒08:87%⇒09:88%⇒10:89%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:92% ○デザイン・雰囲気 03年度:88%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:93%⇒07:94%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:96%⇒14:97% 		
		③スタッフの対応や電話応対等に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 「電話予約・チケットカウンターの対応」「劇場係員の対応」への満足度は大変高い。「劇場係員の対応」については、開館年度から90%以上の満足度を維持、14年度は97%であった。 開館年度(03年度)に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、14年度には89%の満足度となっている。[観客調査/14年度] ○劇場係員の対応 03年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98%⇒11:99%⇒12:98%⇒13:98%⇒14:97% ○電話・チケットカウンター 03年度:80%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:92%⇒07:93%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:95%⇒14:95% ○チケットの予約購入 03年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:89% 		
		④飲食に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、14年度は87%となっている。[観客調査/14年度] ○飲食サービス 03年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86%⇒11:88%⇒12:86%⇒13:85%⇒14:87% 		
B-3	[施設の維持管理]	①施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査でも、劇場の施設や設備などハード面で利用者からの満足度は大変高いが、搬入・搬出のしやすさについては複合施設でエレベーターを使用することから、他の項目に比べて満足度は低い。満足層の割合は次のとおり。[貸館調査/14年度] ○館内は清潔に保たれていた:100% ○ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい:99% ○劇場の広さ(客席数)がちょうどよい:96% ○搬入・搬出がやりやすい:94% ○舞台設備・機器は充実している:99% ○楽屋など舞台裏の施設が使いやすい:98% ○設備・機器などを安全に使用できた:100% 	<ul style="list-style-type: none"> 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。 スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査の継続。 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。
		②稼働率	<ul style="list-style-type: none"> 施設稼働率は、大ホールが84%、中劇場が81%、小劇場が85%である。 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均(専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。 		

C:経営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～13年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
C-3	[経営努力]	①外部資金、チケット収入の割合	<ul style="list-style-type: none"> チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続したデータ収集・分析の実施。 詳細調査の必要性の検討、実施。
	②事業収支からみた経営努力	<ul style="list-style-type: none"> 14年度事業費は約1億7,843万円。財源内訳は、チケット収入:約6,900万円(39%)、外部資金:約3,900万円(22%)、市の補助金:約7,000万円(40%)。 チケット収入と外部資金の03年度からの比率をみると次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ○チケット収入 03年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68%⇒11:53%⇒12:47%⇒13:52%⇒14:39% ○外部資金 03年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15%⇒11:12%⇒12:13%⇒13:19%⇒13:22% 14年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約2,200万円の増収、補助金等収入は約1,480万円の減収となっており補助金等の減収分を、事業収入によってカバーした形になった。 		

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

第6章 舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場

今年度のテーマ調査では、「舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」と題し、在京・在阪の劇団や制作会社等の、舞台芸術作品の流通（ツアー公演）の状況を把握した。その上で、国内の舞台芸術環境において北九州芸術劇場が作品流通に果たした役割を検証し、その成果と課題や今後の展望について調査した。

1. 調査概要

(1) アンケート

公益社団法人日本劇団協議会の協力のもとに、正会員の演劇創造団体（2012年現在61団体）にアンケートを実施した。アンケートの概要は次のとおり。

① 調査の対象

- 公益社団法人日本劇団協議会の加盟団体53団体。

② 配布・回収方法

- 調査票の直接郵送による配布（要望があった場合はEメールでの電子ファイル形式の調査票を個別に送信）、後日郵送、ファックス、Eメールにて回収。

③ 実施時期

- 2015年11月16日～12月21日

④ 有効回答数・回答率

- 32件、回収率：60.4%（配布数：53件）

⑤ 主な調査項目

- 演劇創造活動の概況（活動地域、活動年数、年間公演回数、公演の頻度 など）
- 国内ツアーの公演実績（国内ツアーの有無、頻度、会場数、回数 など）
- 九州での公演実績（九州公演の有無、頻度、会場名、回数 など）
- 北九州芸術劇場での公演実績（利用の有無、回数、満足度、選択の理由 など）
- 今後の北九州芸術劇場の利用意向（利用の意向、新設予定の福岡県内の文化施設との関係 など）

(2) ヒアリング

北九州芸術劇場の利用実績のある創造団体と利用実績のない創造団体の計5団体に、グループヒアリングまたは個別にヒアリングを実施した。ヒアリングの内容は次のとおり。

- ツアー会場で北九州芸術劇場を選択する（しない）理由
- 国内ツアー会場の選択条件
- 地方の文化施設との事業提携等の意向
- 今後の北九州芸術劇場の利用意向 など

以下、アンケートおよびヒアリングの結果を紹介する。

2. 舞台芸術公演の創造、流通の概況(アンケートより)

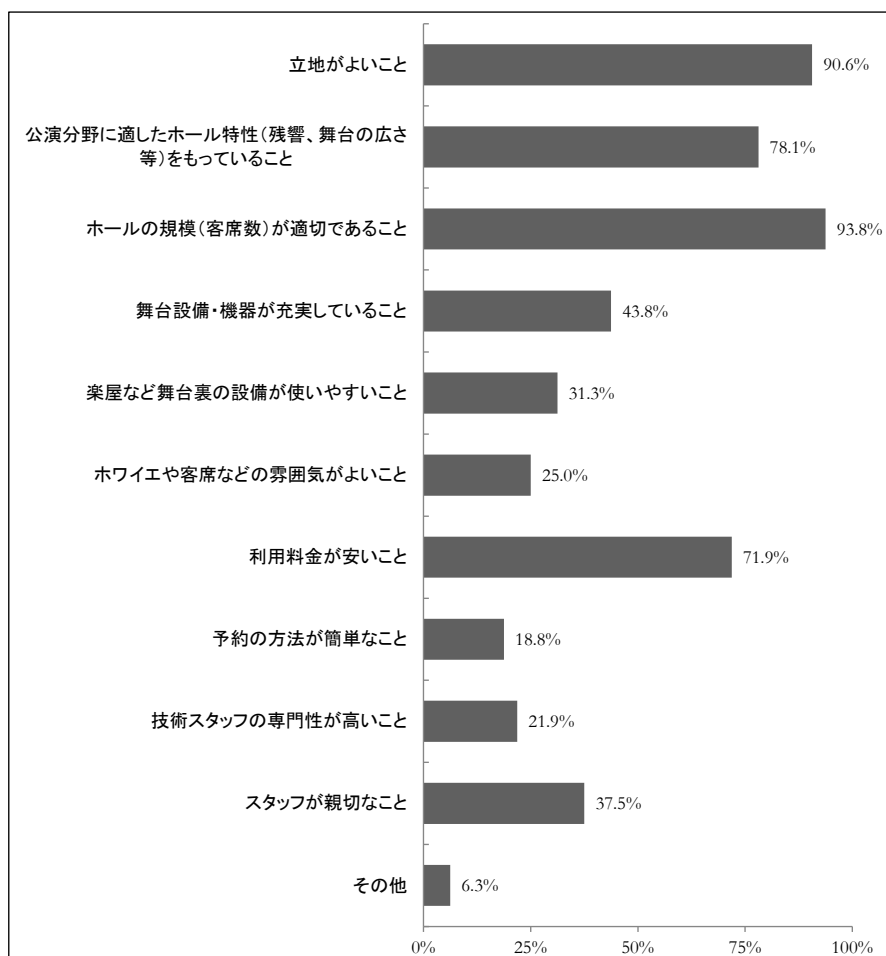
(1) 活動地域は東京が大多数で、施設利用はハード面の条件や立地条件を重視

アンケートに回答した32団体の主たる活動地域は、「東京都」が大多数を占めており、活動年数は、「50年以上」がおよそ半数、年間の上演作品数(新作・再演は問わない)は「年に5本以上」が4割で最も多い。施設を利用する際に重視することは、「ホールの規模(客席数)が適切であること」が9割を超えて最も多く、主にハード面の条件、立地条件、料金設定の条件が上位となっている。

【アンケートから】

- アンケートに回答した32団体の主たる活動地域は、「東京都」が87.5%(28件)で大多数を占め、活動年数は「50年以上」が46.9%(15件)でおよそ半数となっており、年間の上演作品(新作・再演は問わない)は「年に5本以上」が40.6%(13件)で最も多い回答となっている。
- 主に利用している劇場・ホールの名称を、利用頻度が多い順に3件以内で回答していただいたところ、「紀伊國屋ホール」、「俳優座劇場」、「紀伊國屋サザンシアター」が上位3施設となっている。
- 施設を利用する際に重視することは「ホールの規模(客席数)が適切であること」が93.8%(30件)で最も多く、主にハード面の条件、立地条件、料金設定の条件が上位となっている。

図表5-1 施設を利用する際、重視すること



(2) 九州公演を実施した団体は3分の2だが、実施頻度が定まっていない団体が多い

すべての回答団体が過去3年以内に国内ツアーを実施し、ツアーの会場数は「30会場以上」が3分の1、実施する頻度は「年に1回以上」が3分の2を占めている。北九州芸術劇場以外の会場での九州公演を「実施した」団体は3分の2で、回答件数、ステージ数ともに最も多かったのは福岡の「ももちパレス」。九州公演の実施頻度を「とくに決めていない」団体が多く、「年に1回以上」の頻度で実施している団体は全体の4分の1となっている。

【アンケートから】

- 過去3年以内に、国内ツアー（複数地域での巡回公演、主催・招聘の区別、日程の連続・非連続を問わない）を実施したことがあるか伺ったところ、すべての団体が「実施した」と回答。直近の国内ツアーの会場数は「30会場以上」が34.4%（11件）が最も多く、ツアーを実施する頻度は「年に1回以上」が68.8%（22件）でおよそ3分の2を占めている。
- 過去3年以内に、北九州芸術劇場以外の会場で九州公演を実施したことがあるか伺ったところ、「実施した」が65.6%（21件）でおよそ3分の2となっており、回答件数、ステージ数ともに最も多かったのが福岡市の「ももちパレス」で、回答件数計6件、ステージ数計47回、平均すると1件の公演で7.8回となる。
- 過去3年以内に九州公演を「実施した」と回答した団体の、九州での公演の実施頻度は、「とくに決めていない」が42.9%（9件）、「年に1回以上」が38.1%（8件）となっている。全回答を母数とすると、「年に1回以上」の団体は4分の1となる。

図表5-2 九州公演の会場（北九州芸術劇場以外で自由記述による回答）

	回答件数	ステージ数 計	平均ステージ数
ももちパレス	6	47	7.8
熊本県立劇場	4	11	2.8
長崎市民会館	3	9	3.0
佐賀市文化会館	2	5	2.5
ユメシティのおがた	2	2	1.0
ぽんプラザホール	1	5	5.0
熊本市男女共同参画センター	1	5	5.0
西銀ホール	1	3	3.0
鹿児島市民文化ホール	1	3	3.0
佐賀市民会館	1	3	3.0
下関市生涯学習プラザ	1	3	3.0
そぴあしんぐう	1	3	3.0
キャナルシティ	1	3	3.0
かごしま県民交流センター	1	3	3.0
福岡市民会館	1	2	2.0
黒崎ひびしんホール	1	2	2.0
宮崎県立劇場	1	2	2.0
くまもと森都心プラザホール	1	2	2.0

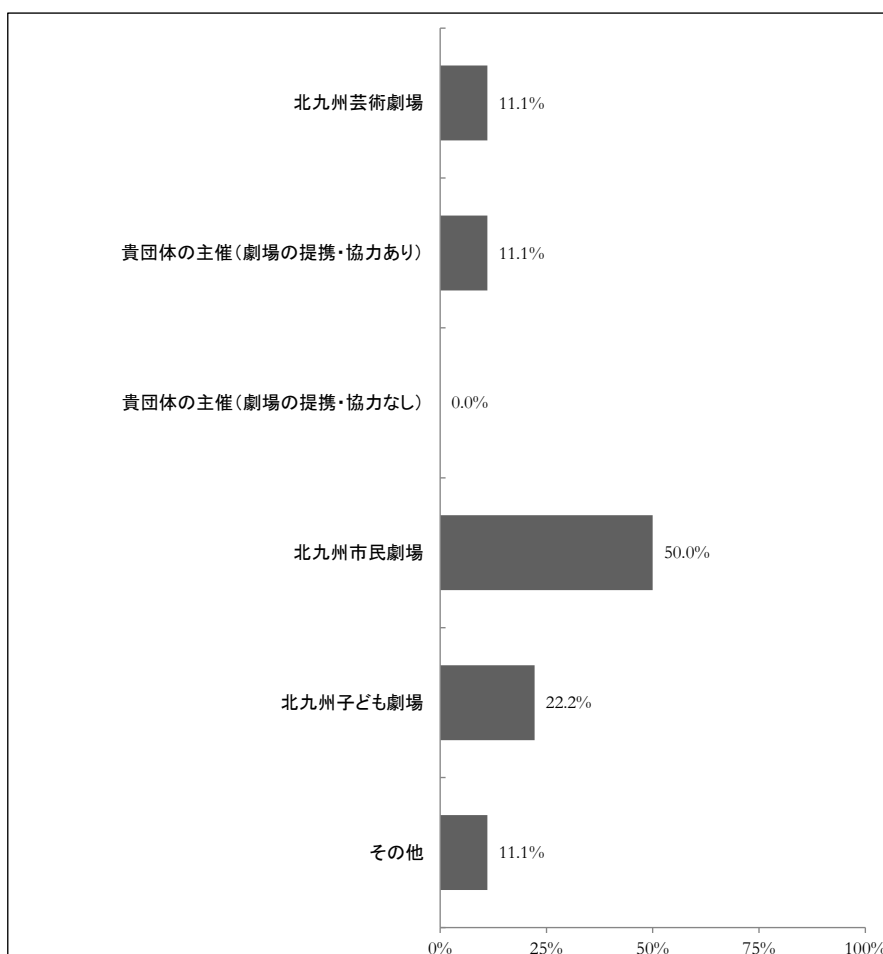
(3) 九州公演の実施団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施、市民劇場の主催が半数

過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。北九州芸術劇場で公演を実施した団体の主催者は「北九州市民劇場」が半数となっており、利用した理由は「企画段階から利用が決まっていたため」が9割となっている。

【アンケートから】

- 過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を実施したことがあるか伺ったところ、「実施した」が56.3%(18件)、「実施していない」が48.3%(14件)となっている。北九州芸術劇場以外の会場で九州公演を「実施した」団体(21件)のうち66.7%(14件)は北九州芸術劇場で公演を実施した。北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)の利用回数は、「2～3回」が38.9%(7件)。
- 北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)に、公演を行った際の主催者について、選択肢を与えて複数回答で答えていただいたところ、「北九州市民劇場」が50.0%(9件)、「北九州子ども劇場」が22.2%(4件)、「北九州芸術劇場」、「貴団体の主催(劇場の提携・協力あり)」、「その他」がそれぞれ11.1%(2件)となっている。
- 北九州芸術劇場を利用した理由を伺ったところ、「北九州芸術劇場または別団体の主催により、企画段階から利用が決まっていたため」が88.9%(16件)で、他の理由よりも圧倒的に多い。

図表5-3 北九州芸術劇場で公演を行った際の主催者



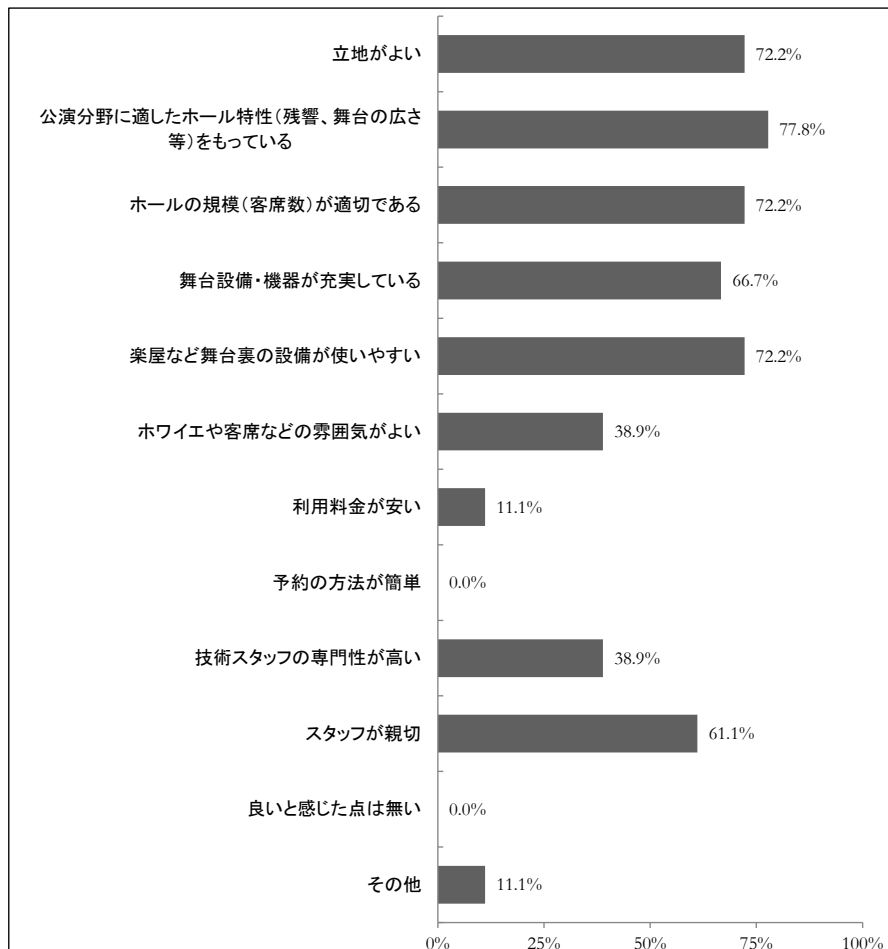
(4) 北九州芸術劇場のハード面の条件や立地条件を高く評価、総合的な満足度も高い

北九州芸術劇場で公演を「実施した」団体が利用して感じたことは、「公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっている」、「立地がよいこと」、「ホールの規模(客席数)が適切であること」、「楽屋など舞台裏の設備が使いやすい」が多く、総合的にみて北九州芸術劇場に「たいへん満足している」が半数、「まあ満足している」が3分の1となっている。使い勝手や対応の良さに対する満足感を示す自由記述が多い。

【アンケートから】

- 過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)に、北九州芸術劇場を実際に利用して感じたことを伺ったところ、「公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっている」が77.8%(14件)、「立地がよいこと」、「ホールの規模(客席数)が適切であること」、「楽屋など舞台裏の設備が使いやすい」がそれぞれ72.2%(13件)、「スタッフが親切」が61.1%(11件)となっている。
- 総合的にみた北九州芸術劇場に対する満足度を聞いたところ、「たいへん満足している」が50.0%(9件)、「まあ満足している」が33.3%(6件)、無回答が16.7%(3件)となっている。
- 利用して良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、自由記述で意見を伺ったところ、使い勝手や対応の良さに対する満足感を示すものが多い中で、「地元の団体が利用しやすいことが第一」との意見も見られた。

図表5-4 北九州芸術劇場を実際に利用して感じたこと



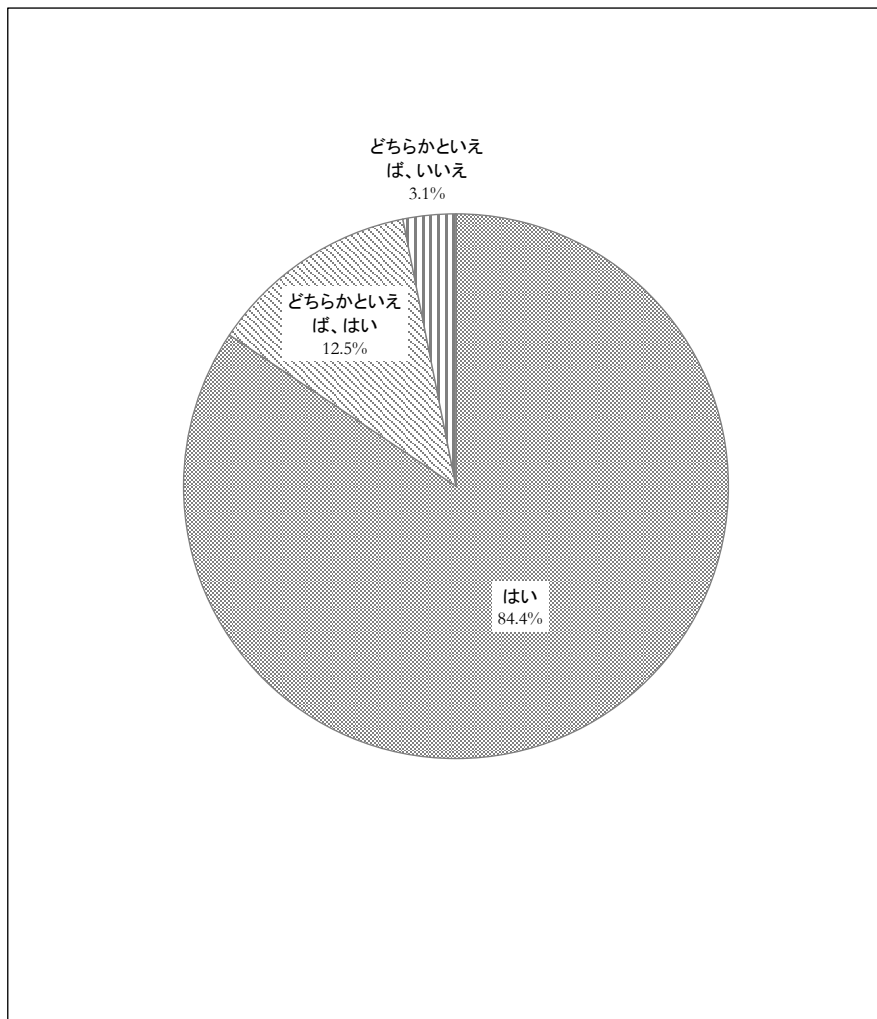
(5) 今後の北九州芸術劇場の利用意向は9割、ネットワークの拠点性に期待が寄せられる

今後、国内ツアーを展開していく意向がある団体がほとんどで、九州での公演を展開していく意向も9割となっている。北九州芸術劇場を利用したいと思うか伺ったところ、「はい」との回答が8割、「どちらかといえば、はい」が1割で、9割は利用の意向がある。国内の舞台芸術作品の流通において、北九州芸術劇場が果たすべき役割については、「九州におけるネットワークの拠点性の発揮」、「良質の作品の上演や発信力」、「演劇作品の創造や観客育成」といった点を挙げることができる。

【アンケートから】

- 今後、国内ツアーを展開していく意向を伺ったところ、「意向がある」との回答が96.9%(31件)、九州での公演を展開していく意向を伺ったところ、「意向がある」との回答が84.4%(27件)、北九州芸術劇場を利用したいと思うか伺ったところ、「はい」との回答が84.4%(27件)、「どちらかといえば、はい」が12.5%(4件)、「どちらかといえば、いいえ」が3.1%(1件)となっている。
- 国内の舞台芸術作品の流通において、北九州芸術劇場が果たすべき役割について、自由記述で意見を伺ったところ、32団体のうち9件の記述があった。共通点が見られる記述内容としては、「九州におけるネットワークの拠点性の発揮」、「良質の作品の上演や発信力」、「演劇作品の創造や観客育成」といった点を挙げることができる。

図表5-5 北九州芸術劇場の利用の意向



3. 舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場(ヒアリングより)

(1) ツアー会場で北九州芸術劇場を選択する・しないは劇団の外部的な要因が強い

ツアー会場で北九州芸術劇場を利用した実績のある団体は、主催者が別団体のために会場の選択を委ねていたケースと、継続的に公演ができる環境、状況、条件が整っていることを理由に挙げた団体がある。一方、利用した実績がない団体は、基本的に招聘されなければ地方での公演は実施しない、劇場との関係ができていないという理由と、公演での収益を確保することを考えた場合、利用料金の高さが理由で選択していないという理由が聞かれた。

【ヒアリングから】

- 児童劇団として活動しており、この5年間で北九州芸術劇場では4作品を上演しているが、すべて北九州子ども劇場に招聘していただいているので、選択する、しないを当劇団が判断しているわけではなく、北九州子ども劇場で用意していただいたという経緯がある。(劇団 A)
- 大阪を拠点に活動している劇団。年間2本の公演をベースに、1本は、大阪、東京、北九州、その他の都市で公演している。北九州芸術劇場を選択している理由としては、継続的に活動できる環境、状況、条件の提示があること。7、8年は公演を続けている。(劇団 E)
- 東京を拠点している新劇系の劇団だが、北九州芸術劇場とは、今まで「ご縁がなかった」ということに尽きる。当劇団に九州に基盤がないということも大きい。(劇団 D)
- 当劇団の場合、地方の主催者から招聘されなければ公演しない。地方の公立ホールは、基本的に貸館の利用料金は高いため、劇団主催ではできない。(劇団 C)
- 北九州芸術劇場を選択していない理由としては、他の会場に比べて利用料金が高いこと。2日間、4ステージ程度で収益を上げるとなると、料金が低い。(劇団 B)

(2) 国内ツアーに対する考え方や姿勢の傾向、演劇鑑賞組織の会員の減少と高齢化

国内ツアーの会場の選択条件について尋ねたところ、基本的に東京での劇団主催の公演をベースとした活動のため、地方の巡回公演を前提に作品を製作していない団体や、いわゆる「パッケージ公演」の買い取りが基本のため、劇団自らが会場を選択しているわけではないという意見が多い。また、地方の巡回公演を支えてきた演劇鑑賞組織(以下「演鑑」)の会員の減少と高齢化に伴い、地方での舞台芸術の流通環境が大きく変化している。

【ヒアリングから】

- 舞台芸術の流通環境という点では、全体的なステージ数は減少の方向だが、舞台を見せたいという創造団体は逆に増えていて、多様化しているので、今までどおりに芝居をつくって観ていただくだけではやっていけないかもしれないと思うときもある。(劇団 A)
- 基本は劇団として主催する東京公演がベース。地方公演で巡回させることを前提にしていない。地方公演では交通費や宿泊費といった経費だけでも高額になるため難しい。(劇団 C)
- 地方公演は基本的に公演をパッケージで買い取っていただいて、チケット販促は現地のリスクで行っていただくという形でしか、現実的には難しい。(劇団 D)
- かつては演鑑で呼んでもらう話もあったが、今となっては会員数も減少し、高齢化しているので、自分たちの劇団を呼ぶという話はもうないだろう。(劇団 E)
- 将来を見据えたときに、演鑑も会員数が激減している話を聞くと、巡回公演で演鑑に深く関わっていくことに、どれだけメリットがあるのか疑問。(劇団 D)

(3) 地方での演劇公演の現状と文化振興拠点としての公共劇場の役割

地方での公演では、作品の内容よりも俳優の知名度が集客を左右する。そうした中で、文化振興拠点としての公共劇場の役割を自覚している人材や組織が必要とされている。劇団と劇場との提携のあり方も、単に公演を行うだけではなく、市民参加や人材育成面で協働するような提携が求められている。また、そうした提携を支える人と人とのつながりが不可欠である。

【ヒアリングから】

- 地方公演では「芝居を観る」というよりは、「俳優を観る」という現実がある。東京もその傾向が強くなっている(劇団 D)
- 会場を選択するうえで、ハード面で演劇ができる条件が整っていることが前提だが、基本としては、人材。公共劇場の場合、担当者だけでなく、組織の上層部も、文化振興拠点としての役割や、地域とどのように向き合うのか、基本的なあり方を自覚しているかどうか。(劇団 E)
- 広島市内の区民センターがサポートしている演劇サークルに、劇団の代表が講師として夏の3週間ほど指導やワークショップと発表会をお手伝いしている。長く継続的に関わってきたが、今年が最後になる予定。地域の演劇人を育てる取組は、単発になってしまいがちだ。(劇団 C)
- 何らかの事業提携を検討する前提として、そこにかかる人件費の手当が担保されていれば、公演以外のワークショップにしても協力を惜しまない。(劇団 D)
- 地方の公共劇場で、3年間継続して公演をやる約束を交わしたことはいくつかある。これも人との関係で、書面を交わしているわけではない。(劇団 E)

(4) 北九州芸術劇場の利用の意向、舞台芸術の流通における北九州芸術劇場への期待

北九州芸術劇場の利用の意向については、ハード面で要件が適していないという意見と、自身の劇団の公演に集客が見込める環境が整うかどうかの問題という意見がある。劇場と劇団が観客や人材の育成面で協働していくこと、北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。

【ヒアリングから】

- 当劇団が北九州芸術劇場でやるとすると、中劇場では大きすぎる。小劇場では少し小さく、基本的に平土間の空間なので、普通の演劇を観る環境としてはどうだろうか。(劇団 D)
- 北九州芸術劇場を使ってみたいとは思っているけれども、満席にする自信がない。作品にもよると思うが、ある程度劇場側が集客を担保することがあれば、少し考えることができる。(劇団 C)
- 自分の劇団だけの問題ではなく、演劇に関わる人たちが、演劇の観客を育てることができるようにならないかと常々思っている。そのサポートになるワークショップをやるということでお付き合いをさせていただくことができるといいと思う。(劇団 C)
- 実現可能かどうかは別として、北九州芸術劇場の事業に劇団ごと関わることができないか。例えば地元劇団との合同公演とか、劇場で稽古から新作を立ち上げるとか。(劇団 E)
- 地方の公共劇場の役割として、北九州芸術劇場には、ぜひ九州出身の小劇場の優れたユニークな劇作家を発掘し、東京に紹介してほしい。(劇団 D)
- 100席から200席くらいの小規模の劇場のネットワークは必要だと思う。九州・中国地方のネットワークを北九州芸術劇場がつくってバックアップしてくれればいいと思う。(劇団 E)

北九州芸術劇場
事業評価調査
[資料編]



觀客調查結果

序 観客調査の実施要領

観客調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象: 2014年度に北九州芸術劇場で実施した主催事業および提携・協力事業公演32公演
- 配布・回収方法: 各公演の開演時に配布、終演時に回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 実施時期: 2014年5月9日～2015年3月28日
- 有効回答数: 1,146件、回収率: 12.0%(配布数: 9,183件)
- 調査対象の公演名、会場、ジャンル、公演ごとの配布数、回収数等の詳細は、図表-資 I -1のとおりである。

図表-資 I -1 アンケート調査実施公演一覧

公演名	会場	公演ジャンル	配布日	配布数	回収数	回収率(%)
有門正太郎プレゼンツ vol.5	小劇場	小劇場・現代演劇	5/9	92	21	23.0%
美輪明宏版「愛の讃歌」	大ホール	小劇場・現代演劇	5/10	1,198	131	11.0%
フィリップ・ドカフレ カンパニー DCA	中劇場	小劇場・現代演劇	6/22	502	60	12.0%
「海辺のカフカ」	大ホール	小劇場・現代演劇	7/11	1,075	54	5.0%
合唱物語「わたしの青い鳥 2014」	中劇場	音楽劇	7/13	430	72	17.0%
「スズの兵隊」	小劇場	小劇場・現代演劇	7/19	62	4	6.0%
「木のリズム」	創造工房	小劇場・現代演劇	7/19	59	6	10.0%
子供のためのシェイクスピア「ハムレット」	中劇場	小劇場・現代演劇	7/26	331	57	17.0%
「月猫えほん音楽会 2014」	中劇場	小劇場・現代演劇	7/31	195	16	8.0%
KAKUTA「痕跡(あとあと)」	小劇場	小劇場・現代演劇	8/20	122	17	14.0%
「暗いところからやってくる」	中劇場	小劇場・現代演劇	8/30	147	25	17.0%
DDW「ショーケース」	小劇場	ダンス・現代舞踊	9/6	102	14	14.0%
DDW Co.山田うん	小劇場	ダンス・現代舞踊	9/13	100	10	10.0%
「雰囲気のある死体」	小劇場	小劇場・現代演劇	9/22	124	16	13.0%
「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」	中劇場	小劇場・現代演劇	10/4	555	81	15.0%
サンプル「ファーム」	小劇場	小劇場・現代演劇	10/11	60	7	12.0%
「姐さん女房の裏切り」	小劇場	小劇場・現代演劇	10/18	87	23	26.0%
ナイロン 100℃「社長吸血記」	中劇場	小劇場・現代演劇	10/25	419	47	11.0%
「ジュリアス・シーザー」	大ホール	小劇場・現代演劇	10/31	1,167	103	9.0%
劇団太陽族「それからの遠い国」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/2	61	13	21.0%
飛ぶ劇場 vol.36「豚の骨」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/13	121	20	17.0%
カンパニー・フィリップ・ジャンティ	大ホール	小劇場・現代演劇	11/16	616	107	17.0%
「ガモメ カルメギ」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/22	90	7	8.0%
二兎社「鴉外の怪談」	中劇場	小劇場・現代演劇	11/24	395	42	11.0%
南河内万歳一座「ジャングル」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/29	64	13	20.0%
不思議少年「水と油」	小劇場	小劇場・現代演劇	2/6	61	9	15.0%
リーディングセッション vol.25「書く女」	小劇場	小劇場・現代演劇	2/14	128	31	24.0%
「桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。」	小劇場	小劇場・現代演劇	2/22	87	28	32.0%
Re:北九州の記憶	小劇場	小劇場・現代演劇	2/28	117	19	16.0%
MONO 第 42 回公演	小劇場	小劇場・現代演劇	3/7	98	25	26.0%
劇トツ×20分	小劇場	小劇場・現代演劇	3/22	127	30	24.0%
山海塾「海の賑わい 陸の静寂 一めぐり」	中劇場	ダンス・現代舞踊	3/28	391	38	10.0%
計	—	—	—	9,183	1,146	12.0%

(注) 配布数は、アンケートを配布する公演初日の入場者数と設定している。

(2) 調査項目

- 来場公演名、ジャンル(調査票の右肩に記載されている公演名から分類)
- 北九州芸術劇場での鑑賞活動(鑑賞した公演、公演に来た理由、情報入手経路)
- 公演内容や劇場サービスに対する満足度、総合満足度
- 運営方針に対する賛同
- 公演鑑賞前後の飲食やショッピング
- 日頃の芸術鑑賞活動(鑑賞ジャンル、鑑賞頻度、北九州芸術劇場での鑑賞経験)
- 基本属性(性別、年齢層、居住エリア、チケットクラブへの入会)

(3) 来場公演のジャンル、年齢の分類

① 来場公演のジャンル

- 調査結果の集計にあたっては、ジャンルごとの傾向を把握するため、公演を「小劇場・現代演劇」、「音楽劇」、「ダンス・現代舞踊」の3つのジャンルに分類した(例年では「ミュージカル・商業演劇」、「古典芸能(歌舞伎・能等)」、「パフォーマンス」を加えた6つのジャンルで集計しているが、2014年度は当該分野の事業が行われなかった)。
- 調査対象32公演のジャンル分類は図表-資 I -1にも記しているとおおり、
 - 小劇場・現代演劇: 28公演 ※下記他ジャンルの4公演以外
 - 音楽劇: 1公演…「合唱物語『わたしの青い鳥2014』」
 - ダンス・現代舞踊: 3公演…DDW「ショーケース」/DDW Co.山田うん/「山海塾『海の賑わい 陸の静寂 - めぐり』」

となっている。

※14年度のアンケート結果は、「小劇場・現代演劇」の観客が多いことに留意が必要であるが、劇場全体の公演プログラムとして「小劇場・現代演劇」が多いことを考えると、14年度の観客全体と回答者像に大きな乖離はないと考えられる。

② 年齢層

- 実数で記載されている年齢については、年齢ごとの傾向を把握するため、「18歳未満」、「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の6つの年齢層に分類した。

(4) 基本分析軸の設定

- アンケート調査結果の集計・分析にあたっては、鑑賞活動や満足度に関する傾向に顕著な差が出ると考えられる、「来場公演のジャンル」、「性別」、「年齢層」、「チケットクラブへの入会」、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」の5つを集計・分析の柱(基本分析軸)として設定した。
- なお、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」は、08年度までは「今日が初めて」「1～5回」「6回以上」の3分類としていたが、鑑賞経験の多い来場者が増えてきたことに伴い、09年度からは、「今日が初めて」「1～2回」「3～5回」「6～10回」「11回以上」の5分類としている。
- 基本分析軸の詳細は図表-資 I -2のとおりである。

図表-資 I-2 基本分析軸

基本分析軸	項目	回収数	占有率
全 体		1,146	—
来場公演の ジャンル n=1,146	小劇場・現代演劇	1,012	88.3%
	音楽劇	72	6.3%
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0%
	古典芸能(歌舞伎・能等)	0	0.0%
	ダンス・現代舞踊	62	5.4%
	パフォーマンス	0	0.0%
性別 n=1,068	男性	233	21.8%
	女性	835	78.2%
年齢層 n=1,004	18歳未満	61	6.1%
	18～29歳	111	11.1%
	30歳代	164	16.3%
	40歳代	276	27.5%
	50歳代	223	22.2%
	60歳以上	169	16.8%
チケットクラブへの 入会 n=1,041	加入	289	27.8%
	未加入	752	72.2%
北九州芸術劇場 での鑑賞経験 n=1,057	今日が初めて	216	20.4%
	1～2回	157	14.9%
	3～5回	227	21.5%
	6～10回	187	17.7%
	11回以上	270	25.5%

(注1) 基本分析軸に無回答は含まない。

(注2) 無回答の件数は、性別:78件、年齢層:142件、チケットクラブへの入会の有無:105件、北九州芸術劇場での鑑賞経験:89件である。「来場公演のジャンル」は、調査票にあらかじめ記載された公演名から分類するため、無回答はゼロである。

1 属性

回答者の性別は、「男性」が21.8%、「女性」が78.2%と、「女性」の割合が高い。

[来場公演のジャンル別]

・いずれのジャンルでも「女性」の割合が高い。

[年齢別]

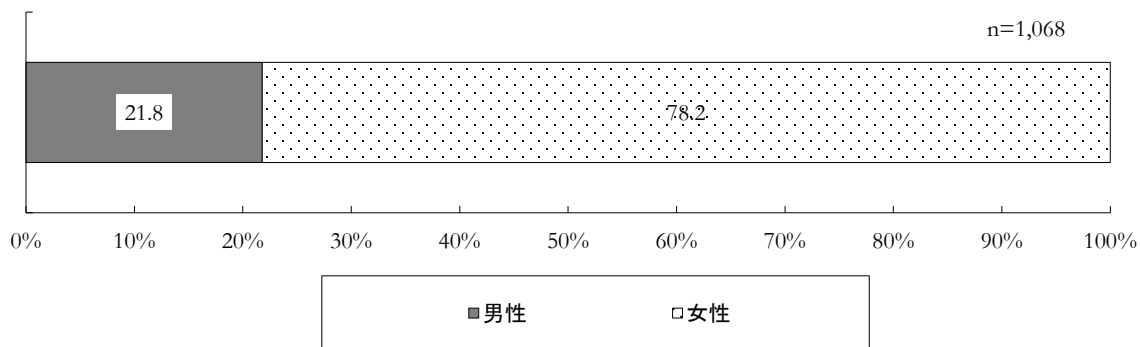
・いずれの年齢層でも「女性」の割合が高い。18歳未満では「男性」の割合が31.1%、60歳以上では30.8%と他の年齢層に比べて高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞経験を問わず「女性」の割合が高い。11回以上では「男性」の割合が26.8%と他の鑑賞経験に比べて高い。

[過去調査と比較して]

・過去調査でも回答者の性別は「女性」の割合が高いが、12年度が最も男性の割合が高く、その後は21%台となっている。



(単位: %)

	調査数 (n)	Q12性別		
		男性	女性	
全体	1068	21.8	78.2	
ジャンル	小劇場・現代演劇	944	21.2	78.8
	音楽劇	63	28.6	71.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	61	24.6	75.4
	パフォーマンス	0	0.0	0.0
性別	男性	233	100.0	0.0
	女性	835	0.0	100.0
年齢層	18歳未満	61	31.1	68.9
	18～29歳	111	16.2	83.8
	30歳代	164	12.8	87.2
	40歳代	276	22.8	77.2
	50歳代	223	25.1	74.9
	60歳以上	169	30.8	69.2
チケット クラブ	加入	288	21.2	78.8
	未加入	745	21.9	78.1
鑑賞 経験	今日が初めて	214	19.6	80.4
	1～2回	155	20.0	80.0
	3～5回	224	19.6	80.4
	6～10回	185	21.6	78.4
	11回以上	269	26.8	73.2

※n=1,068は、無回答(78件)を除く。

参考	13年度調査結果	1446	21.1	78.9
	12年度調査結果	1478	24.2	75.8
	11年度調査結果	1599	22.3	77.7
	10年度調査結果	2232	18.4	81.6
	09年度調査結果	1607	16.6	83.4
	08年度調査結果	1653	19.0	81.0
	07年度調査結果	2901	17.9	82.1
	06年度調査結果	2394	20.6	79.4
	05年度調査結果	2510	18.1	81.9
	04年度調査結果	4089	14.6	85.4
	03年度調査結果	3595	15.9	84.1

* 表中の網掛け部分は、各属性のうち無回答以外の最高の占率を表す(以下、いずれの表についても同様)。

回答者の平均年齢は44.8歳。「40歳代」が27.5%と最も割合が高いが、「50歳代」が22.2%、「30歳代」が16.3%、「60歳以上」が16.8%、「18～29歳」が11.1%、と、18歳未満を除くと年齢層で大きな偏りはなく、幅広い年齢層の観客が来場している。

[来場公演のジャンル別]

- ・平均年齢が最も高いのは小劇場・現代演劇の45.0歳となっている。
- ・音楽劇は、「18歳未満」の割合が全体の割合を上回っており、幅広い年齢層が鑑賞している。

[性別]

- ・平均年齢は、男性が47.0歳、女性が44.1歳と、男性の平均年齢が高い。
- ・女性では「30歳代」の割合が男性に比べて高く、男性では「60歳以上」の割合が女性に比べて高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

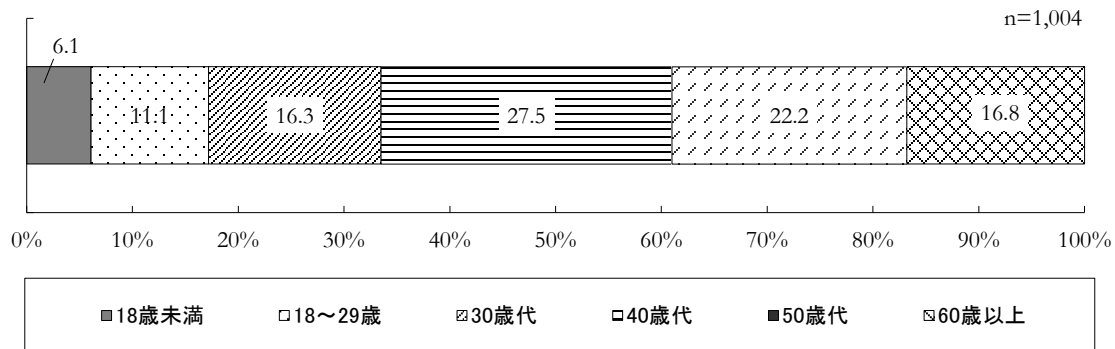
- ・加入の場合の平均年齢は48.3歳、未加入の場合は43.5歳と、加入の平均年齢が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど平均年齢は高い。
- ・1～2回では、「30歳代」と「40歳代」の割合が他の年代に比べて高い。
- ・11回以上では、「40歳代」に続いて「60歳以上」の割合が高い。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査でも回答者の平均年齢は40歳台前半となっている。年齢層も大きな偏りがなく、幅広い年齢層の観客が来場しているのは、例年どおりの傾向である。
- ・過去調査と比較して14年度は03年度の平均年齢(45.5歳)に次いで2番目に高い。「50歳代」「40歳代」「18歳未満」の割合が最高となっており、「30歳代」「18～29歳」の割合は最低となっている。



(単位: %)

	調査数 (n)	Q13年年齢層						平均年齢 (歳)	
		18歳未 満	18~29 歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以 上		
全体	1004	6.1	11.1	16.3	27.5	22.2	16.8	44.8	
ジャンル	小劇場・現代演劇	885	6.1	10.8	16.5	26.8	22.5	17.3	45.0
	音楽劇	60	11.7	6.7	5.0	33.3	28.3	15.0	44.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	59	0.0	18.6	25.4	32.2	11.9	11.9	41.7
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	229	8.3	7.9	9.2	27.5	24.5	22.7	47.0
	女性	775	5.4	12.0	18.5	27.5	21.5	15.1	44.1
年齢層	18歳未満	61	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9
	18~29歳	111	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.7
	30歳代	164	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	35.1
	40歳代	276	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	44.7
	50歳代	223	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	54.0
	60歳以上	169	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	66.9
チケット クラブ	加入	268	0.7	6.7	13.4	32.8	28.0	18.3	48.3
	未加入	703	7.7	12.9	17.5	25.6	20.6	15.6	43.5
鑑賞 経験	今日が初めて	203	10.3	14.3	16.7	27.6	21.7	9.4	40.6
	1~2回	148	7.4	15.5	21.6	21.6	20.3	13.5	41.8
	3~5回	213	6.6	12.7	17.8	27.2	22.5	13.1	43.1
	6~10回	171	2.3	11.1	13.5	31.6	21.1	20.5	47.3
	11回以上	251	3.2	5.2	13.1	29.5	24.3	24.7	49.6

※n=1004は、無回答(142件)を除く。

参 考	13年度調査結果	1386	3.6	18.2	22.4	25.4	16.7	13.6	41.9
	12年度調査結果	1398	3.2	16.7	21.0	24.2	20.4	14.4	42.9
	11年度調査結果	1529	5.8	15.0	23.9	26.7	17.1	11.6	41.4
	10年度調査結果	2162	5.1	19.1	27.3	21.3	15.3	11.9	40.2
	09年度調査結果	1546	3.5	15.1	28.7	22.1	17.5	13.1	42.0
	08年度調査結果	1586	3.9	16.2	23.3	20.9	19.7	15.9	42.9
	07年度調査結果	2818	4.7	18.0	23.0	19.3	16.4	18.5	42.7
	06年度調査結果	2302	5.8	15.6	22.3	19.3	18.0	19.1	43.4
	05年度調査結果	2363	2.8	19.6	22.7	17.6	18.0	18.6	43.4
	04年度調査結果	3867	4.9	17.1	23.4	20.4	17.5	16.7	42.3
	03年度調査結果	3470	3.1	15.1	21.4	16.9	19.9	23.6	45.5

- ・回答者の居住エリアは、北九州市及び周辺地域が58.2%（「北九州市」：48.7%、北九州市周辺：9.5%）を占めるが、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は34.9%と3人に1人の割合を超えている。過去調査と比較すると、北九州市及び周辺以外からの来場者の割合は、07年度以降は3割以上が定着している。
- ・福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県（20件）、熊本県（10件）、鹿児島県（4件）、佐賀県（4件）等の記載がある。

[来場公演のジャンル別]

- ・ジャンルを問わず「北九州市」の占める割合が最も高く、特に「北九州市」の割合が高いのは、音楽劇（79.2%）となっている。
- ・ダンス・現代舞踊では、「福岡市+周辺」からの割合が高い（29.0%）。

[性別]

- ・性別では、男女ともに「北九州市」の割合が高いものの、性別で大きな差はない。

[年齢別]

- ・「北九州市」の割合は、18歳未満で高く、86.9%となっている。
- ・一方、18～29歳、30歳代では、「福岡市+周辺」からの来場者の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

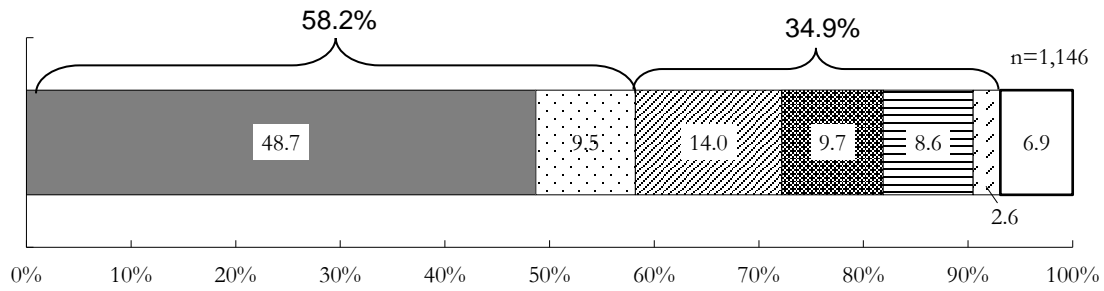
- ・加入、未加入ともに「北九州市」の割合が最も高いが、加入の場合は「北九州市」の割合が54.7%と、未加入（50.1%）に比べて高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・「北九州市」の割合は、初めての来場者で38.0%、11回以上の来場者は58.9%と、概ね鑑賞経験が多いほど高い傾向となっている。市内に居住していること（＝劇場に来やすいこと）が鑑賞経験にも影響しているものと考えられる。
- ・初めての来場者で北九州市に次いで割合が高いのが「福岡市+周辺」の19.0%となっている。

[過去調査と比較して]

- ・10年度までは「北九州市+周辺」からの来場割合が下降傾向、「北九州市+周辺以外のエリア」からの来場割合が上昇傾向にあり、13年度の43.6%が最も高い割合となっている。



■北九州市 □北九州市周辺 ▨福岡市+周辺 ▩左記以外の九州 □山口県 ▨その他 □無回答

(単位: %)

		調査数 (n)	Q11居住エリア						無回答
			北九州市	北九州市 周辺	福岡市+ 周辺	北九州・ 福岡周辺 以外の九州	山口県	その他	
全体		1146	48.7	9.5	14.0	9.7	8.6	2.6	6.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	47.6	10.3	14.0	9.6	9.2	2.4	6.9
	音楽劇	72	79.2	4.2	0.0	1.4	4.2	0.0	11.1
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	30.6	3.2	29.0	21.0	4.8	9.7	1.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	53.2	9.9	18.0	9.0	7.7	2.1	0.0
	女性	835	51.9	10.3	14.1	10.7	9.7	2.9	0.5
年齢層	18歳未満	61	86.9	3.3	4.9	1.6	3.3	0.0	0.0
	18~29歳	111	42.3	14.4	23.4	8.1	7.2	4.5	0.0
	30歳代	164	42.7	8.5	22.6	12.2	12.2	1.2	0.6
	40歳代	276	48.2	10.5	17.8	9.4	9.4	4.3	0.4
	50歳代	223	52.5	9.0	11.7	14.8	9.0	2.7	0.4
	60歳以上	169	56.2	16.6	7.1	9.5	9.5	1.2	0.0
チケット クラブ	加入	289	54.7	10.4	13.8	7.3	11.4	2.1	0.3
	未加入	752	50.1	10.2	15.6	11.7	8.1	3.2	1.1
鑑賞 経験	今日が初めて	216	38.0	7.9	19.0	17.1	10.2	6.9	0.9
	1~2回	157	49.0	12.1	12.7	13.4	7.6	3.8	1.3
	3~5回	227	56.8	11.5	12.8	8.8	7.5	0.9	1.8
	6~10回	187	52.9	12.8	17.1	8.6	5.9	1.6	1.1
	11回以上	270	58.9	7.4	12.6	5.9	13.3	1.5	0.4

北九州市 +周辺	北九州市 +周辺 以外のエ リア
58.2	34.9
57.9	35.2
83.3	5.6
0.0	0.0
0.0	0.0
33.9	64.5
0.0	0.0
63.1	36.9
62.2	37.4
90.2	9.8
56.8	43.2
51.2	48.2
58.7	40.9
61.4	38.1
72.8	27.2
65.1	34.6
60.4	38.6
45.8	53.2
61.1	37.6
68.3	30.0
65.8	33.2
66.3	33.3

参考	13年度調査結果	1569	40.5	7.8	17.7	13.2	9.8	2.9	8.2
	12年度調査結果	1599	45.7	8.8	16.3	9.7	8.9	2.9	7.8
	11年度調査結果	1688	49.9	10.1	12.7	10.1	9.7	1.8	5.7
	10年度調査結果	2379	45.4	11.1	13.5	12.1	9.0	2.9	6.2
	09年度調査結果	1692	50.7	11.1	14.0	9.6	7.7	1.9	5.0
	08年度調査結果	1732	52.9	11.5	12.0	7.6	10.0	1.5	4.4
	07年度調査結果	3033	52.6	11.7	11.8	9.3	8.0	2.1	4.4
	06年度調査結果	2766	61.9	12.5	8.4	4.6	7.1	1.3	4.2
	05年度調査結果	3073	60.7	11.3	11.5	4.3	8.1	1.4	2.7
	04年度調査結果	4708	63.3	8.4	10.2	8.5	6.9	1.0	1.7
	03年度調査結果	4078	60.5	7.5	7.8	-	-	11.6	7.7

48.2	43.6
54.4	37.8
60.1	34.2
56.4	37.4
61.8	33.2
64.5	31.1
64.3	31.2
74.4	21.4
72.0	25.3
71.7	26.6
68.0	19.4

チケットクラブに入会している割合は25.2%、入会していない割合は65.6%である。

[来場公演のジャンル別]

・チケットクラブに入会している割合(加入率)は、小劇場・現代演劇(26.7%)で高い。

[性別]

・加入率は、男性が26.2%、女性が27.2%と、女性の割合がやや高い。

[年齢別]

・加入率は、50歳代(33.6%)、40歳代(31.9%)で高い。

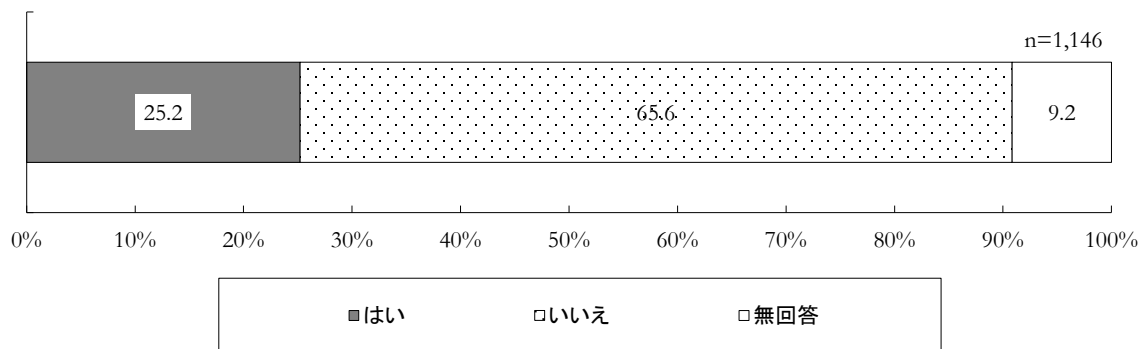
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が初めてのグループでは、加入率は5.1%に留まるが、鑑賞経験が多いほど入会している割合は高く、特に、11回以上のグループの加入率の高さは56.3%となっている。

[過去調査と比較して]

・年度ごとに増減があり、おおよそ加入:20%前後、未加入:70%前後の割合で推移してきたが、10年度以降、加入率は徐々に高まっている。

・加入率は03年度が最も高く(33.4%)、次いで14年度が2番目に高い割合となっている。



(単位: %)

	調査数 (n)	Q9チケットクラブへの入会			
		はい	いいえ	無回答	
全体	1146	25.2	65.6	9.2	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	26.7	64.1	9.2
	音楽劇	72	6.9	77.8	15.3
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	22.6	75.8	1.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	26.2	70.0	3.9
	女性	835	27.2	69.7	3.1
年齢層	18歳未満	61	3.3	88.5	8.2
	18～29歳	111	16.2	82.0	1.8
	30歳代	164	22.0	75.0	3.0
	40歳代	276	31.9	65.2	2.9
	50歳代	223	33.6	65.0	1.3
	60歳以上	169	29.0	65.1	5.9
チケットクラブ	加入	289	100.0	0.0	0.0
	未加入	752	0.0	100.0	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	216	5.1	92.6	2.3
	1～2回	157	12.7	85.4	1.9
	3～5回	227	18.1	78.0	4.0
	6～10回	187	32.1	63.1	4.8
	11回以上	270	56.3	42.2	1.5
参考	13年度調査結果	1569	23.3	66.7	10.0
	12年度調査結果	1599	24.8	66.0	9.2
	11年度調査結果	1688	22.7	68.8	8.5
	10年度調査結果	2379	19.0	73.1	7.9
	09年度調査結果	1692	22.5	70.7	6.9
	08年度調査結果	1732	18.7	73.8	7.5
	07年度調査結果	3033	20.3	73.6	6.1
	06年度調査結果	2766	23.1	70.6	6.3
	05年度調査結果	3073	24.0	71.0	4.9
	04年度調査結果	4708	23.1	73.4	3.4
03年度調査結果	4078	33.4	57.3	9.3	

現在チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向のある割合は16.0%、ない割合は50.1%である。無回答の割合も33.9%と高い(入会の意向が明確ではない人は無回答の場合が多いと考えられる)。

[来場公演のジャンル別]

・今後の入会意向は、小劇場・現代演劇が高く(16.9%)、音楽劇で低い(5.4%)。

[性別]

・今後の入会意向は、男性が20.2%、女性が14.8と男性がやや高い。

[年齢別]

・入会意向は30歳代が高く(23.6%)、18～29歳は低い(11.0%)。

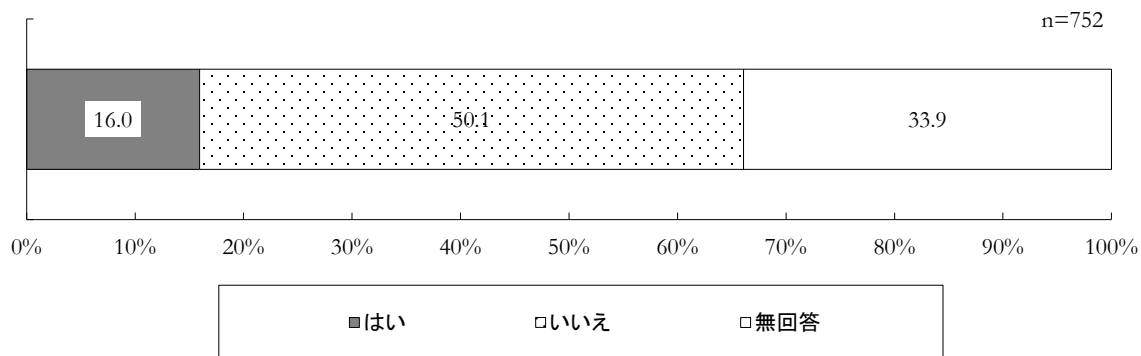
・50歳代で無回答の割合が高く、45.5%が無回答である。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・入会意向は、11回以上のグループで若干高くなっている。概ね鑑賞経験が多いほど高い傾向となっている。

[過去調査と比較して]

・07年度以降の入会意向が20%を下回る状況が続いている。



(単位: %)

	全体	Q9-1今後の意向			
		はい	いいえ	無回答	
全体	752	16.0	50.1	33.9	
ジャンル	小劇場・現代演劇	649	16.9	49.3	33.7
	音楽劇	56	5.4	58.9	35.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	47	14.9	51.1	34.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	163	20.2	51.5	28.2
	女性	582	14.8	49.8	35.4
年齢層	18歳未満	54	13.0	66.7	20.4
	18~29歳	91	11.0	59.3	29.7
	30歳代	123	23.6	49.6	26.8
	40歳代	180	18.3	49.4	32.2
	50歳代	145	11.7	42.8	45.5
	60歳以上	110	18.2	40.9	40.9
鑑賞経験	今日が初めて	200	11.5	52.0	36.5
	1~2回	134	17.2	44.8	38.1
	3~5回	177	14.1	54.2	31.6
	6~10回	118	17.8	50.8	31.4
	11回以上	114	22.8	49.1	28.1

参考	13年度調査結果	1046	16.8	51.4	31.7
	12年度調査結果	1055	14.7	51.3	34.0
	11年度調査結果	1161	15.3	52.9	31.8
	10年度調査結果	1738	14.7	52.0	33.3
	09年度調査結果	1196	17.4	50.5	32.1
	08年度調査結果	1278	18.4	47.6	34.0
	07年度調査結果	2232	17.3	48.3	34.4
	06年度調査結果	1954	25.3	46.4	28.2
	05年度調査結果	2183	20.5	45.1	34.4
	04年度調査結果	3458	30.3	40.3	29.4
	03年度調査結果	2337	37.5	30.1	32.4

* n=752は、チケットクラブに入会していないと回答した人の数

2 本日の公演や劇場に関する意見

(1) 来場公演のジャンル

回答者が鑑賞した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が88.3%である。そのほかのジャンルについては、「音楽劇」が6.3%、「ダンス・現代舞踊」が5.4%となっている。

※2014年度のアンケート配布32公演のうち、「小劇場・現代演劇」が28公演を占めていることから、全体の数字は、「小劇場・現代演劇」の影響が大きいことに留意が必要である。

[性別]

・男性、女性ともに、「小劇場・現代演劇」の割合が最も高いが、やや女性の鑑賞割合が高い(男性:85.8%、女性:89.1%)。

[年齢別]

・いずれの年代でも「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に、60歳以上で高い。
・18歳未満では「音楽劇」の割合が11.5%と他の年齢層に比べて高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

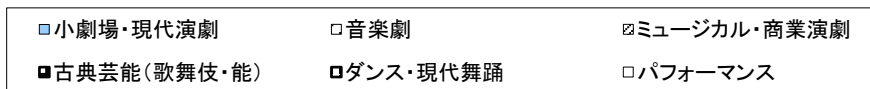
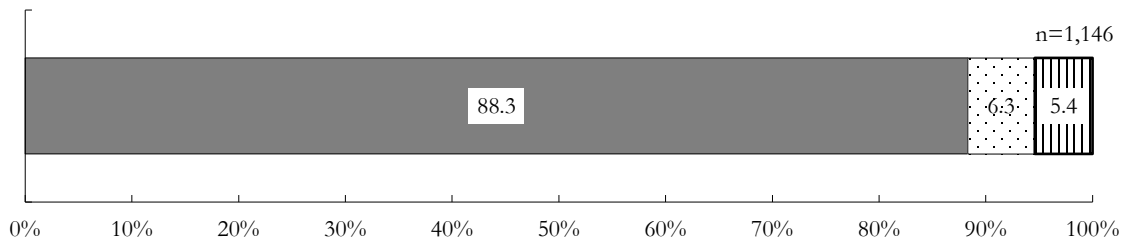
・加入・未加入ともに「小劇場・現代演劇」の割合が最も高く、加入の場合は93.4%を占めている。

[北九州芸術芸場での鑑賞経験別]

・6～10回の来場者の場合、「小劇場・現代演劇」の割合は90.4%となっている。

[過去調査と比較して]

・過去調査と比較して、07年度以降、若干の増減はあるが「小劇場・現代演劇」の割合が増加しており、14年度は最も高くなっている。



(単位: %)

	調査数 (n)	ジャンル					
		小劇場・ 現代演劇	音楽劇	ミュージ カル・商 業演劇	古典芸能 (歌舞 伎・能)	ダンス・ 現代舞踊	パフォー マンス
全体	1146	88.3	6.3	0.0	0.0	5.4	0.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音楽劇	72	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	85.8	7.7	0.0	0.0	6.4
	女性	835	89.1	5.4	0.0	0.0	5.5
年齢層	18歳未満	61	88.5	11.5	0.0	0.0	0.0
	18~29歳	111	86.5	3.6	0.0	0.0	9.9
	30歳代	164	89.0	1.8	0.0	0.0	9.1
	40歳代	276	85.9	7.2	0.0	0.0	6.9
	50歳代	223	89.2	7.6	0.0	0.0	3.1
	60歳以上	169	90.5	5.3	0.0	0.0	4.1
チケット クラブ	加入	289	93.4	1.7	0.0	0.0	4.8
	未加入	752	86.3	7.4	0.0	0.0	6.3
鑑賞 経験	今日が初めて	216	85.6	7.4	0.0	0.0	6.9
	1~2回	157	89.2	5.1	0.0	0.0	5.7
	3~5回	227	86.8	8.4	0.0	0.0	4.8
	6~10回	187	90.4	6.4	0.0	0.0	3.2
	11回以上	270	89.3	4.1	0.0	0.0	6.7

参考	13年度調査結果	1569	78.3	4.3	0.0	0.0	17.3	0.0
	12年度調査結果	1599	79.4	3.6	9.3	0.0	3.2	4.5
	11年度調査結果	1688	76.1	4.1	0.0	8.1	7.3	4.3
	10年度調査結果	2379	70.5	7.2	16.1	4.4	1.7	0.0
	09年度調査結果	1692	70.3	5.3	10.1	5.7	4.1	4.5
	08年度調査結果	1732	43.8	22.1	24.0	5.5	3.6	0.9
	07年度調査結果	3033	26.9	3.8	44.0	16.7	4.6	3.1
	06年度調査結果	2766	35.8	4.5	33.3	22.2	3.3	1.0
	05年度調査結果	3073	27.4	3.0	33.3	16.1	8.9	6.7
	04年度調査結果	4708	45.1	—	24.1	22.0	3.0	—
	03年度調査結果	4078	21.2	6.4	34.7	23.5	2.2	—

↑
「その他のジャンル」

※03年度は、「クラシック音楽」ジャンルが設けられており、割合は10.9%であった。
 ※08年度以降、「その他のジャンル」は、他のジャンルに分類・統合している。

- ・公演情報の入手経路については、「友人・知人から聞いた」が21.6%、「インターネット・ホームページ」が20.9%となっており、続いて「他の公演会場で配布されたチラシ」(18.0%)、「ダイレクトメール」(14.4%)となっている。
- ・「雑誌・タウン情報誌」名の具体的な書き込みをみると「ナッセ」(7件)「リフレッシュ」(5件)「リビング北九州」(3件)などの地域情報誌(紙)名の記載もある。
- ・「その他」の具体的な書き込みをみると、「情報誌Q」への回答が多い(37件)。そのほか、互助会の幹旋、サポーター、ファンクラブからの案内などの回答がある。また、幼稚園、学校、職場からの紹介、県内自治体の公報なども多く、情報の入手経路は多様である。

[来場公演のジャンル別]

- ・公演情報の入手経路は、ジャンルによって特徴があり、
 - ・小劇場・現代演劇:「インターネット・ホームページ」(21.4%)
 - ・音楽劇:「友人・知人から聞いた」(45.8%)
 - ・ダンス・現代舞踊:「インターネット・ホームページ」(32.3%)の割合が最も高い。
- ・ダンス・現代舞踊では「ダイレクトメール」(22.6%)でも他のジャンルに比べて高い割合となっている。

[年齢別]

- ・公演情報の入手経路は、年齢による特徴も顕著で、18歳未満、30歳代、50歳代は「友人・知人から聞いた」、40歳代では「インターネット・ホームページ」の割合が最も高い。60歳以上は「新聞」が21.9%で最も高い。
- ・18～29歳では、「友人・知人から聞いた」と「インターネット・ホームページ」が同割合(30.6%)で最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・加入している場合、「インターネット・ホームページ」が32.2%で最も高く、次いで「ダイレクトメール」が31.5%と高い割合を占める。これら2項目の割合の高さは、未加入と比べて顕著である。また、「その他」への回答も多く、具体的な書き込み内容をみると「情報誌Q」が多い。
- ・一方、未加入の場合は、「友人・知人から聞いた」が27.1%と最も高く、次いで「インターネット・ホームページ」(16.6%)となっている。

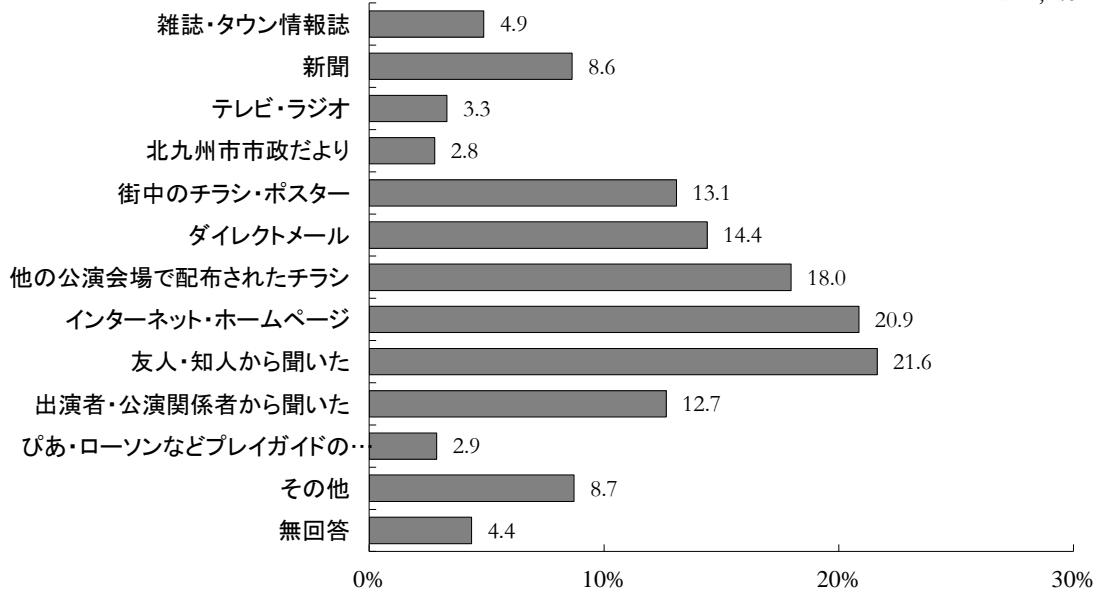
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験が6～10回では「インターネット・ホームページ」の割合が最も高く、11回以上では「他の公演で配布されたチラシ」の割合が最も高い。
- ・一方、5回以下のグループでは、「友人・知人から聞いた」が最も高く、次いで「インターネット・ホームページ」となっている。
- ・劇場での鑑賞経験によって情報の入手経路は特徴があるが、「インターネット・ホームページ」はいずれの鑑賞頻度でも16～26%の回答がある。鑑賞頻度に関わらず、便利な情報入手ツールとして使われていることがうかがえる。
- ・鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」と「ダイレクトメール」の割合は多くなる傾向にある。

[過去調査と比較して]

- ・10年度は初めて「インターネット・ホームページ」が最も高い割合となったが、11年度以降は「友人・知人から聞いた」と最上位が年によって入れ替わっている。
- ・一方、年度によって増減はあるが、「新聞」の割合が06年度をピーク(18.7%)として減少している(14年度:8.6%)。「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」も06年度(6.3%)から減少傾向にある(14年度:2.9%)。

n=1,146



(単位: %)

	調査数 (n)	Q1公演情報の入手経路													
		雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	インターネット・ホームページ	友人・知人から聞いた	出演者・公演関係者から聞いた	ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭	その他	無回答	
全体	1146	4.9	8.6	3.3	2.8	13.1	14.4	18.0	20.9	21.6	12.7	2.9	8.7	4.4	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	5.5	9.4	3.8	2.8	13.9	14.8	19.1	21.4	20.0	10.7	3.3	9.4	4.4
	音楽劇	72	0.0	1.4	0.0	5.6	4.2	1.4	2.8	2.8	45.8	44.4	0.0	4.2	1.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	0.0	4.8	0.0	0.0	9.7	22.6	17.7	32.3	21.0	8.1	0.0	3.2	6.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	2.6	9.9	0.9	4.7	13.7	17.2	21.9	25.3	21.5	15.0	0.9	7.3	3.9
	女性	835	5.5	8.4	4.3	2.5	13.1	14.6	17.1	19.6	21.3	11.3	3.7	9.8	4.2
年齢層	18歳未満	61	3.3	3.3	0.0	1.6	18.0	9.8	23.0	13.1	31.1	24.6	1.6	18.0	1.6
	18~29歳	111	2.7	1.8	0.9	0.9	15.3	4.5	17.1	30.6	30.6	14.4	4.5	5.4	2.7
	30歳代	164	4.9	4.3	4.3	0.6	14.6	12.2	16.5	23.2	24.4	14.6	4.3	6.1	5.5
	40歳代	276	5.4	6.5	2.9	2.2	12.3	18.1	18.8	25.0	17.8	10.1	2.9	9.8	4.3
	50歳代	223	4.5	10.3	4.5	3.1	9.9	17.5	11.2	21.5	24.2	8.5	2.2	9.4	2.2
	60歳以上	169	7.7	21.9	5.9	8.9	14.2	19.5	21.3	5.9	16.0	10.1	2.4	12.4	5.9
チケットクラブ	加入	289	5.5	6.6	2.4	2.1	13.5	31.5	29.4	32.2	5.5	5.5	3.1	14.2	5.9
	未加入	752	4.5	9.6	4.0	2.9	13.3	9.0	14.0	16.6	27.1	14.9	3.2	7.6	3.2
鑑賞経験	今日が初めて	216	5.1	12.5	5.6	1.9	11.1	1.4	7.4	16.2	26.4	11.6	1.9	8.8	2.3
	1~2回	157	7.6	9.6	7.0	3.2	12.1	3.2	12.7	15.9	21.0	12.1	5.1	5.1	5.1
	3~5回	227	4.0	7.0	3.5	2.2	8.8	13.2	13.2	18.5	26.4	11.9	4.0	7.9	3.1
	6~10回	187	3.2	7.0	1.6	2.7	16.0	21.9	16.6	24.6	23.5	12.3	1.6	9.1	5.3
	11回以上	270	4.8	7.0	1.5	4.4	17.4	29.3	34.1	26.3	13.0	12.2	3.3	13.3	5.2

参考	調査年度	調査数	雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	インターネット・ホームページ	友人・知人から聞いた	出演者・公演関係者から聞いた	ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭	その他	無回答
	13年度調査結果	1569	5.9	10.3	3.5	2.7	9.8	14.9	13.1	27.1	21.0	7.1	4.3	7.6	3.6
	12年度調査結果	1599	6.0	9.1	2.8	2.4	12.1	14.8	15.4	22.0	22.0	9.3	3.3	7.5	5.4
	11年度調査結果	1688	3.7	10.2	1.4	2.8	10.5	17.9	17.1	20.8	23.5	8.4	3.6	9.1	3.9
	10年度調査結果	2379	5.3	10.3	4.4	4.1	11.4	14.8	13.1	22.4	21.9	7.2	4.2	7.1	4.6
	09年度調査結果	1692	6.0	11.2	3.5	4.0	12.1	16.1	16.0	16.3	20.3	8.7	4.0	8.9	5.2
	08年度調査結果	1732	7.1	14.5	2.6	4.2	10.2	17.1	13.1	13.3	23.2	9.4	4.0	10.1	3.5
	07年度調査結果	3033	7.2	15.9	4.9	5.9	9.8	13.1	12.5	16.5	22.8	6.1	5.7	10.2	2.4
	06年度調査結果	2766	6.6	18.7	5.7	11.7	11.4	16.6	11.4	12.0	21.6	4.6	6.3	9.2	2.4
	05年度調査結果	3073	6.3	17.5	5.0	7.8	11.5	19.0	13.2	10.7	24.2	6.2	4.8	9.7	1.3
	04年度調査結果	4708	7.1	15.6	3.5	9.8	12.1	19.5	13.7	9.5	23.1	5.7	5.4	11.4	1.6
	03年度調査結果	4078	9.7	17.2	9.7	18.5	15.5	14.9	12.5	6.8	21.9	3.2	5.7	9.5	1.7

- ・公演に来た理由については、「公演内容が面白そうだったから」が51.9%「出演者が好きだから」が44.7%となっている。
- ・「その他」の具体的な内容を見ると、「原作が好き」、「作家への興味」、「子どもが楽しめそうだったから」「前回おもしろかったから」という回答が複数見られる。
- ・そのほか、招待やチケット当選、出演者のファンであることから興味があつてなど、来場の理由は多様である。

[来場公演のジャンル別]

- ・公演に来た理由は、ジャンルによって特徴があり、
 - ・小劇場・現代演劇:「公演内容が面白そうだったから」(55.1%)
 - ・音楽劇:「出演者や関係者が知り合いだから」(68.1%)
 - ・ダンス・現代舞踊:「出演者等が好きだから」(50.0%)の割合が最も高い。

[性別]

- ・男性、女性ともに「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高い。
- ・男性に比べて女性の割合が高いのは、「出演者等が好きだから」(48.9%)と「劇場が近くだったから」(19.0%)。

[年齢別]

- ・40歳代では「出演者等が好きだから」の割合が最も高く、その他の年代では「公演内容が面白そうだったから」が最も高い。
- ・18歳未満では、「人に誘われたから」の割合が他の年代よりも高い(31.1%)。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・加入、未加入ともに「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高い。
- ・加入している場合、「劇場が近くだったから」の割合が26.6%と顕著に高い。

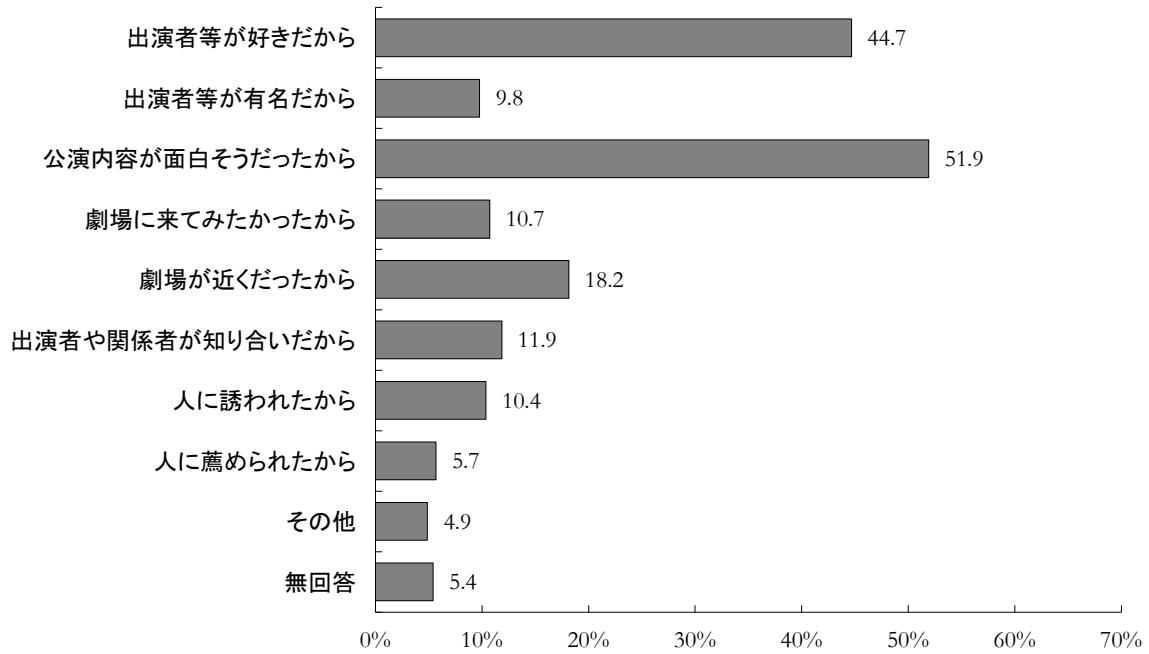
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・今日が初めての来場者は「出演者等が好きだから」の割合が最も高く、1回以上の鑑賞経験のある来場者は「公演内容が面白そうだったから」が最も高い。
- ・鑑賞経験が多いほど「公演内容が面白そうだったから」の割合が高くなっている。鑑賞経験が少ないほど「人に誘われたから」の割合は高くなっている。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査と比較して、「公演内容が面白そうだったから」が「出演者が好きだから」を上回ったのは03年度と14年度の2回となっている。
- ・年によって増減はあるものの、「出演者等が有名だから」は概ね減少傾向にあり、「劇場が近くだったから」は概ね増加傾向にある。

n=1,146



(単位: %)

	調査数 (n)	Q2公演に来た理由										
		出演者等 が好きだ から	出演者等 が有名だ から	公演内容 が面白 そうだ から	劇場に 来て みた か っ た か ら	劇場が 近 か っ た か ら	出演者 や 関 係 者 が 知 り 合 い だ か ら	人に 誘 わ れ た か ら	人に 勧 め ら れ た か ら	その他	無回答	
全体	1146	44.7	9.8	51.9	10.7	18.2	11.9	10.4	5.7	4.9	5.4	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	46.3	10.5	55.1	11.5	19.7	8.3	10.2	5.4	4.9	5.3
	音楽劇	72	16.7	0.0	18.1	4.2	6.9	68.1	16.7	4.2	5.6	2.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	50.0	9.7	38.7	6.5	6.5	4.8	6.5	11.3	3.2	9.7
パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	32.2	8.2	54.9	12.4	15.5	16.3	9.0	5.6	5.6	6.0
	女性	835	48.9	10.7	52.0	10.5	19.0	10.3	10.8	5.5	4.8	4.9
年齢層	18歳未満	61	23.0	9.8	50.8	11.5	18.0	18.0	31.1	9.8	11.5	1.6
	18~29歳	111	45.0	9.9	50.5	10.8	19.8	12.6	18.0	8.1	2.7	3.6
	30歳代	164	48.2	7.3	51.2	10.4	11.6	9.1	10.4	7.3	5.5	6.7
	40歳代	276	51.4	13.0	47.8	14.5	23.9	12.0	8.7	3.6	4.0	5.1
	50歳代	223	48.0	9.0	55.6	10.8	17.9	10.8	9.4	4.9	5.4	2.7
	60歳以上	169	35.5	9.5	58.0	4.7	11.2	13.6	4.7	5.3	5.3	8.9
チケット クラブ	加入	289	57.4	14.2	62.3	17.0	26.6	5.5	1.7	2.4	4.8	6.6
	未加入	752	41.1	8.6	49.3	8.5	15.3	13.8	13.8	7.2	4.8	4.1
鑑賞 経験	今日が初めて	216	43.1	7.9	38.9	1.4	14.4	12.0	15.7	7.4	6.0	1.9
	1~2回	157	42.7	8.3	47.8	7.0	15.3	10.8	13.4	7.0	5.7	5.1
	3~5回	227	38.8	9.3	53.3	9.3	17.2	12.8	13.7	4.4	4.4	3.1
	6~10回	187	48.7	11.8	60.4	14.4	19.8	12.8	7.5	4.3	4.3	7.5
	11回以上	270	51.5	11.9	60.7	19.6	22.6	10.7	3.7	5.9	4.8	7.0
参考	13年度調査結果	1569	59.0	10.3	46.7	8.3	18.2	6.1	10.2	3.8	5.4	4.1
	12年度調査結果	1599	50.1	10.2	49.0	7.6	18.3	8.0	11.9	3.1	5.4	5.6
	11年度調査結果	1688	51.7	8.3	50.7	9.0	20.7	7.2	12.1	5.8	4.7	4.0
	10年度調査結果	2379	60.4	10.9	43.5	7.8	20.7	5.0	12.0	3.5	5.7	4.7
	09年度調査結果	1692	56.4	11.0	47.5	8.3	19.7	7.1	13.1	4.1	5.1	4.7
	08年度調査結果	1732	52.9	10.2	49.2	8.0	19.6	8.9	13.7	4.0	10.9	3.2
	07年度調査結果	3033	55.7	11.9	46.0	5.5	12.8	5.1	14.0	4.0	10.7	2.3
	06年度調査結果	2766	55.2	13.3	49.1	6.8	13.7	4.6	13.1	3.6	9.6	2.7
	05年度調査結果	3073	51.8	14.2	48.5	7.7	13.3	5.5	14.4	4.1	11.3	1.3
	04年度調査結果	4708	51.0	13.3	49.6	7.9	15.8	4.8	13.0	4.1	12.1	1.3
03年度調査結果	4078	51.8	19.1	55.9	28.8	15.0	2.4	10.8	2.7	13.3	0.6	

公演前後に飲食やショッピングをしている割合は49.7%である。飲食をしている場合の平均金額は1,731.2円、ショッピングをしている場合の平均金額は6,098.2円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額、ショッピング平均額ともに増加している。

[来場公演のジャンル別]

・飲食・ショッピングの割合、飲食をしている場合の平均額は小劇場・現代演劇での来場者が高い。ショッピングをしている場合の平均金額では、ダンス・現代舞踊が高い。

[性別]

・飲食やショッピングをしている割合は、男性が51.5%、女性が53.4%と女性の方が高い。平均金額では、飲食平均額で男性が女性を上回り、ショッピング平均額では女性が男性を上回っている。

[年齢別]

・飲食やショッピングをしている割合は30歳代が最も高いが、飲食をしている場合の平均金額では18歳未満、ショッピングをしている場合の平均金額では60歳以上が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

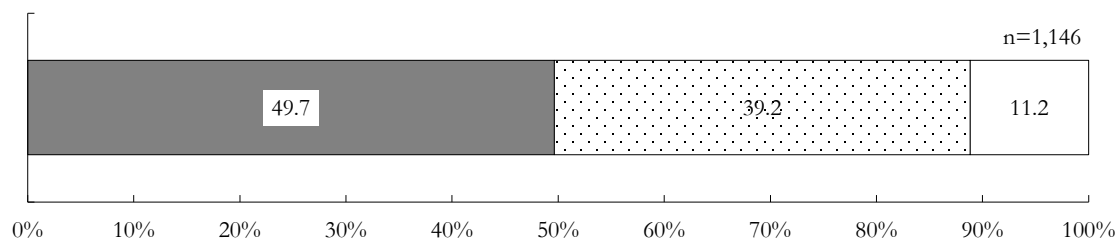
・飲食やショッピングをしている割合は、チケットクラブの加入・未加入で、顕著な差はみられない。平均金額では、未加入が加入を上回っている。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・増減はあるものの、鑑賞経験が少ないほど飲食やショッピングをしている割合は高くなる傾向にある。

[過去調査と比較して]

・過去調査と比較して、年によって増減はあるものの、飲食やショッピングをしている割合は概ね減少傾向にあり、14年度の割合は過去最少となっている。



■はい □いいえ □無回答

		調査数 (n)	(単位: %)			(単位: 円)	
			はい	いいえ	無回答	飲食をして いる場合 の平均金 額 (n=665)	ショッピングを している場 合の平均 金額 (n=330)
全体		1146	49.7	39.2	11.2	1731.2	6098.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	50.2	38.7	11.1	1774.6	5902.7
	音楽劇	72	41.7	47.2	11.1	1403.5	7791.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0		
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0		
	ダンス・現代舞踊	62	50.0	37.1	12.9	1322.5	9700.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0		
性別	男性	233	51.5	45.5	3.0	1836.3	4319.0
	女性	835	53.4	40.4	6.2	1697.1	6577.5
年齢層	18歳未満	61	45.9	49.2	4.9	1825.7	4989.0
	18～29歳	111	50.5	44.1	5.4	1487.8	3400.0
	30歳代	164	58.5	37.8	3.7	1628.0	3718.8
	40歳代	276	54.3	43.5	2.2	1764.4	6704.0
	50歳代	223	55.6	39.9	4.5	1817.7	6838.4
	60歳以上	169	51.5	35.5	13.0	1810.4	8189.7
チケット クラブ	加入	289	53.6	42.6	3.8	1645.1	4035.5
	未加入	752	53.3	41.6	5.1	1765.8	7045.4
鑑賞 経験	今日が初めて	216	61.6	32.4	6.0	1713.1	7670.2
	1～2回	157	51.6	44.6	3.8	2297.8	7815.1
	3～5回	227	52.4	42.3	5.3	1521.4	4734.6
	6～10回	187	55.6	40.1	4.3	1744.5	5816.2
	11回以上	270	46.3	48.1	5.6	1568.1	5330.4
参考	13年度調査結果	1569	50.8	36.8	12.4	1480.7	5434.2
	12年度調査結果	1599	52.7	36.0	11.3	1509.2	5027.1
	11年度調査結果	1688	55.7	35.0	9.2	1490.7	4909.0
	10年度調査結果	2379	57.8	32.1	10.2	1585.0	4610.3
	09年度調査結果	1692	58.9	31.8	9.3	1510.7	4649.3
	08年度調査結果	1732	58.6	33.1	8.3	1614.1	5503.3
	07年度調査結果	3033	60.5	30.8	8.7	1829.8	5753.9
	06年度調査結果	2766	60.3	31.2	8.5	1856.6	5724.6
	05年度調査結果	3073	60.7	31.5	7.8	1687.5	6658.4
	04年度調査結果	4708	63.3	32.2	4.5	4061.7	
	03年度調査結果	4078	70.5	27.3	2.1	4582.9	

* 03年度、04年度は、「飲食やショッピング」として一つの質問項目で尋ねているため、04年度以前の数字と、05年度以降の数字の比較には留意が必要である。

・公演や劇場に対する9項目の満足度を満足層(*)の割合で見ると、満足層の割合が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約・チケットカウンターの対応」、「劇場係員の対応」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の6項目である。その他の3項目についても、満足層の割合はいずれも85%以上である。

*「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

・「たいへん満足」と回答した割合が高い(4割以上)のは、「本日の公演内容」(52.5%)、「劇場係員の対応」(48.5%)、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」(40.3%)の3項目である。

・「本日の公演内容」については、ジャンル、性別、年齢層、鑑賞経験を問わず、満足層の割合と「たいへん満足」の割合いずれも高い(ただし年齢層では、60歳以上では「無回答」の割合が高い)。

・過去調査結果と比べて、「公演情報の入手のしやすさ」、「劇場係員の対応」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「電話予約・チケットカウンターの対応」、「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」については、多少の年度の変化はあるものの「たいへん満足」への回答割合も上昇傾向である。

[来場公演のジャンル別]

・ジャンルで顕著な差は見られない。

[性別]

・男性、女性で顕著な差は見られない。

[年齢別]

・60歳以上は、ほぼすべての項目で、満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに低く、特に「たいへん満足」への回答割合の低さは顕著である。60歳以上ほどではないが、50歳代でも、満足度は相対的に低くなっている。

・満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに、年齢層が高いほど低くなり、この傾向は「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」のハードに関する2項目で顕著である。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入に比べて未加入の方が、「公演情報の入手のしやすさ」の不満足層の割合が高い。それ以外は大きな差は見られない。

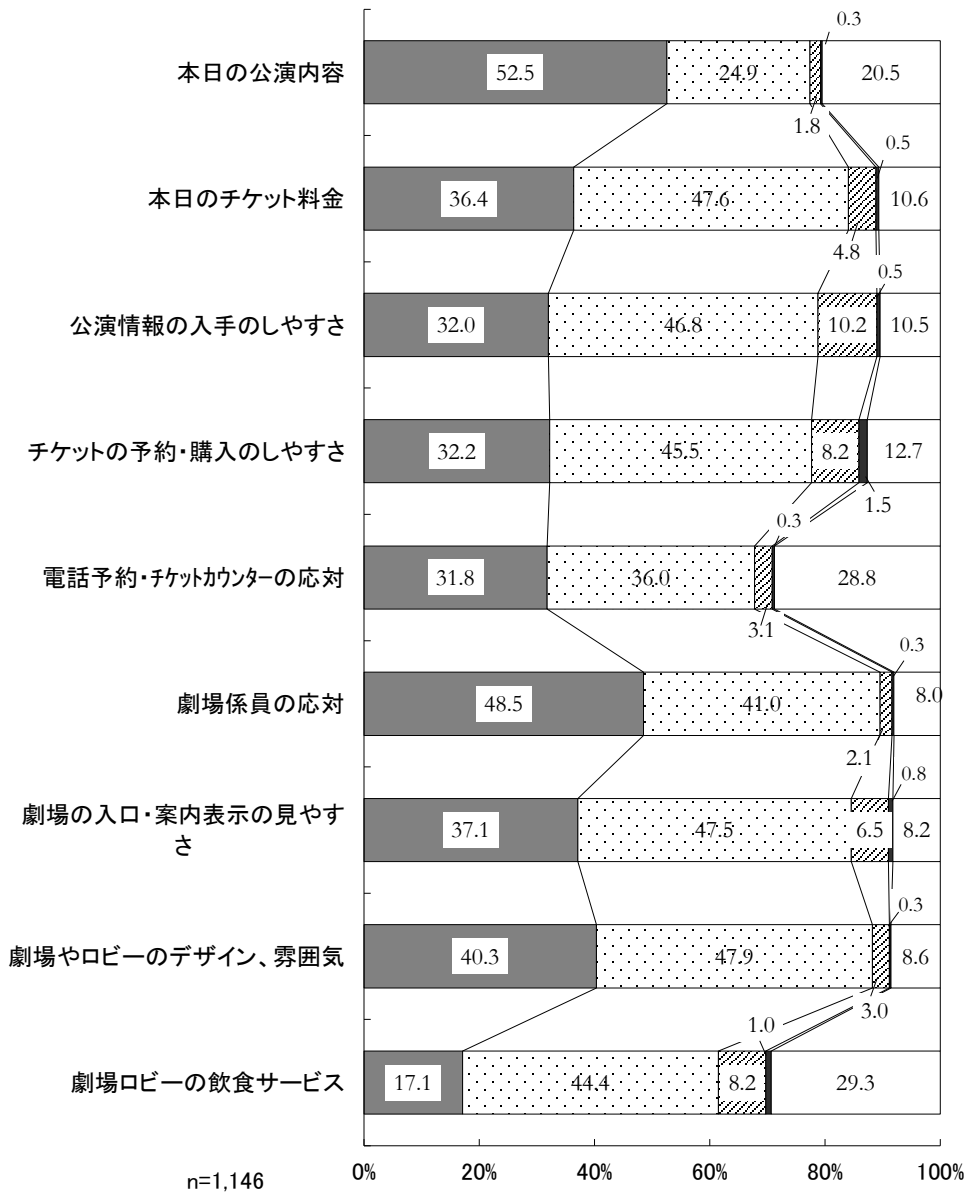
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞頻度で、満足度に顕著な差はみられないが、「公演情報の入手のしやすさ」については、鑑賞経験が多いほど満足度が高い傾向にある。

[過去調査と比較して]

・項目全般について、14年度も高い満足度を維持しており、満足層の割合は、すべての項目で85%以上となっている。

※無回答の割合が20%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターの対応」、「劇場ロビーの飲食サービス」の3項目である。「電話予約・チケットカウンターの対応」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、サービスを利用したことがない人が無回答になっていると考えられる。



たいへん満足
 まあ満足
 少し不満足
 まったく不満足
 無回答

* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、無回答を除く。

【本日の公演内容】

(単位:%)

	全体	Q3-1本日の公演内容					「無回答」を除いた割合					(単位:%)		
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層	
ジャンル	全体	1146	52.5	24.9	1.8	0.3	20.5	911	66.1	31.3	2.3	0.3	97.4	2.6
	小劇場・現代演劇	1012	52.3	24.8	2.0	0.2	20.8	802	66.0	31.3	2.5	0.2	97.3	2.7
	音楽劇	72	47.2	33.3	0.0	1.4	18.1	59	57.6	40.7	0.0	1.7	98.3	1.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	62.9	16.1	1.6	0.0	19.4	50	78.0	20.0	2.0	0.0	98.0	2.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	42.9	33.0	2.1	0.4	21.5	183	54.6	42.1	2.7	0.5	96.7	3.3
	女性	835	55.3	23.0	1.8	0.2	19.6	671	68.9	28.6	2.2	0.3	97.5	2.5
年齢層	18歳未満	61	65.6	11.5	3.3	0.0	19.7	49	81.6	14.3	4.1	0.0	95.9	4.1
	18～29歳	111	62.2	18.0	0.9	0.0	18.9	90	76.7	22.2	1.1	0.0	98.9	1.1
	30歳代	164	61.6	25.6	1.8	0.0	11.0	146	69.2	28.8	2.1	0.0	97.9	2.1
	40歳代	276	58.7	23.6	2.5	0.0	15.2	234	69.2	27.8	3.0	0.0	97.0	3.0
	50歳代	223	46.2	29.1	1.3	0.9	22.4	173	59.5	37.6	1.7	1.2	97.1	2.9
	60歳以上	169	34.9	32.5	1.8	0.0	30.8	117	50.4	47.0	2.6	0.0	97.4	2.6
チケットクラブ	加入	289	51.9	24.6	2.1	0.0	21.5	227	66.1	31.3	2.6	0.0	97.4	2.6
	未加入	752	52.1	25.8	1.7	0.4	19.9	602	65.1	32.2	2.2	0.5	97.3	2.7
鑑賞経験	今日が初めて	216	55.6	25.5	1.4	0.5	17.1	179	67.0	30.7	1.7	0.6	97.8	2.2
	1～2回	157	52.9	24.2	1.9	0.0	21.0	124	66.9	30.6	2.4	0.0	97.6	2.4
	3～5回	227	52.0	29.1	1.3	0.4	17.2	188	62.8	35.1	1.6	0.5	97.9	2.1
	6～10回	187	56.7	18.2	1.1	0.5	23.5	143	74.1	23.8	1.4	0.7	97.9	2.1
	11回以上	270	48.1	26.7	3.0	0.0	22.2	210	61.9	34.3	3.8	0.0	96.2	3.8
参考	13年度調査結果	1569	57.7	19.9	1.7	0.4	20.3	1251	72.4	24.9	2.2	0.5	97.4	2.6
	12年度調査結果	1599	53.0	21.9	1.1	0.3	23.8	1219	69.5	28.7	1.5	0.3	98.2	1.8
	11年度調査結果	1688	56.6	19.4	1.5	0.4	22.0	1316	72.6	24.9	2.0	0.5	97.6	2.4
	10年度調査結果	2379	54.6	21.6	1.7	0.3	21.7	1862	69.8	27.7	2.1	0.4	97.4	2.6
	09年度調査結果	1692	50.9	23.0	1.4	0.1	24.5	1277	67.4	30.5	1.9	0.2	98.0	2.0
	08年度調査結果	1732	51.5	25.8	2.0	0.2	20.6	1376	64.8	32.4	2.5	0.3	97.2	2.8
	07年度調査結果	3033	56.2	24.6	1.8	0.2	17.2	2510	67.9	29.7	2.2	0.2	97.6	2.4
	06年度調査結果	2766	54.2	26.4	2.2	0.2	17.1	2294	65.3	31.8	2.7	0.2	97.1	2.9
	05年度調査結果	3073	52.1	26.2	2.1	0.4	19.2	2483	64.5	32.5	2.6	0.4	97.0	3.0
	04年度調査結果	4708	53.0	26.8	2.8	0.3	17.1	3905	63.9	32.3	3.4	0.4	96.2	3.8
	03年度調査結果	4078	49.8	29.7	3.2	0.4	16.8	3392	59.9	35.7	3.9	0.5	95.6	4.4

* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、不満足層は、「少し不満足」+「まったく不満足」の計。無回答を除く。以下同様。

** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「たいへん満足」+「まあ満足」の割合は満足層の割合と、「少し不満足」+「まったく不満足」の割合は不満足層の割合と、必ずしも一致しない。

【本日の公演のチケット料金】

		全体	Q3-2本日の公演のチケット料金					「無回答」を除いた割合					(単位：%)		
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層	
		全体	1146	36.4	47.6	4.8	0.5	10.6	1024	40.7	53.3	5.4	0.6	94.0	6.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	35.8	48.1	5.0	0.5	10.6	905	40.0	53.8	5.6	0.6	93.8	6.2	
	音楽劇	72	33.3	50.0	4.2	1.4	11.1	64	37.5	56.3	4.7	1.6	93.8	6.3	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	50.0	37.1	1.6	0.0	11.3	55	56.4	41.8	1.8	0.0	98.2	1.8	
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	34.8	45.9	5.2	1.7	12.4	204	39.7	52.5	5.9	2.0	92.2	7.8	
	女性	835	36.2	48.4	4.9	0.2	10.3	749	40.3	53.9	5.5	0.3	94.3	5.7	
年齢層	18歳未満	61	55.7	23.0	3.3	1.6	16.4	51	66.7	27.5	3.9	2.0	94.1	5.9	
	18～29歳	111	46.8	41.4	1.8	0.0	9.9	100	52.0	46.0	2.0	0.0	98.0	2.0	
	30歳代	164	36.0	50.6	4.3	0.0	9.1	149	39.6	55.7	4.7	0.0	95.3	4.7	
	40歳代	276	39.5	46.0	4.3	0.4	9.8	249	43.8	51.0	4.8	0.4	94.8	5.2	
	50歳代	223	28.3	55.6	4.0	1.3	10.8	199	31.7	62.3	4.5	1.5	94.0	6.0	
	60歳以上	169	27.8	50.9	9.5	0.0	11.8	149	31.5	57.7	10.7	0.0	89.3	10.7	
チケットクラブ	加入	289	37.0	51.6	1.4	0.3	9.7	261	41.0	57.1	1.5	0.4	98.1	1.9	
	未加入	752	34.8	47.3	6.4	0.7	10.8	671	39.0	53.1	7.2	0.7	92.1	7.9	
鑑賞経験	今日が初めて	216	31.9	51.4	4.2	0.5	12.0	190	36.3	58.4	4.7	0.5	94.7	5.3	
	1～2回	157	34.4	44.6	6.4	0.6	14.0	135	40.0	51.9	7.4	0.7	91.9	8.1	
	3～5回	227	34.4	49.8	6.2	0.9	8.8	207	37.7	54.6	6.8	1.0	92.3	7.7	
	6～10回	187	34.2	50.3	3.7	0.5	11.2	166	38.6	56.6	4.2	0.6	95.2	4.8	
	11回以上	270	41.9	45.2	3.7	0.4	8.9	246	45.9	49.6	4.1	0.4	95.5	4.5	
参考	13年度調査結果	1569	35.6	46.6	5.7	0.7	11.3	1391	40.2	52.6	6.5	0.8	92.7	7.3	
	12年度調査結果	1599	35.1	47.0	5.4	0.3	12.3	1402	40.0	53.6	6.1	0.3	93.6	6.4	
	11年度調査結果	1688	34.4	47.5	5.1	0.4	12.7	1474	39.3	54.4	5.8	0.4	93.8	6.2	
	10年度調査結果	2379	29.0	51.3	7.6	0.4	11.7	2101	32.9	58.1	8.6	0.5	91.0	9.0	
	09年度調査結果	1692	30.4	49.8	6.2	0.3	13.3	1467	35.0	57.5	7.2	0.3	92.5	7.5	
	08年度調査結果	1732	34.6	47.6	5.9	0.4	11.4	1534	39.1	53.7	6.7	0.5	92.8	7.2	
	07年度調査結果	3033	30.9	49.1	6.8	0.4	12.8	2646	35.4	56.3	7.8	0.5	91.7	8.3	
	06年度調査結果	2766	24.5	54.9	8.5	0.3	11.7	2442	27.8	62.2	9.7	0.4	90.0	10.0	
	05年度調査結果	3073	29.8	49.7	6.1	0.4	13.9	2645	34.7	57.8	7.1	0.5	92.4	7.6	
	04年度調査結果	4708	27.0	52.4	10.3	0.6	9.6	4255	29.9	58.0	11.4	0.7	87.9	12.1	
	03年度調査結果	4078	21.7	53.4	11.6	0.7	12.5	3567	24.8	61.1	13.3	0.8	85.9	14.1	

【公演情報の入りのしやすさ】

		全体	Q3-3公演情報の入りのしやすさ					「無回答」を除いた割合					(単位：%)		
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層	
		全体	1146	32.0	46.8	10.2	0.5	10.5	1026	35.8	52.2	11.4	0.6	88.0	12.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	32.2	47.2	10.3	0.5	9.8	913	35.7	52.4	11.4	0.5	88.1	11.9	
	音楽劇	72	27.8	40.3	12.5	1.4	18.1	59	33.9	49.2	15.3	1.7	83.1	16.9	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	33.9	46.8	6.5	0.0	12.9	54	38.9	53.7	7.4	0.0	92.6	7.4	
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	27.5	51.9	9.9	0.9	9.9	210	30.5	57.6	11.0	1.0	88.1	11.9	
	女性	835	32.6	45.9	10.5	0.5	10.5	747	36.4	51.3	11.8	0.5	87.7	12.3	
年齢層	18歳未満	61	50.8	34.4	0.0	0.0	14.8	52	59.6	40.4	0.0	0.0	100.0	0.0	
	18～29歳	111	36.9	44.1	13.5	0.0	5.4	105	39.0	46.7	14.3	0.0	85.7	14.3	
	30歳代	164	29.9	50.6	11.0	0.6	7.9	151	32.5	55.0	11.9	0.7	87.4	12.6	
	40歳代	276	34.8	47.5	9.4	0.4	8.0	254	37.8	51.6	10.2	0.4	89.4	10.6	
	50歳代	223	30.0	48.9	9.9	0.9	10.3	200	33.5	54.5	11.0	1.0	88.0	12.0	
	60歳以上	169	19.5	46.2	14.2	1.2	18.9	137	24.1	56.9	17.5	1.5	81.0	19.0	
チケットクラブ	加入	289	41.2	47.4	5.5	0.0	5.9	272	43.8	50.4	5.9	0.0	94.1	5.9	
	未加入	752	27.8	47.5	12.6	0.8	11.3	667	31.3	53.5	14.2	0.9	84.9	15.1	
鑑賞経験	今日が初めて	216	21.8	51.9	15.3	0.0	11.1	192	24.5	58.3	17.2	0.0	82.8	17.2	
	1～2回	157	26.1	47.8	10.2	1.3	14.6	134	30.6	56.0	11.9	1.5	86.6	13.4	
	3～5回	227	30.4	45.4	12.3	0.4	11.5	201	34.3	51.2	13.9	0.5	85.6	14.4	
	6～10回	187	33.7	46.5	11.2	1.1	7.5	173	36.4	50.3	12.1	1.2	86.7	13.3	
	11回以上	270	42.2	44.8	5.2	0.4	7.4	250	45.6	48.4	5.6	0.4	94.0	6.0	
参考	13年度調査結果	1569	28.9	49.5	9.2	1.6	10.8	1399	32.5	55.5	10.3	1.8	87.9	12.1	
	12年度調査結果	1599	26.8	51.9	8.9	0.6	11.8	1411	30.3	58.8	10.1	0.7	89.2	10.8	
	11年度調査結果	1688	28.5	51.4	8.3	0.7	11.1	1500	32.1	57.8	9.3	0.8	89.9	10.1	
	10年度調査結果	2379	24.9	50.0	11.9	1.0	12.1	2091	28.4	56.9	13.6	1.1	85.3	14.7	
	09年度調査結果	1692	23.0	52.9	10.5	1.2	12.4	1483	26.2	60.4	12.0	1.4	86.6	13.4	
	08年度調査結果	1732	25.8	49.5	10.5	1.6	12.7	1512	29.5	56.7	12.0	1.8	86.2	13.8	
	07年度調査結果	3033	19.5	48.4	14.7	1.5	15.9	2550	23.1	57.6	17.5	1.8	80.7	19.3	
	06年度調査結果	2766	17.3	50.4	16.0	2.1	14.2	2373	20.1	58.7	18.7	2.4	78.9	21.1	
	05年度調査結果	3073	15.2	49.0	16.7	2.0	17.2	2544	18.3	59.2	20.1	2.4	77.5	22.5	
	04年度調査結果	4708	14.2	49.3	20.2	3.0	13.3	4081	16.4	56.8	23.3	3.4	73.3	26.7	
	03年度調査結果	4078	12.0	43.8	22.6	7.5	14.1	3505	14.0	50.9	26.3	8.7	64.9	35.1	

【チケットの予約・購入のしやすさ】

		全体	Q3-4チケットの予約・購入のしやすさ					「無回答」を除いた割合					(単位:%)	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
	全体	1146	32.2	45.5	8.2	1.5	12.7	1001	36.9	52.0	9.4	1.7	88.9	11.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	32.2	45.4	8.4	1.5	12.5	885	36.8	51.9	9.6	1.7	88.7	11.3
	音楽劇	72	27.8	47.2	5.6	1.4	18.1	59	33.9	57.6	6.8	1.7	91.5	8.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	37.1	45.2	8.1	1.6	8.1	57	40.4	49.1	8.8	1.8	89.5	10.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	27.0	51.9	8.6	2.1	10.3	209	30.1	57.9	9.6	2.4	88.0	12.0
	女性	835	33.2	43.7	8.1	1.4	13.5	722	38.4	50.6	9.4	1.7	88.9	11.1
年齢層	18歳未満	61	52.5	31.1	0.0	1.6	14.8	52	61.5	36.5	0.0	1.9	98.1	1.9
	18~29歳	111	36.9	47.7	6.3	0.9	8.1	102	40.2	52.0	6.9	1.0	92.2	7.8
	30歳代	164	36.6	42.7	9.8	1.8	9.1	149	40.3	47.0	10.7	2.0	87.2	12.8
	40歳代	276	34.1	46.7	7.2	0.7	11.2	245	38.4	52.7	8.2	0.8	91.0	9.0
	50歳代	223	30.9	48.4	7.2	1.3	12.1	196	35.2	55.1	8.2	1.5	90.3	9.7
	60歳以上	169	15.4	45.0	13.6	3.0	23.1	130	20.0	58.5	17.7	3.8	78.5	21.5
チケットクラブ	加入	289	37.4	43.6	10.4	1.4	7.3	268	40.3	47.0	11.2	1.5	87.3	12.7
	未加入	752	29.9	46.4	8.0	1.7	14.0	647	34.8	53.9	9.3	2.0	88.7	11.3
鑑賞経験	今日が初めて	216	29.2	47.2	7.9	0.9	14.8	184	34.2	55.4	9.2	1.1	89.7	10.3
	1~2回	157	26.1	44.6	6.4	5.1	17.8	129	31.8	54.3	7.8	6.2	86.0	14.0
	3~5回	227	33.0	44.9	11.0	0.4	10.6	203	36.9	50.2	12.3	0.5	87.2	12.8
	6~10回	187	26.7	54.5	8.0	1.6	9.1	170	29.4	60.0	8.8	1.8	89.4	10.6
	11回以上	270	39.6	39.6	8.5	1.1	11.1	240	44.6	44.6	9.6	1.3	89.2	10.8

参考		全体	Q3-4調査結果					「無回答」を除いた割合					(単位:%)	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
	13年度調査結果	1569	32.1	44.9	7.3	2.4	13.3	1361	37.0	51.8	8.4	2.7	88.8	11.2
	12年度調査結果	1599	28.0	48.1	8.1	1.4	14.4	1368	32.7	56.2	9.4	1.6	89.0	11.0
	11年度調査結果	1688	30.5	46.6	7.4	1.2	14.3	1446	35.6	54.4	8.6	1.4	90.0	10.0
	10年度調査結果	2379	23.5	47.2	11.7	2.0	15.6	2007	27.8	56.0	13.9	2.3	83.8	16.2
	09年度調査結果	1692	24.1	48.6	10.9	1.4	15.1	1436	28.3	57.2	12.8	1.6	85.6	14.4
	08年度調査結果	1732	25.9	49.9	7.2	1.3	15.8	1459	30.7	59.2	8.5	1.6	89.9	10.1
	07年度調査結果	3033	21.5	47.1	12.0	1.8	17.5	2501	26.1	57.1	14.6	2.2	83.2	16.8
	06年度調査結果	2766	18.7	47.9	13.7	2.7	17.1	2293	22.5	57.8	16.5	3.2	80.3	19.7
	05年度調査結果	3073	17.0	47.8	14.4	2.6	18.2	2514	20.8	58.4	17.6	3.1	79.2	20.8
	04年度調査結果	4708	14.4	47.6	19.1	4.0	14.8	4010	17.0	55.9	22.4	4.7	72.9	27.1
	03年度調査結果	4078	9.7	35.2	24.9	14.8	15.4	3449	11.5	41.6	29.4	17.5	53.1	46.9

【(北九州芸術劇場の)電話予約・チケットカウンターの対応】

		全体	Q3-5電話予約・チケットカウンターの対応					「無回答」を除いた割合					(単位:%)	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
	全体	1146	31.8	36.0	3.1	0.3	28.8	816	44.6	50.6	4.3	0.5	95.2	4.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	31.9	36.4	3.2	0.3	28.3	726	44.5	50.7	4.4	0.4	95.2	4.8
	音楽劇	72	29.2	34.7	2.8	1.4	31.9	49	42.9	51.0	4.1	2.0	93.9	6.1
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	32.3	32.3	1.6	0.0	33.9	41	48.8	48.8	2.4	0.0	97.6	2.4
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	26.6	39.9	5.2	0.9	27.5	169	36.7	55.0	7.1	1.2	91.7	8.3
	女性	835	32.9	34.7	2.6	0.2	29.5	589	46.7	49.2	3.7	0.3	95.9	4.1
年齢層	18歳未満	61	60.7	21.3	1.6	0.0	16.4	51	72.5	25.5	2.0	0.0	98.0	2.0
	18~29歳	111	43.2	29.7	1.8	0.0	25.2	83	57.8	39.8	2.4	0.0	97.6	2.4
	30歳代	164	32.3	34.1	4.3	0.6	28.7	117	45.3	47.9	6.0	0.9	93.2	6.8
	40歳代	276	35.5	32.6	2.2	0.4	29.3	195	50.3	46.2	3.1	0.5	96.4	3.6
	50歳代	223	26.5	43.5	0.9	0.9	28.3	160	36.9	60.6	1.3	1.3	97.5	2.5
	60歳以上	169	18.9	39.6	7.1	0.0	34.3	111	28.8	60.4	10.8	0.0	89.2	10.8
チケットクラブ	加入	289	42.9	38.4	4.5	0.7	13.5	250	49.6	44.4	5.2	0.8	94.0	6.0
	未加入	752	27.3	35.5	2.5	0.3	34.4	493	41.6	54.2	3.9	0.4	95.7	4.3
鑑賞経験	今日が初めて	157	29.6	36.1	1.9	0.0	32.4	146	43.8	53.4	2.7	0.0	97.3	2.7
	1~2回	157	27.4	34.4	1.3	1.3	35.7	101	42.6	53.5	2.0	2.0	96.0	4.0
	3~5回	227	34.8	33.9	3.1	0.0	28.2	163	48.5	47.2	4.3	0.0	95.7	4.3
	6~10回	187	26.7	39.6	5.3	0.5	27.8	135	37.0	54.8	7.4	0.7	91.9	8.1
	11回以上	270	36.7	35.6	4.1	0.4	23.3	207	47.8	46.4	5.3	0.5	94.2	5.8

参考		全体	Q3-5調査結果					「無回答」を除いた割合					(単位:%)	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
	13年度調査結果	1569	32.5	34.7	2.6	0.7	29.5	1106	46.1	49.2	3.7	1.0	95.3	4.7
	12年度調査結果	1599	32.7	36.8	1.7	0.3	28.6	1142	45.8	51.5	2.4	0.4	97.3	2.7
	11年度調査結果	1688	30.6	38.4	2.1	0.2	28.6	1205	42.9	53.9	2.9	0.3	96.8	3.2
	10年度調査結果	2379	26.2	38.8	2.6	0.5	31.9	1619	38.5	57.0	3.8	0.7	95.6	4.4
	09年度調査結果	1692	27.9	38.5	2.8	0.3	30.5	1176	40.1	55.4	4.0	0.4	95.6	4.4
	08年度調査結果	1732	26.6	38.6	3.2	0.5	31.1	1194	38.6	56.0	4.6	0.8	94.6	5.4
	07年度調査結果	3033	26.9	41.9	4.1	1.1	26.1	2242	36.4	56.7	5.5	1.4	93.1	6.9
	06年度調査結果	2766	24.4	45.8	5.0	1.0	23.9	2106	32.0	60.1	6.5	1.4	92.1	7.9
	05年度調査結果	3073	25.3	43.5	4.6	1.0	25.7	2283	34.0	58.6	6.1	1.3	92.6	7.4
	04年度調査結果	4708	22.4	46.4	5.8	1.3	24.1	3573	29.5	61.2	7.6	1.7	90.7	9.3
	03年度調査結果	4078	14.1	46.3	10.3	5.0	24.2	3090	18.7	61.2	13.6	6.5	79.8	20.2

【劇場係員の応対】

		全体	Q3-6劇場係員の応対					「無回答」を除いた割合				(単位:%)		
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
	全体	1146	48.5	41.0	2.1	0.3	8.0	1054	52.8	44.6	2.3	0.4	97.3	2.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	47.9	41.7	2.2	0.3	7.9	932	52.0	45.3	2.4	0.3	97.3	2.7
	音楽劇	72	50.0	37.5	1.4	1.4	9.7	65	55.4	41.5	1.5	1.5	96.9	3.1
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	56.5	33.9	1.6	0.0	8.1	57	61.4	36.8	1.8	0.0	98.2	1.8
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	40.3	44.2	5.2	1.3	9.0	212	44.3	48.6	5.7	1.4	92.9	7.1
	女性	835	50.8	40.1	1.2	0.1	7.8	770	55.1	43.5	1.3	0.1	98.6	1.4
年齢層	18歳未満	61	75.4	14.8	1.6	1.6	6.6	57	80.7	15.8	1.8	1.8	96.5	3.5
	18～29歳	111	62.2	27.9	1.8	0.0	8.1	102	67.6	30.4	2.0	0.0	98.0	2.0
	30歳代	164	54.3	38.4	0.6	0.6	6.1	154	57.8	40.9	0.6	0.6	98.7	1.3
	40歳代	276	51.8	42.4	1.1	0.4	4.3	264	54.2	44.3	1.1	0.4	98.5	1.5
	50歳代	223	42.6	47.1	1.8	0.4	8.1	205	46.3	51.2	2.0	0.5	97.6	2.4
	60歳以上	169	31.4	47.3	5.9	0.0	15.4	143	37.1	55.9	7.0	0.0	93.0	7.0
チケットクラブ	加入	289	51.2	40.5	3.5	0.3	4.5	276	53.6	42.4	3.6	0.4	96.0	4.0
	未加入	752	47.5	41.9	1.5	0.4	8.8	686	52.0	45.9	1.6	0.4	98.0	2.0
鑑賞経験	今日が初めて	216	46.3	45.8	1.4	0.0	6.5	202	49.5	49.0	1.5	0.0	98.5	1.5
	1～2回	157	49.0	37.6	2.5	1.3	9.6	142	54.2	41.5	2.8	1.4	95.8	4.2
	3～5回	227	55.1	34.8	2.6	0.0	7.5	210	59.5	37.6	2.9	0.0	97.1	2.9
	6～10回	187	41.2	48.7	2.1	0.5	7.5	173	44.5	52.6	2.3	0.6	97.1	2.9
	11回以上	270	50.0	39.6	1.5	0.4	8.5	247	54.7	43.3	1.6	0.4	98.0	2.0
参考	13年度調査結果	1569	50.2	38.6	1.6	0.4	9.1	1426	55.3	42.5	1.8	0.5	97.8	2.2
	12年度調査結果	1599	49.1	39.9	1.3	0.1	9.7	1444	54.4	44.2	1.4	0.1	98.5	1.5
	11年度調査結果	1688	48.0	42.5	0.8	0.2	8.4	1546	52.4	46.4	0.9	0.3	98.8	1.2
	10年度調査結果	2379	47.5	41.7	1.6	0.1	9.1	2162	52.3	45.8	1.8	0.1	98.1	1.9
	09年度調査結果	1692	44.1	43.5	1.7	0.2	10.5	1514	49.3	48.6	1.8	0.3	97.9	2.1
	08年度調査結果	1732	46.5	40.6	2.3	0.6	10.0	1558	51.7	45.1	2.6	0.6	96.8	3.2
	07年度調査結果	3033	46.5	41.7	2.4	0.5	9.0	2761	51.1	45.8	2.6	0.5	96.9	3.1
	06年度調査結果	2766	43.6	44.6	2.8	0.4	8.6	2527	47.7	48.8	3.1	0.4	96.5	3.5
	05年度調査結果	3073	44.7	42.8	1.7	0.4	10.4	2752	49.9	47.7	1.9	0.4	97.7	2.3
	04年度調査結果	4708	44.1	46.2	2.2	0.3	7.2	4371	47.5	49.8	2.4	0.3	97.3	2.7
	03年度調査結果	4078	26.7	54.2	6.0	1.1	12.1	3585	30.3	61.6	6.8	1.3	91.9	8.1

【劇場の入口・案内表示のわかりやすさ】

		全体	Q3-7劇場の入口・案内表示のわかりやすさ					「無回答」を除いた割合				(単位:%)		
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
	全体	1146	37.1	47.5	6.5	0.8	8.2	1052	40.4	51.7	7.0	0.9	92.1	7.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	36.8	48.5	5.9	0.8	8.0	931	40.0	52.7	6.4	0.9	92.7	7.3
	音楽劇	72	36.1	41.7	11.1	1.4	9.7	65	40.0	46.2	12.3	1.5	86.2	13.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	43.5	37.1	9.7	0.0	9.7	56	48.2	41.1	10.7	0.0	89.3	10.7
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	28.8	54.9	6.9	1.7	7.7	215	31.2	59.5	7.4	1.9	90.7	9.3
	女性	835	39.0	45.7	6.6	0.6	8.0	768	42.4	49.7	7.2	0.7	92.2	7.8
年齢層	18歳未満	61	59.0	32.8	3.3	0.0	4.9	58	62.1	34.5	3.4	0.0	96.6	3.4
	18～29歳	111	48.6	38.7	5.4	0.0	7.2	103	52.4	41.7	5.8	0.0	94.2	5.8
	30歳代	164	43.3	42.7	7.3	0.0	6.7	153	46.4	45.8	7.8	0.0	92.2	7.8
	40歳代	276	41.7	48.2	4.3	1.1	4.7	263	43.7	50.6	4.6	1.1	94.3	5.7
	50歳代	223	29.6	52.5	7.2	1.8	9.0	203	32.5	57.6	7.9	2.0	90.1	9.9
	60歳以上	169	18.9	56.8	9.5	0.6	14.2	145	22.1	66.2	11.0	0.7	88.3	11.7
チケットクラブ	加入	289	37.0	53.6	3.5	0.7	5.2	274	39.1	56.6	3.6	0.7	95.6	4.4
	未加入	752	37.1	45.6	7.8	0.9	8.5	688	40.6	49.9	8.6	1.0	90.4	9.6
鑑賞経験	今日が初めて	216	35.6	46.8	9.3	0.9	7.4	200	38.5	50.5	10.0	1.0	89.0	11.0
	1～2回	157	38.2	43.3	7.6	0.6	10.2	141	42.6	48.2	8.5	0.7	90.8	9.2
	3～5回	227	40.5	45.8	5.7	0.9	7.0	211	43.6	49.3	6.2	0.9	92.9	7.1
	6～10回	187	35.3	49.7	7.0	1.6	6.4	175	37.7	53.1	7.4	1.7	90.9	9.1
	11回以上	270	37.0	50.0	4.4	0.4	8.1	248	40.3	54.4	4.8	0.4	94.8	5.2
参考	13年度調査結果	1569	37.0	43.7	8.7	1.8	8.9	1430	40.6	47.9	9.5	2.0	88.5	11.5
	12年度調査結果	1599	34.8	45.8	9.1	0.8	9.6	1445	38.5	50.7	10.0	0.8	89.1	10.9
	11年度調査結果	1688	36.2	46.7	7.6	1.2	8.2	1549	39.4	50.9	8.3	1.4	90.4	9.6
	10年度調査結果	2379	34.9	45.8	9.6	0.9	8.8	2169	38.3	50.2	10.6	1.0	88.5	11.5
	09年度調査結果	1692	30.4	48.9	9.1	1.7	9.9	1524	33.7	54.3	10.1	1.9	88.0	12.0
	08年度調査結果	1732	31.5	47.7	9.5	1.8	9.5	1568	34.8	52.7	10.5	2.0	87.4	12.6
	07年度調査結果	3033	28.4	46.3	13.8	2.8	8.7	2768	31.1	50.7	15.1	3.0	81.8	18.2
	06年度調査結果	2766	24.6	47.1	16.4	3.0	8.8	2522	27.0	51.7	18.0	3.3	78.7	21.3
	05年度調査結果	3073	24.2	45.0	17.5	3.7	9.6	2778	26.8	49.8	19.4	4.1	76.6	23.4
	04年度調査結果	4708	22.3	46.6	20.3	4.1	6.6	4396	23.9	49.9	21.7	4.4	73.9	26.1
	03年度調査結果	4078	17.4	44.3	22.1	5.5	10.7	3643	19.5	49.6	24.7	6.2	69.1	30.9

【劇場やロビーのデザイン、雰囲気】

(単位:%)

	全体	Q3-8劇場やロビーのデザイン、雰囲気					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層	
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足			
全体	1146	40.3	47.9	3.0	0.3	8.6	1048	44.1	52.4	3.2	0.3	96.5	3.5	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	39.7	48.2	3.3	0.2	8.6	925	43.5	52.8	3.6	0.2	96.2	3.8
	音楽劇	72	43.1	47.2	1.4	1.4	6.9	67	46.3	50.7	1.5	1.5	97.0	3.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	46.8	43.5	0.0	0.0	9.7	56	51.8	48.2	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	36.5	50.6	3.4	0.9	8.6	213	39.9	55.4	3.8	0.9	95.3	4.7
	女性	835	41.1	47.5	2.9	0.1	8.4	765	44.8	51.9	3.1	0.1	96.7	3.3
年齢層	18歳未満	61	72.1	21.3	1.6	0.0	4.9	58	75.9	22.4	1.7	0.0	98.3	1.7
	18～29歳	111	49.5	38.7	2.7	0.0	9.0	101	54.5	42.6	3.0	0.0	97.0	3.0
	30歳代	164	46.3	45.7	1.8	0.6	5.5	155	49.0	48.4	1.9	0.6	97.4	2.6
	40歳代	276	48.2	44.6	2.2	0.4	4.7	263	50.6	46.8	2.3	0.4	97.3	2.7
	50歳代	223	31.8	55.6	2.7	0.4	9.4	202	35.1	61.4	3.0	0.5	96.5	3.5
	60歳以上	169	15.4	63.3	5.3	0.0	16.0	142	18.3	75.4	6.3	0.0	93.7	6.3
チケットクラブ	加入	289	38.8	53.6	2.1	0.3	5.2	274	40.9	56.6	2.2	0.4	97.4	2.6
	未加入	752	40.3	46.8	3.3	0.3	9.3	682	44.4	51.6	3.7	0.3	96.0	4.0
鑑賞経験	今日が初めて	216	38.9	48.6	4.6	0.5	7.4	200	42.0	52.5	5.0	0.5	94.5	5.5
	1～2回	157	42.7	43.3	3.8	0.0	10.2	141	47.5	48.2	4.3	0.0	95.7	4.3
	3～5回	227	45.8	42.3	2.6	0.0	9.3	206	50.5	46.6	2.9	0.0	97.1	2.9
	6～10回	187	35.8	51.9	4.3	0.5	7.5	173	38.7	56.1	4.6	0.6	94.8	5.2
	11回以上	270	38.1	53.0	1.1	0.4	7.4	250	41.2	57.2	1.2	0.4	98.4	1.6

	全体	Q3-9劇場ロビーの飲食サービス					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
13年度調査結果	1569	44.7	42.4	3.2	0.6	9.1	1426	49.2	46.6	3.5	0.6	95.9	4.1
12年度調査結果	1599	40.7	46.5	2.6	0.2	10.1	1437	45.2	51.7	2.9	0.2	96.9	3.1
11年度調査結果	1688	43.5	44.7	2.7	0.4	8.8	1540	47.7	49.0	3.0	0.4	96.6	3.4
10年度調査結果	2379	42.2	45.3	3.4	0.3	8.8	2169	46.2	49.7	3.8	0.3	95.9	4.1
09年度調査結果	1692	39.7	46.4	3.4	0.3	10.2	1519	44.2	51.7	3.8	0.3	95.9	4.1
08年度調査結果	1732	38.3	46.6	4.3	0.6	10.2	1555	42.6	51.9	4.8	0.6	94.5	5.5
07年度調査結果	3033	36.2	48.7	4.5	0.7	9.9	2733	40.2	54.1	5.0	0.8	94.3	5.7
06年度調査結果	2766	31.9	52.3	5.5	0.5	9.7	2497	35.3	58.0	6.1	0.6	93.3	6.7
05年度調査結果	3073	31.4	51.3	5.5	0.7	11.0	2735	35.3	57.6	6.2	0.8	92.9	7.1
04年度調査結果	4708	31.4	52.6	7.3	1.0	7.6	4348	34.0	57.0	7.9	1.1	91.0	9.0
03年度調査結果	4078	26.5	51.7	9.1	1.2	11.5	3608	30.0	58.5	10.3	1.3	88.4	11.6

【劇場ロビーの飲食サービス】

(単位:%)

	全体	Q3-9劇場ロビーの飲食サービス					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層	
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足			
全体	1146	17.1	44.4	8.2	1.0	29.3	810	24.2	62.8	11.6	1.4	87.0	13.0	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	16.6	44.7	8.2	0.8	29.7	711	23.6	63.6	11.7	1.1	87.2	12.8
	音楽劇	72	19.4	47.2	5.6	2.8	25.0	54	25.9	63.0	7.4	3.7	88.9	11.1
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	22.6	37.1	11.3	1.6	27.4	45	31.1	51.1	15.6	2.2	82.2	17.8
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	15.0	48.5	10.3	1.7	24.5	176	19.9	64.2	13.6	2.3	84.1	15.9
	女性	835	17.4	43.8	7.8	0.8	30.2	583	24.9	62.8	11.1	1.2	87.7	12.3
年齢層	18歳未満	61	41.0	34.4	3.3	1.6	19.7	49	51.0	42.9	4.1	2.0	93.9	6.1
	18～29歳	111	21.6	40.5	6.3	0.9	30.6	77	31.2	58.4	9.1	1.3	89.6	10.4
	30歳代	164	15.9	48.2	10.4	0.6	25.0	123	21.1	64.2	13.8	0.8	85.4	14.6
	40歳代	276	17.0	47.8	8.7	1.4	25.0	207	22.7	63.8	11.6	1.9	86.5	13.5
	50歳代	223	17.0	48.4	8.1	0.9	25.6	166	22.9	65.1	10.8	1.2	88.0	12.0
	60歳以上	169	7.7	42.0	8.9	0.6	40.8	100	13.0	71.0	15.0	1.0	84.0	16.0
チケットクラブ	加入	289	18.0	49.8	10.7	1.0	20.4	230	22.6	62.6	13.5	1.3	85.2	14.8
	未加入	752	16.4	43.1	7.4	1.1	32.0	511	24.1	63.4	11.0	1.6	87.5	12.5
鑑賞経験	今日が初めて	216	18.1	42.6	7.9	0.5	31.0	149	26.2	61.7	11.4	0.7	87.9	12.1
	1～2回	157	16.6	45.2	8.9	2.5	26.8	115	22.6	61.7	12.2	3.5	84.3	15.7
	3～5回	227	19.4	42.7	10.1	1.3	26.4	167	26.3	58.1	13.8	1.8	84.4	15.6
	6～10回	187	11.8	44.9	9.6	1.1	32.6	126	17.5	66.7	14.3	1.6	84.1	15.9
	11回以上	270	17.8	48.1	6.3	0.4	27.4	196	24.5	66.3	8.7	0.5	90.8	9.2

	全体	Q3-9劇場ロビーの飲食サービス					「無回答」を除いた割合					満足層	不満層
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
13年度調査結果	1569	17.3	41.1	9.2	1.2	31.2	1080	25.2	59.7	13.3	1.8	84.9	15.1
12年度調査結果	1599	16.3	45.2	9.2	1.3	28.1	1149	22.6	62.8	12.8	1.7	85.5	14.5
11年度調査結果	1688	17.8	44.8	8.1	0.7	28.5	1207	24.9	62.7	11.4	1.0	87.7	12.3
10年度調査結果	2379	15.8	48.4	9.5	1.4	25.0	1784	21.0	64.5	12.6	1.8	85.5	14.5
09年度調査結果	1692	14.8	47.6	9.5	0.8	27.3	1230	20.4	65.4	13.1	1.1	85.9	14.1
08年度調査結果	1732	14.4	47.1	11.2	1.5	25.8	1285	19.5	63.4	15.1	2.0	82.9	17.1
07年度調査結果	3033	15.5	48.4	14.3	1.6	20.2	2421	19.4	60.6	18.0	2.0	80.0	20.0
06年度調査結果	2766	11.4	51.0	16.7	1.9	19.1	2239	14.0	63.0	20.7	2.3	77.0	23.0
05年度調査結果	3073	12.6	49.2	14.6	1.7	22.0	2398	16.1	63.0	18.8	2.1	79.1	20.9
04年度調査結果	4708	11.6	52.1	16.1	2.3	17.8	3868	14.1	63.4	19.6	2.8	77.6	22.4
03年度調査結果	4078	9.5	46.3	17.5	2.9	23.7	3112	12.5	60.7	22.9	3.9	73.2	26.8

劇場に対する総合的な意見(満足度)については、満足層が96.5%、「たいへん満足」の割合は35.3%である。過去調査結果を通じて、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持している。

[来場公演のジャンル別]

・音楽劇とダンス・現代舞踊では満足層の割合が100%となっている。「たいへん満足」の割合は、ダンス・現代舞踊が高い(40.3%)。

[性別]

・満足度では、男女で顕著な差はない。

[年齢別]

・満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに、年齢層が高くなるほど低くなる傾向がある。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入の場合は「たいへん満足」が「まあ満足」を上回っているが、未加入では、「まあ満足」が「たいへん満足」を上回っている。

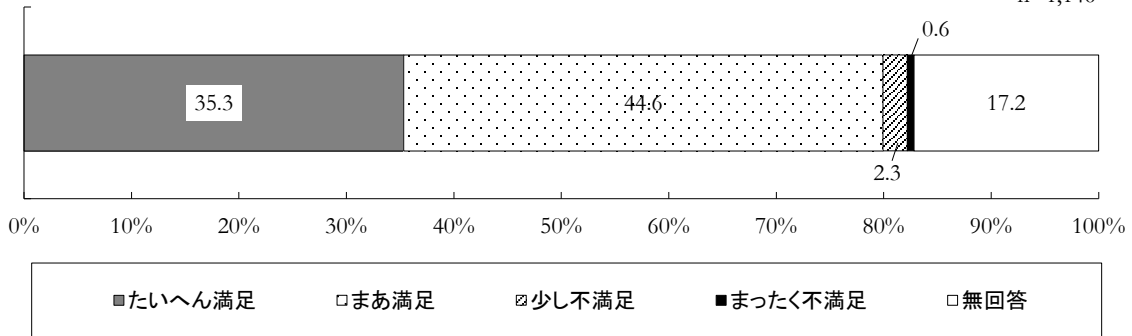
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞頻度で顕著な差はないが、11回以上のグループで、「たいへん満足」への回答割合が高い。

[過去調査と比較して]

・過去調査結果を通じて、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持している。

n=1,146



	全体	Q4総合的な満足度					「無回答」を除いた割合					(単位:%)		
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層	
全体	1146	35.3	44.6	2.3	0.6	17.2	949	42.7	53.8	2.7	0.7	96.5	3.5	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	35.1	44.5	2.6	0.7	17.2	838	42.4	53.7	3.1	0.8	96.1	3.9
	音楽劇	72	34.7	48.6	0.0	0.0	16.7	60	41.7	58.3	0.0	0.0	100.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	40.3	41.9	0.0	0.0	17.7	51	49.0	51.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	30.9	43.3	4.3	0.9	20.6	185	38.9	54.6	5.4	1.1	93.5	6.5
	女性	835	37.4	45.4	1.7	0.6	15.0	710	43.9	53.4	2.0	0.7	97.3	2.7
年齢層	18歳未満	61	52.5	11.5	0.0	0.0	36.1	39	82.1	17.9	0.0	0.0	100.0	0.0
	18~29歳	111	41.4	42.3	0.9	0.9	14.4	95	48.4	49.5	1.1	1.1	97.9	2.1
	30歳代	164	41.5	41.5	0.0	1.2	15.9	138	49.3	49.3	0.0	1.4	98.6	1.4
	40歳代	276	39.5	45.7	1.8	0.4	12.7	241	45.2	52.3	2.1	0.4	97.5	2.5
	50歳代	223	35.9	48.4	1.8	0.4	13.5	193	41.5	56.0	2.1	0.5	97.4	2.6
	60歳以上	169	18.9	52.1	7.7	0.6	20.7	134	23.9	65.7	9.7	0.7	89.6	10.4
チケットクラブ	加入	289	41.9	40.8	3.1	0.3	13.8	249	48.6	47.4	3.6	0.4	96.0	4.0
	未加入	752	32.8	47.6	1.9	0.8	16.9	625	39.5	57.3	2.2	1.0	96.8	3.2
鑑賞経験	今日が初めて	216	33.3	47.7	0.9	0.9	17.1	179	40.2	57.5	1.1	1.1	97.8	2.2
	1~2回	157	30.6	44.6	3.2	1.9	19.7	126	38.1	55.6	4.0	2.4	93.7	6.3
	3~5回	227	38.8	45.4	1.8	0.0	14.1	195	45.1	52.8	2.1	0.0	97.9	2.1
	6~10回	187	32.1	50.8	1.6	0.5	15.0	159	37.7	59.7	1.9	0.6	97.5	2.5
	11回以上	270	40.7	40.4	3.0	0.4	15.6	228	48.2	47.8	3.5	0.4	96.1	3.9
参考	13年度調査結果	1569	34.9	46.5	1.7	0.5	16.4	1311	41.7	55.7	2.0	0.6	97.4	2.6
	12年度調査結果	1599	31.3	48.4	1.4	0.1	18.8	1299	38.6	59.6	1.8	0.1	98.2	1.8
	11年度調査結果	1688	33.4	47.9	2.2	0.4	16.2	1415	39.9	57.1	2.6	0.4	97.0	3.0
	10年度調査結果	2379	33.2	47.9	2.3	0.2	16.4	1989	39.8	57.3	2.7	0.3	97.0	3.0
	09年度調査結果	1692	31.3	49.3	2.4	0.1	16.9	1406	37.6	59.4	2.9	0.1	97.0	3.0
	08年度調査結果	1732	30.7	53.0	2.9	0.4	13.0	1507	35.3	60.9	3.3	0.5	96.2	3.8
	07年度調査結果	3033	25.4	55.6	4.4	0.3	14.3	2600	29.6	64.9	5.1	0.4	94.5	5.5
	06年度調査結果	2766	21.0	59.5	4.6	0.3	14.6	2362	24.6	69.6	5.3	0.4	94.3	5.7
	05年度調査結果	3073	20.1	58.0	5.7	0.6	15.6	2594	23.8	68.7	6.8	0.7	92.6	7.4
	04年度調査結果	4708	19.2	60.9	6.2	0.7	13.1	4092	22.0	70.0	7.2	0.8	92.1	7.9
03年度調査結果	4078	19.7	57.5	6.5	0.5	15.8	3434	23.4	68.2	7.7	0.6	91.6	8.4	

「観る」、「創る」、「育つ」いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は95%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は98.4%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も76.0%と高い割合を占める。
※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わったが、初年度のために設問の更新が間に合わなかったため、今後、調査票を改訂して分析項目に加えたい。

[来場公演のジャンル別]

- ・「観る」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が6割以上(無回答を除いた回答)と高い。
- ・「創る」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が6割以上(無回答を除いた回答)と高い。
- ・「育つ」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が半数以上(無回答を除いた回答)となっている。

[性別]

- ・賛同する割合では、男女で顕著な差はないが、「ぜひやってほしい」の割合は、「観る」と「育つ」については女性で、「創る」については男性で高い。

[年齢別]

- ・「観る」:いずれの年代でも「ぜひやってほしい」の割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。
- ・「創る」:18歳未満で「ぜひやってほしい」への割合が84.2%(無回答を除いた回答)と高い。
- ・「育つ」:18歳未満で「ぜひやってほしい」への割合が82.5%(無回答を除いた回答)と高い。
- ・「観る」、「創る」、「育つ」:いずれも60歳以上で無回答の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

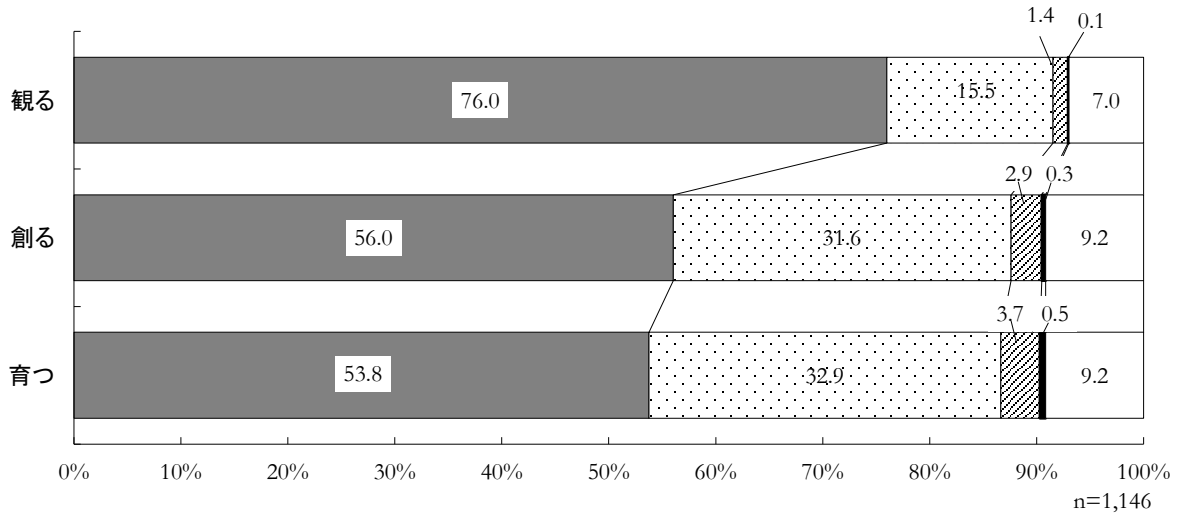
- ・加入・未加入で顕著な差はないが、「観る」については加入、「育つ」と「創る」については未加入で「ぜひやってほしい」の割合が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・鑑賞頻度で顕著な傾向はみられない。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査結果を通じて、「観る」への賛同は極めて高い割合を維持しているものの、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合は、04年度の83.3%が最も高く、多少の年度の変化はあるものの、やや減少傾向にある。
- ・一方、「創る」と「育つ」は、「観る」に比べて賛同の割合は低いものの、一定の割合を維持している。



■ぜひやってほしい □まあやってほしい ▨あまりやる必要はない ■まったくやる必要はない □無回答

【観る】

	全体	Q5-1運営方針：観る					「無回答」を除いた割合					(単位：%)		
		ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	回答数	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	賛同する割合	賛同しない割合	
全体	1146	76.0	15.5	1.4	0.1	7.0	1066	81.7	16.7	1.5	0.1	98.4	1.6	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	77.7	14.5	1.2	0.0	6.6	945	83.2	15.6	1.3	0.0	98.7	1.3
	音楽劇	72	66.7	23.6	1.4	0.0	8.3	66	72.7	25.8	1.5	0.0	98.5	1.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	59.7	22.6	4.8	1.6	11.3	55	67.3	25.5	5.5	1.8	92.7	7.3
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	性別	男性	233	68.2	24.0	3.4	0.0	4.3	223	71.3	25.1	3.6	0.0	96.4
	女性	835	79.8	13.2	1.0	0.1	6.0	785	84.8	14.0	1.0	0.1	98.9	1.1
年齢層	18歳未満	61	77.0	14.8	1.6	0.0	6.6	57	82.5	15.8	1.8	0.0	98.2	1.8
	18～29歳	111	77.5	12.6	1.8	0.9	7.2	103	83.5	13.6	1.9	1.0	97.1	2.9
	30歳代	164	80.5	17.1	0.0	0.0	2.4	160	82.5	17.5	0.0	0.0	100.0	0.0
	40歳代	276	82.6	12.3	1.1	0.0	4.0	265	86.0	12.8	1.1	0.0	98.9	1.1
	50歳代	223	78.0	14.8	1.3	0.0	5.8	210	82.9	15.7	1.4	0.0	98.6	1.4
	60歳以上	169	66.3	19.5	4.1	0.0	10.1	152	73.7	21.7	4.6	0.0	95.4	4.6
チケットクラブ	加入	289	83.0	12.1	1.7	0.0	3.1	280	85.7	12.5	1.8	0.0	98.2	1.8
	未加入	752	75.3	16.9	1.3	0.1	6.4	704	80.4	18.0	1.4	0.1	98.4	1.6
鑑賞経験	今日が初めて	216	75.5	18.1	0.9	0.0	5.6	204	79.9	19.1	1.0	0.0	99.0	1.0
	1～2回	157	81.5	8.9	1.9	0.6	7.0	146	87.7	9.6	2.1	0.7	97.3	2.7
	3～5回	227	78.4	14.1	0.9	0.0	6.6	212	84.0	15.1	0.9	0.0	99.1	0.9
	6～10回	187	74.3	19.3	1.1	0.0	5.3	177	78.5	20.3	1.1	0.0	98.9	1.1
	11回以上	270	77.8	15.6	2.2	0.0	4.4	258	81.4	16.3	2.3	0.0	97.7	2.3
参考	13年度調査結果	1569	79.3	12.6	1.0	0.1	7.0	1459	85.3	13.5	1.0	0.1	98.8	1.2
	12年度調査結果	1599	77.5	13.7	0.8	0.0	7.9	1472	84.2	14.9	0.9	0.0	99.1	0.9
	11年度調査結果	1688	77.7	14.5	0.8	0.2	6.9	1571	83.5	15.5	0.8	0.2	99.0	1.0
	10年度調査結果	2379	79.5	12.7	0.7	0.1	7.1	2211	85.5	13.6	0.8	0.1	99.1	0.9
	09年度調査結果	1692	80.4	12.5	0.5	0.1	6.5	1582	86.0	13.3	0.6	0.1	99.4	0.6
	08年度調査結果	1732	80.5	11.8	0.5	0.1	7.0	1611	86.6	12.7	0.6	0.1	99.3	0.7
	07年度調査結果	3033	79.8	13.1	0.5	0.3	6.4	2840	85.2	13.9	0.5	0.3	99.2	0.8
	06年度調査結果	2766	80.5	12.3	0.9	0.3	5.9	2602	85.6	13.1	0.9	0.3	98.7	1.3
	05年度調査結果	3073	82.2	11.3	0.6	0.1	5.8	2894	87.2	12.0	0.6	0.1	99.3	0.7
	04年度調査結果	4708	83.3	12.1	0.6	0.1	3.9	4523	86.7	12.6	0.6	0.1	99.2	0.8
03年度調査結果	4078	81.8	9.8	0.7	0.1	7.7	3764	88.6	10.6	0.7	0.1	99.2	0.8	

* 賛同する割合は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の計、
 不満足層は、「あまりやる必要はない」+「まったくやる必要はない」の計。無回答を除く。以下同様。
 ** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合は賛同する割合と
 「まあやってほしい」+「まったくやる必要はない」の割合は賛同しない割合と、必ずしも必ずしも一致しない。

【創る】

		調査数(n)	Q5-2運営方針:創る					無回答
			ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない		
	全体	1146	56.0	31.6	2.9	0.3	9.2	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	56.0	31.6	3.0	0.4	9.0	
	音楽劇	72	56.9	33.3	1.4	0.0	8.3	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	62	54.8	29.0	3.2	0.0	12.9	
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	233	65.2	27.9	1.7	0.0	5.2	
	女性	835	54.3	33.2	3.5	0.5	8.6	
年齢層	18歳未満	61	78.7	11.5	3.3	0.0	6.6	
	18～29歳	111	65.8	23.4	2.7	0.9	7.2	
	30歳代	164	58.5	32.9	4.9	0.6	3.0	
	40歳代	276	58.7	32.6	2.9	0.0	5.8	
	50歳代	223	52.0	37.7	1.8	0.4	8.1	
	60歳以上	169	46.2	34.3	4.1	0.0	15.4	
チケットクラブ	加入	289	58.1	34.9	2.4	0.0	4.5	
	未加入	752	56.3	30.9	3.3	0.5	9.0	
鑑賞経験	今日が初めて	216	52.8	36.6	2.8	0.5	7.4	
	1～2回	157	55.4	31.8	3.2	0.0	9.6	
	3～5回	227	53.3	31.7	4.0	0.9	10.1	
	6～10回	187	55.1	33.7	2.7	0.0	8.6	
	11回以上	270	65.2	26.3	3.0	0.4	5.2	

(単位:%)

回答数	「無回答」を除いた割合				賛同する割合	賛同しない割合
	ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない		
1041	61.7	34.8	3.2	0.4	96.4	3.6
921	61.6	34.7	3.3	0.4	96.3	3.7
66	62.1	36.4	1.5	0.0	98.5	1.5
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
54	63.0	33.3	3.7	0.0	96.3	3.7
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
221	68.8	29.4	1.8	0.0	98.2	1.8
763	59.4	36.3	3.8	0.5	95.7	4.3
57	84.2	12.3	3.5	0.0	96.5	3.5
103	70.9	25.2	2.9	1.0	96.1	3.9
159	60.4	34.0	5.0	0.6	94.3	5.7
260	62.3	34.6	3.1	0.0	96.9	3.1
205	56.6	41.0	2.0	0.5	97.6	2.4
143	54.5	40.6	4.9	0.0	95.1	4.9
276	60.9	36.6	2.5	0.0	97.5	2.5
684	61.8	33.9	3.7	0.6	95.8	4.2
200	57.0	39.5	3.0	0.5	96.5	3.5
142	61.3	35.2	3.5	0.0	96.5	3.5
204	59.3	35.3	4.4	1.0	94.6	5.4
171	60.2	36.8	2.9	0.0	97.1	2.9
256	68.8	27.7	3.1	0.4	96.5	3.5

		調査数(n)	ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない	無回答
参考	13年度調査結果	1569	51.6	34.5	3.8	0.1	9.9
	12年度調査結果	1599	51.8	34.7	3.3	0.3	9.9
	11年度調査結果	1688	53.6	34.4	3.8	0.2	8.1
	10年度調査結果	2379	48.7	37.7	4.0	0.4	9.2
	09年度調査結果	1692	50.1	36.8	3.7	0.3	9.1
	08年度調査結果	1732	47.9	37.3	4.4	0.5	9.8
	07年度調査結果	3033	49.0	36.5	5.1	0.6	8.8
	06年度調査結果	2766	47.3	38.9	5.0	0.6	8.2
	05年度調査結果	3073	48.6	36.8	5.2	0.3	9.1
	04年度調査結果	4708	48.3	39.5	5.4	0.7	6.2
03年度調査結果	4078	45.0	37.8	4.5	0.4	12.3	

回答数	ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない	賛同する割合	賛同しない割合
1413	57.3	38.3	4.2	0.1	95.6	4.4
1440	57.6	38.5	3.6	0.3	96.1	3.9
1552	58.2	37.4	4.1	0.3	95.6	4.4
2160	53.7	41.5	4.4	0.5	95.2	4.8
1538	55.1	40.5	4.1	0.3	95.6	4.4
1562	53.1	41.4	4.9	0.6	94.5	5.5
2765	53.8	40.0	5.6	0.6	93.8	6.2
2540	51.5	42.4	5.5	0.6	93.9	6.1
2794	53.4	40.5	5.7	0.4	94.0	6.0
4418	51.5	42.1	5.7	0.7	93.5	6.5
3575	51.3	43.1	5.2	0.4	94.4	5.6

【育つ】

		調査数(n)	Q5-3運営方針:育つ				無回答
			ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない	
	全体	1146	53.8	32.9	3.7	0.5	9.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	52.4	34.5	3.7	0.6	8.9
	音楽劇	72	70.8	18.1	2.8	0.0	8.3
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	56.5	24.2	4.8	0.0	14.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	52.8	35.2	5.6	0.4	6.0
	女性	835	55.2	32.3	3.5	0.6	8.4
年齢層	18歳未満	61	77.0	13.1	3.3	0.0	6.6
	18～29歳	111	59.5	29.7	2.7	0.9	7.2
	30歳代	164	56.7	36.6	3.7	0.0	3.0
	40歳代	276	56.2	31.9	5.8	0.7	5.4
	50歳代	223	48.0	37.2	4.0	0.4	10.3
	60歳以上	169	52.1	31.4	2.4	0.6	13.6
チケットクラブ	加入	289	51.9	39.1	4.5	0.0	4.5
	未加入	752	55.7	31.0	3.6	0.8	8.9
鑑賞経験	今日が初めて	216	53.7	34.3	4.2	0.5	7.4
	1～2回	157	56.7	29.3	3.2	1.3	9.6
	3～5回	227	57.3	28.2	4.4	0.9	9.3
	6～10回	187	48.7	41.7	1.1	0.0	8.6
	11回以上	270	56.7	31.9	5.2	0.4	5.9

(単位:%)

回答数	ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない	賛同する割合	賛同しない割合
1041	59.2	36.2	4.0	0.6	95.4	4.6
922	57.5	37.9	4.0	0.7	95.3	4.7
66	77.3	19.7	3.0	0.0	97.0	3.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
53	66.0	28.3	5.7	0.0	94.3	5.7
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
219	56.2	37.4	5.9	0.5	93.6	6.4
765	60.3	35.3	3.8	0.7	95.6	4.4
57	82.5	14.0	3.5	0.0	96.5	3.5
103	64.1	32.0	2.9	1.0	96.1	3.9
159	58.5	37.7	3.8	0.0	96.2	3.8
261	59.4	33.7	6.1	0.8	93.1	6.9
200	53.5	41.5	4.5	0.5	95.0	5.0
146	60.3	36.3	2.7	0.7	96.6	3.4
276	54.3	40.9	4.7	0.0	95.3	4.7
685	61.2	34.0	3.9	0.9	95.2	4.8
200	58.0	37.0	4.5	0.5	95.0	5.0
142	62.7	32.4	3.5	1.4	95.1	4.9
206	63.1	31.1	4.9	1.0	94.2	5.8
171	53.2	45.6	1.2	0.0	98.8	1.2
254	60.2	33.9	5.5	0.4	94.1	5.9

		調査数(n)	ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない	無回答
参考	13年度調査結果	1569	45.6	39.4	4.3	0.6	10.1
	12年度調査結果	1599	48.5	36.5	3.8	0.8	10.5
	11年度調査結果	1688	51.3	35.6	4.3	0.5	8.4
	10年度調査結果	2379	46.4	38.8	4.9	0.5	9.4
	09年度調査結果	1692	47.8	37.3	5.1	0.6	9.2
	08年度調査結果	1732	48.0	35.9	5.6	0.8	9.8
	07年度調査結果	3033	47.2	37.4	5.8	0.7	8.9
	06年度調査結果	2766	47.7	37.6	5.6	0.6	8.5
	05年度調査結果	3073	48.6	36.1	5.7	0.4	9.3
	04年度調査結果	4708	50.3	36.8	5.6	0.6	6.8
03年度調査結果	4078	45.8	35.6	5.4	0.7	12.6	

回答数	ぜひ やってほしい	まあ やってほしい	あまり やる必要はない	まったく やる必要はない	賛同する割合	賛同しない割合
1411	50.7	43.8	4.7	0.7	94.5	5.5
1431	54.2	40.8	4.2	0.8	95.0	5.0
1547	56.0	38.8	4.7	0.5	94.8	5.2
2155	51.2	42.8	5.4	0.6	94.0	6.0
1537	52.6	41.1	5.7	0.7	93.7	6.3
1563	53.2	39.7	6.2	0.9	92.9	7.1
2763	51.8	41.0	6.4	0.7	92.9	7.1
2531	52.1	41.1	6.1	0.7	93.2	6.8
2788	53.5	39.8	6.2	0.5	93.3	6.7
4387	53.9	39.5	6.0	0.6	93.4	6.6
3564	52.4	40.7	6.2	0.8	93.1	6.9

3 日頃の鑑賞活動

コンサートや演劇に出かける頻度については、「年に3～4回程度」が22.8%と最も割合が高く、次いで「年に1～2回程度」(20.8%)、「年に5～9回程度」(14.1%)と続いており、月に1回以上出かける割合は25.8%となっている。日頃コンサートや演劇に出かける人は多く、回答者の鑑賞頻度は多様である。

[来場公演のジャンル別]

- ・小劇場・現代演劇では、月1回以上出かける割合が26.8%とジャンル中最も高く、日頃の鑑賞頻度が高い人が多い。
- ・ダンス・現代舞踊で月1回以上の割合が高く(30.6%)、「月に2回程度」「月に3回以上」の割合がそれぞれ11.3%と他のジャンルに比べて高い。
- ・ジャンル別で「ほとんど行かない」の割合が最も高かったのは音楽劇の16.7%。

[性別]

- ・男性、女性ともに「年に3～4回程度」の割合が最も高い。
- ・月1回以上出かける割合をみると、男性は37.3%、女性は24.8%と、男性の割合が高い。

[年齢別]

- ・18歳未満では「年に1～2回程度」の割合が最も高く、他の年代に比べて、「今日が初めて」「ほとんど行かない」の割合も高い。
- ・月1回以上の割合が最も高いのは60歳以上(33.1%)であるが、18歳未満以外の世代はいずれも、月1回以上の割合が20%を超えている。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

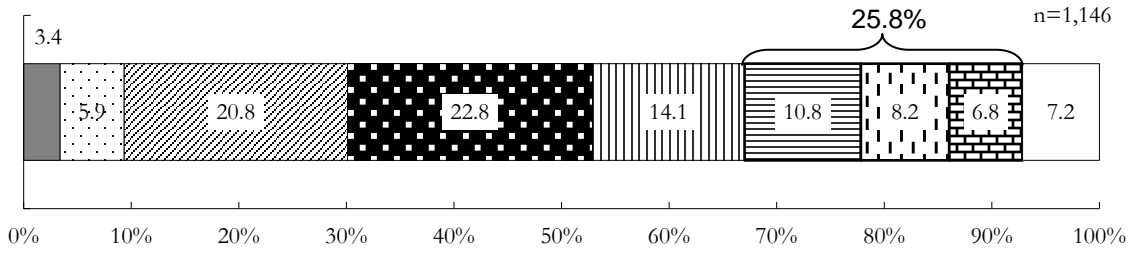
- ・加入の場合は「年に3～4回程度」(19.7%)、未加入の場合は「年に1～2回」(27.1%)の割合が最も高い。また加入の場合は「月に1回以上」の割合が約半数(49.1%)を占めており、未加入(19.7%)に比べて日頃からコンサートや演劇に出かける頻度が高いことがわかる。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞頻度が高いほど、日頃コンサートや演劇に出かける頻度も高く、その傾向は顕著である。
- ・北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、「月に3回以上」の割合が最も高く22.6%、次いで「年に5～9回程度」の割合が21.1%であり、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は60.7%を占める。
- ・北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループと1～2回のグループでは「年に1～2回程度」の割合が最も高い。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査結果と比較すると、11年度では月1回以上の割合が過去最高の割合となったが、それ以降は25%前後となっている。



- 今日が初めて
- ほとんど行かない
- ▣ 年に1~2回程度
- 年に3~4回程度
- 年に5~9回程度
- ▣ 月に1回程度
- 月に2回程度
- 月に3回以上
- 無回答

(単位:%)

	調査数 (n)	Q7コンサートや演劇に出かける頻度									月1回以上の割合
		今日が初めて	ほとんど行かない	年に1~2回程度	年に3~4回程度	年に5~9回程度	月に1回程度	月に2回程度	月に3回以上	無回答	
全体	1146	3.4	5.9	20.8	22.8	14.1	10.8	8.2	6.8	7.2	25.8
ジャンル											
小劇場・現代演劇	1012	3.4	5.2	19.8	23.5	14.0	11.5	8.4	6.9	7.3	26.8
音楽劇	72	5.6	16.7	38.9	12.5	8.3	4.2	2.8	1.4	9.7	8.3
ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ダンス・現代舞踊	62	1.6	4.8	16.1	22.6	22.6	8.1	11.3	11.3	1.6	30.6
パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別											
男性	233	4.7	5.2	17.2	25.3	9.4	11.2	9.0	17.2	0.9	37.3
女性	835	3.2	6.5	23.6	24.0	16.4	11.7	8.5	4.6	1.6	24.8
年齢層											
18歳未満	61	21.3	9.8	24.6	19.7	8.2	3.3	6.6	4.9	1.6	14.8
18~29歳	111	2.7	2.7	21.6	23.4	16.2	11.7	13.5	7.2	0.9	32.4
30歳代	164	1.8	7.9	26.2	21.3	20.7	13.4	6.1	1.2	1.2	20.7
40歳代	276	3.6	5.4	25.4	24.3	9.8	10.9	9.8	10.5	0.4	31.2
50歳代	223	2.2	6.7	23.3	30.5	14.3	11.7	6.3	4.0	0.9	22.0
60歳以上	169	2.4	4.1	13.6	26.6	18.3	12.4	8.3	12.4	1.8	33.1
チケット											
加入	289	0.3	1.0	9.7	19.7	19.0	14.9	18.7	15.6	1.0	49.1
未加入	752	4.7	8.1	27.1	26.6	12.9	10.5	4.9	4.3	0.9	19.7
鑑賞経験											
今日が初めて	216	16.7	15.7	29.6	25.0	7.4	3.7	1.4	0.0	0.5	5.1
1~2回	157	0.6	9.6	40.1	23.6	13.4	6.4	3.2	2.5	0.6	12.1
3~5回	227	0.0	7.0	29.1	34.4	12.8	10.6	4.0	0.9	1.3	15.4
6~10回	187	0.0	0.5	17.6	28.3	19.8	13.9	12.3	5.3	2.1	31.6
11回以上	270	0.4	0.0	3.7	14.1	21.1	19.6	18.5	22.6	0.0	60.7
参考											
13年度調査結果	1569	3.2	6.2	20.5	22.6	15.2	11.2	6.9	5.7	8.4	23.8
12年度調査結果	1599	3.4	6.0	18.6	19.2	16.1	13.4	8.4	6.4	8.4	28.3
11年度調査結果	1688	3.1	5.6	18.2	22.5	15.7	12.9	9.2	6.7	6.1	28.8
10年度調査結果	2379	3.6	7.1	23.7	22.6	15.2	11.0	5.9	4.0	7.0	20.8
09年度調査結果	1692	2.5	5.7	22.1	22.4	16.0	12.5	7.9	4.8	6.0	25.2
08年度調査結果	1732	2.8	5.8	22.0	23.0	16.7	12.2	7.4	4.6	5.5	24.2
07年度調査結果	3033	4.2	5.9	24.5	21.9	16.4	11.7	6.7	3.4	5.3	21.9
06年度調査結果	2766	3.7	5.0	23.2	24.9	18.1	10.0	5.9	3.7	5.5	19.5
05年度調査結果	3073	3.0	5.6	21.2	25.6	18.6	11.1	6.2	4.8	3.8	22.1
04年度調査結果	4708	2.7	4.9	20.6	24.7	19.4	12.6	7.8	4.6	2.6	25.0
03年度調査結果	4078	2.7	4.5	22.4	24.1	18.9	11.5	7.1	4.4	4.5	23.0

北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「11回以上」が23.6%と最も高いが、次いで、「今日が初めて」(18.8%)、「3～5回」(19.8%)、「6～10回」(16.3%)、「1～2回」(13.7%)と、大きな偏りがなく分布している。初めてからリピーターまで、幅広い層が来場している。

[来場公演のジャンル別]

- いずれのジャンルも、初めてからリピーターまで幅広い観客層となっているが、小劇場・現代演劇とダンス・現代舞踊は「11回以上」の割合が最も高く、音楽劇は、「3～5回」の割合が最も高い。
- 小劇場・現代演劇に関しては、初めて来場した人からリピーターまで鑑賞者層は幅広い。

[性別]

- 男性、女性ともに「11回以上」の割合が最も高いが、分布は幅広い。男性は6回以上来場している割合が48.1%と高い。

[年齢別]

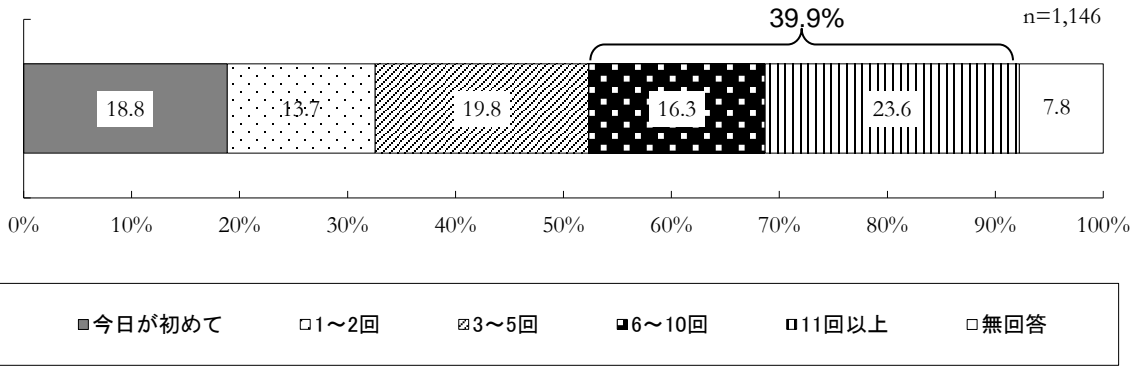
- 40歳代以上は、「11回以上」の割合が最も高く、また、6回以上の割合も高い。一方、29歳以下は「今日が初めて」の割合が高く、6回以上の割合も低い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 加入の場合は「11回以上」が52.6%と顕著に高く、6回以上の割合も73.4%となっている。一方、未加入の場合は「今日が初めて」が26.6%と最も高く、6回以上来場している割合は30.9%となっている。

[過去調査と比較して]

- 6回以上の割合は、08年度までの調査では増加傾向で08～09年度は30%を超えていたものの、10年度は29.4%と減少し、11～13年度は、再び6回以上の割合が30%を超えた。14年度は6回以上の割合が過去最高となっている。



(単位:%)

		調査数 (n)	Q8北九州芸術劇場での鑑賞経験					無回答	6回以上の割合
			今日が初めて	1~2回	3~5回	6~10回	11回以上		
全体		1146	18.8	13.7	19.8	16.3	23.6	7.8	39.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	18.3	13.8	19.5	16.7	23.8	7.9	40.5
	音楽劇	72	22.2	11.1	26.4	16.7	15.3	8.3	31.9
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	24.2	14.5	17.7	9.7	29.0	4.8	38.7
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	18.0	13.3	18.9	17.2	30.9	1.7	48.1
	女性	835	20.6	14.9	21.6	17.4	23.6	2.0	41.0
年齢層	18歳未満	61	34.4	18.0	23.0	6.6	13.1	4.9	19.7
	18~29歳	111	26.1	20.7	24.3	17.1	11.7	0.0	28.8
	30歳代	164	20.7	19.5	23.2	14.0	20.1	2.4	34.1
	40歳代	276	20.3	11.6	21.0	19.6	26.8	0.7	46.4
	50歳代	223	19.7	13.5	21.5	16.1	27.4	1.8	43.5
	60歳以上	169	11.2	11.8	16.6	20.7	36.7	3.0	57.4
チケットクラブ	加入	289	3.8	6.9	14.2	20.8	52.6	1.7	73.4
	未加入	752	26.6	17.8	23.5	15.7	15.2	1.2	30.9
鑑賞経験	今日が初めて	216	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1~2回	157	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3~5回	227	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6~10回	187	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	11回以上	270	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
参考	13年度調査結果	1569	22.9	14.1	20.2	15.4	18.2	9.1	33.7
	12年度調査結果	1599	22.4	13.8	18.1	15.5	21.0	9.2	36.5
	11年度調査結果	1688	20.5	12.9	20.3	15.3	23.9	7.2	39.2
	10年度調査結果	2379	29.1	13.5	21.0	12.9	16.6	7.0	29.4
	09年度調査結果	1692	21.7	15.1	23.8	15.4	17.7	6.3	33.1
	08年度調査結果	1732	22.9	15.9	21.7	17.1	16.1	6.4	33.2
	07年度調査結果	3033	32.8	15.2	21.4	12.7	12.4	5.4	25.2
	06年度調査結果	2766	28.7	16.8	25.2	12.5	11.4	5.4	23.9
	05年度調査結果	3073	30.8	17.1	25.7	12.3	10.4	3.7	22.7
	04年度調査結果	4708	33.1	20.9	25.2	11.6	6.4	2.7	18.0
	03年度調査結果	4078	-	-	-	-	-	-	-

普段興味を持っているジャンルについては、「小劇場・現代演劇」(53.1%)、「有名俳優の演劇」(44.9%)、「ミュージカル・商業演劇」(45.9%)、「映画」(44.9%)への回答割合が高く、興味のあるジャンルは多様である。

[来場公演のジャンル別]

・いずれのジャンルでも自分が来場した公演ジャンルへの興味が高いが、来場した公演のジャンル以外にも、多様な芸術文化ジャンルへの興味を持っていることがうかがえる。

[性別]

・男性、女性ともに「小劇場・現代演劇」が最も高い(男性:65.7%、女性:54.1%)。男性では、「小劇場・現代演劇」に次いで「映画」(48.5%)、「寄席・演芸・お笑い・独演会等」(37.8%)と続く。一方女性は、「小劇場・現代演劇」に次いで「ミュージカル・商業演劇」(54.0%)「有名俳優の演劇」(51.4%)、となっている。

[年齢別]

・18歳未満以外のグループで「小劇場・現代演劇」の割合が最も高い。
・18歳未満は「ミュージカル・商業演劇」と「映画」の割合が最も高い。
・「小劇場・現代演劇」のほか、「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・商業演劇」、「映画」などの興味は幅広い年齢層で割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

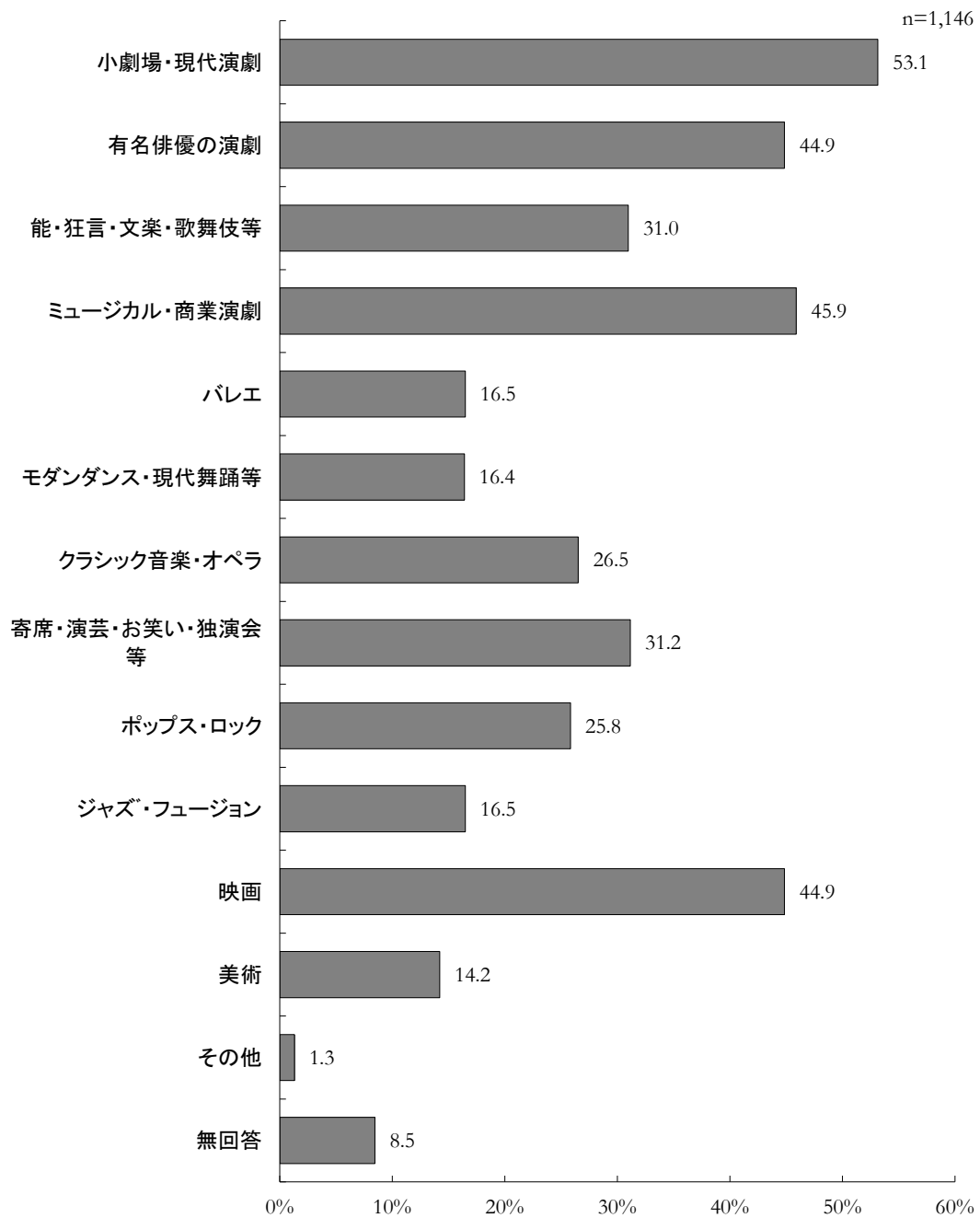
・加入している場合、「モダンダンス・現代舞踊等」以外のジャンルで未加入より回答割合が高く、特に、舞台芸術全般に関する興味の高さが顕著である。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど、「小劇場・現代演劇」、「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・商業演劇」への興味は顕著に高い。
・また、11回以上では、ほとんどすべての項目について回答割合が高く、舞台芸術以外でも、さまざまな文化・芸術に興味を持っていることがうかがえる。

[過去調査と比較して]

・過去調査結果と比較すると、「小劇場・現代演劇」の割合は年によって増減はあるものの、概ね増加傾向にある。一方、「ミュージカル・商業演劇」、「有名俳優の演劇」は概ね減少傾向にある。



Q10

(単位:%)

	調査数 (n)	Q10興味のあるジャンル										
		小劇場・現代演劇	有名俳優の演劇	能・狂言・文楽・歌舞伎等	ミュージカル・商業演劇	バレエ	モダンダンス・現代舞踊等	クラシック音楽・オペラ	寄席・演芸・お笑い・独演会等	ポップス・ロック	ジャズ・フュージョン	
全体	1146	53.1	44.9	31.0	45.9	16.5	16.4	26.5	31.2	25.8	16.5	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	54.7	46.2	31.4	47.0	15.6	14.9	26.3	31.9	26.0	16.5
	音楽劇	72	27.8	40.3	19.4	44.4	15.3	2.8	31.9	33.3	23.6	18.1
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	56.5	27.4	37.1	29.0	32.3	56.5	24.2	16.1	25.8	14.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	65.7	35.6	26.2	31.3	8.6	15.5	24.5	37.8	26.6	18.0
	女性	835	54.1	51.4	35.0	54.0	20.1	18.2	29.5	32.2	27.8	17.5
年齢層	18歳未満	61	54.1	52.5	27.9	62.3	19.7	16.4	31.1	32.8	24.6	18.0
	18～29歳	111	64.9	47.7	27.0	56.8	17.1	24.3	20.7	22.5	28.8	11.7
	30歳代	164	61.0	46.3	39.0	50.6	20.1	25.0	31.1	33.5	37.8	20.1
	40歳代	276	59.4	50.0	35.1	49.6	22.8	21.7	30.8	29.7	29.0	18.8
	50歳代	223	54.3	48.0	27.8	47.1	13.5	11.2	23.3	37.7	24.2	16.1
	60歳以上	169	46.7	45.0	36.7	40.2	12.4	10.7	33.1	40.8	20.1	20.1
チケット	加入	289	72.7	59.9	49.1	53.6	20.1	17.3	33.6	38.8	32.9	20.1
	未加入	752	51.2	43.8	27.1	47.6	16.6	17.7	26.9	31.5	26.3	16.9
鑑賞経験	今日が初めて	216	30.1	41.7	21.8	47.2	13.0	10.2	29.2	22.2	27.8	11.6
	1～2回	157	43.9	45.9	26.1	47.8	12.7	15.3	18.5	35.0	28.0	14.0
	3～5回	227	51.1	44.9	30.0	48.9	18.9	15.4	23.3	29.5	28.6	22.5
	6～10回	187	65.2	49.2	31.0	48.7	23.5	20.3	39.0	35.3	28.3	18.7
	11回以上	270	83.3	55.9	50.4	51.1	18.5	24.8	31.5	42.2	24.4	20.4

参考	13年度調査結果	1569	52.5	45.6	33.3	41.6	18.9	15.7	25.9	33.1	27.0	16.1
	12年度調査結果	1599	55.1	48.6	29.1	45.5	13.6	10.4	25.7	32.2	30.5	16.8
	11年度調査結果	1688	58.8	46.9	34.5	47.0	14.8	10.3	27.0	36.8	28.1	16.2
	10年度調査結果	2379	49.9	49.8	26.3	47.7	12.7	7.2	25.1	36.2	27.7	12.5
	09年度調査結果	1692	51.5	48.9	34.8	49.3	16.1	11.0	27.9	36.2	27.2	15.4
	08年度調査結果	1732	43.9	53.9	31.6	57.0	15.3	9.3	25.8	37.4	25.5	15.9
	07年度調査結果	3033	41.2	52.2	31.6	52.4	16.6	9.3	26.0	39.8	25.4	14.5
	06年度調査結果	2766	41.5	53.6	33.5	52.7	16.5	8.9	27.7	43.6	24.0	14.8
	05年度調査結果	3073	44.6	53.2	37.6	51.2	17.0	12.3	29.6	38.9	24.7	18.0
	04年度調査結果	4708	43.8	55.0	42.7	56.3	19.9	11.5	29.5	32.2	24.0	16.6
	03年度調査結果	4078	36.2	—	44.5	67.1	20.2	10.0	※	28.3	34.3	—

(単位:%)

	調査数 (n)	Q10興味のあるジャンル				
		映画	美術	その他	無回答	
全体	1146	44.9	14.2	1.3	8.5	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1012	46.5	15.1	1.4	8.5
	音楽劇	72	37.5	5.6	1.4	12.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	62	25.8	9.7	0.0	3.2
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	233	48.5	12.9	2.6	2.6
	女性	835	47.8	15.8	1.1	2.2
年齢層	18歳未満	61	62.3	16.4	1.6	3.3
	18～29歳	111	53.2	12.6	0.0	0.9
	30歳代	164	47.0	19.5	3.0	0.6
	40歳代	276	47.1	14.9	1.8	1.4
	50歳代	223	48.9	11.2	0.0	2.7
	60歳以上	169	42.0	14.2	2.4	4.7
チケット	加入	289	53.3	22.5	1.7	0.7
	未加入	752	46.7	12.8	1.2	2.4
鑑賞経験	今日が初めて	216	50.0	7.4	2.3	2.3
	1～2回	157	45.2	11.5	1.3	2.5
	3～5回	227	42.7	14.5	0.4	3.1
	6～10回	187	49.7	17.6	1.1	2.7
	11回以上	270	50.0	21.5	1.9	1.5

参考	13年度調査結果	1569	46.8	14.5	1.1	9.9
	12年度調査結果	1599	50.0	13.9	0.8	9.3
	11年度調査結果	1688	48.6	14.9	1.1	6.8
	10年度調査結果	2379	51.0	12.9	1.7	7.7
	09年度調査結果	1692	53.7	17.0	0.9	6.3
	08年度調査結果	1732	49.2	12.2	1.6	6.1
	07年度調査結果	3033	49.2	14.9	1.6	5.4
	06年度調査結果	2766	52.2	14.6	1.7	5.0
	05年度調査結果	3073	52.6	17.1	1.6	3.7
	04年度調査結果	4708	51.5	17.1	1.8	3.0
	03年度調査結果	4078	20.5	19.5	2.4	4.5

*03年度と04年度以降で一部ジャンルを変更。03年度は、「クラシック音楽」と「オペラ」は個別に尋ねている(35.5%、19.1%)

参考 | 調查票

お帰りの際にロビー備え付けの回収箱にお入れいただくか、後日、
郵送（下記住所宛）もしくはファックスにてご返送ください。

FAX 送付先：
093-562-2633

北九州芸術劇場 アンケート係 〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-11 TEL: 093-562-2620

本日は、北九州芸術劇場の公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様の声を今後の事業に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

すべての設問にご回答いただいた方々の中から抽選で、△△△△△の招待券をペアで5組・10名の方に差し上げます。なお、当選者の発表は当選通知の発送にかえさせていただきます。

Q 1 今日の公演は何でお知りになりましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 雑誌・タウン情報誌 (誌名: _____) | 2 新聞 (紙名: _____) |
| 3 TV・ラジオ | 4 北九州市 市政だより |
| 5 街中のチラシ・ポスター | 6 ダイレクトメール |
| 7 他の公演会場で配布されたチラシ | 8 インターネット・ホームページ |
| 9 友人・知人から聞いた | 10 出演者、公演関係者から聞いた |
| 11 ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭 | 12 その他 (具体的に _____) |

Q 2 今日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 出演者、出演団体が好きだから | 2 出演者、出演団体が有名だから |
| 3 公演内容が面白そうだったから | 4 劇場に来てみたかったから |
| 5 劇場が近くだったから | 6 出演者や関係者が知り合いだから |
| 7 人に誘われたから | 8 人に勧められたから |
| 9 その他 (具体的に _____) | |

Q 3 今日の公演や北九州芸術劇場についてあなたのご意見をお聞かせください。(〇は各項目ひとつずつ)

	1 たいへん 満足	2 まあ 満足	3 少し 不満足	4 まったく 不満足
(記入見本)	1	②	3	4
本日の公演内容	1	2	3	4
本日の公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
(北九州芸術劇場の) 電話予約やチケットカウンターでの応対	1	2	3	4
劇場係員の応対	1	2	3	4
劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ	1	2	3	4
劇場やロビーのデザイン、雰囲気	1	2	3	4
劇場ロビーの飲食サービス	1	2	3	4

Q 4 総合的にみて北九州芸術劇場に対するあなたのご意見をお聞かせください。(〇はひとつ)

- 1 たいへん満足している 2 まあ満足している 3 あまり満足していない 4 まったく満足していない

Q 5 北九州芸術劇場は次のような方針で運営しています。あなたのご意見をお聞かせください。

(〇は各項目ひとつだけ)

	1 ぜひやっ てほしい	2 まあやっ てほしい	3 あまり やる必要 はない	4 まったく やる必要 がない
観る 東京、大阪など舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い‘旬’の舞台作品を招きます	1	2	3	4
創る 劇場のオリジナル・プロデュースで本格的な舞台作品を創ります	1	2	3	4
育つ アーティストを小・中学校のクラスに派遣するなどの活動を通じて、地域に舞台芸術を愛する人が根づく土壌を作ります	1	2	3	4

Q6 今日の公演前に飲食やショッピングをされましたか。また公演後される予定ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ
「1 はい」とお答えになった方へ。だいたいいくらぐらい
お使いになりましたか。あるいはお使いになる予定ですか。
飲食とショッピングの別にご記入ください。

飲食 円ぐらい

ショッピング 円ぐらい

Q7 日頃、コンサートや演劇などの公演にどのくらいの頻度でお出かけになっていますか。(○はひとつだけ)

- 1 今日が初めて 2 ほとんど行かない 3 年に1~2回程度 4 年に3~4回程度
5 年に5~9回程度 6 月に1回程度 7 月に2回程度 8 月に3回以上

Q8 では、今までに北九州芸術劇場で何回ぐらい公演をご覧になりましたか。(○はひとつ)

- 1 今日が初めて 2 1~2回 3 3~5回 4 6~10回 5 11回以上

Q9 あなたは北九州芸術劇場のチケットクラブ会員ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ (→今後入会をお考えですか 1 はい 2 いいえ)

Q10 普段、興味をお持ちのジャンルに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 小劇場・現代演劇 2 有名俳優の演劇(「博多座」の公演など)
3 能・狂言・文楽・歌舞伎等 4 ミュージカル(四季含む)・宝塚歌劇
5 バレエ 6 モダンダンス、現代舞踊等
7 クラシック音楽・オペラ 8 寄席・演芸・お笑い・独演会など
9 ポップス・ロック 10 ジャズ・フュージョン
11 映画 12 美術 13 その他(具体的に_____)

Q11 お住まいのエリアをお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 北九州市 2 北九州市周辺(直方市、田川市、行橋市、中間市、宗像市、福津市、宮若市、遠賀郡等)
3 福岡市 4 福岡市周辺(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、前原市、糟屋郡等)
5 上記以外の福岡県内(具体的に_____)
6 福岡県以外の九州(具体的に_____)
7 下関市 8 下関市以外の山口県(具体的に_____)
9 その他(具体的に_____)

Q12 ご性別をお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 男性 2 女性

Q13 ご年齢をお答えください。

ご年齢 _____ 歳

Q14 最後に、今後、北九州芸術劇場で観てみたいアーティスト、劇団、作品、あるいは北九州芸術劇場へのご要望などについて自由にご記入ください。

※本日の座席番号 階 列 番

お名前とご連絡先のご記入をお願いします。(招待券の抽選への参加にはご記入が必要です。ご記入頂いた情報は、招待券の抽選・発送と劇場及び演劇関係者からのご案内の目的以外には一切使いません)

- お名前 _____ (フリガナ)
■ご住所 〒 _____
■Tel _____ ■E-mail _____

今後、北九州市芸術文化振興財団が主催する公演のご案内をお送りする場合がありますが、よろしいですか。

- 1 すでに届いている 2 はい(郵送で・E-mailで・両方で) 3 いいえ

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同、またのご来場を心よりお待ちしております。

II

貸館利用者 調査結果

序 利用者調査の実施要領

貸館利用者調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2014年度の貸館利用者(大ホール、中劇場、小劇場)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 配布件数:189件
- 回答数(回収率):135件(71.4%)

(2) 集計・分析にあたっての留意事項

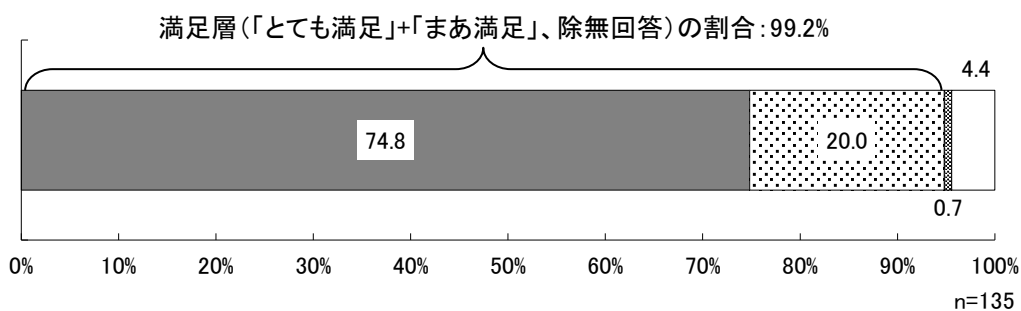
- 貸館利用者調査(「施設利用に関するアンケート調査」)は、2005年度から北九州芸術劇場が独自に開始し、2006年度からは北九州市の方針により、北九州芸術劇場、響ホール、門司市民会館、若松市民会館、八幡市民会館の5館で共通の調査票を用いた調査を実施することとなった。
- 調査票は、2005年度に北九州芸術劇場で実施した調査票に基づき、2006年度から5館共通の調査票を再設計している。そのため、共通の項目が多い一方、統合できない項目もある。
- 2009年度から、満足度項目のうち、運営・応対面に関する項目を若干変更している。また、「Q4:劇場を利用したきっかけ」を新たに設けている。

(3) 調査項目

- 劇場の使いごちに対する総合的な満足度
- 劇場の施設に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 劇場の運営や対応に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 施設を利用する際重視すること
- うち最も重視すること、2番目に重視すること
- 劇場を利用したきっかけ
- その他自由回答

利用者調査結果

・北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が74.8%(101件)、「まあ満足している」が20.0%(27件)であり、無回答を除いた満足層の割合は99.2%(128件)である。劇場利用者の満足度は大変高い。
 ・経年変化でみると、この6年間では「とても満足している」の割合はおよそ7割から8割の間を推移している。

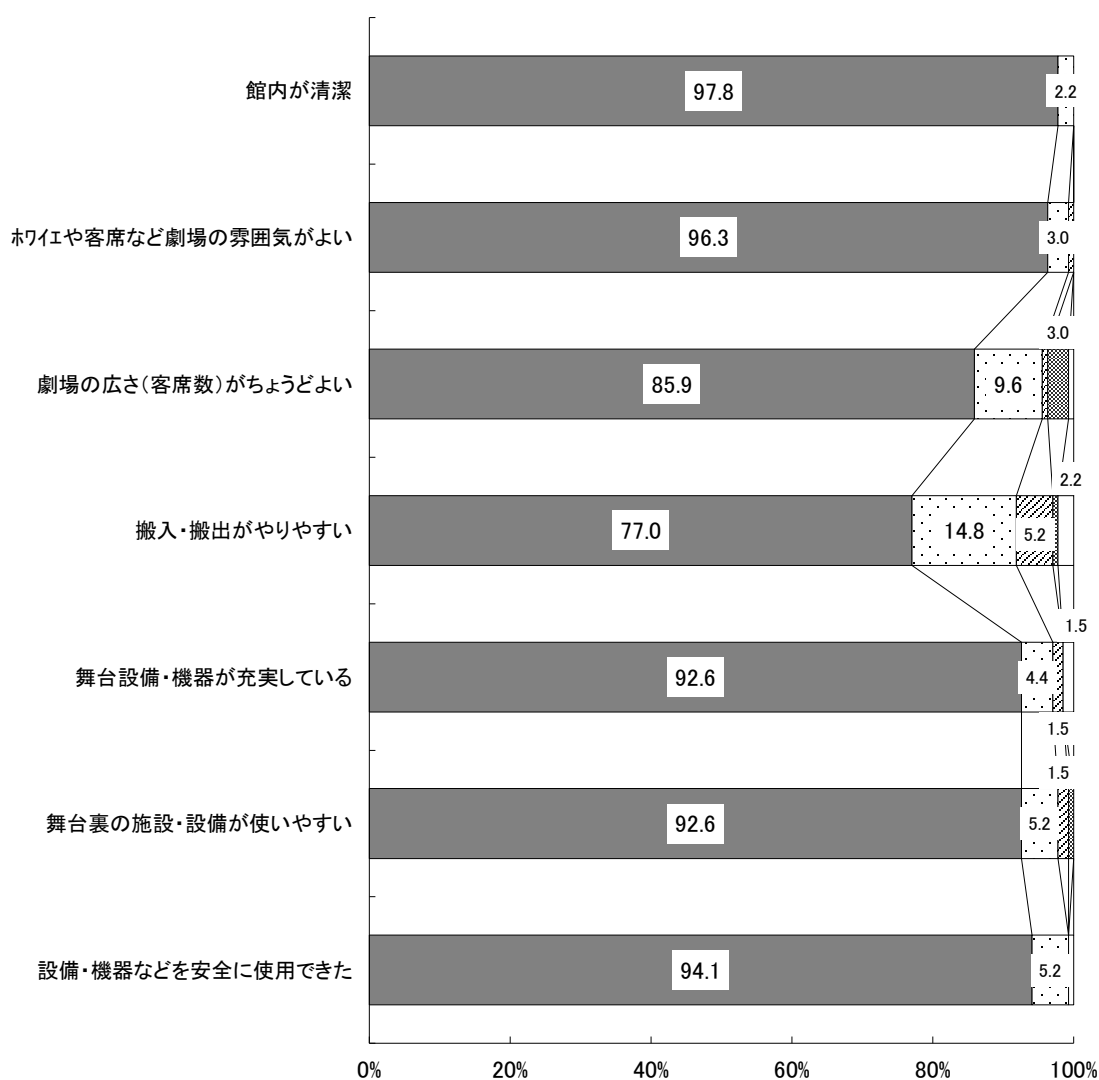


■とても満足している □まあ満足している ▨あまり満足していない □まったく満足していない □無回答

	調査数	Q1 使いごちに関する総合的な意見					満足層
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答	
14年度	135 100.0	101 74.8	27 20.0	1 0.7	0 0.0	6 4.4	128 99.2
13年度	152 100.0	115 75.7	33 21.7	1 0.7	0 0.0	3 2.0	
12年度	165 100.0	131 79.4	29 17.6	1 0.6	0 0.0	4 2.4	
11年度	163 100.0	120 73.6	36 22.1	1 0.6	0 0.0	6 3.7	
10年度	145 100.0	102 70.3	39 26.9	0 0.0	1 0.7	3 2.1	
09年度	149 100.0	113 75.8	31 20.8	2 1.3	0 0.0	3 2.0	

※ 回答母数が少ないので、回答件数と%を併記する。
 ※ 表の上段は件数、下段は%である。また、網掛け部分は、最も回答が多い項目である。
 ※ 集計表には、参考として09年度～12年度の各年度の数字を掲載している。

・劇場の施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「館内が清潔」、「設備・機器などを安全に使用できた」の2項目で100%となっており、他の5項目は、90%以上となっている。
 ・「はい」の割合をみると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席などの雰囲気が良い」、「舞台設備・機器が充実している」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」、「設備・機器などを安全に使用できた」の5項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い。
 ・開館以来、他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がやりやすい」だが、経年変化でみると、昨年度に比べて評価が若干高くなった(13年度:72.4% → 14年度:77.0%)。

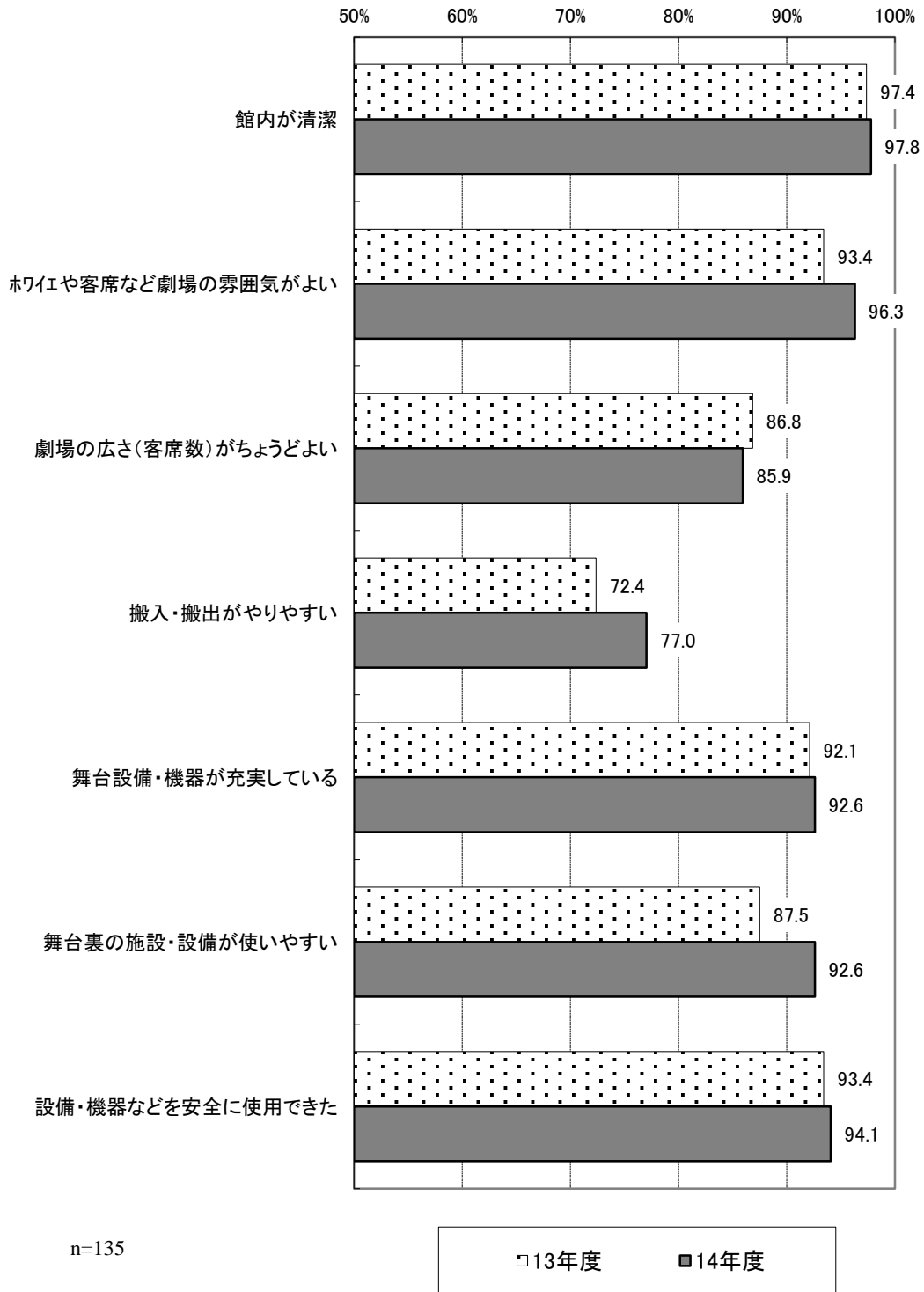


n=135

※グラフの見やすさを優先するため、1.0%未満の数値は省略している。

■「はい」 □「どちらかといえば『はい』」 ▨「どちらかといえば『いいえ』」 ▩「いいえ」 □無回答

【「はい」の割合比較 13年度・14年度】



【館内が清潔】

	調査数	Q2-施設① 館内が清潔				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	132 97.8	3 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	148 97.4	4 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
12年度	165 100.0	161 97.6	4 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11年度	163 100.0	159 97.5	4 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
10年度	145 100.0	142 97.9	3 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	143 96.0	6 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
135 100.0

※ 満足層は、「はい」+「どちらかといえははい」の割合。無回答を除く。

【ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい】

	調査数	Q2-施設② ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	130 96.3	4 3.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	142 93.4	9 5.9	1 0.7	0 0.0	0 0.0
12年度	165 100.0	160 97.0	5 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11年度	163 100.0	152 93.3	11 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
10年度	145 100.0	140 96.6	5 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	141 94.6	7 4.7	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層
134 99.3

【劇場の広さ(客席数)がちようどよい】

	調査数	Q2-施設③ 劇場の広さ(客席数)がちようどよい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	116 85.9	13 9.6	1 0.7	4 3.0	1 0.7
13年度	152 100.0	132 86.8	14 9.2	5 3.3	1 0.7	0 0.0
12年度	165 100.0	144 87.3	17 10.3	2 1.2	1 0.6	1 0.6
11年度	163 100.0	128 78.5	26 16.0	6 3.7	3 1.8	0 0.0
10年度	145 100.0	119 82.1	18 12.4	3 2.1	4 2.8	1 0.7
09年度	149 100.0	131 87.9	16 10.7	1 0.7	1 0.7	0 0.0

満足層
129 96.3

【搬入・搬出がやりやすい】

	調査数	Q2-施設④ 搬入・搬出がやりやすい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	104 77.0	20 14.8	7 5.2	1 0.7	3 2.2
13年度	152 100.0	110 72.4	37 24.3	4 2.6	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	126 76.4	29 17.6	6 3.6	1 0.6	3 1.8
11年度	163 100.0	126 77.3	24 14.7	8 4.9	2 1.2	3 1.8
10年度	145 100.0	100 69.0	32 22.1	9 6.2	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	111 74.5	23 15.4	9 6.0	3 2.0	3 2.0

満足層
124 93.9

【舞台設備・機器が充実している】

	調査数	Q2-施設⑤ 舞台設備・機器が充実している				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	125 92.6	6 4.4	2 1.5	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	140 92.1	11 7.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	150 90.9	13 7.9	0 0.0	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	151 92.6	11 6.7	0 0.0	0 0.0	1 0.6
10年度	145 100.0	128 88.3	15 10.3	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	144 96.6	3 2.0	1 0.7	0 0.0	1 0.7

満足層
131 98.5

【舞台裏の施設・設備が使いやすい】

	調査数	Q2-施設⑥ 舞台裏の施設・設備が使いやすい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	125 92.6	7 5.2	2 1.5	1 0.7	0 0.0
13年度	152 100.0	133 87.5	16 10.5	2 1.3	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	144 87.3	15 9.1	5 3.0	0 0.0	1 0.6
11年度	163 100.0	135 82.8	21 12.9	4 2.5	1 0.6	2 1.2
10年度	145 100.0	119 82.1	22 15.2	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	121 81.2	22 14.8	4 2.7	0 0.0	2 1.3

満足層
132 97.8

【設備・機器などを安全に使用できた】

	調査数	Q2-施設⑦ 設備・機器などを安全に使用できた				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	127 94.1	7 5.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
13年度	152 100.0	142 93.4	8 5.3	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	153 93.9	8 4.9	1 0.6	0 0.0	1 0.6
10年度	145 100	134 92.4	9 6.2	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	142 95.3	7 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
134 100.0

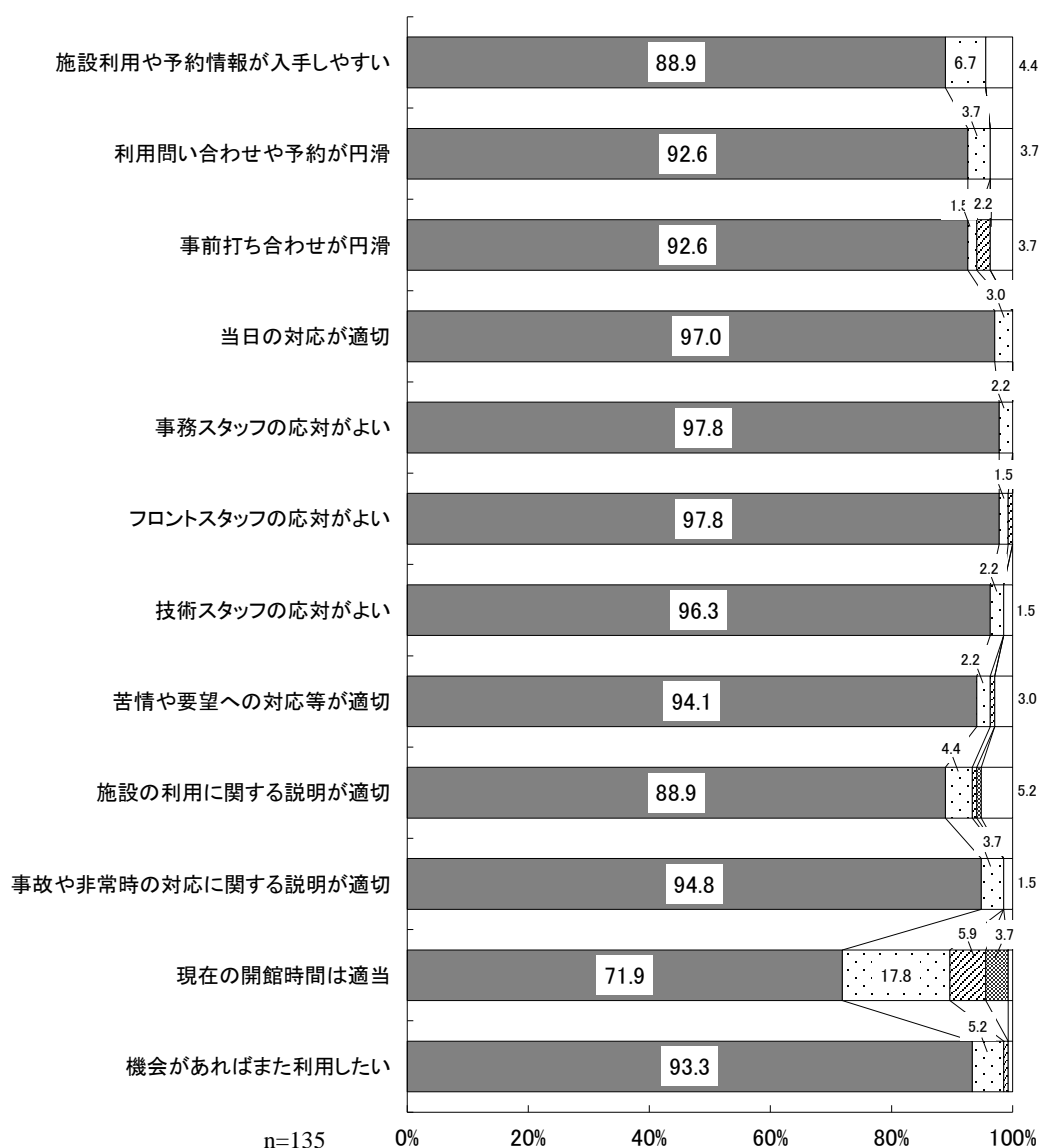
・劇場の運営や対応に関する12項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で95%以上となっている。

・また、「施設利用や予約情報が入手しやすい」、「施設の利用に関する説明が適切」、「現在の開館時間は適当」以外については、「はい」への回答割合が90%以上と高い評価となっている。特に、当日の対応や事務スタッフ・フロントスタッフの対応に関する項目に「はい」の回答が多い。

・「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「どちらかといえば『いいえ』」(5.9%・8件)、「いいえ」(3.7%・5件)の回答が多くなっている。

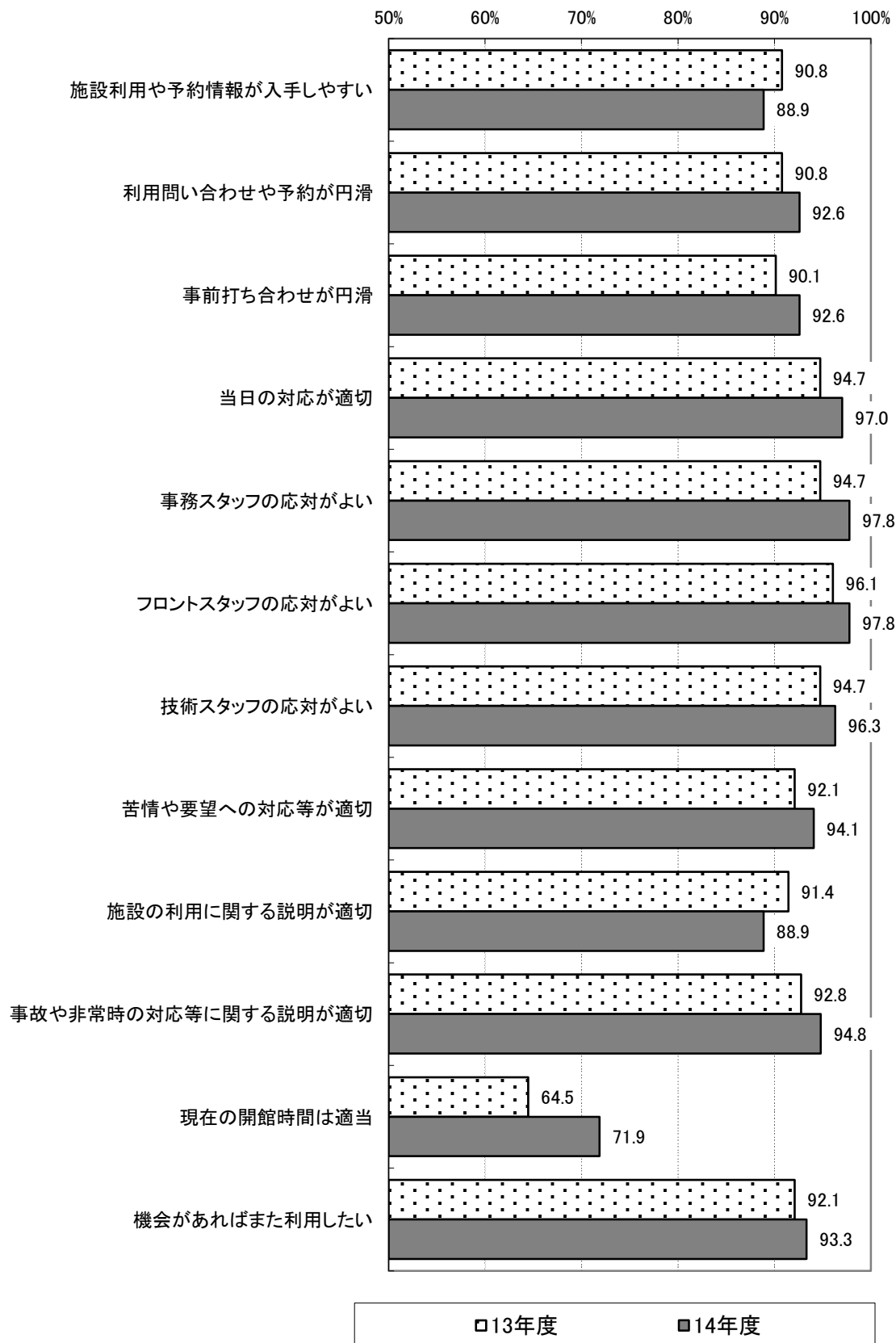
・14年度は、「利用問い合わせや予約が円滑」、「事前打ち合わせが円滑」、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」、「技術スタッフの対応がよい」、「苦情や要望への対応等が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」、「現在の開館時間は適当」の9項目で13年度に比べて「はい」への回答率が向上した。

・今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が93.3%(126件)となっている。



■「はい」 □「どちらかといえば『はい』」 ▨「どちらかといえば『いいえ』」 ▩「いいえ」 □無回答

【「はい」の割合比較 13年度・14年度】



【施設利用や予約情報が入手しやすい】

	調査数	Q2-運営・対応① 施設利用や予約情報が入手しやすい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	120 88.9	9 6.7	0 0.0	0 0.0	6 4.4
13年度	152 100.0	138 90.8	12 7.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	146 88.5	15 9.1	1 0.6	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	132 81.0	23 14.1	3 1.8	0 0.0	5 3.1
10年度	145 100.0	112 77.2	26 17.9	0 0.0	1 0.7	6 4.1
09年度	149 100.0	131 87.9	17 11.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層
129 100.0

【利用問い合わせや予約が円滑】

	調査数	Q2-運営・対応② 利用問合せや予約が円滑				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	125 92.6	5 3.7	0 0.0	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	138 90.8	11 7.2	0 0.0	0 0.0	3 2.0
12年度	165 100.0	155 93.9	4 2.4	1 0.6	0 0.0	5 3.0
11年度	163 100.0	140 85.9	13 8.0	4 2.5	0 0.0	6 3.7
10年度	145 100.0	122 84.1	13 9.0	1 0.7	2 1.4	7 4.8
09年度	149 100.0	136 91.3	10 6.7	1 0.7	0 0.0	2 1.3

満足層
130 100.0

【事前打ち合わせが円滑】

	調査数	Q2-運営・対応③ 事前打ち合わせが円滑				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	125 92.6	2 1.5	3 2.2	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	137 90.1	8 5.3	3 2.0	1 0.7	3 2.0
12年度	165 100.0	150 90.9	9 5.5	1 0.6	1 0.6	4 2.4
11年度	163 100.0	145 89.0	11 6.7	2 1.2	1 0.6	4 2.5
10年度	145 100.0	120 82.8	18 12.4	2 1.4	3 2.1	2 1.4
09年度	149 100.0	129 86.6	13 8.7	5 3.4	0 0.0	2 1.3

満足層
127 97.7

【当日の対応が適切】

	調査数	Q2-運営・対応④ 当日の対応が適切					満足層
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答	
14年度	135 100.0	131 97.0	4 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	135 100.0
13年度	152 100.0	144 94.7	5 3.3	1 0.7	0 0.0	2 1.3	
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	1 0.6	2 1.2	
11年度	163 100.0	149 91.4	9 5.5	2 1.2	0 0.0	3 1.8	
10年度	145 100.0	135 93.1	7 4.8	0 0.0	2 1.4	1 0.7	
09年度	149 100.0	138 92.6	10 6.7	0 0.0	0 0.0	1 0.7	

【事務スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑤ 事務スタッフの対応がよい					満足層
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答	
14年度	135 100.0	132 97.8	3 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	135 100.0
13年度	152 100.0	144 94.7	6 3.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3	
12年度	165 100.0	156 94.5	7 4.2	0 0.0	0 0.0	2 1.2	
11年度	163 100.0	153 93.9	7 4.3	1 0.6	0 0.0	2 1.2	
10年度	145 100.0	137 94.5	6 4.1	0 0.0	2 1.4	0 0.0	
09年度	149 100.0	143 96.0	5 3.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0	

【フロントスタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑥ フロントスタッフの対応がよい					満足層
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答	
14年度	135 100.0	132 97.8	2 1.5	1 0.7	0 0.0	0 0.0	134 99.3
13年度	152 100.0	146 96.1	5 3.3	0 0.0	0 0.0	1 0.7	
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	0 0.0	3 1.8	
11年度	163 100.0	147 90.2	11 6.7	0 0.0	0 0.0	5 3.1	
10年度	145 100.0	132 91.0	11 7.6	0 0.0	2 1.4	0 0.0	
09年度	149 100.0	136 91.3	8 5.4	2 1.3	0 0.0	3 2.0	

【技術スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑦ 技術スタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	130 96.3	3 2.2	0 0.0	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	144 94.7	6 3.9	0 0.0	1 0.7	1 0.7
12年度	165 100.0	153 92.7	8 4.8	0 0.0	1 0.6	3 1.8
11年度	163 100.0	145 89.0	13 8.0	1 0.6	0 0.0	4 2.5
10年度	145 100.0	127 87.6	10 6.9	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層
133 100.0

【苦情や要望への対応等が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑧ 苦情や要望への対応が適切				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	127 94.1	3 2.2	1 0.7	0 0.0	4 3.0
13年度	152 100.0	140 92.1	8 5.3	1 0.7	0 0.0	3 2.0
12年度	165 100.0	155 93.9	5 3.0	1 0.6	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	143 87.7	13 8.0	1 0.6	0 0.0	6 3.7
10年度	145 100.0	128 88.3	13 9.0	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	131 87.9	14 9.4	1 0.7	0 0.0	3 2.0

満足層
130 99.2

【施設の利用に関する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑨ 施設の利用に関する説明が適切				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	120 88.9	6 4.4	1 0.7	1 0.7	7 5.2
13年度	152 100.0	139 91.4	9 5.9	0 0.0	0 0.0	4 2.6
12年度	165 100.0	152 92.1	7 4.2	0 0.0	0 0.0	6 3.6
11年度	163 100.0	144 88.3	10 6.1	2 1.2	0 0.0	7 4.3
10年度	145 100.0	120 82.8	16 11.0	4 2.8	0 0.0	5 3.4
09年度	149 100.0	128 85.9	17 11.4	2 1.3	0 0.0	2 1.3

満足層
126 98.4

【事故や非常時の対応等に対する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑩ 事故や非常時の対応等に対する説明が適切				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	128 94.8	5 3.7	0 0.0	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	141 92.8	9 5.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	154 93.3	6 3.6	1 0.6	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	143 87.7	13 8.0	4 2.5	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100.0	124 85.5	16 11.0	1 0.7	0 0.0	4 2.8
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層
133 100.0

【現在の開館時間は適当】

	調査数	Q2-運営・対応⑪ 現在の開館時間は適当				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	97 71.9	24 17.8	8 5.9	5 3.7	1 0.7
13年度	152 100.0	98 64.5	34 22.4	13 8.6	5 3.3	2 1.3
12年度	165 100.0	115 69.7	29 17.6	9 5.5	5 3.0	7 4.2
11年度	163 100.0	101 62.0	32 19.6	21 12.9	6 3.7	3 1.8
10年度	145 100	86 59.3	28 19.3	21 14.5	7 4.8	3 2.1
09年度	149 100.0	86 57.7	37 24.8	16 10.7	7 4.7	3 2.0

満足層
121 90.3

【機会があればまた利用したい】

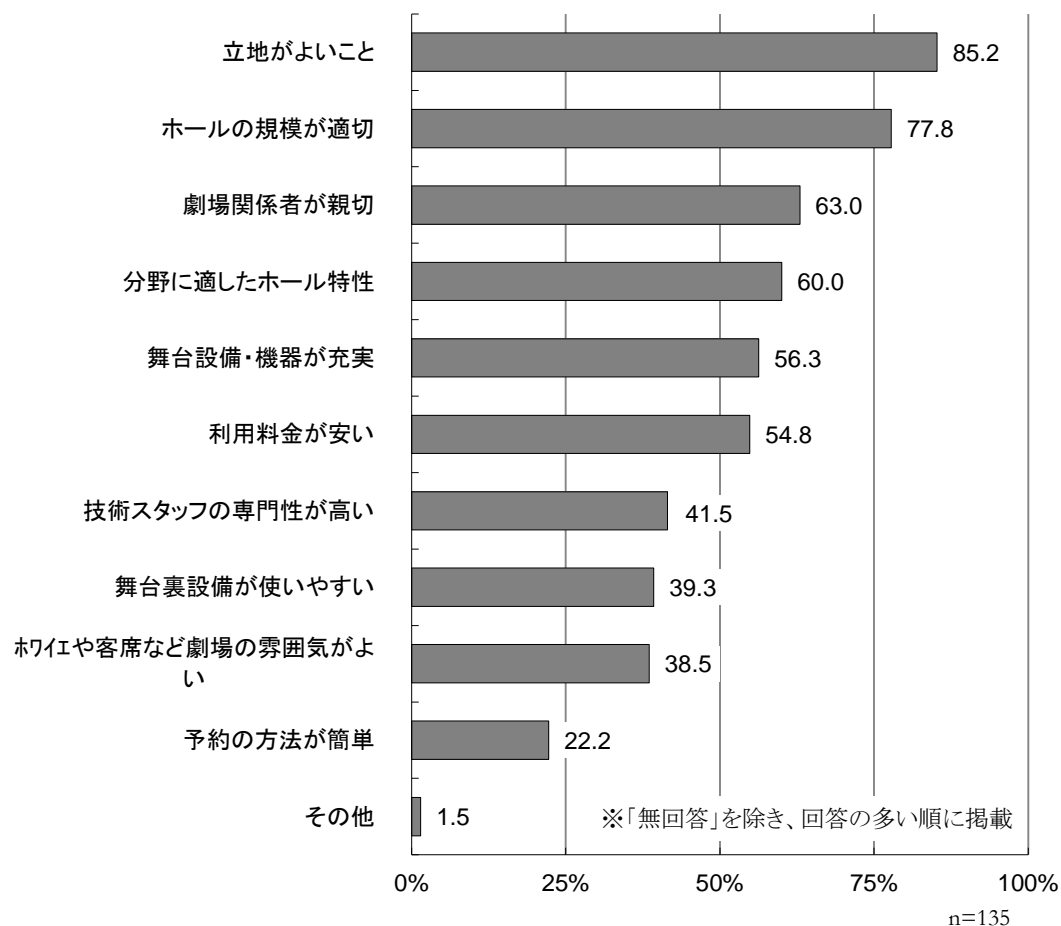
	調査数	Q2 機会があればまた利用したい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
14年度	135 100.0	126 93.3	7 5.2	1 0.7	0 0.0	1 0.7
13年度	152 100.0	140 92.1	11 7.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	155 93.9	6 3.6	2 1.2	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	148 90.8	10 6.1	2 1.2	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100	120 82.8	17 11.7	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層
133 99.3

(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

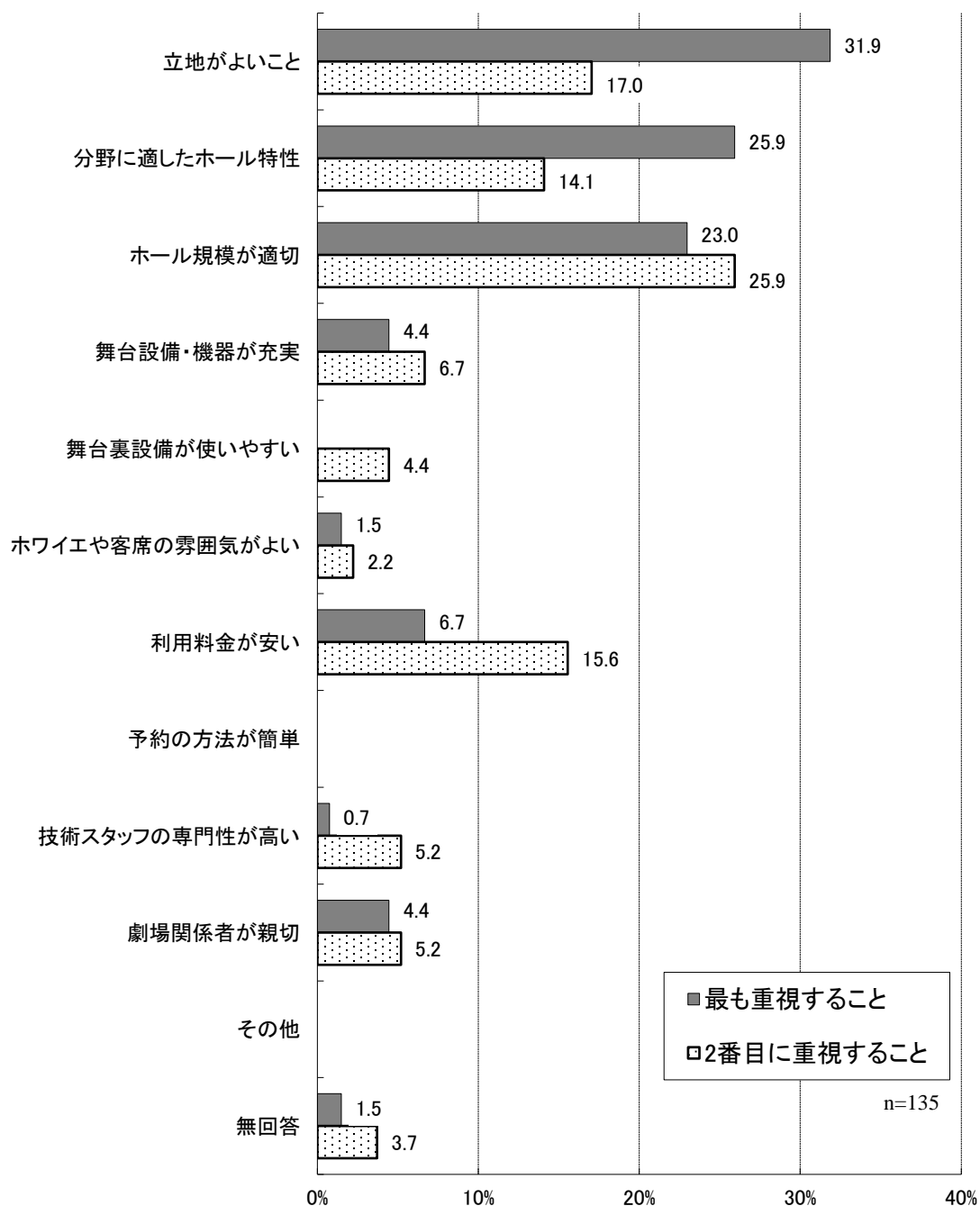
・施設を利用する際重視することとして最も回答が多いのは、「立地がよいこと」(85.2%・115件)、次いで「ホールの規模が適切」(77.8%・105件)となっている。
 ・次いで、「劇場関係者が親切」と「分野に適したホール特性」が60%台、「舞台設備・機器が充実」と「利用料金が安い」が50%台となっており、施設面だけでなく、人や運営面を重視する声も挙がっている。



	調査数	Q3 施設利用の際、重視すること											無回答
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	舞台裏設備が使いやすい	劇場の雰囲気がよい	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	
14年度	135	115 85.2	81 60.0	105 77.8	76 56.3	53 39.3	52 38.5	74 54.8	30 22.2	56 41.5	85 63.0	2 1.5	2 1.5
13年度	152	132 86.8	83 54.6	117 77.0	76 50.0	64 42.1	47 30.9	85 55.9	31 20.4	60 39.5	88 57.9	8 5.3	1 0.7
12年度	165	140 84.8	115 69.7	138 83.6	99 60.0	74 44.8	70 42.4	87 52.7	27 16.4	64 38.8	98 59.4	6 3.6	1 0.6
11年度	163	139 85.3	95 58.3	130 79.8	91 55.8	68 41.7	73 44.8	79 48.5	28 17.2	55 33.7	85 52.1	6 3.7	2 1.2
10年度	145	120 82.8	71 49.0	110 75.9	76 52.4	48 33.1	42 29.0	78 53.8	26 17.9	52 35.9	68 46.9	2 1.4	3 2.1
09年度	149	129 86.6	89 59.7	127 85.2	89 59.7	51 34.2	54 36.2	84 56.4	32 21.5	60 40.3	87 58.4	0 0.0	1 0.7

施設を利用する際に最も重視することは「立地がよいこと」(31.9%・43件)が最も多く、次いで「分野に適したホール特性」(25.9%・35件)、「ホールの規模が適切」(23.0%・31件)と続いており、その他の項目は10%未満である。

・2番目に重視することは、「ホールの規模が適切」(25.9%・35件)が最も多く、次いで「立地がよいこと」(17.0%・23件)「利用料金が安い」(15.6%・21件)、となっている。「ホールの規模が適切」と「利用料金が安い」は、最も重視する割合よりも2番目に重視する割合が高い。



※ Q3・SQ1は回答が一つ(シングル・アンサー)のため、本来であれば帯グラフでの表示が適当であるが、選択肢の数が多いため、見やすさから棒グラフを用いた。

【最も重視すること】

	調査数	Q3 SQ1-① 最も重視すること											
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	楽屋等舞台裏設備が使いやすい	劇場の雰囲気がよい	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	無回答
14年度	135 100.0	43 31.9	35 25.9	31 23.0	6 4.4	0 0.0	2 1.5	9 6.7	0 0.0	1 0.7	6 4.4	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	45 29.6	40 26.3	41 27.0	2 1.3	1 0.7	1 0.7	10 6.6	0 0.0	1 0.7	5 3.3	4 2.6	2 1.3
12年度	165 100.0	49 29.7	48 29.1	42 25.5	6 3.6	0 0.0	1 0.6	8 4.8	0 0.0	3 1.8	6 3.6	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	46 28.2	37 22.7	44 27.0	8 4.9	1 0.6	1 0.6	12 7.4	0 0.0	2 1.2	7 4.3	2 1.2	3 1.8
10年度	145 100.0	46 31.7	30 20.7	42 29.0	7 4.8	1 0.7	1 0.7	10 6.9	0 0.0	0 0.0	4 2.8	1 0.7	3 2.1
09年度	149 100.0	38 25.5	34 22.8	51 34.2	4 2.7	0 0.0	2 1.3	11 7.4	0 0.0	2 1.3	5 3.4	1 0.7	1 0.7

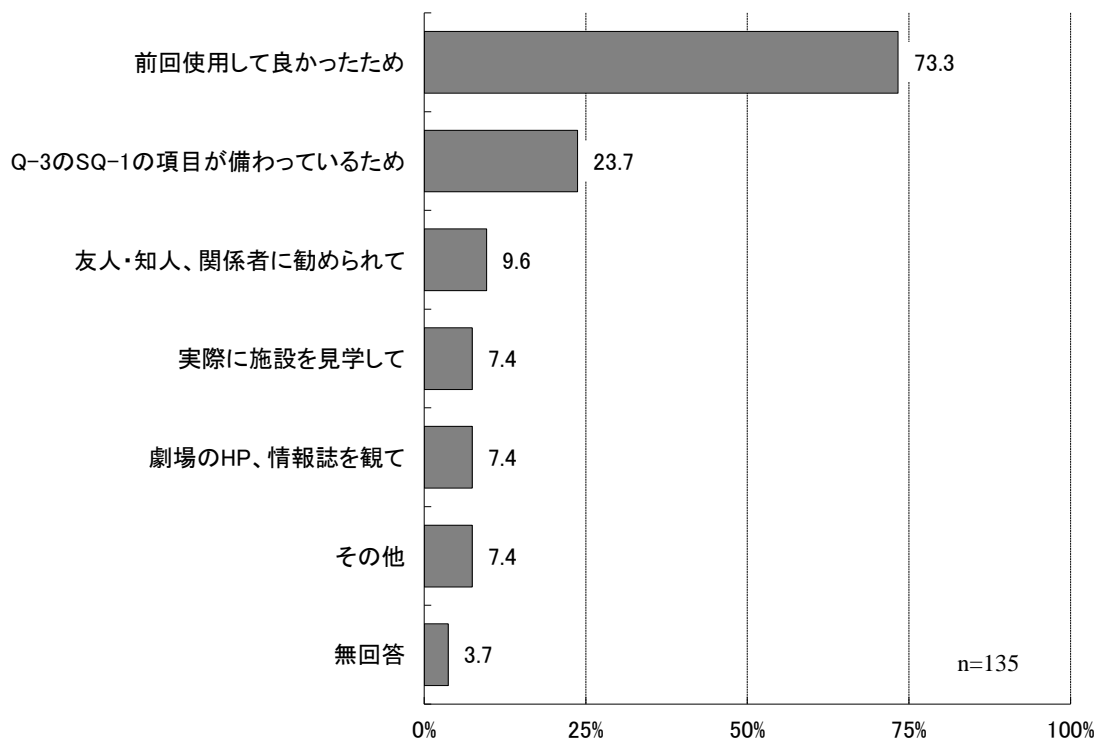
【2番目に重視すること】

	調査数	Q3 SQ1-② 2番目に重視すること											
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	舞台裏設備が使いやすい	ホワイエや客席の雰囲気がよい	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	無回答
14年度	135 100.0	23 17.0	19 14.1	35 25.9	9 6.7	6 4.4	3 2.2	21 15.6	0 0.0	7 5.2	7 5.2	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	29 19.1	17 11.2	34 22.4	16 10.5	2 1.3	5 3.3	30 19.7	1 0.7	5 3.3	8 5.3	2 1.3	3 2.0
12年度	165 100.0	31 18.8	16 9.7	39 23.6	16 9.7	9 5.5	9 5.5	24 14.5	0 0.0	7 4.2	10 6.1	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	39 23.9	16 9.8	33 20.2	17 10.4	6 3.7	8 4.9	30 18.4	0 0.0	4 2.5	6 3.7	0 0.0	4 2.5
10年度	145 100.0	31 21.4	13 9.0	28 19.3	12 8.3	5 3.4	5 3.4	23 15.9	1 0.7	5 3.4	14 9.7	1 0.7	7 4.8
09年度	149 100.0	44 29.5	17 11.4	33 22.1	21 14.1	2 1.3	4 2.7	13 8.7	2 1.3	6 4.0	6 4.0	0 0.0	1 0.7

(5) 劇場を利用したきっかけ

Q4

・劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、73.3%(99件)を占めている。劇場への満足度が高いこと、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。
 ・次いで、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」(23.7%・32件)となっており、「立地がよいこと」、「ホールが適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっていると考えられる。



	調査数	Q4 劇場を利用したきっかけ						
		劇場のHP、情報誌を観て	友人・知人、関係者に勧められて	実際に施設を見学して	前回使用して良かったため	Q-3のSQ-1の項目	その他	無回答
14年度	135 100.0	10 7.4	13 9.6	10 7.4	99 73.3	32 23.7	10 7.4	5 3.7
13年度	152 100.0	16 10.5	22 14.5	17 11.2	109 71.7	35 23.0	15 9.9	2 1.3
12年度	165 100.0	24 14.5	14 8.5	24 14.5	116 70.3	43 26.1	6 3.6	4 2.4
11年度	163 100.0	21 12.9	20 12.3	20 12.3	100 61.3	37 22.7	10 6.1	9 5.5
10年度	145 100.0	23 15.9	17 11.7	18 12.4	85 58.6	28 19.3	8 5.5	9 6.2
09年度	149 100.0	18 12.1	24 16.1	23 15.4	85 57.0	45 30.2	10 6.7	2 1.3

参考 | 利用者調査 調査票

施設利用に関するアンケート調査（ホール用）

このたびは、北九州芸術劇場をご利用いただきありがとうございます。皆様の声を今後の運営に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本アンケートへの個別のご回答内容が公表されることはありませんので、忌憚ないご意見をお聞かせください。

ご回答は後日ファックスでも受け付けております。

（北九州芸術劇場） TEL093-562-2655/ FAX

Q-1 今回ご利用されて、北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的なご意見はいかがですか。

（〇は1つ）

1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

（「まったく満足していない」とご回答された方へ） 具体的なお意見をお聞かせください

Q-2 本日もご利用されての北九州芸術劇場に関するご意見をお聞かせください。それぞれの項目について、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の4つの回答から、あなたのお考えに一番近いものに〇をつけてください。（〇は各項目1つずつ）

（施設について）

項目	はい	どちらかといえば、 <u>はい</u>	どちらかといえば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、その理由をご記入ください
1 館内は清潔に保たれていましたか。	1	2	3	4	
2 ホワイエや客席など雰囲気がよかったですか。	1	2	3	4	
3 広さ（客席数等）はちょうどよかったですか。	1	2	3	4	
4 搬入・搬出がやりやすかったですか。	1	2	3	4	

項目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
5 舞台設備・機器は充実して いましたか。	1	2	3	4	
6 楽屋、休憩室など舞台裏の 施設・設備が使いやすかつ たですか。	1	2	3	4	
7 設備・機器を使用する際、 安全に使用できましたか。	1	2	3	4	

(運営・対応について)

項目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 施設利用や予約に関する情報 は入手しやすかったですか。	1	2	3	4	
2 利用問い合わせや予約・受 付は円滑でしたか。	1	2	3	4	
3 事前打合わせは円滑でし たか。	1	2	3	4	
4 当日の対応は適切でした か。	1	2	3	4	
5 事務スタッフの対応はよか ったですか。	1	2	3	4	
6 フロントスタッフの対応は よかったですか。	1	2	3	4	
7 技術スタッフの対応はよか ったですか（技術的な助言 や援助は適切でしたか）。	1	2	3	4	
8 苦情や要望への対応は適切 でしたか。	1	2	3	4	
9 設備、料金、使用時間等施 設の利用に関する説明は適 切でしたか。	1	2	3	4	
10 事故防止や非常時の対応等 に関する説明は適切でした か。	1	2	3	4	
11 現在の開館時間（午前10 時～午後10時）は適当で あると思いますか。	1	2	3	4	
12 次回利用する機会があれ ば、また利用したいと思いますか。	1	2	3	4	

Q-3 施設を利用する際、重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 立地がよいこと
2. 公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること
3. ホールの規模(客席数)が適切であること
4. 舞台設備・機器が充実していること
5. 楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと
6. ホワイエや客席などの雰囲気が良いこと
7. 利用料金が安いこと
8. 予約の方法が簡単なこと
9. 技術スタッフの専門性が高いこと
10. スタッフが親切なこと
11. その他(具体的に: _____)

SQ-1 上記10項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することは何ですか。

最も重視
すること 2番目に重視
すること

Q-4 北九州芸術劇場をご利用いただいたきっかけ及び理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 劇場のホームページ、情報誌(チラシなどを含む)を見て
2. 友人・知人、その他関係者に勧められて
3. 実際に施設を見学して
4. 前回使用して良かったため
5. 上記Q-3のSQ-1の項目が備わっているため
6. その他(具体的に: _____)

Q-5 北九州芸術劇場を利用するに当たって、良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、ご意見をお聞かせください。

また、ご利用回数が2回以上の方で前回のご利用と比べ良くなったと感じた点、改善されていないと感じた点についても、ご意見をお聞かせください。

◎ 差し支えなければ、ご記入ください。

①貴団体名(個人の場合はお名前)	
②ご記入者の所属・ご担当業務	
③ご利用日時	年 月 日() ~ 月 日()
④ご利用施設	大ホール・中劇場・小劇場
④北九州芸術劇場の利用回数	1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上 (いずれか1つに〇)

ご協力ありがとうございました。

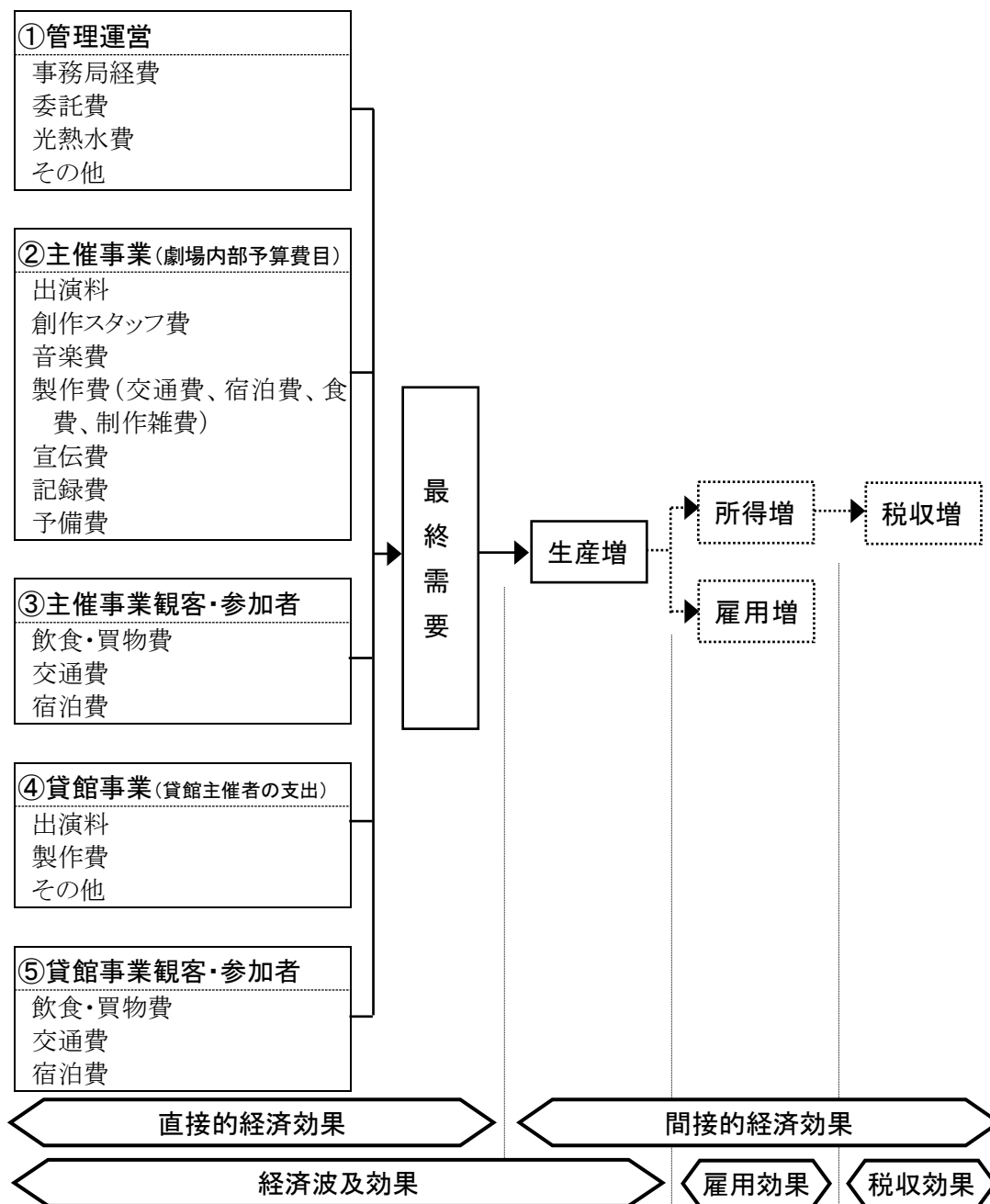
III

經濟波及效果

1. 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果の基本構造

- 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果としては、図表-資Ⅲ-1に整理したように5種類の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらからもたらされる所得増、雇用増、税収増などが考えられる。
- 経済波及効果としてどこまでを含めるかについては、ケースバイケースであるが、今回の調査でも、基礎的な経済波及効果として、産業連関表に基づいた生産増に加え、福岡県の雇用表を用いて雇用効果まで試算することとした。

図表-資Ⅲ-1 北九州芸術劇場における経済波及効果の基本構造



- 前記の5種類の支出は、劇場の運営や事業に伴うもの(①、②、④)と、観客の消費支出に伴うもの(③、⑤)に分けられるが、経済波及効果も、それぞれ、劇場の運営や事業の実施に伴う波及効果、観客の消費支出に伴う波及効果、に分けられる。

- 産業連関表に基づいて、経済波及効果を把握するためには、運営や事業に伴う支出、観客の消費支出を、産業連関表の産業分類に分類し直す必要がある。
- 産業連関表の部門別の定義や範囲と、劇場の支出内容、観客の消費支出の内容を照らし合わせて、図表-資Ⅲ-2の対応表を作成した。

図表-資Ⅲ-2 産業連関表(平成17年度・34部門)と劇場における支出費目の関係

産業部門名	劇場運営・事業に伴う最終需要				
	管理運営	主催事業	主催事業観客	貸館事業	貸館事業観客
1 農林水産業					
2 鉱業					
3 飲食料品					
4 繊維製品					
5 パルプ・紙・木製品					
6 化学製品					
7 石油・石炭製品					
8 窯業・土石製品					
9 鉄鋼					
10 非鉄金属					
11 金属製品					
12 一般機械					
13 電気機械					
14 情報・通信機器					
15 電子部品					
16 輸送機械					
17 精密機械					
18 その他の製造工業製品	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷
19 建設					
20 電力・ガス・熱供給	光熱費 (電力・ガス)				
21 水道・廃棄物処理	上下水道費				
22 商業	物品購入 (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)
23 金融・保険	保険料	保険料		保険料	
24 不動産					
25 運輸	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費
26 通信・放送	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費
27 公務					
28 教育・研究					
29 医療・保健・社会保障					
30 その他の公共サービス					
31 対事業所サービス	広告(TV・ラジオ、 新聞・雑誌等) 事務用品貸貸 委託(清掃・警 備、舞台技術ス タッフ)	広告(TV・ラジオ、 新聞・雑誌等) 委託(公演、舞台 技術スタッフ・フロント スタッフ)		広告(TV・ラジ オ、新聞・雑誌等)	
32 対個人サービス	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	出演者・講師等 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	劇団等(興行団) 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)
33 事務用品	事務用品	事務用品		事務用品	
34 分類不明					

注) 括弧内は産業連関表における産業分類名

2. 劇場運営に伴う最終需要と観客の消費支出

(1) 管理運営に伴う最終需要

- まず、北九州芸術劇場の管理運営に伴う支出を、費目別に整理したものが下表である。舞台技術スタッフの委託料など、対事業所サービス部門への支出が最も大きく、次いで、電力・ガス・熱供給部門への支出が大きいことがわかる。

図表-資Ⅲ-3 管理運営に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
18 その他の製造工業製品	印刷製本費	1,863	200	2,063	
20 電力・ガス・熱供給	光熱水料費	178,458	0	178,458	電気・ガス
21 水道・廃棄物処理	光熱水料費	8,216	0	8,216	
22 商業	消耗品費	0	0	0	
23 金融・保険	保険料	5,175	652	5,827	
25 運輸	旅費交通費	2,258	785	3,043	交通費
	通信運搬費	441	0	441	宅配便
26 通信・放送	雑費・通信運搬費・支払負担金	2,848	3,162	6,010	郵便・電話等
31 対事業所サービス	広告宣伝費	16,038	2,527	18,565	
	委託費(舞台技術)	93,818	41,765	135,583	
	支払負担金(警備)	20,863	0	20,863	
	支払負担金(清掃)	39,757	0	39,757	
	その他	216,763	26,774	243,537	
32 対個人サービス	ケータリング費	34	200	234	
	旅費交通費	0	12	12	宿泊費
33 事務用品	消耗品費他	8,830	312	9,142	
計		595,362	76,389	671,751	

- なお、北九州市外への支出については、北九州市の産業連関表を活用することは不適切であるため、支出額は北九州市内と市外に分けて算出した(以降の項目も同様)。
- 北九州芸術劇場の管理運営に伴う最終需要は約6億7,175万円で、うち88.6%(約5億9,536万円)が市内への支出となっている。

(2) 主催事業における最終需要

- 同様に、北九州芸術劇場の主催事業の実施に伴う支出を費目別に整理したものが、図表-資Ⅲ-4である。
- 主催事業では、スタッフ経費などの対事業所サービス、北九州までの交通費などの運輸、出演料などの対個人サービスへの支出が大きい。対個人サービスでは、出演料などにかかる委託費(年間約1,284万円)が最も大きく、次いで、北九州市に滞在する出演者や関係者の招聘旅費交通費(年間約881万円)、諸謝金(約439万円)、ケータリング費(約395万円)などとあわせると、約1,084万円が北九州市内で使われた計算となる。
- 主催事業の実施に伴う最終需要額は、約1億7,906万円、うち34.6%(約6,193万円)が市内への支出となっている。

図表-資Ⅲ-4 主催事業の実施に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考	
		北九州市内	市外	合計		
18	その他の製造工業製品	印刷製本費	7,517	1,299	8,816	チラシ・ポスター
20	電力・ガス・熱供給	光熱水料費	0	0	0	
21	水道・廃棄物処理	光熱水料費	0	56	56	廃棄物処理
23	金融・保険	保険料	2	195	197	
25	運輸	招聘旅費交通費・旅費交通費	13,908	2,138	16,046	交通費
		委託費	208	901	1,109	運搬
		通信運搬費	380	17	397	宅配便
26	通信・放送	通信運搬費	2,587	0	2,587	郵便・電話等
31	対事業所サービス	委託費(舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)	14,715	391	15,106	
		委託費(公演料・出演料・講師料)	54	84,135	84,189	
		委託費(調律)	205	57	262	ピアノ調律
		委託費(広告宣伝)	3,121	232	3,353	
		委託費(デザイン費)	394	316	710	
		その他	5,692	5,065	10,757	著作権使用料・賃借料等の他
		32	対個人サービス	委託費(出演料)	2,642	10,201
諸謝金(講師・スタッフ謝金)	1,541	2,845		4,386		
委託費(撮影・映像編集)	100	1,448		1,548		
招聘旅費交通費・旅費交通費	3,336	5,473		8,809	宿泊費	
ケータリング費	2,363	1,586		3,949	食費	
その他	861	0		861	委託費・その他	
33	事務用品	消耗品費・消耗什器備品費		2,307	772	3,079
計			61,933	117,127	179,060	

(3) 主催事業の観客の消費支出

- 次に、主催事業の観客の消費支出の試算を行った(図表-資Ⅲ-5)。
- 14年度の観客アンケートの調査結果を見ると、回答者数全体の1,146人のうち、49.7%の人が公演の前後に飲食もしくはショッピングをしたと回答しており、これを飲食、ショッピングの別に整理すると、飲食金額の回答者数488人から、飲食をした人の割合は42.6%、一人あたりの平均金額は1,731円となっている。また、ショッピング金額の回答者数213人から、ショッピングした人の割合は18.6%、一人あたりの平均金額は6,098円となっている。観劇前後の消費行動としては、飲食をする人の割合の方が高いが、消費単価はショッピングが飲食の3倍を超えている。
- 主催事業のうち、創造事業、公演事業、提携事業、演劇フェスティバルなどの北九州市内(北九州芸術劇場)での公演の入場者(14年度の公演事業の入場者数の計3万6,059人と北九州芸術劇場以外の入場者数684人の差)は3万5,375人であることから、観劇に伴う飲食の支出額は約2,608万円、ショッピングの支出額は約4,010万円、計6,617万円と推計される。なお、14年度は、入場者数が13年度に比べて減少したものの、飲食とショッピングの平均単価は増加したことから、北九州市内での観客消費支出は増加している(13年度:約6,655万円)。
- 同様に、北九州市以外での公演についても、「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶

の会』の東京公演(684人)が同様の支出をしたと仮定すると、飲食の支出額は約50万円、ショッピングの支出額は約78万円、計128万円と推計される。北九州市以外の入場者数が13年度に比べて減少したものの、飲食とショッピングの平均単価は増加したことから、北九州市以外での観客の消費支出はほぼ横ばいとなっている(13年度:約129万円)。

図表-資Ⅲ-5 観劇前後の消費行動と消費支出

	飲食	ショッピング
アンケートでの金額の回答者数(人)	488	213
消費行動の割合	42.6%	18.6%
一人あたりの平均金額(円)	1,731.2	6,098.2

	観客数 (人)	合計支出額(千円)		
		飲食	ショッピング	合計
北九州市内での公演	35,375	26,078	40,095	66,174
北九州市外での公演	684	504	775	1,280
合計	36,059	26,583	40,871	67,453

注)上記の表中の数値は、実数に基づく計算結果を転載したものである。消費行動の割合と一人あたりの平均金額は小数点第2位以下を四捨五入しているため、表中の数値を再計算したものと、合計支出額が異なる箇所がある(以下、いずれの表にも共通)。

- 交通費については、同じく観客アンケート調査の居住地のデータから、平均的な往復の交通費を設定し、推計を行った。その際の前提条件は昨年度調査と同様、以下のとおりとした。
 - 北九州市内の居住者の交通費については、バス・JRとも片道300円と想定し、九州内の居住者の交通費については、居住地別に最寄り駅から小倉駅までのJR運賃(特急利用、新幹線利用なし)で試算した。
 - その他の地域には、広島、東京・千葉・神奈川、大阪・兵庫・神戸(03年度調査)などの回答があったため、大阪から新幹線利用と想定した。
 - 片道が2時間を超える場合は、宿泊を伴うこととし、一人当たり、宿泊費6,000円、宿泊に伴う飲食費3,000円を支出したものと想定した。
 - 劇場までの交通手段として、相当数の観客が自家用車を利用していると思われる(03年度調査では約33%)が、すべてJR・バス利用と想定した。
- 北九州芸術劇場以外で開催した公演の観客の交通費については、往復1,000円と想定した。
- なお、学芸事業の参加者の消費行動は、観劇客とは異なると思われるため、この分析には含めなかった。
- 以上の結果、主催事業の観客の消費支出額は、図表-資Ⅲ-6のとおり、合計で約2億738万円と推計される。

図表-資Ⅲ-6 主催事業の観客の消費支出額

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
20 商業	ショッピング(公演前後)	40,095	775	40,871	
23 運輸	旅費・交通費	16,744	87,346	104,090	
30 対個人サービス	食費(公演前後)	26,078	504	26,583	
	宿泊費	23,892	0	23,892	
	食費(宿泊に伴う)	11,946	0	11,946	
合計		118,755	88,625	207,381	

(4) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う最終需要(参考値)

- 貸館事業の場合も、劇場の主催事業と同様、主催者の様々な支出が経済波及効果を生み出すものと考えられる。貸館事業の事業主催者の支出額については、アンケート調査等で把握する必要があるが、該当する調査を実施していないため、便宜的に、貸館事業の1公演(講演含む)当たりの支出額について、主催公演の20%、30%という二つのケースを想定し、それらがすべて北九州市内での支出だったと仮定して、参考値を試算することとした。
- 14年度の貸館事業の公演等の年間延べ回数270件から、同一主催者・同一内容の利用で複数回の公演等を行ったものを1回として計上すると、196回の利用があった。そこから試算した結果は、下表のとおりであり、貸館事業の1公演当たりの支出額が主催公演の20%のケースで約4,034万円、30%のケースで約6,051万円となった。
- この試算は、貸館事業の実際の支出額に基づいていないため、最終需要額はあくまでも参考値である点に留意が必要である。

図表-資Ⅲ-7 貸館事業に伴う最終需要(参考値)

	金額(千円)			備考
	北九州市内	市外	合計	
1公演あたりの支出が主催公演の20%の場合	40,340	0	40,340	
1公演あたりの支出が主催公演の30%の場合	60,510	0	60,510	

(5) 貸館事業(市主催・共催含む)の観客の消費支出

- 貸館事業の観客についてはアンケート調査の対象外だったため、主催事業の観客のデータを援用して、消費支出を試算した。試算の結果、貸館事業における観客の消費支出の金額は、約3億7,665万円であった(図表-資Ⅲ-8)。試算の前提条件は以下のとおりである。
 - 主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくい。そのため、貸館入場者の消費支出については、飲食、ショッピングをした割合、一人当たりの単価とも、主催公演の80%と仮定した。
 - 貸館入場者の交通費については、80%が北九州市内、20%が北九州市周辺に居住しているものと想定した。
 - 14年度の貸館(市主催・共催含む)の総入場者数は、165,889人とした。

図表-資Ⅲ-8 貸館事業の観客の消費支出額(参考値)

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
22 商業	ショッピング(公演前後)	150,420	0	150,420	
25 運輸	旅費・交通費	128,336	0	128,336	
32 対個人サービス	食費(公演前後)	97,834	0	97,834	
合計		376,652	0	376,652	

3. 経済波及効果の計算結果

- 以上の最終需要および消費支出に基づき、北九州市内の支出に伴う経済波及効果は、「平成17年度北九州市産業連関表」を使って、北九州市外への支出に伴う経済波及効果は、「平成17年度全国産業連関表」を使って計算した。
- なお支出額は2014年度の金額であるが、物価変動にともなうデフレート計算は行っていない。

(1) 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

- まず、管理運営に伴う経済波及効果(図表-資Ⅲ-9)は、北九州市内が約8億1,538万円、北九州市外が約1億3,068万円、合計が約9億4,606万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.37、1.71、1.41である。
- また、主催事業に伴う経済波及効果は、北九州市内が約8,647万円、北九州市外が約2億107万円、合計が約2億8,754万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.40、1.72、1.61である。
- 劇場の管理運営や主催事業に伴う経済波及効果の合計は約12億3,360万円で、生産誘発係数は1.45である。

図表-資Ⅲ-9 管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

	管理運営			主催事業			合計
	北九州市内	北九州市外	計	北九州市内	北九州市外	計	
最終需要(支出額)	595,362	76,389	671,751	61,933	117,127	179,060	850,811
農林水産業	13	91	104	32	990	1,022	1,126
鉱業	991	41	1,031	6	81	87	1,119
飲食品	30	75	105	254	2,387	2,640	2,745
繊維製品	132	164	295	19	280	298	594
パルプ・紙・木製品	2,318	1,181	3,499	489	1,988	2,477	5,976
化学製品	987	1,112	2,098	267	1,967	2,234	4,332
石油・石炭製品	1,511	672	2,183	165	1,403	1,567	3,751
窯業・土石製品	631	253	884	67	414	480	1,364
鉄鋼	872	1,100	1,972	79	1,535	1,614	3,586
非鉄金属	174	306	480	21	438	459	939
金属製品	1,090	429	1,519	114	709	823	2,342
一般機械	4,137	2,563	6,700	315	3,349	3,664	10,364
電気機械	689	675	1,363	48	879	927	2,291
情報・通信機器	9	126	134	1	164	165	299
電子部品	1,959	1,093	3,052	153	1,423	1,577	4,629
輸送機械	1,471	3,969	5,440	139	5,194	5,333	10,773
精密機械	54	54	108	5	75	80	188
その他の製造工業製品	10,333	3,262	13,595	8,794	5,778	14,573	28,167
建設	8,336	561	8,897	413	977	1,390	10,287
電力・ガス・熱供給	186,571	950	187,522	780	1,954	2,734	190,255
水道・廃棄物処理	10,977	281	11,258	478	980	1,458	12,716
商業	16,794	3,790	20,584	2,522	6,983	9,505	30,089
金融・保険	35,088	5,660	40,747	2,771	7,388	10,159	50,906
不動産	5,410	969	6,378	875	1,612	2,487	8,865
運輸	21,932	3,462	25,394	18,493	7,821	26,315	51,709
通信・放送	35,128	12,713	47,841	5,253	12,614	17,867	65,708
公務	712	147	859	84	213	298	1,157
教育・研究	4,997	892	5,888	261	1,250	1,512	7,400
医療・保健・社会保障・介護	7	2	8	2	3	5	14
その他の公共サービス	1,386	223	1,609	154	380	535	2,144
対事業所サービス	446,610	82,331	528,941	29,579	105,865	135,444	664,386
対個人サービス	1,049	500	1,549	11,046	22,140	33,185	34,735
事務用品	10,113	504	10,617	2,450	1,076	3,525	14,142
分類不明	2,874	525	3,399	341	763	1,104	4,504
合計	815,381	130,675	946,056	86,471	201,073	287,544	1,233,600
生産誘発係数	1.37	1.71	1.41	1.40	1.72	1.61	1.45

注)各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(2) 主催事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果

- 次に、主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果(図表-資Ⅲ-10)をみると、北九州市内が約1億6,391万円、北九州市外が約1億6,052万円、合計が約3億2,443万円である。それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.38、1.81、1.56となっている。

図表-資Ⅲ-10 主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果

	主催公演の観客		
	北九州市内	北九州市外	計
最終需要(支出額)	118,755	88,625	207,381
農林水産業	167	90	258
鉱業	16	358	374
飲食料品	1,435	101	1,536
繊維製品	41	174	215
パルプ・紙・木製品	347	1,214	1,561
化学製品	221	577	797
石油・石炭製品	257	9,298	9,555
窯業・土石製品	155	181	336
鉄鋼	111	755	866
非鉄金属	21	170	191
金属製品	294	455	750
一般機械	109	584	693
電気機械	24	223	247
情報・通信機器	0	44	44
電子部品	43	267	311
輸送機械	86	3,165	3,251
精密機械	17	20	37
その他の製造工業製品	1,149	1,575	2,723
建設	1,063	1,410	2,472
電力・ガス・熱供給	2,455	1,988	4,443
水道・廃棄物処理	1,889	707	2,596
商業	45,240	5,604	50,845
金融・保険	5,554	6,845	12,399
不動産	2,584	1,957	4,541
運輸	24,026	99,605	123,631
通信・放送	4,041	3,915	7,956
公務	158	182	339
教育・研究	358	645	1,003
医療・保健・社会保障・介護	4	6	10
その他の公共サービス	376	197	573
対事業所サービス	7,965	16,677	24,642
対個人サービス	62,654	640	63,294
事務用品	412	245	657
分類不明	636	649	1,286
合計	163,912	160,522	324,434
生産誘発係数	1.38	1.81	1.56

注)各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(3) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う経済波及効果(参考値)

- 次に、貸館主催者の最終需要(事業支出)、ならびに貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果は図表-資料Ⅲ-11のとおりで、1公演・講演当たりの事業費が主催公演の20%の場合、経済波及効果は約5,558万円、30%の場合は約8,338万円で、生産誘発係数はともに1.38である。
- また、貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果は、約5億2,762万円、生産誘発係数は1.40である。
- なお、貸館事業の場合は、公演や講演の事業支出、観客の消費支出とも、全額が北九州市内への支出と想定した。

図表-資Ⅲ-11 貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出に伴う経済波及効果(参考値)

(千円)

	貸館公演・講演事業		観客の消費支出
	ケース①	ケース②	
最終需要(支出額)	40,340	60,510	376,652
農林水産業	21	31	268
鉱業	3	5	54
飲食料品	171	256	2,279
繊維製品	12	18	126
パルプ・紙・木製品	202	303	1,090
化学製品	119	178	449
石油・石炭製品	59	88	1,378
窯業・土石製品	41	61	378
鉄鋼	54	81	378
非鉄金属	13	19	58
金属製品	68	103	918
一般機械	279	418	353
電気機械	46	69	83
情報・通信機器	1	1	1
電子部品	132	197	158
輸送機械	108	162	485
精密機械	4	7	52
その他の製造工業製品	2,669	4,004	3,387
建設	227	340	3,644
電力・ガス・熱供給	429	644	6,992
水道・廃棄物処理	298	447	4,243
商業	1,441	2,161	163,414
金融・保険	1,958	2,938	20,896
不動産	467	701	9,262
運輸	5,690	8,534	158,851
通信・放送	2,765	4,147	12,722
公務	53	79	565
教育・研究	156	234	1,283
医療・保健・社会保障・介護	1	1	15
その他の公共サービス	112	169	877
対事業所サービス	29,542	44,312	30,129
対個人サービス	7,444	11,166	99,217
事務用品	790	1,185	1,335
分類不明	213	320	2,282
合計	55,584	83,377	527,622
生産誘発係数	1.38	1.38	1.40

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致していない。

(4) 雇用効果

- ここまでの計算結果に基づき、福岡県産業連関表の雇用表を用いて、北九州市内の雇用効果を試算した。
- 具体的には、先に計算した北九州芸術劇場の管理運営、主催事業、主催公演の観客の消費支出、貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出、それぞれに伴う北九州市内の生産額と、福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて雇用効果を計算した。その結果は、図表-資Ⅲ-12に示したとおりである。
- 貸館の事業費が主催公演の20%と想定した場合(①)、就業者数(労働量)で約137人、雇用量(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で121人、同じく30%と想定した場合(②)、就業者数(労働量)で約142人、雇用量(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で123人の労働誘発効果、雇用効果があったという結果となった。

- 分野別にみると、対事業所サービス、対個人サービス、商業の分野での雇用効果が大きい。

図表-資Ⅲ-12 北九州芸術劇場の雇用効果(人)

	ケース①		ケース②	
	就業者数	雇用者数	就業者数	雇用者数
その他の製造工業製品	1	1	2	1
建設	1	1	1	1
電力・ガス・熱供給	3	3	3	3
水道・廃棄物処理	1	1	1	1
商業	24	21	24	22
金融・保険	3	3	3	3
運輸	14	14	15	14
情報通信	2	2	3	2
教育・研究	1	1	1	1
対事業所サービス	59	52	61	53
対個人サービス	28	22	28	23
合計	137	121	142	124

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) まとめ

- ここまでの経済波及効果の分析結果を整理すると、図表-資Ⅲ-13のとおりとなる。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、観客の消費支出によるものも含め、約10億5,800万円で、そのうち、73.3%にあたる約7億7,600万円が、北九州市内での最終需要となっている。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、観客の消費支出によるものも含め、約15億5,800万円で、そのうち68.4%にあたる約10億6,600万円が北九州市内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.47、北九州市内で1.37である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみと想定)は、約5億8,300万円～6億1,100万円で、生産誘発係数は1.40である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約21億4,100万円～21億6,900万円で、北九州市内に限ってみると、約16億4,900万円～16億7,700万円となっている。これは、2013年度に比べて総合計と北九州市内の両方で減少している(2013年度は、総合計:約23億2,500万円～23億8,100万円、北九州市内:約17億5,700万円～18億1,400万円)。誘発係数は2013年度からやや減少して1.45となっている(2013年度は1.46)。
- また、北九州市内の雇用効果は、就業者ベースで約137～142人、雇用者ベースで約121～124人である。

注) 上記数字は、試算結果の計算値を転載したものである。図表-資Ⅲ-13の各データは百万円未満を四捨五入しているため、表中に掲載している数値を再計算したものと、合計値やパーセンテージが一致しない場合がある。

図表-資Ⅲ-13 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(14年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億7,200万円 (5億9,500万円)	9億4,600万円 (8億1,500万円)	1.41 (1.37)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	1億7,900万円 (6,200万円)	2億8,800万円 (8,600万円)	1.61 (1.40)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	2億700万円 (1億1,900万円)	3億2,400万円 (1億6,400万円)	1.56 (1.38)
	小計	10億5,800万円 (7億7,600万円)	15億5,800万円 (10億6,600万円)	1.47 (1.37)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	4,000万円 ~6,100万円	5,600万円 ~8,300万円	1.38
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	3億7,700万円	5億2,800万円	1.40
	小計(参考値)	4億1,700万円 ~4億3,700万円	5億8,300万円 ~6億1,100万円	1.40
合計(参考値)		14億7,500万円 ~14億9,500万円 (11億9,300万円 ~12億1,300万円)	21億4,100万円 ~21億6,900万円 (16億4,900円 ~16億7,700万円)	1.45 (1.38)
		雇用効果 (北九州市内)	137~142人(就業者ベース) 121~124人(雇用者ベース)	

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

IV

パブリシティー覧

1. 主催／提携・協力事業

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
(view)若い演劇人、濃密に競い合い 北九州芸術劇場「劇ツ×20分」 2014/04/01 朝日新聞 朝刊 24ページ 絵写表有 741文字	朝日西部	朝	741
北九州芸術劇場「とんちんかんちん」、人形劇俳優たいらじょうの世界、他 2014/04/25 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 596文字	日経地方経済面	—	596
コント劇:地元で活動の有門さん、「とんちんかんちん」上演 あすから芸術劇場 2014/05/08 毎日新聞 地方版 23ページ 499文字	毎日地方版	—	499
福岡県／子供のための「ハムレット」公演 7月、北九州で／北九州・京築 2014/05/27 西日本新聞朝刊 24ページ 410文字	西日本	朝	410
★バックステージ★「海辺のカフカ」主演・古畑新之 もがきながらも前へ 2014/05/29 岩手日報朝刊 14ページ 絵写表有 729文字	岩手日報	朝	729
20年目 節目の「ハムレット」子供のためのシェイクスピア 2014/05/31 西部読売新聞 朝刊 21ページ写 1634文字	西部読売	朝	1,634
(訪)演劇フェス、街がステージ 住民巻き込み地域で育む／西部・共通 2014/06/03 朝日新聞 朝刊 26ページ 絵写表有 1596文字	朝日西部	朝	1,596
暗闇の中、手探りで進む「カフカ」演じる古畑新之 「あり得ないほど高度」 2014/06/05 西日本新聞夕刊 8ページ 652文字	西日本	夕	652
「海辺のカフカ」蜷川演出で再演 藤木直人「責任重いが、この上ない経験」 2014/06/07 産経新聞 東京朝刊 16ページ 絵写表有 610文字	産経東京	朝	610
夢の空間、束ねて編んで 異才ドゥックフレ、集大成のダンス公演 2014/06/09 朝日新聞 夕刊 3ページ 絵写表有 615文字	朝日全国	夕	615
子どもも楽しむ「ハムレット」に 26日、北九州芸術劇場／福岡県 2014/07/16 朝日新聞 朝刊 34ページ 絵写表有 471文字	朝日西部	朝	471
戦争と図書～資料を残し、伝えること～、劇団KAKUTA「痕跡」 2014/07/18 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 593文字	日経地方経済面	—	593
劇団サンプル:松井さん、新作「ファーム」PR 10月、北九州芸術劇場公演 2014/08/01 毎日新聞 地方版 19ページ 372文字	毎日地方版	—	372
ダンスで街をにぎやかに！ 北九州芸術劇場 31日から催し多彩 2014/08/28 西日本新聞朝刊 22ページ 487文字	西日本	朝	487
ダンスで街をにぎやかに 31日から、北九州市内各地で公演 2014/08/29 西日本新聞朝刊 27ページ 367文字	西日本	朝	367
ダンスで親子触れ合い 芸術劇場主催イベント開幕 舞えば地域が元気に 2014/09/01 西日本新聞朝刊 24ページ 378文字	西日本	朝	378
北九州市でダンスの祭典 15日まで 公演やフラッシュモブ 2014/09/02 西日本新聞朝刊 25ページ 306文字	西日本	朝	306
ソウルで演出、共同制作続々、演劇人、日韓問題超え。 2014/09/06 日本経済新聞 朝刊 44ページ 絵写表有 1928文字	日経西部	朝	1,928
ダンスで深める 親子の絆 北九州芸術劇場 26人参加＝北九州 2014/09/06 西部読売新聞 朝刊 31ページ写 434文字	西部読売	朝	434
小劇場 北九州に集合 芸術劇場 来月から トップレベル6作品上演 2014/09/13 西部読売新聞 朝刊 27ページ写 1677文字	西部読売	朝	1,677
リーディング公演:「霧気のある死体」あすから 北九州市出身・山崎清介さん演出 2014/09/21 毎日新聞 地方版 25ページ 395文字	毎日地方版	—	395
舞台:「かもめんたる」が「社長吸血記」客演ー ナイロン100℃ 2014/09/25 毎日新聞 夕刊 5ページ 367文字	毎日全国	夕	367
北九州芸術工業地帯2015:PR 北九州芸術劇場が写真モデルを募集 2014/09/27 毎日新聞 地方版 21ページ 365文字	毎日地方版	—	365
言葉とダンスの連動 コンドルズ主宰 近藤良平 演劇を初演出 2014/09/27 西部読売新聞 朝刊 17ページ写 1624文字	西部読売	朝	1,624
北九州芸術劇場プロデュース公演「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」 2014/09/27 西日本新聞朝刊 10ページ 302文字	西日本	朝	302
◎近藤良平、戯曲を初演出 10月、北九州で上演 別役実の「アリス」 2014/09/29 熊本日日新聞朝刊 18ページ 460文字	熊本日日	朝	460
(探)根づけ、ダンスの祭典 北九州、集客さらに工夫を 2014/09/30 朝日新聞 朝刊 28ページ 絵写表有 1670文字	朝日西部	朝	1,670
近藤良平さん、本格演劇演出 北九州で4日上演／九州・共通 2014/09/30 朝日新聞 朝刊 28ページ 220文字	朝日西部	朝	220
演劇は現実と虚構の緩衝地帯だ 新作「ファーム」北九州公演 劇作家・松井周さん 2014/10/01 西日本新聞朝刊 8ページ 872文字	西日本	朝	872
劇団「サンプル」北九州芸術劇場公演 生命科学が変える近未来の家族 2014/10/02 朝日新聞 朝刊 22ページ 絵写表有 534文字	朝日西部	朝	534

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
北九州、東京で上演「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」 2014/10/02 西日本新聞夕刊 3ページ 445 文字	西日本	夕	445
On STAGE=2人芝居「姐さん女房の裏切り」 土田英生が千葉雅子とコンビ 2014/10/05 西日本新聞朝刊 10ページ 647 文字	西日本	朝	647
(待ってました!)ダンサー・山田うんさん 素のままです即興ダンス【西部】 2014/10/11 朝日新聞 夕刊 8ページ 絵写表有 582 文字	朝日西部	夕	582
夜景サミット:北九州で 全国の取り組み紹介 /福岡 2014/10/11 毎日新聞 地方版 21ページ 323 文字	毎日地方版	—	323
[ハーイ!]音の響き ダンスで伝えたい 山田うん 2014/10/11 西部読売新聞 朝刊 23ページ写 373 文字	西部読売	朝	373
二つの顔の両立に苦心「鷗外の怪談」 永井愛が新作舞台 現代に重なる危機感 2014/10/16 西日本新聞夕刊 3ページ 686 文字	西日本	夕	686
笑いと醜悪さに満ち満ちて ナイロン100℃ 新作公演「社長吸血記」 2014/10/23 西日本新聞夕刊 3ページ 1078 文字	西日本	夕	1,078
(評・演劇)北九州芸術劇場「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」 2014/10/28 朝日新聞 朝刊 30ページ 絵写表有 846 文字	朝日西部	朝	846
シェークスピア俳優“凱旋” 舞台「ジュリアス・シーザー」 出演・吉田鋼太郎 2014/10/28 西日本新聞夕刊 3ページ 675 文字	西日本	夕	675
オウム事件後と東日本大震災後 「劇団太陽族」主宰・岩崎正裕さん 2014/10/29 西日本新聞朝刊 13ページ 771 文字	西日本	朝	771
「《不思議の国のアリスの》帽子屋さんのお茶の会」——ダンスや演劇、音楽融合 2014/10/30 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 絵写表有 701 文字	日経地方経済面	—	701
劇団太陽族「それからの遠い国」再演 元カルト教団信者の16年後描 2014/10/30 朝日新聞 朝刊 32ページ 絵写表有 554 文	朝日西部	朝	554
春風亭小朝さん:来月3日、北九州芸術劇場で独演会 名人芸を披露 2014/10/31 毎日新聞 地方版 25ページ 371 文字	毎日地方版	—	371
近況往来=新作は豚骨ファンタジー「飛ぶ劇場」代表・泊篤志さん 2014/11/11 西日本新聞朝刊 12ページ 741 文字	西日本	朝	741
劇評=人と人形が躍る白銀の夢世界 カンパニー・フィリップ・ジャンティ公演 2014/11/13 西日本新聞夕刊 3ページ 1162 文字	西日本	夕	1,162
On STAGE=「かもめ」下敷きに日韓共同製作/エンタメMAX 2014/11/16 西日本新聞朝刊 23ページ 661 文字	西日本	朝	661
(評・演劇)飛ぶ劇場「豚の骨」 北九州芸術劇場 /西部・共通 2014/11/18 朝日新聞 朝刊 24ページ 絵写表有 856 文字	朝日西部	朝	856
「東京デスロック」が日韓合作「カルメギ」 「かもめ」植民地時代に翻案 2014/11/20 朝日新聞 朝刊 30ページ 絵写表有 540 文字	朝日西部	朝	540
山海塾 北九州で新作初演 世界に先がけ 3月 芸術劇場 2015/01/31 西部読売新聞 朝刊 17ページ写 1604 文字	西部読売	朝	1,604
[文化短信]不思議少年公演「水と油」 2015/02/03 西日本新聞朝刊 12ページ 218 文字	西日本	朝	218
近況往来=世界に先駆け北九州で新作公演 山海塾主宰 天児牛大さん 2015/02/06 西日本新聞朝刊 13ページ 929 文字	西日本	朝	929
「地場演劇」を街の資源に 北九州…モノレール舞台に新作 2015/02/10 朝日新聞 朝刊 31ページ 絵写表有 968 文字	朝日西部	朝	968
演劇や音楽、わき上がる街に「北九州芸術工業地帯」始まる 2015/02/17 朝日新聞 朝刊 26ページ 絵写表有 720 文字	朝日西部	朝	720
★芸能プレミア★ 言葉の意味 掘り下げ 深津絵里・舞台「エッグ」再演 2015/02/17 岩手日報朝刊 13ページ 絵写表有 722 文字	岩手日報	朝	722
フラッシュモブ:街頭で突然、楽器を演奏 パフォーマンスに驚き JR小倉駅構内など 2015/02/23 毎日新聞 地方版 23ページ 507 文字	毎日地方版	—	507
(view)自由自在な演劇、全国に挑む 熊本の若手劇団「不思議少年」 2015/02/24 朝日新聞 朝刊 30ページ 絵写表有 671 文字	朝日西部	朝	671
演劇をぐっと「身近」に 北九州、飲食店客そばで上演 /福岡県 2015/03/06 朝日新聞 朝刊 31ページ 絵写表有 392 文字	朝日西部	朝	392
九州の演劇 深化の2作品 「ゴドーを待ちながら」「Re:北九州の記憶」 2015/03/07 西部読売新聞 朝刊 15ページ写 1624 文字	西部読売	朝	1,624
(文化の扉)はじめてのコンテンポラリーダンス 未知なる身体表現、世界を魅了 2015/03/09 朝日新聞 朝刊 33ページ 絵写表有 2285 文字	朝日全国	朝	2,285
(イかも!)山海塾、北九州芸術劇場で新作初演 再び日本から前へ 2015/03/12 朝日新聞 朝刊 30ページ 絵写表有 581 文字	朝日西部	朝	581
別役実フェスティバル 21日から 青年座など18団体 2015/03/18 東京新聞朝刊 16ページ 536 文字	東京	朝	536

記事タイトル・記事情報	紙名/版	朝/夕	文字数
剃髪、白塗りの舞踏集団「山海塾」 28、29日 北九州で新作公演 2015/03/19 西日本新聞朝刊 35ページ 563 文字	西日本	朝	563
きょうから「別役実フェスティバル」 戯曲20作、18団体が上演へ 2015/03/21 産経新聞 東京朝刊 25ページ 絵写表有 1277 文字	産経東京	朝	1,277
別役実ワールド たっぷりと フェス 18の団体が秀作連続上演 2015/03/25 東京読売新聞 夕刊 11ページ写 1669 文字	東京読売	夕	1,669
山海塾:新作、世界初公演 28日・北九州 2015/03/27 毎日新聞 地方版 26ページ 293 文字	毎日地方版	—	293
計			65

2. 学芸事業

記事タイトル・記事情報	紙名/版	朝/夕	文字数
バスキアの作品「消防士」題材に 演劇と美術のコラボ 北九州市立美術館分館 2014/06/03 西日本新聞朝刊 11ページ 535 文字	西日本	朝	535
情報トピック! =美術館で演劇×アート! ? ほか/もつと九州 2014/06/03 西日本新聞朝刊 27ページ 883 文字	西日本	朝	883
絵がテーマの劇、上演は美術館で 今年もリバーウォーク北九州で開幕 2014/06/07 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 750 文字	朝日西部	朝	750
ミニコンサート:来月上演・合唱劇「わたしの青い鳥」出演者、門司の病院で 2014/06/14 毎日新聞 地方版 19ページ 563 文字	毎日地方版	—	563
[評]モテたい売りたい僕らアーティスト 芸術性と商業性 関係問う 2014/07/19 西部読売新聞 朝刊 21ページ写 798 文字	西部読売	朝	798
劇場体験:「夏休み!子どもの劇場体験」開催中 小学生が舞台裏学ぶ 2014/07/25 毎日新聞 地方版 21ページ 522 文字	毎日地方版	—	522
店でだって踊っちゃう! 北九州「ダンス・ダイブ・ウィーク」プレ企画 /福岡県 2014/08/02 朝日新聞 朝刊 22ページ 絵写表有 334 文字	朝日西部	朝	334
レストラン 突然ダンスの輪 会社員、主婦ら現れる=北九州 2014/08/02 西部読売新聞 朝刊 27ページ写 391 文字	西部読売	朝	391
文化の扉=今秋開館40年迎える 北九州市立美術館 市民の力が魅力育てる 2014/08/06 西日本新聞朝刊 24ページ 926 文字	西日本	朝	926
講座:高校生が演劇学ぶ「呼吸」テーマに—北九州芸術劇場 /福岡 2014/08/21 毎日新聞 地方版 23ページ 0 文字	毎日地方版	—	0
壁画:黒田征太郎さんと描く 北九州芸術劇場・創造支援ロビー /福岡 2014/08/31 毎日新聞 地方版 29ページ 513 文字	毎日地方版	—	513
触れ合い、夫婦愛深く ダンサー康本さん、小倉北で体験型講座 /福岡県 2014/09/01 朝日新聞 朝刊 23ページ 絵写表有 601 文字	朝日西部	朝	601
北九州市立美術館 開館40年記念展「歩み」たどり「今後」示す 2014/10/25 西部読売新聞 朝刊 27ページ写 796 文字	西部読売	朝	796
演劇のこつ プロに学ぶ 演技から舞台づくり、予算、広報まで 東筑紫学園高 2014/10/27 西日本新聞朝刊 20ページ 821 文字	西日本	朝	821
8日間限定劇団、参加しませんか「シアラゴCafe」 /九州・共通 2014/10/28 朝日新聞 朝刊 30ページ 260 文字	朝日西部	朝	260
「そらダン」楽しく踊ろう スターフライヤー、芸術劇場と連携 2014/12/08 西部読売新聞 夕刊 6ページ写 749 文字	西部読売	夕	749
スターフライヤー:創作ダンス完成、披露 /福岡 2014/12/25 毎日新聞 地方版 21ページ 351 文字	毎日地方版	—	351
スタフラ「そらダン」動画 2014/12/25 西部読売新聞 朝刊 8ページ写 246 文字	西部読売	朝	246
北九州市に本社を置く航空会社スターフライヤーの客室乗務員らが24日… 2014/12/25 西日本新聞朝刊 29ページ 260 文字	西日本	朝	260
スターフライヤー:社員の創作ダンス「そらダン」完成 北九州空港で披露 2014/12/26 毎日新聞 地方版 21ページ 351 文字	毎日地方版	—	351
演劇:青森拠点に劇団主宰の畑澤さん、高校生に指導 北九州芸術劇場が企画 2014/12/28 毎日新聞 地方版 25ページ 509 文字	毎日地方版	—	509
「そらダン」踊ろう!! スターフライヤー オリジナルダンス=北九州 2014/12/29 西部読売新聞 朝刊 19ページ写 655 文字	西部読売	朝	655
文化の扉=高校生へ講座やイベント 北九州芸術劇場 演劇文化 若者が学ぶ 2015/01/07 西日本新聞朝刊 20ページ 855 文字	西日本	朝	855
北九州市民の記憶 劇に 高齢者から聞き取り 2月1日、わかちく史料館 2015/01/22 西日本新聞朝刊 22ページ 351 文字	西日本	朝	351
スタフラのダンス 20人振り付け学ぶ=北九州 2015/02/23 西部読売新聞 朝刊 35ページ写 459 文字	西部読売	朝	459

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
福岡県／東筑紫学園生が演劇公演 14、15日 北九州芸術劇場と連携 2015/03/06 西日本新聞朝刊 28ページ 532 文字	西日本	朝	532
ふるさと便り＝北九州 東筑紫学園高が北九州芸術劇場で初公演 2015/03/10 西日本新聞朝刊 27ページ 380 文字	西日本	朝	380
北九州芸術劇場・東筑紫学園高:プロと一緒に演劇制作 書き下ろし新作「Q学」 2015/03/12 毎日新聞 地方版 24ページ 449 文字	毎日地方版	－	449
計			28

3. 貸館事業

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
DRUM ROCK 続・十七人のサムライ 繰り出す圧倒的ビート 5月22日から 2014/04/03 西日本新聞朝刊 17ページ 407 文字	西日本	朝	407
紀州銘菓「かげろう」／第6回建林悠子バレエスタジオ発表会のペアチケット 2014/04/10 毎日新聞 地方版 25ページ 554 文字	毎日地方版	－	554
◎踊りや立ち回りに挑戦 沢田研二が音楽劇「悪名」で主演 2014/04/10 熊本日日新聞夕刊 6ページ 371 文字	熊本日日	夕	371
わがまち・マイタウン:ジージーズが「ギター集い」出場へー小倉北 /福岡 2014/04/15 毎日新聞 地方版 23ページ 307 文字	毎日地方版	－	307
ジャズの楽しさ知って 地元ピアニスト 小倉北で来月コンサート＝北九州 2014/04/15 西部読売新聞 朝刊 32ページ写 448 文字	西部読売	朝	448
北九州市小倉少年少女合唱団:29日に定期演奏会 ミュージカルやポップス 2014/04/24 毎日新聞 地方版 24ページ 386 文字	毎日地方版	－	386
福岡県／小倉北 バレエ 息合わせ優雅に 建林スタジオ 30人が発表会 2014/04/30 西日本新聞朝刊 22ページ 249 文字	西日本	朝	249
新しい風吹く舞台を 和太鼓演奏「TAO」 5、6月一福岡県内で公演 2014/05/15 西日本新聞夕刊 8ページ 655 文字	西日本	夕	655
北九州芸術祭:演劇部門、劇団青春座の公演ー17、18日 /福岡 2014/05/16 毎日新聞 地方版 19ページ 354 文字	毎日地方版	－	354
北九州芸術祭:演劇部門 はがき随筆・昨年月間賞、受賞者が自作朗読 2014/05/19 毎日新聞 地方版 23ページ 456 文字	毎日地方版	－	456
6月の九響＝上海の気鋭とコバケン共演 19日の定期 2014/05/21 西日本新聞朝刊 9ページ 842 文字	西日本	朝	842
九響:13日福岡、14日北九州公演 2014/06/01 毎日新聞 西部朝刊 12ページ 262 文字	毎日西部	朝	262
民謡民舞音楽祭 愛好家300人熱演 小倉北＝北九州 2014/06/01 西部読売新聞 朝刊 31ページ写 353 文字	西部読売	朝	353
[クロニクル 1964―2014]「大分市つかこうへい劇団」旗揚げ 2014/06/07 西部読売新聞 朝刊 22ページ写・表 4534 文字	西部読売	朝	4,534
福岡県／小倉北 書道の力作130点 光祥会が展示会／北九州・京築 2014/06/21 西日本新聞朝刊 28ページ 272 文字	西日本	朝	272
講談師・神田紅さん独演会 白蓮の生涯小気味よく 19日、北九州芸術劇場 2014/07/05 西日本新聞朝刊 26ページ 634 文字	西日本	朝	634
福岡県／小倉北 K-POP 歌唱力競う 九州予選に16組 2014/07/09 西日本新聞朝刊 27ページ 364 文字	西日本	朝	364
宝塚歌劇100年展記念スペシャルイベントトークショー、他 2014/07/11 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 624 文字	日経地方経済面	－	624
白蓮描いた講談披露へ 神田紅さん、19日に小倉北で＝北九州 2014/07/17 西部読売新聞 朝刊 35ページ写 542 文字	西部読売	朝	542
帯金さん、二胡CD発売 来月10日記念コンサート 北九州拠点活動 2014/08/23 西部読売新聞 朝刊 31ページ写 592 文字	西部読売	朝	592
小倉で躍動、高校チームダンス 4回目全国大会、北九州市立総合V 2014/09/15 朝日新聞 朝刊 25ページ 絵写表有 430 文字	朝日西部	朝	430
高校チームダンス大会 北九州 /福岡県 2014/09/15 朝日新聞 朝刊 25ページ 238 文字	朝日西部	朝	238
関門海峡シンガーズ:海峡挟み「関門の歌声」 あす下関で20曲を披露 2014/09/20 毎日新聞 地方版 25ページ 596 文字	毎日地方版	－	596
結成15周年の九州アクターズクラブ「笑う門には福来たる」 北九州芸術劇場で 2014/10/02 毎日新聞 地方版 22ページ 517 文字	毎日地方版	－	517
祝還暦♪本格コンサート ジャズサクソプレーヤー・田部俊彦さん 2014/10/16 朝日新聞 朝刊 33ページ 絵写表有 904 文字	朝日西部	朝	904
福岡県／“河童の隠した宝石箱” 高塔山夜景にキャッチコピー／北九州・遠賀 2014/10/28 西日本新聞朝刊 25ページ 374 文字	西日本	朝	374

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
劇団青春座:「わるいやつら」公演 北九州芸術劇場で8日と9日 /福岡 2014/11/06 毎日新聞 地方版 22ページ 359 文字	毎日地方版	—	359
福岡2劇団「博多」に挑む ギンギラ太陽's 劇団ショーマンシップ 2014/11/08 西部読売新聞 朝刊 29ページ写 2164 文字	西部読売	朝	2,164
北九州シティオペラ:「蝶々夫人」3幕を公演 北九州芸術劇場で22、23日 2014/11/20 毎日新聞 地方版 22ページ 526 文字	毎日地方版	—	526
小倉の活動にこだわり テナーサクソ奏者 田部俊彦さん(4) /北九州ライブ 2014/11/29 西日本新聞朝刊 31ページ 324 文字	西日本	朝	324
情報トピック! =ミュージカル「夢の降る街」ほか /もっと九州 2015/01/22 西日本新聞朝刊 27ページ 577 文字	西日本	朝	577
京築神楽をPR 来月、フェスタ=北九州 2015/01/27 西部読売新聞 朝刊 33ページ写 576 文字	西部読売	朝	576
「京築神楽」劇場で公演 小倉北、7日 /福岡県 2015/02/03 朝日新聞 朝刊 27ページ 292 文字	朝日西部	朝	292
小倉北で京築フェスタ 特産品販売や神楽の舞い=北九州 2015/02/08 西部読売新聞 朝刊 33ページ写 372 文字	西部読売	朝	372
自分たちだから できる表現がある 障害者 舞台上輝く 2015/02/24 西部読売新聞 朝刊 35ページ写 2080 文字	西部読売	朝	2,080
渡辺知子一座が地元コンサート 3月5日、北九州芸術劇場 2015/02/28 西日本新聞朝刊 30ページ 770 文字	西日本	朝	770
障害者、舞台上にきらめく 健常者と共に演奏会 5日、北九州・小倉北 2015/03/03 朝日新聞 朝刊 21ページ 絵写表有 1358 文字	朝日西部	朝	1,358
障害者と健常者、生命光る音楽会 北九州・小倉の芸術劇場 /福岡県 2015/03/10 朝日新聞 朝刊 33ページ 絵写表有 295 文字	朝日西部	朝	295
「全力で演じたい」 諫早・劇団ヒロシ軍 /九州の短編コンテストへ 2015/03/18 長崎新聞 13ページ 517 文字	長崎	—	517
門司の緑丘中吹奏楽部、音楽の美しさ伝えたい 31日、北九州芸術劇場 2015/03/24 毎日新聞 地方版 25ページ 438 文字	毎日地方版	—	438
計			40

4. その他(劇場、劇場メンバー等に関する記事、芸術祭など)

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
映画5本 ドラマ21本 ロケ誘致 北九州好調 経済効果3億円超す=北九州 2014/06/05 西部読売新聞 朝刊 31ページ写・表 1081 文字	西部読売	朝	1,081
アート、子連れゆったり 美術館・コンサートに託児所【西部】 2014/07/17 朝日新聞 夕刊 1ページ 絵写表有 1739 文字	朝日西部	夕	1,739
[鹿児島市立美術館の宝—西洋美術コレクション]楽しむ仕掛け、どう演出 2014/08/30 南日本新聞朝刊 12ページ 1554 文字	南日本	朝	1,554
[クロニクル 1964—2014]「博多座」開場 1999年 2014/09/06 西部読売新聞 朝刊 27ページ写・表 4179 文字	西部読売	朝	4,179
[芸術劇場20年] (6) 周辺寂しく孤立化(連載) =埼玉 2014/10/15 東京読売新聞 朝刊 33ページ写 1136 文字	東京読売	朝	1,136
Joshi Job 劇場職員、フリーキュレーター 岩本 史緒さん /わたし活性化計画 2014/11/15 西日本新聞夕刊 2ページ 354 文字	西日本	夕	354
講演:文化・芸術で地域活性化 サッカーJ2のギラヴァンツ・横手社長 /福岡 2014/11/26 毎日新聞 地方版 21ページ 454 文字	毎日地方版	—	454
(view)自分だけの思い出探して ウルトラマン創世紀展 /西部・共通 2014/12/02 朝日新聞 朝刊 28ページ 絵写表有 705 文字	朝日西部	朝	705
[回顧2014]文化財 演劇 2014/12/13 西部読売新聞 朝刊 25ページ写・表 2458 文字	西部読売	朝	2,458
回顧2014<下>音楽 演劇 歴史—連載 2014/12/27 西日本新聞朝刊 10ページ 2250 文字	西日本	朝	2,250
舞踏家・天児さんに仏文化勲章 2015/01/10 北海道新聞夕刊全道(社会) 8ページ写 292 文字	北海道	夕	292
「山海塾」天児さん 仏芸術勲章を受章 2015/01/10 東京新聞夕刊 8ページ 285 文字	東京	夕	285
舞踏家天児さんにコマンドール授与 2015/01/10 京都新聞夕刊 8ページ 298 文字	京都	夕	298
舞踏家の天児さん コマンドール受章 2015/01/10 西日本新聞夕刊 10ページ 262 文字	西日本	夕	262
舞踏家天児さん、仏芸術文化勲章。 2015/01/11 日本経済新聞 朝刊 30ページ 265 文字	日経全国	朝	265

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
舞踏家・天児さん 仏芸術文化勲章 2015/01/11 東奥日報 朝刊 18ページ 282 文字	東奥日報	朝	282
天児さんにフランス芸術勲章 舞踏家で「山海塾」主宰者 2015/01/11 秋田魁新報 朝刊 15ページ 300 文字	秋田魁新報	朝	300
ニュースファイル ◆山海塾の天児さん仏勲章 2015/01/11 福島民報 25ページ 278 文字	福島民報	—	278
天児さんに仏勲章 「山海塾」主宰者 2015/01/11 中国新聞朝刊 28ページ 絵写表有 416 文字	中国	朝	416
舞踏「山海塾」主宰 天児牛大さんに仏芸術文化勲章 2015/01/11 愛媛新聞 4ページ 285 文字	愛媛	—	285
舞踏家天児さん芸術勲章を受章／フランス政府 2015/01/11 宮崎日日新聞朝刊 4ページ 391 文字	宮崎日日	朝	391
地方劇場、光る独自色 地元の若手俳優を起用・作品に土地の空気 2015/01/22 朝日新聞 夕刊 3ページ 絵写表有 1459 文字	朝日全国	夕	1,459
舞踏家・天児さんにコマンドール授与／仏政府 2015/01/26 長崎新聞 16ページ 381 文字	長崎	—	381
福岡県／ほばしら＝JR小倉駅の北にかつて球場があったことを… 2015/03/18 西日本新聞朝刊 29ページ 345 文字	西日本	朝	345
募集 アートマネジメントセミナーの参加者 2015/03/19 日本海新聞 18ページ 191 文字	日本海新聞	—	191
計			25



**舞台芸術公演の流通と
北九州芸術劇場**

1. 「舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」アンケート調査の概要

(1) 調査の手法

① 調査の目的

- 「舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」をテーマに、国内の劇団や制作会社等の、舞台芸術作品の流通(ツアー公演)の状況把握と、国内の舞台芸術環境において北九州芸術劇場が作品流通に果たす役割を検証し、今後の運営に活用する。

① 調査の対象

- 公益社団法人日本劇団協議会の加盟団体53団体。

② 配布・回収方法

- 調査票の直接郵送による配布(要望があった場合はEメールでの電子ファイル形式の調査票を個別に送信)、後日郵送、ファックス、Eメールにて回収。

③ 実施時期

- 2015年11月16日～12月21日

④ 有効回答数・回答率

- 32件、回収率:60.4%(配布数:53件)

(2) 主な調査項目

- 団体の主たる活動地域
- 団体の創設以来の活動年数
- 主に利用している劇場・ホールでの1作品のステージ数
- 主に利用している劇場・ホールの名称
- 施設を利用する際、重視すること
- 過去3年以内の国内ツアーの実施の有無
- 過去3年以内の九州における公演の実施の有無
- 2003年から現在までの北九州芸術劇場における公演の実施の有無
 - 現在までの北九州芸術劇場の利用回数
 - 北九州芸術劇場で公演を行った際の主催者
 - 北九州芸術劇場を利用した理由
 - 北九州芸術劇場を実際に利用した感想
 - 総合的にみた北九州芸術劇場に対する評価
 - 北九州芸術劇場に対するご意見
- 今後、国内ツアーを展開していく意向
- 今後、九州での公演を展開していく意向
- 今後、北九州芸術劇場での利用の意向
- 国内の舞台芸術作品の流通における北九州芸術劇場の役割についてのご意見

(3) 調査票(次頁参照)

北九州芸術劇場 舞台芸術創造団体に対するアンケート

このアンケート調査は、国内の舞台芸術環境において、作品の流通に果たす北九州芸術劇場の役割を検証し、今後の運営に活用させていただくために実施するものです。お忙しいところ誠に恐縮ですが、何とぞ本調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。

本アンケート票に直接ご記入いただいた場合は、同封の封筒に入れ、**11月30日(月)までにご返送くださるようお願いいたします。**なお、**PDF形式のアンケート票へのご記入にご協力頂ける場合は、メールで件名に「北九州芸術劇場のアンケート票希望」と記載の上、メッセージ欄に送信者のご所属とお名前をお書きいただき、kitakyu@nli-research.co.jp までご連絡下さい。**ご記入・返送の要領とともに、PDF形式のアンケート票をメールでお送りいたします。

返送先・お問い合わせ先：株式会社ニッセイ基礎研究所 社会研究部門 芸術文化プロジェクト室
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 電話：070-6630-0203(大澤)、03-3512-1878(太田)
FAX：03-5211-1084 e-mail: kitakyu@nli-research.co.jp

I 貴団体の舞台芸術活動の概況についてお尋ねいたします。

Q1 貴団体の主たる活動地域について、もっともあてはまる地域をお答えください。(☑はひとつ)

- 1 東京都 2 大阪府 3 北海道・東北 4 関東・甲信越(東京都を除く)
5 中部・北陸 6 近畿(大阪府内を除く) 7 中国・四国 8 九州・沖縄

Q2 貴団体の創設以来の活動年数について、もっともあてはまる年数をお答えください。(☑はひとつ)

- 1 5年未満 2 5年以上10年未満 3 10年以上15年未満 4 15年以上20年未満
5 20年以上30年未満 6 30年以上40年未満 7 40年以上50年未満 8 50年以上

Q3 貴団体は、年間でのどのくらいの作品(新作・再演は問いません)を上演されますか。(☑はひとつ)

- 1 年に1本程度 2 年に2本程度 3 年に3本程度 4 年に4本程度
5 年に5本以上 6 年によって大きく異なる

Q4 貴団体が主に利用している劇場・ホールで、平均すると、1作品につきどのくらいのステージ数(公演回数)を上演しますか。(☑はひとつ)

- 1 1~3ステージ 2 4~6ステージ 3 7~9ステージ 4 10~19ステージ
5 20~29ステージ 6 30ステージ以上 7 作品によって大きく異なる

Q5 貴団体が主に利用している劇場・ホールの名称を、利用頻度が多い順に3件以内でお答え下さい(同一施設にホールが複数ある場合はホールの名称もお答えください)。

① _____

② _____

③ _____

Q6 施設を利用する際、重視することは何ですか。(☑はいくつでも)

- 1 ①立地がよいこと 2 ②公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること
3 ③ホールの規模(客席数)が適切であること 4 ④舞台設備・機器が充実していること
5 ⑤楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと 6 ⑥ホワイエや客席などの雰囲気がいよいこと
7 ⑦利用料金が安いこと 8 ⑧予約の方法が簡単なこと
9 ⑨技術スタッフの専門性が高いこと 10 ⑩スタッフが親切なこと
11 ⑪その他(具体的に: _____)

SQ6-1 上記 Q6の「劇場を利用する際に重視すること」の11項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することを番号でご記入ください。

最も重視すること

2番目に重視すること

II 次に、貴団体の国内ツアーおよび九州エリアでの公演実績についてお尋ねいたします。

Q7 貴団体は、過去3年以内に、国内ツアー(複数地域での巡回公演、主催・招聘の区別、日程の連続・非連続を問わない)を実施したことはありますか。(☑はひとつ)

1実施した(→SQ7-1~7-3の設問にお答えください) 2実施していない(→Q8に移動してください)

SQ7-1 国内ツアーを「実施した」と回答された方にお伺いします。直近の国内ツアーでは何会場で実施されましたか。(☑はひとつ)

11~3会場 24~6会場 37~9会場 410~14会場 515~19会場
620~29会場 730会場以上

SQ7-2 直近の国内ツアーでは、合計どのくらいのステージ数(公演回数)でしたか。主たる活動地域でのステージ数を差し引いた数でお答えください。(☑はひとつ)

11~3ステージ 24~6ステージ 37~9ステージ 410~19ステージ
520~29ステージ 630ステージ以上

SQ7-3 貴団体では、国内ツアーをどのくらいの頻度で実施されますか。(☑はひとつ)

1年に1回以上 22年に1回程度 33年に1回程度 4とくに決めていない

Q8 貴団体は、過去3年以内に、北九州芸術劇場以外の会場で九州での公演を実施したことはありますか。(☑はひとつ)

1実施した(→SQ8-1、8-2の設問にお答えください) 2実施していない(→Q9に移動してください)

SQ8-1 九州での公演を「実施した」と回答された方にお伺いします。利用された劇場・ホールの名称を、3件以内でお答え下さい(同一施設にホールが複数ある場合はホールの名称もお答えください)。また、各施設でのステージ数を合わせてお答えください。

① _____ ステージ数 _____ 回
② _____ ステージ数 _____ 回
③ _____ ステージ数 _____ 回

SQ8-2 貴団体では、九州での公演をどのくらいの頻度で実施されますか。(☑はひとつ)

1年に1回以上 22年に1回程度 33年に1回程度 4とくに決めていない

III 次に、北九州芸術劇場での公演実績についてお尋ねいたします。

Q9 貴団体は、2003年から現在までに、北九州芸術劇場で公演を実施したことはありますか。(☑はひとつ)

1実施した(→SQ9-1~9-8の設問にお答えください) 2実施していない(→Q10に移動してください)

SQ9-1 北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答された方にお伺いします。今までに北九州芸術劇場を何回ぐらい利用されましたか。(☑はひとつ)

11回 22~3回 34~6回 47~9回 510回以上 6わからない

SQ9-2 過去に貴団体が北九州芸術劇場で公演を行った際の主催者をお答えください。(☑はいくつでも)

1北九州芸術劇場 2貴団体の主催(劇場の提携・協力あり) 3貴団体の主催(劇場の提携・協力なし)
4北九州市民劇場 5北九州子ども劇場 6その他(具体的に: _____)

SQ9-3 北九州芸術劇場を利用された理由をお答えください。(☑はいくつでも)

1①立地がよいこと 2②公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること
3③ホールの規模(客席数)が適切であること 4④舞台設備・機器が充実していること
5⑤楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと 6⑥ホワイエや客席などの雰囲気がよいこと
7⑦利用料金が安いこと 8⑧予約の方法が簡単なこと
9⑨技術スタッフの専門性が高いこと 10⑩スタッフが親切なこと
11⑪北九州芸術劇場または別団体の主催により、企画段階から利用が決まっていたため
12⑫その他(具体的に: _____)

SQ9-4 上記 SQ9-3の「北九州芸術劇場を利用された理由」の12項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することを番号でご記入ください。

最も重視したこと 2番目に重視したこと

SQ9-5 北九州芸術劇場を実際に利用されていかがでしたか。(☑はいくつでも)

- 1 ①立地がよい
2 ②公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっている
3 ③ホールの規模(客席数)が適切である
4 ④舞台設備・機器が充実している
5 ⑤楽屋など舞台裏の設備が使いやすい
6 ⑥ホワイエや客席などの雰囲気がよい
7 ⑦利用料金が安い
8 ⑧予約の方法が簡単
9 ⑨技術スタッフの専門性が高い
10 ⑩スタッフが親切
11 ⑪良いと感じた点は無い
12 その他(具体的に: _____)

SQ9-6 上記 SQ9-5の「北九州芸術劇場を実際に利用された感想」の12項目の中で、最もよかったと感じたこと、2番目によかったと感じたことを番号でご記入ください。

最もよかったこと 2番目によかったこと

SQ9-7 総合的にみた北九州芸術劇場に対するご意見をお聞かせください。(☑はひとつ)

- 1 たいへん満足している 2 まあ満足している 3 あまり満足していない 4 まったく満足していない

SQ9-8 北九州芸術劇場をご利用されて、良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、ご意見をお聞かせください。

IV 今後の国内ツアーや九州での公演のご予定と、北九州芸術劇場の利用意向についてお尋ねいたします。

Q10 貴団体では、今後、国内ツアーを展開していく意向はありますか。(☑はひとつ)

- 1 意向がある 2 意向はない 3 わからない

Q11 貴団体では、今後、九州での公演を展開していく意向はありますか。(☑はひとつ)

- 1 意向がある 2 意向はない 3 わからない

Q12 貴団体では、今後、機会があれば北九州芸術劇場を利用したいと思いますか。(☑はひとつ)

- 1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

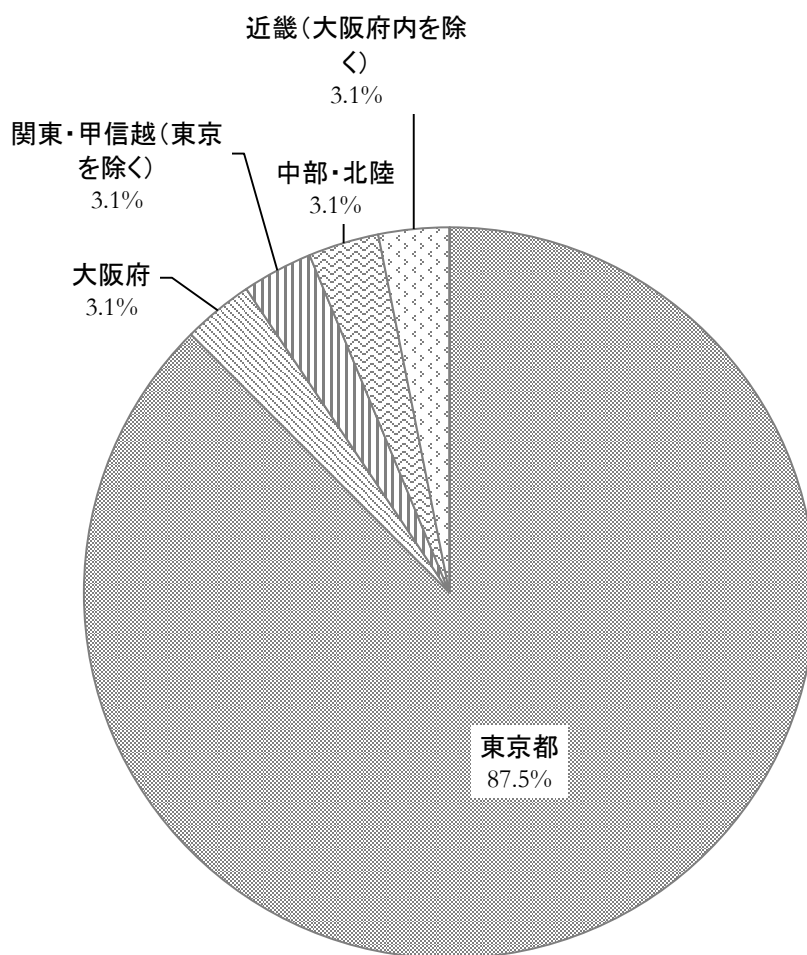
Q13 国内の舞台芸術作品の流通において、北九州芸術劇場が果たすべき役割について、ご意見がありましたらお聞かせください。

差支えなければ、ご記入ください。

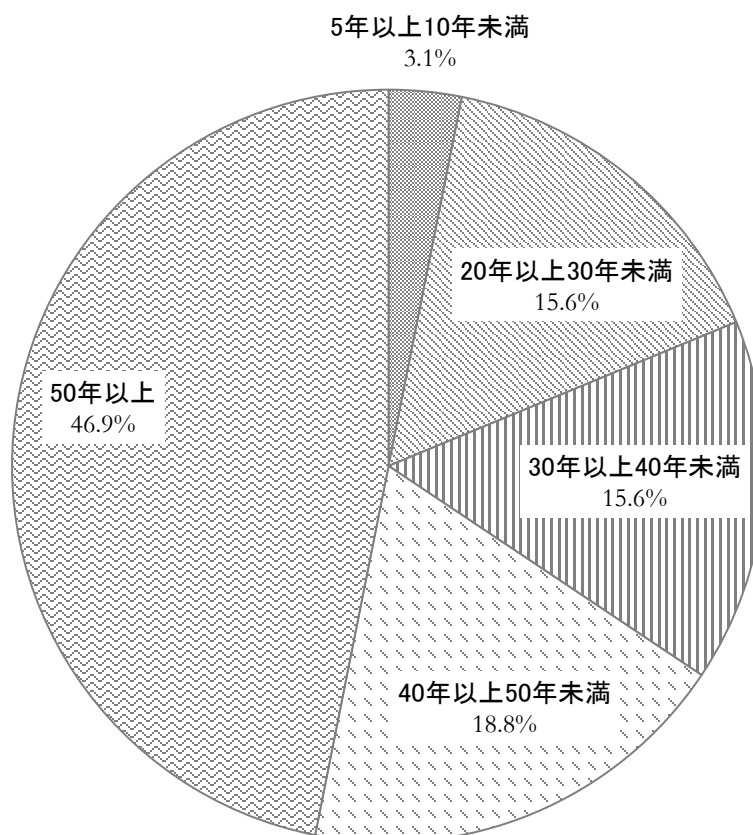
- 貴団体名 _____
■ ご記入者のお名前 _____ 担当業務 _____
■ 直近のご利用日 _____年____月____日(____) ~ _____月____日(____)

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同またのご利用を心よりお待ちしております。

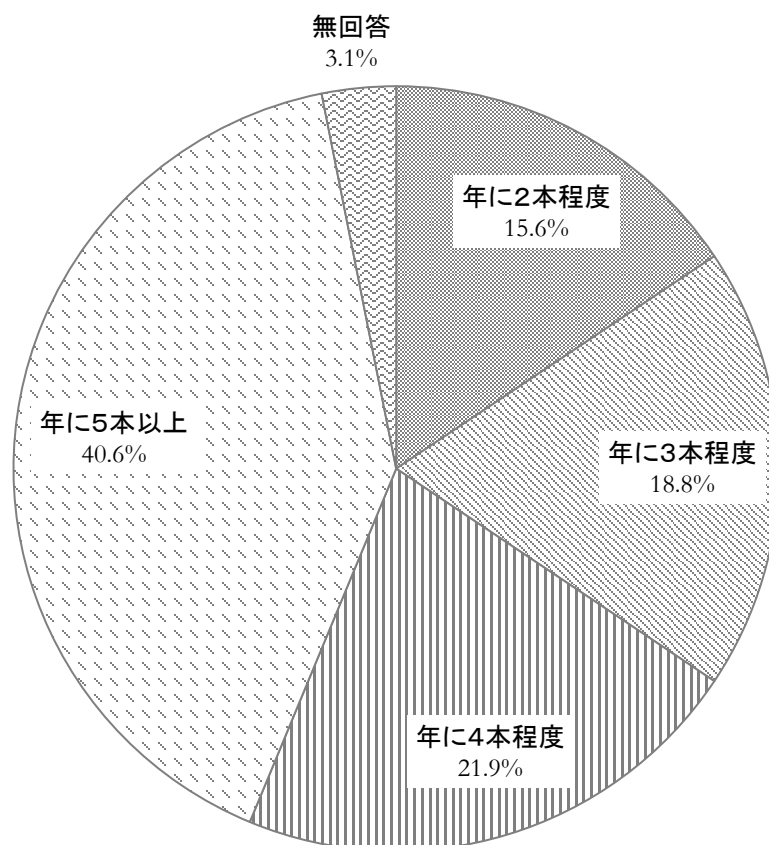
アンケートに回答した32団体の主たる活動地域は、「東京都」が87.5%(28件)で大多数を占めている。「大阪府」、「関東・甲信越(東京を除く)」、「中部・北陸」、「近畿(大阪府内を除く)」がそれぞれ3.1%(1件)ずつとなっている。



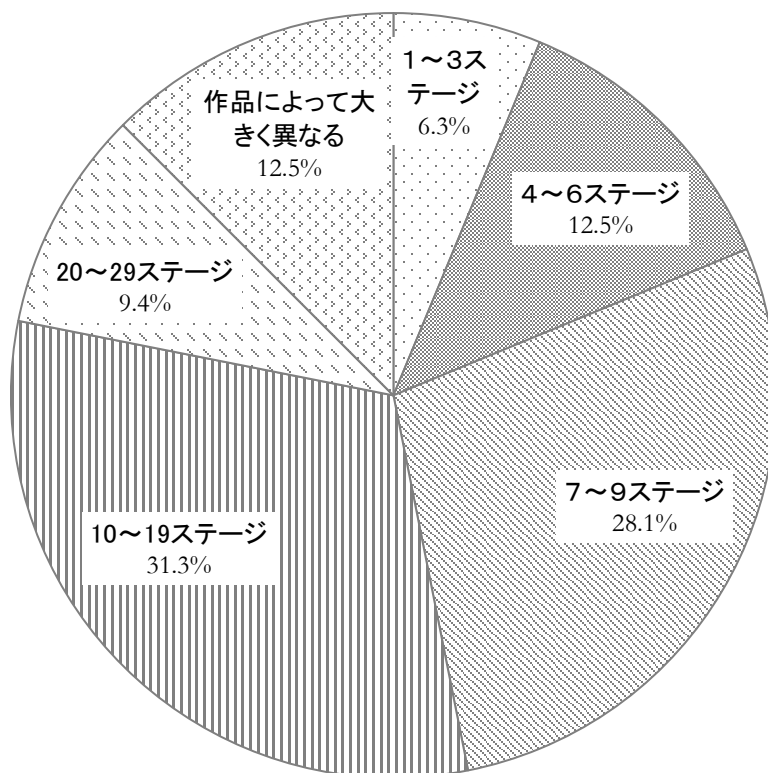
回答団体の活動年数は、「50年以上」が46.9%（15件）でおよそ半数となっており、「40年以上50年未満」が18.8%（6件）、「30年以上40年未満」と「20年以上30年未満」がそれぞれ15.6%（5件）、「5年以上10年未満」が3.1%（1件）と、活動年数が短いほど件数は少ない。50年未満を合わせると53.1%（17件）となっている。



年間でどのくらいの作品(新作・再演は問わない)を上演するか伺ったところ、「年に5本以上」が40.6%(13件)で最も多く、「年に4本程度」が21.9%(7件)、「年に3本程度」が18.8%(6件)、「年に2本程度」が15.6%(5件)と、作品数が少ないほど件数は少ない。



主に利用している劇場・ホールで、1作品につき平均してどのくらいのステージ数(公演回数)を上演しているか伺ったところ、「10～19ステージ」が31.3%(10件)、「7～9ステージ」が28.1%(9件)となっている。9ステージ以下を合わせると46.9%(15件)でおおよそ半数となっている。また「作品によって大きく異なる」が12.5%(4件)の回答となっている。



主に利用している劇場・ホールの名称を、利用頻度が多い順に3件以内で自由記述で回答していただいた。押し並べて上位5位の件数を数えると、「紀伊國屋ホール」が9件、「俳優座劇場」が8件、「紀伊國屋サザンシアター」が6件、「東京芸術劇場※」が4件、「ザ・ポケット」が3件という順になっている。

利用頻度が多い順に①、②、③と分けて回答件数を数えた場合、「ザ・ポケット」や「シアターX」は利用頻度①の回答は0件で、利用頻度②が2件となっていることから、利用する劇場・ホールとして選択される優先順位が下がる施設もある。

押し並べての回答件数、利用頻度ごとの件数を合わせて見ると、東京都内でも新宿や池袋といったJR山手線の大規模なターミナル駅周辺の劇場・ホールの優先順位が高いことが分かる。

※東京芸術劇場は、シアターウェストとシアターイーストを区別せずに件数を計上している。

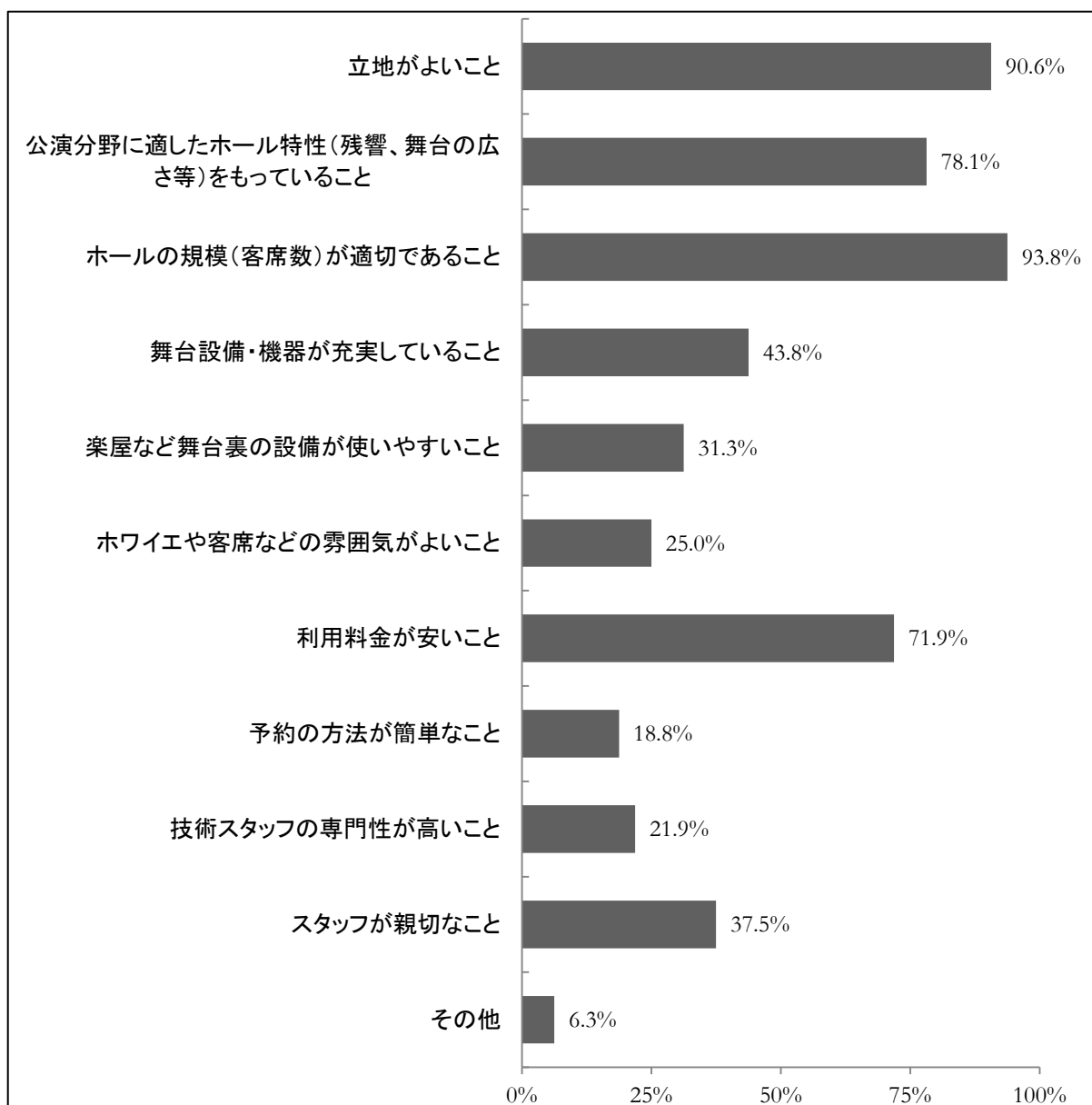
□複数の回答があった劇場・ホール

	回答件数	利用頻度①	利用頻度②	利用頻度③
紀伊國屋ホール	9	4	3	2
俳優座劇場	8	4	2	2
紀伊國屋サザンシアター	6	3	2	1
東京芸術劇場	4	3	0	1
ザ・ポケット	3	0	2	1
シアターグリーン	2	1	1	0
座・高円寺	2	1	1	0
サンシャイン劇場	2	1	0	1
兵庫県立尼崎青少年創造劇場	2	1	0	1
シアターX	2	0	2	0
三越劇場	2	0	1	1
本多劇場	2	0	1	1

□上記以外に回答のあった劇場・ホール

ABCホール	新神戸オリエンタル
TACCS1179	世田谷パブリックシアター
あうるすぽっと	赤坂RED THEATER
ウエストエンドスタジオ	全労災ホール/スペースゼロ
うりんこ劇場	大阪・一心寺シアター
サンケイホール ブリーゼ	町田市民ホール
サンモール	調布市民文化会館たづくり
シアターサンモール	東演パラータ
シアタートラム	東文化小劇場
シアター代官山	銅鑼アトリエ
ブーク人形劇場	俳優座5F稽古場
ブレヒトの芝居小屋	博品館劇場
ぽんぶらざホール	府中の森芸術劇場
ルネこだいら	文学座アトリエ
下北沢スズナリ	兵庫県立芸術文化センター
吉祥寺シアター	北九州芸術劇場
恵比寿エコー劇場	北日本カレッジクリエーションホール
厚木市文化会館	名東文化小劇場
若草アトリエ	(各都道府県のホール)
新宿文化センター	(各都道府県の学校施設)

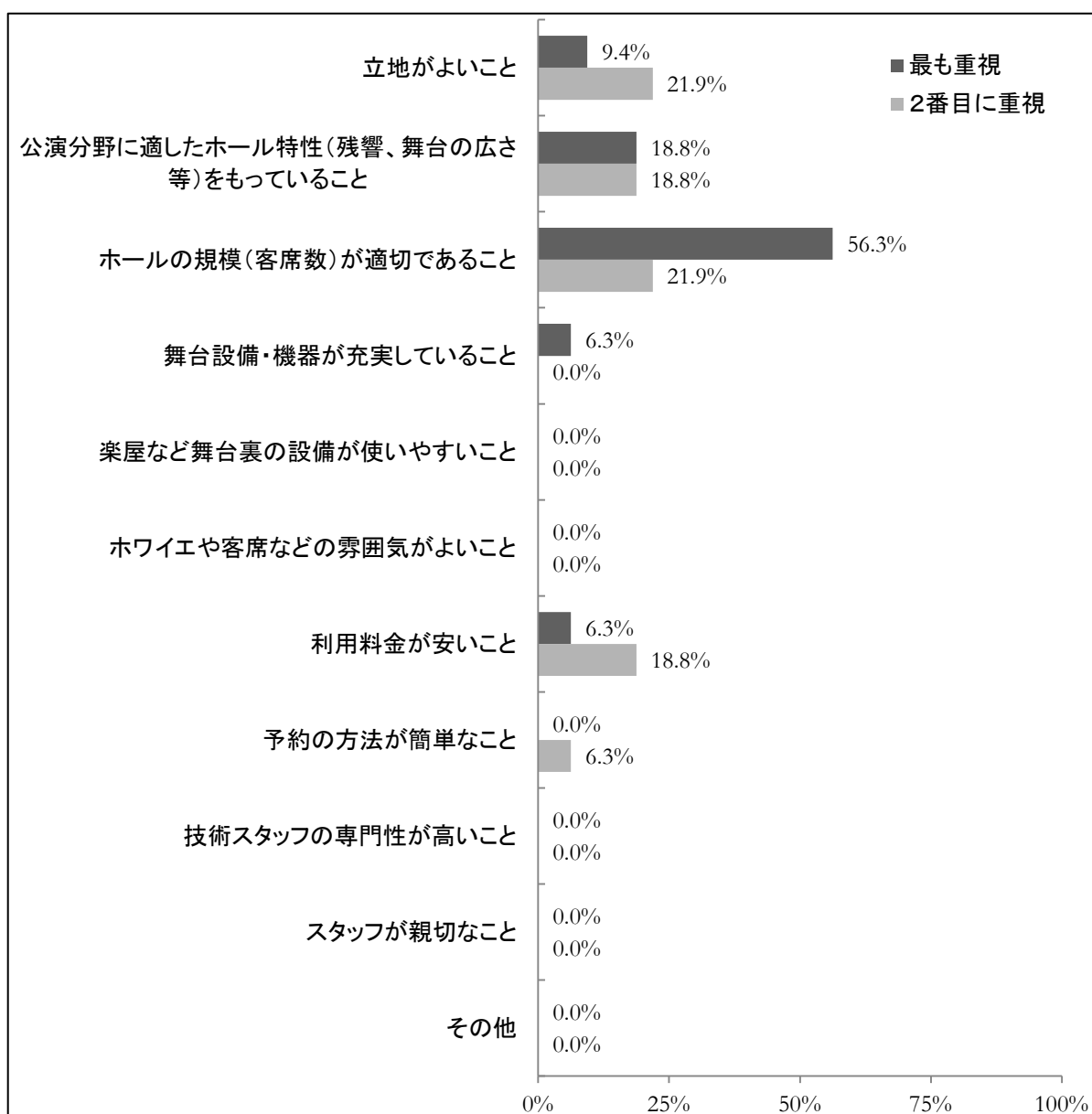
施設を利用する際に重視することを、選択肢を与えて複数回答で伺ったところ、「ホールの規模(客席数)が適切であること」が93.8%(30件)で最も多く、次いで「立地がよいこと」が90.6%(29件)、「公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること」が78.1%(25件)、「利用料金が安いこと」が71.9%(23件)となっており、主にハード面の条件、立地条件、料金設定の条件が上位となっている。



「その他」の具体的な記述

- ・2年度内におさえられること
- ・バリアフリーサービス環境

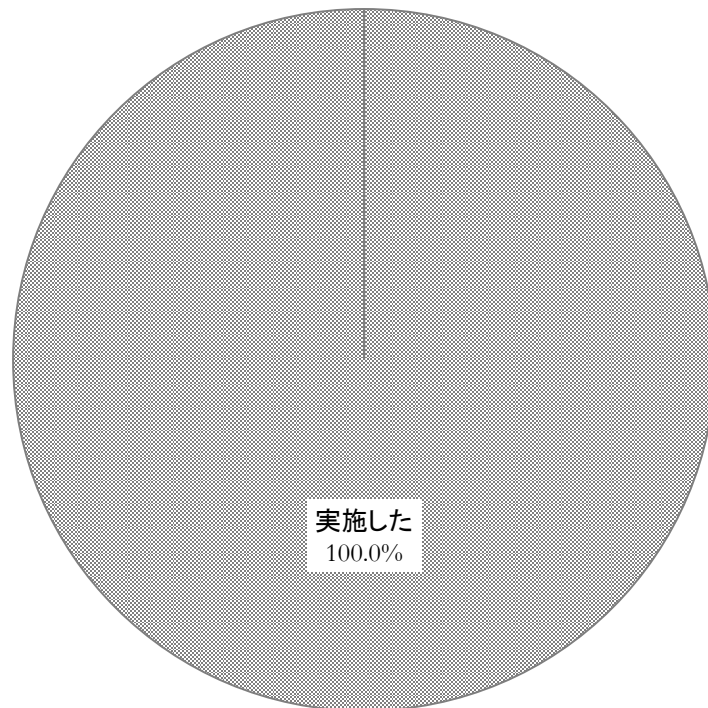
施設を利用する際に重視することを伺った11項目の選択肢から、最も重視することと2番目に重視することを選択していただいたところ、最も重視することでは、「ホールの規模(客席数)が適切であること」が56.3%(18件)で、他の項目との差が大きい。2番目に重視することでは、「ホールの規模(客席数)が適切であること」と「立地がよいこと」がそれぞれ21.9%(7件)、「利用料金が安いこと」が18.8%(6件)、「公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること」が18.8%(6件)となっている。



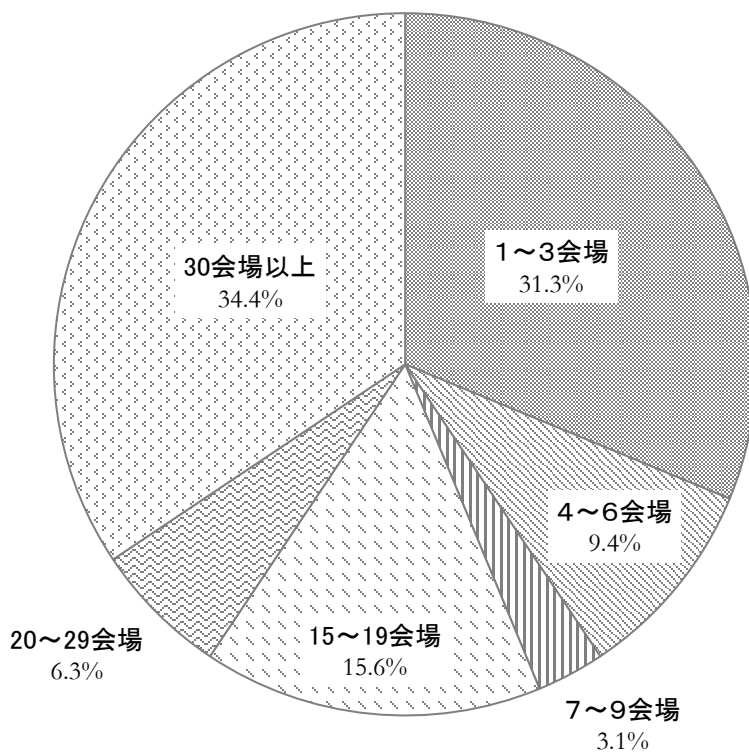
「その他」の具体的な記述

- ・2年度内におさえられること
- ・バリアフリーサービス環境

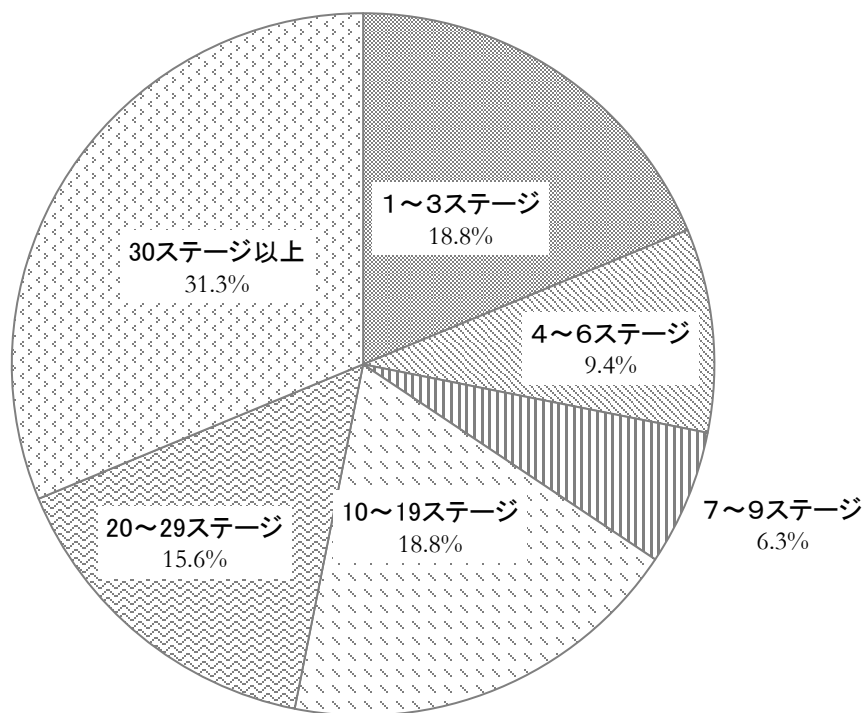
過去3年以内に、国内ツアー（複数地域での巡回公演、主催・招聘の区別、日程の連続・非連続を問わない）を実施したことがあるか伺ったところ、「実施した」が100.0%（32件）となっている。



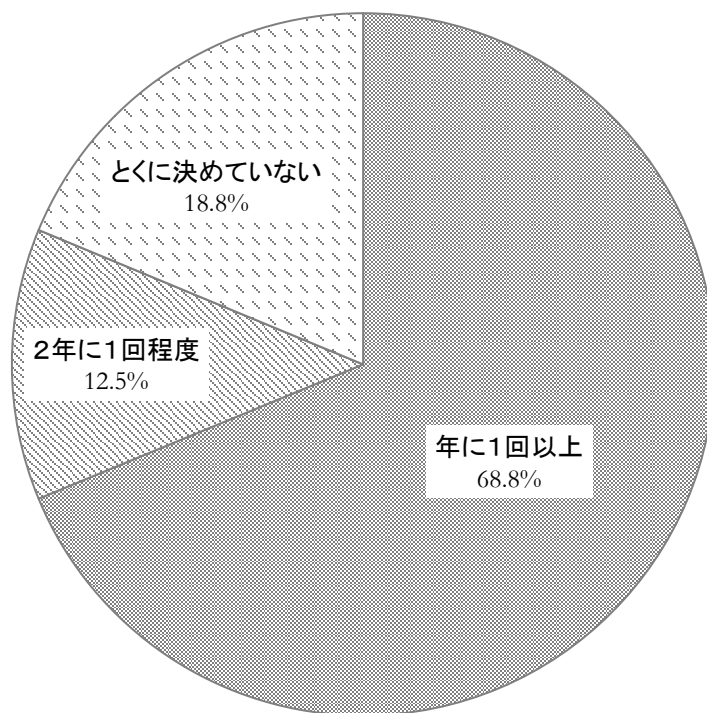
過去3年以内に国内ツアーを「実施した」と回答した団体(31件)の直近の国内ツアーにおける会場数は、「30会場以上」が34.4%(11件)が最も多く、次いで多いのが「1～3会場」の31.3%(10件)となっており、国内ツアーの会場数の差が大きいことがわかる。



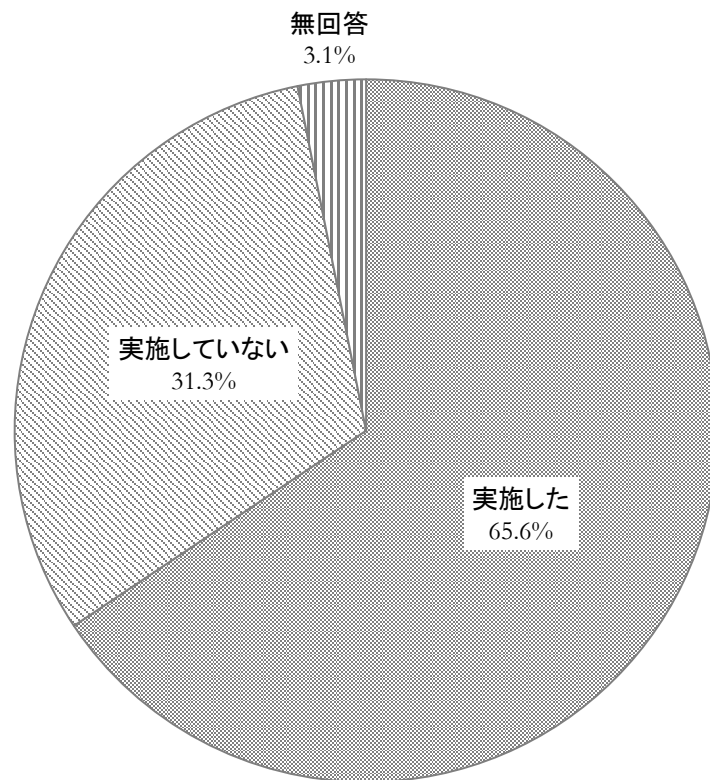
過去3年以内に国内ツアーを「実施した」と回答した団体(32件)の直近の国内ツアーにおけるステージ数(公演回数)は、「30ステージ以上」が31.3%(10件)で最も多く、次いで「10～19ステージ」と「1～3ステージ」がそれぞれ18.8%(6件)、「20～29ステージ」が15.6%(5件)となっている。20ステージ未満の回答を合わせると53.1%(17件)、20ステージ以上の回答を合わせると46.9%(15件)となっている。



過去3年以内に国内ツアーを「実施した」と回答した団体(32件)のツアーを実施する頻度は、「年に1回以上」が68.8%(22件)でおよそ3分の2を占めており、「とくに決めていない」が18.8%(6件)、「2年に1回程度」が12.5%(4件)となっている。



過去3年以内に、北九州芸術劇場以外の会場で九州公演を実施したことがあるか伺ったところ、「実施した」が65.6%(21件)、「実施していない」が31.3%(10件)、無回答が3.1%(1件)となっている。



過去3年以内に、北九州芸術劇場以外の会場で九州公演を「実施した」と回答した団体(21件)に、利用した劇場・ホールの名称とステージ数を自由記述で回答していただいた。回答件数、ステージ数ともに最も多かったのが「ももちパレス」で、回答件数計6件、ステージ数計47回で、平均すると1件の公演で7.8回となる。

回答件数では「ももちパレス」に続いて「熊本県立劇場」が4件、「長崎市民会館」が3件、「佐賀市文化会館」と「ユメニティのおがた」が2件となっているが、ステージ数の計を回答件数で除した平均ステージ数では、「長崎市民会館」が3.0回、「熊本県立劇場」が2.8回、「佐賀市文化会館」が2.5回、「ユメニティのおがた」が1.0回となっている。また、「ぽんプラザホール」と「熊本市男女共同参画センター」では、それぞれ回答件数は1件だが、ステージ数が5回となっている。

□複数のステージ数の回答があった劇場・ホール

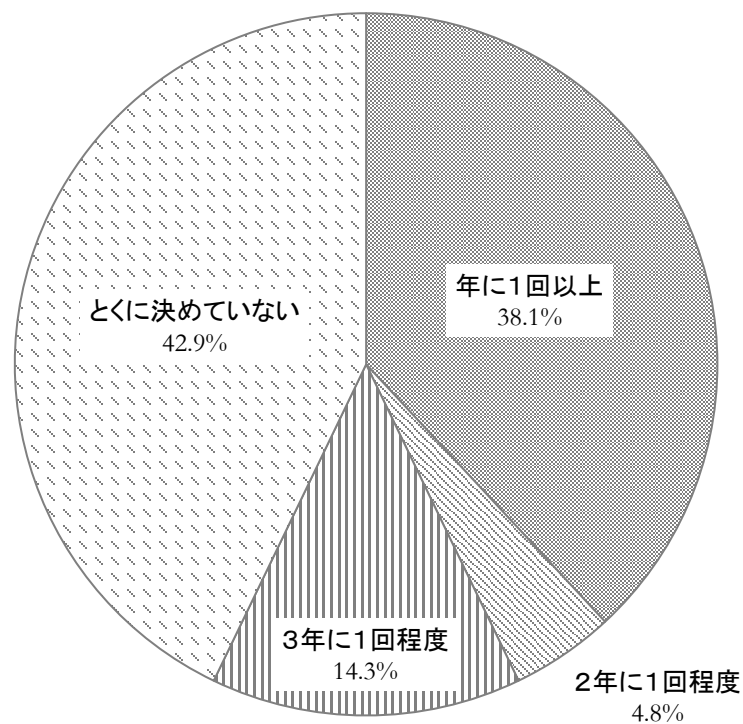
	回答件数	ステージ数 計	平均ステージ数
ももちパレス	6	47	7.8
熊本県立劇場	4	11	2.8
長崎市民会館	3	9	3.0
佐賀市文化会館	2	5	2.5
ユメニティのおがた	2	2	1.0
ぽんプラザホール	1	5	5.0
熊本市男女共同参画センター	1	5	5.0
西銀ホール	1	3	3.0
鹿児島市民文化ホール	1	3	3.0
佐賀市民会館	1	3	3.0
下関市生涯学習プラザ	1	3	3.0
そびあしんぐう	1	3	3.0
キャナルシティ	1	3	3.0
かごしま県民交流センター	1	3	3.0
福岡市民会館	1	2	2.0
黒崎ひびしんホール	1	2	2.0
宮崎県立劇場	1	2	2.0
くまもと森都心プラザホール	1	2	2.0

□上記以外に回答のあった劇場・ホール

福岡市立少年科学文化会館
 布津多目的集会施設
 荒尾総合文化センター
 熊本市市民会館
 唐津市民会館
 都城市総合文化ホールMJ
 小林市文化会館
 宮崎市民ホール
 串間市文化会館
 長崎公会堂
 イイズカコンモスコモン
 福津市中央公民館ホール

過去3年以内に九州公演を「実施した」と回答した団体(21件)の、九州での公演の実施頻度は、「とくに決めていない」が42.9%(9件)、「年に1回以上」が38.1%(8件)となっている。九州での公演の実施頻度には差が大きいことが分かる。

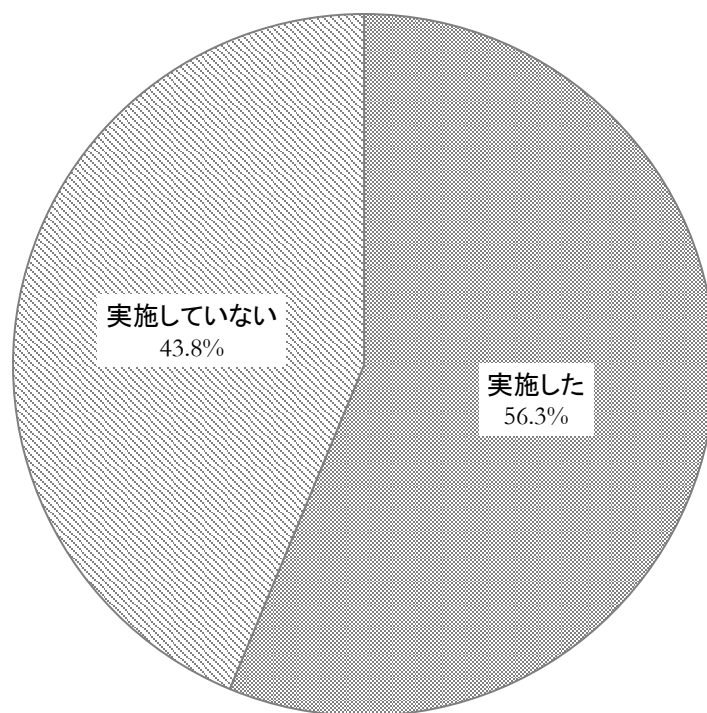
なお、過去3年以内に九州公演を「実施していない」団体も含めた全回答(32件)を母数とすると、「年に1回以上」の団体は25.0%となる。



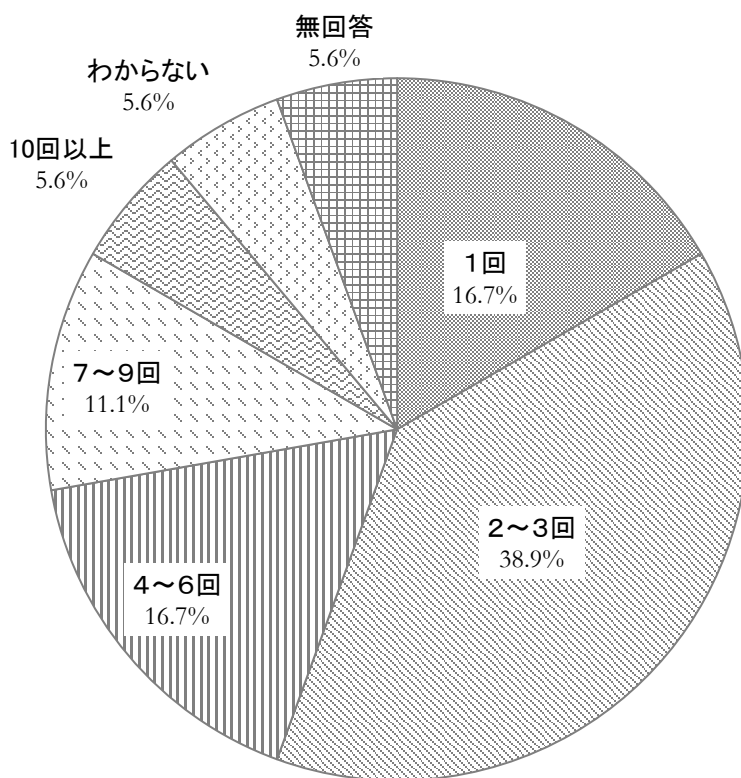
過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を実施したことがあるか伺ったところ、「実施した」が56.3%（18件）、「実施していない」が43.8%（14件）となっている。

先述したように、北九州芸術劇場以外の会場で九州公演を「実施した」団体は21件で、そのうち66.7%（14件）は北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答、33.3%（7件）は北九州芸術劇場では公演を「実施していない」と回答している。

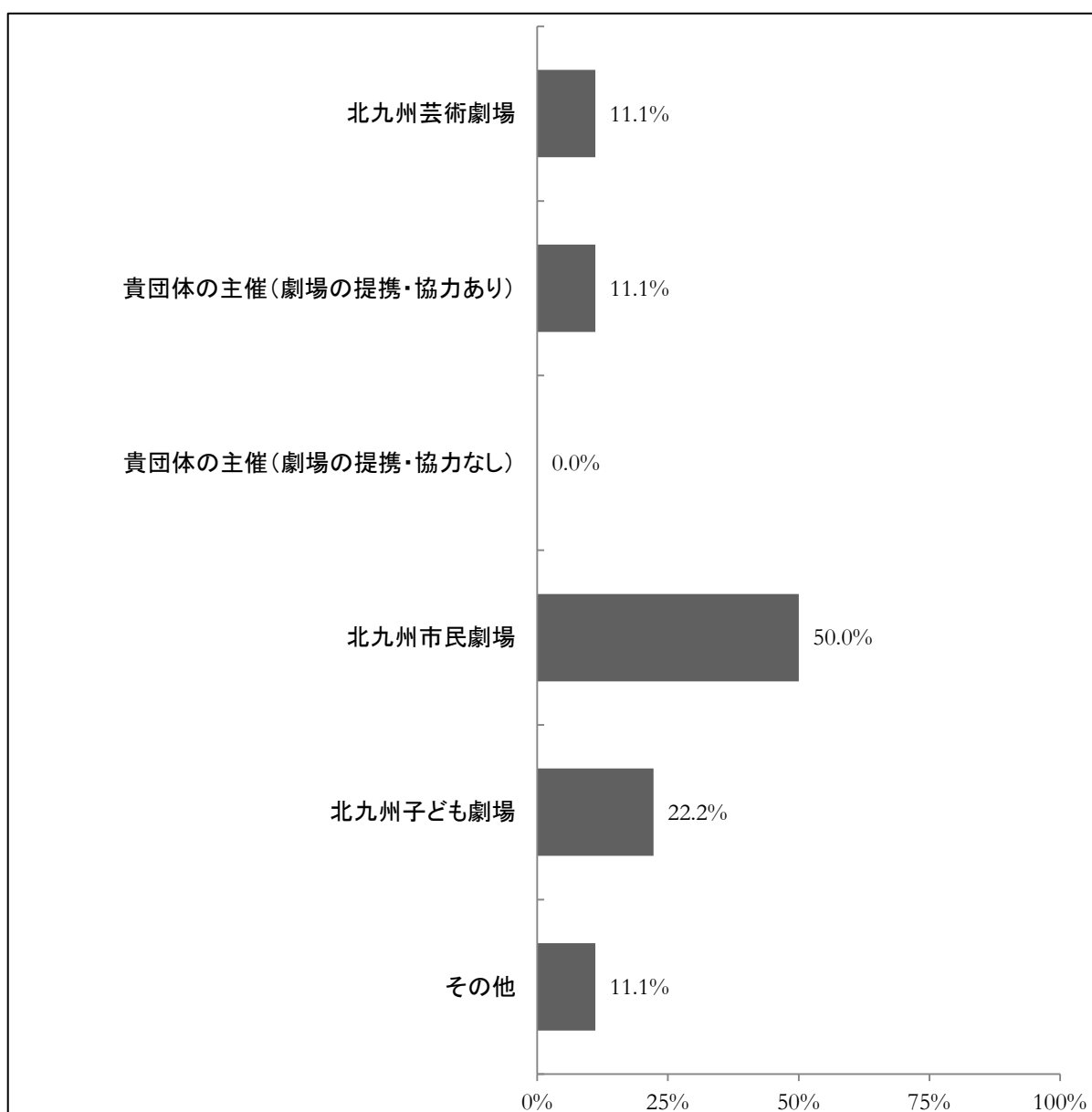
また、北九州芸術劇場で公演を「実施した」団体18件のうち、北九州芸術劇場以外の九州公演を「実施していない」と回答した団体は3件となっている。



過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)の利用回数は、「2～3回」が38.9%(7件)、「4～6回」と「1回」がそれぞれ16.7%(3件)、「7～9回」が11.1%(2件)、「10回以上」と「わからない」がそれぞれ5.6%(1件)となっている。



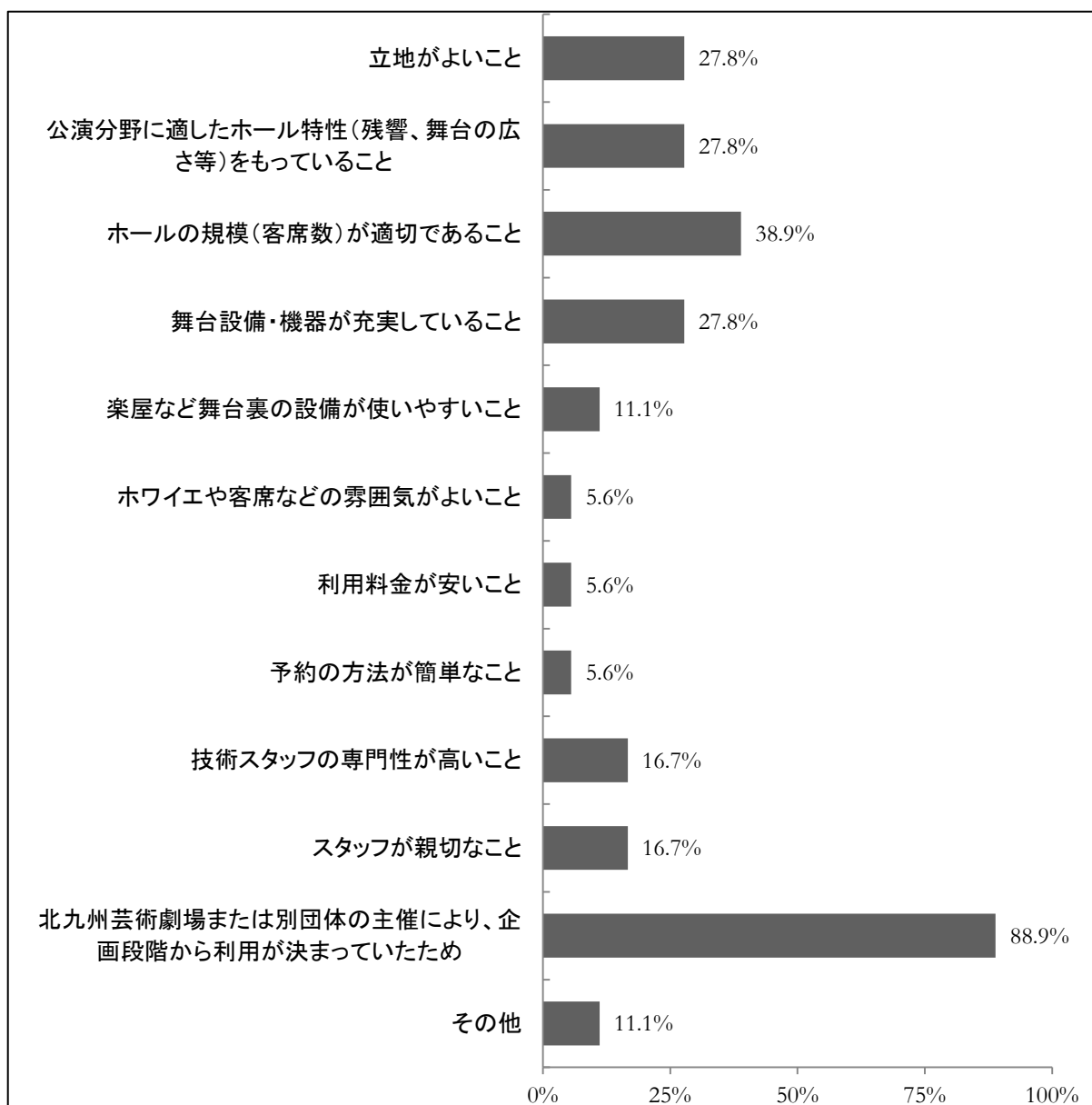
過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)に、公演を行った際の主催者を選択肢を与えて複数回答で答えていただいたところ、「北九州市民劇場」が50.0%(9件)、「北九州子ども劇場」が22.2%(4件)、「北九州芸術劇場」、「貴団体の主催(劇場の提携・協力あり)」、「その他」がそれぞれ11.1%(2件)となっている。



「その他」の具体的な記述

- ・豊国学園高等学校
- ・キューブ

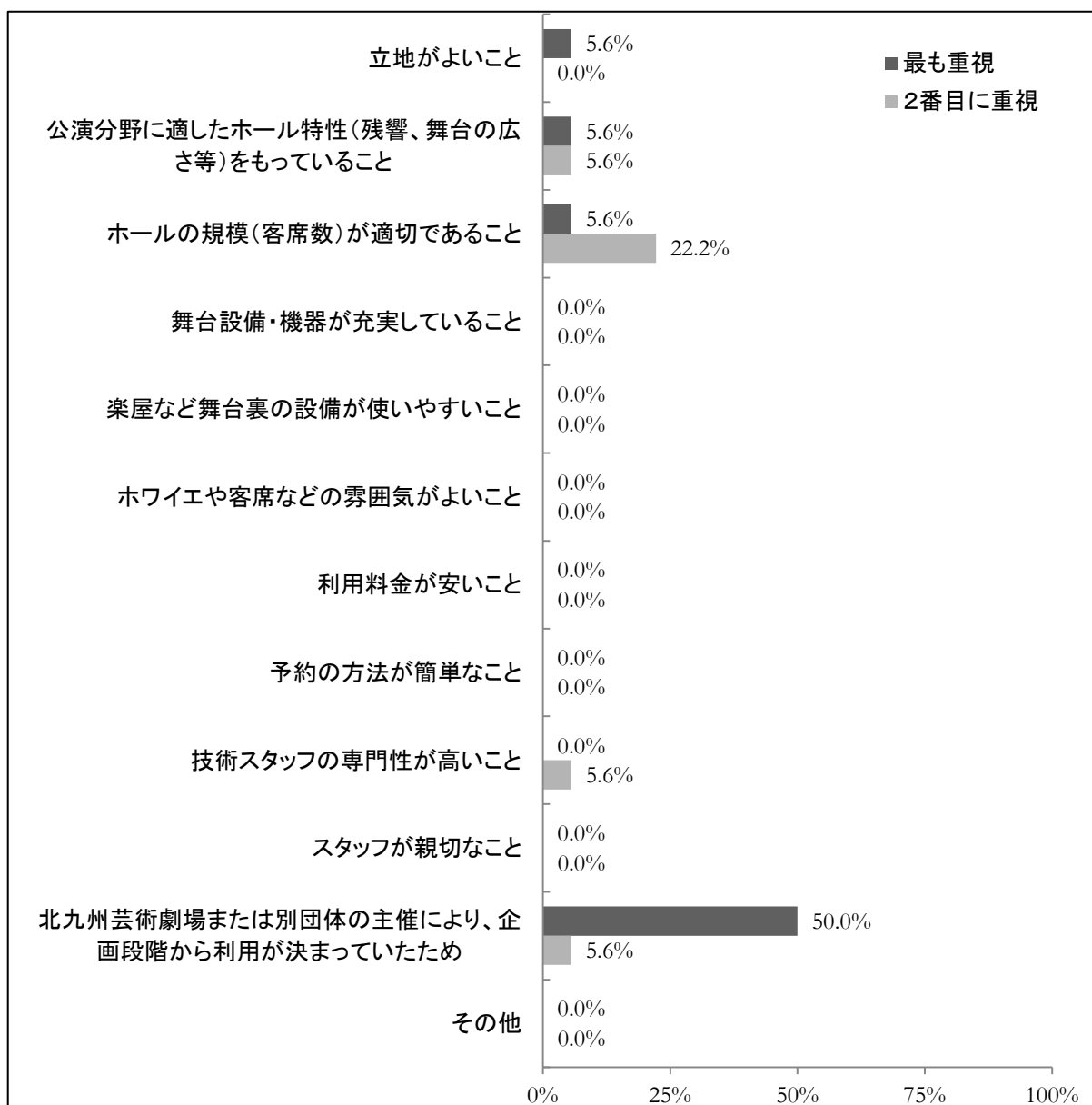
過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)に、北九州芸術劇場を利用した理由を伺ったところ、「北九州芸術劇場または別団体の主催により、企画段階から利用が決まっていたため」が88.9%(16件)で、他の理由よりも圧倒的に多い。次いで多いのは「ホールの規模(客席数)が適切であること」が38.9%(7件)、「立地がよいこと」、「公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること」、「舞台設備・機器が充実していること」がそれぞれ27.8%(5件)となっている。



「その他」の具体的な記述

- ・主催者の指定
- ・継続的に、劇場とコミュニケーションできること。

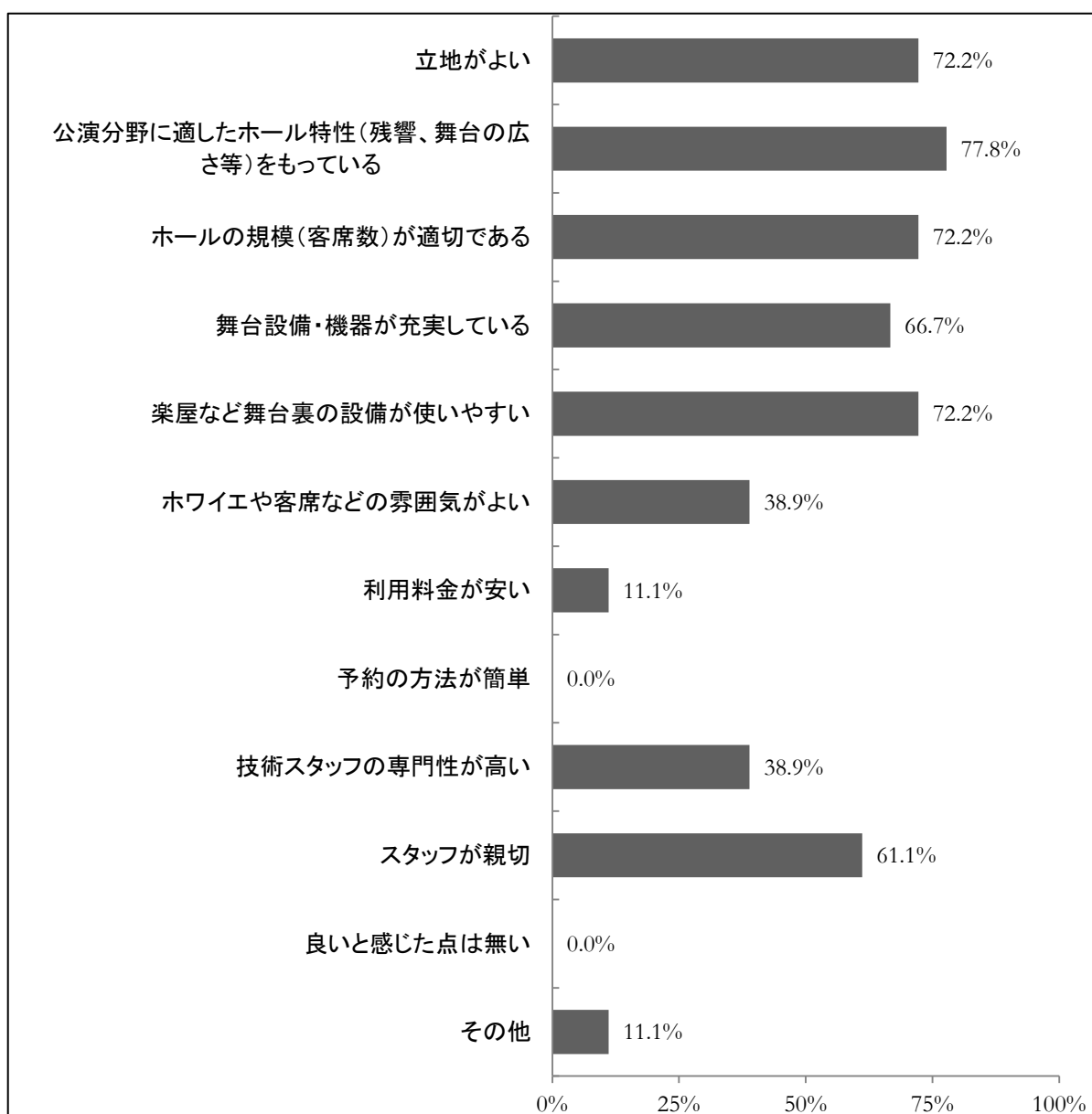
北九州芸術劇場を利用する際に重視することを伺った12項目の選択肢から、最も重視することと2番目に重視することを選択していただいたところ、最も重視することでは、「北九州芸術劇場または別団体の主催により、企画段階から利用が決まっていたため」が50.0%(9件)で、他の項目との差が大きい。2番目に重視することでは、「ホールの規模(客席数)が適切であること」が22.2%(4件)となっている。



「その他」の具体的な記述

- ・2年度内におさえられること
- ・バリアフリーサービス環境

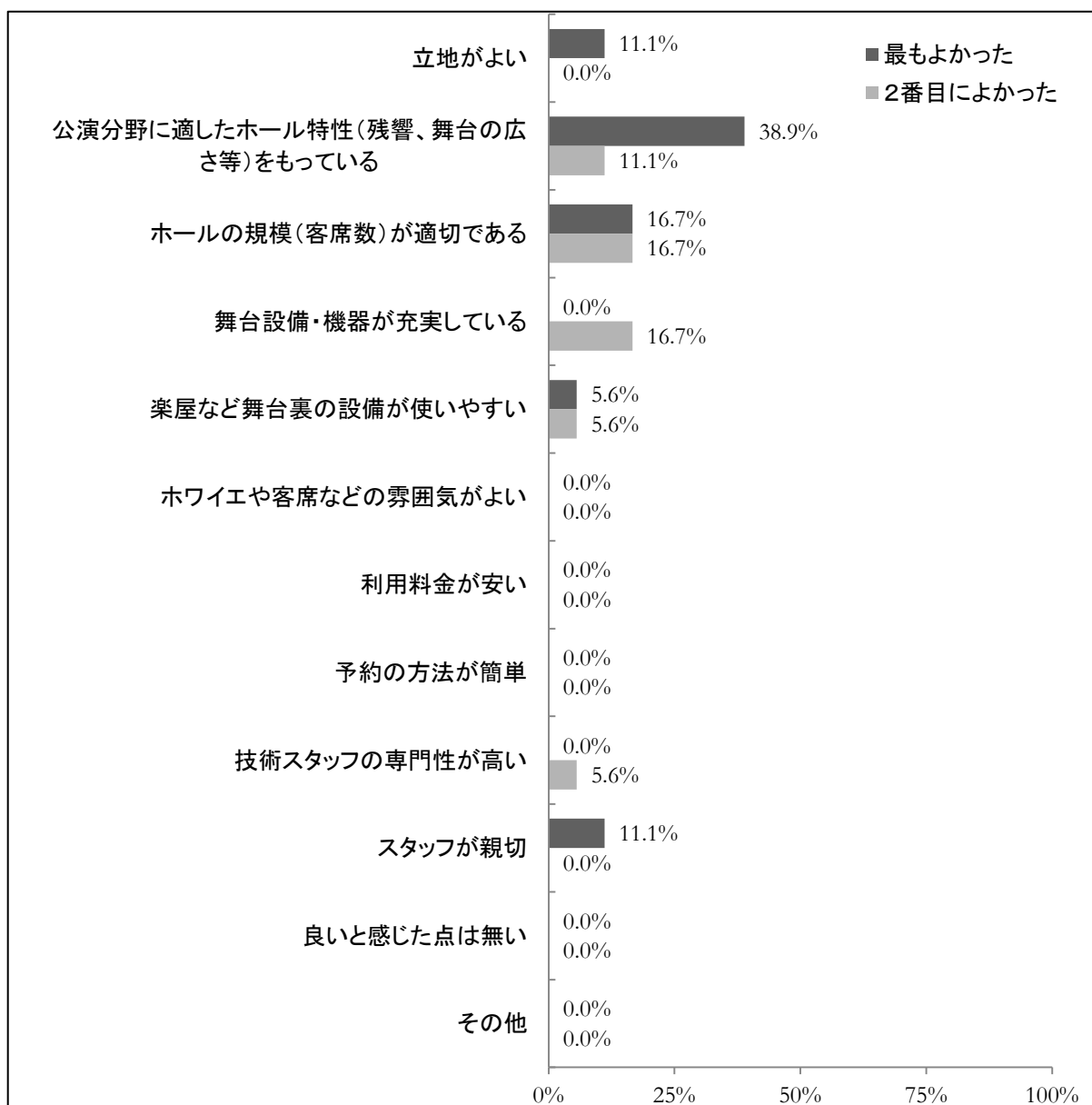
過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)に、北九州芸術劇場を実際に利用して感じたことを伺ったところ、「公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっている」が77.8%(14件)、「立地がよいこと」、「ホールの規模(客席数)が適切であること」、「楽屋など舞台裏の設備が使いやすい」がそれぞれ72.2%(13件)、「舞台設備・機器が充実している」が66.7%(12件)、「スタッフが親切」が61.1%(11件)となっている。



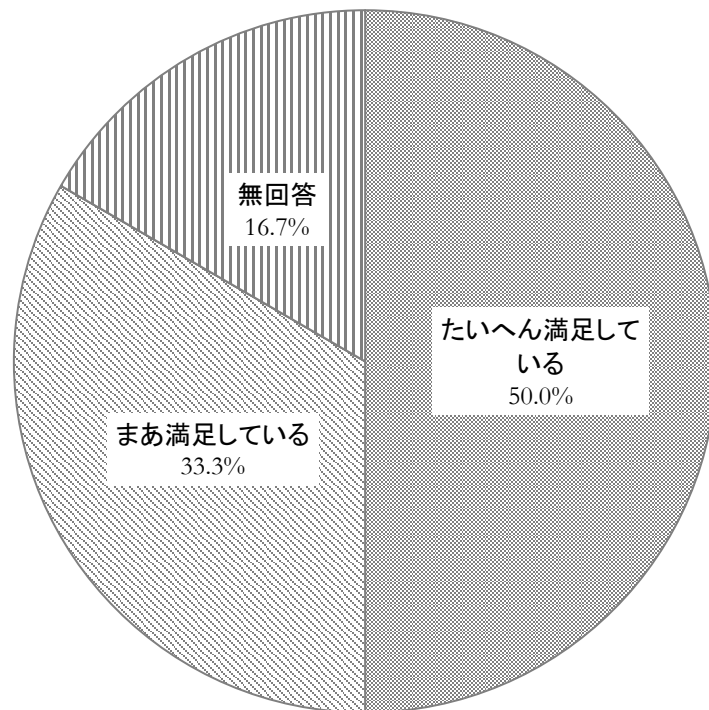
「その他」の具体的な記述

- ・当時の担当者が退職しているので選択不可
- ・公共ホールとしての取組みに共感する。

北九州芸術劇場を実際に利用して感じたことを伺った11項目の選択肢から、最もよかったことと2番目によかったことを選択していただいたところ、最もよかったことでは、「公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっている」が38.9%(7件)で、他の項目との差が大きい。2番目によかったことでは、「ホールの規模(客席数)が適切である」と「舞台設備・機器が充実している」がそれぞれ16.7%(3件)となっている。



過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)に、総合的にみた北九州芸術劇場に対する満足度を聞いたところ、「たいへん満足している」が50.0%(9件)、「まあ満足している」が33.3%(6件)、無回答が16.7%(3件)となっている。



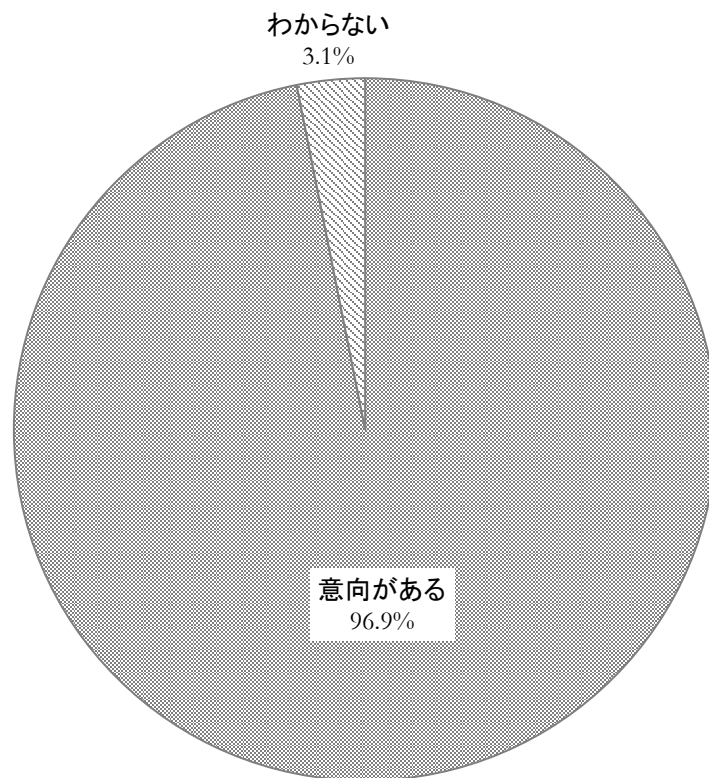
(23) 北九州芸術劇場の良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点についての意見 SQ9-8

過去3年以内に、北九州芸術劇場で公演を「実施した」と回答した団体(18件)に、利用して良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、自由記述で意見を伺ったところ、5件の記述があった。

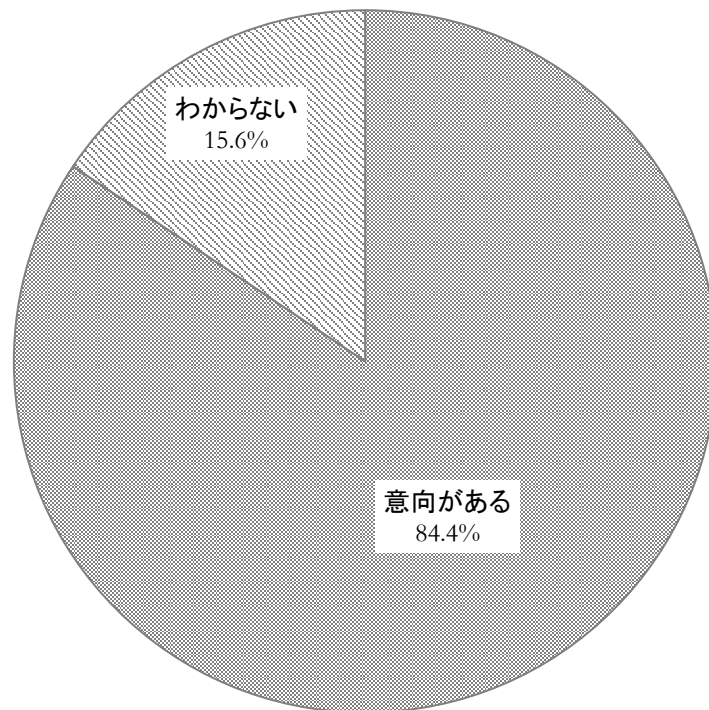
使い勝手や対応の良さに対する満足感を示すものが多い中で、「地元の団体が利用しやすいことが第一」との意見も見られる。

- ・立地がよく、演劇に適した舞台空間と観やすい観客席がいいと感じました。
- ・いつ利用しても裏方表方共に対応が良く、公演を非常にし易いホールだと思います。
- ・いずれも他団体主催公演でしたが、事前のやりとりなど、とてもいねいで、大変助かりました。
- ・市民劇場など、地元の団体が利用しやすいことが第一です。
- ・大変使いやすく良い劇場だと思います。

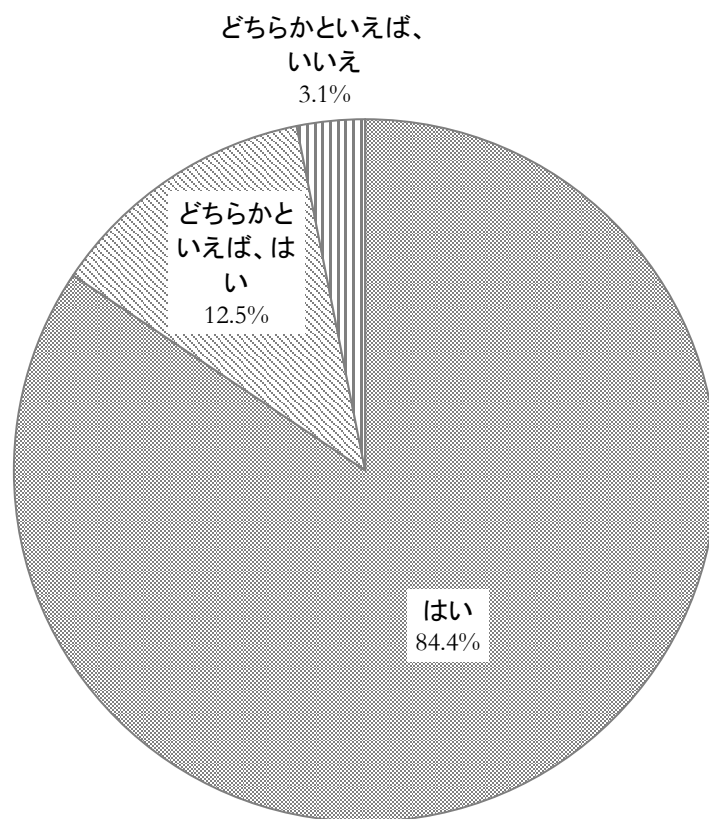
アンケートに回答した32団体に、今後、国内ツアーを展開していく意向を伺ったところ、「意向がある」との回答が96.9%(31件)、「わからない」が3.1%(1件)となっている。



アンケートに回答した32団体に、今後、九州での公演を展開していく意向を伺ったところ、「意向がある」との回答が84.4%(27件)、「わからない」が15.6%(5件)となっている。



アンケートに回答した32団体に、今後、北九州芸術劇場を利用したいと思うか伺ったところ、「はい」との回答が84.4%(27件)、「どちらかといえば、はい」が12.5%(4件)、「どちらかといえば、いいえ」が3.1%(1件)となっている。



(27) 国内の舞台芸術作品の流通において北九州芸術劇場が果たすべき役割についての意見Q9-8

国内の舞台芸術作品の流通において、北九州芸術劇場が果たすべき役割について、自由記述で意見を伺ったところ、32団体のうち9件の記述があった。共通点が見られる記述内容としては、「九州におけるネットワークの拠点性の発揮」、「良質の作品の上演や発信力」、「演劇作品の創造や観客育成」といった点を挙げる事ができる。

- ・九州ツアーを組む時のきっかけになるといいと思います。
- ・地域の観劇団体と連携して、九州での演劇創造を含む拠点としていっそう活動して下さい。
- ・今まで以上に強い発信力。九州で活動する劇作家などの紹介。
- ・市内・県内の小中高などの学校公演や演劇大会などにも広く開かれ、交流の場となるような劇場になって頂きたいです。
- ・地元の活動が活発になるよう特段のご配慮を!! 観客が満足する、質の良い作品を上演し続けて下さい。
- ・福岡は商業演劇のイメージがありますが、北九州での貴劇場の集客だけではない、公立の劇場としての役割は大きいと思われます。今後とも、"劇場、音楽堂等の活性化"にご尽力いただけますよう、よろしくお願いいたします。
- ・主催、貸館、バランス良く配置し、市民の為の劇場であってほしいと思います。
- ・主に、九州地方での劇場ネットワークの充実。中国・四国地方との連携。
- ・九州での演劇を、観客の底上げから創造団体の育成まで、幅広く長年にわたって努力されていると理解しております。今後も特に観客の育成をよろしくお願いいたします。

1. 「舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場」ヒアリング調査の概要

(1) ヒアリングの実施概要

① 調査の対象

- アンケート調査の回答団体(32団体)から、自由記述への記載がある回答者で、北九州芸術劇場の利用実績のある回答団体(2団体)と利用実績のない回答団体(3団体)の計5団体を抽出した。

② 実施時期

- 2016年3月4日、11日(3回に分けて実施、2回は個別ヒアリング、1回は3団体によるグループヒアリング)

(2) 主な調査項目

- ツアー会場で北九州芸術劇場を選択する(しない)理由
- 国内ツアー会場の選択条件
- 地方の文化施設との事業提携等の意向
- 今後の北九州芸術劇場の利用意向

(3) ヒアリング調査の意見概要

① ツアー会場で北九州芸術劇場を選択する(しない)理由

【利用実績のある団体】

◎ 招聘した団体によってあらかじめ指定されている

- 当劇団は、児童劇団として活動しており、この5年間で北九州芸術劇場では4作品を上演しているが、すべて北九州子ども劇場に招聘していただいているので、選択する、しないを当劇団が判断しているわけではなく、北九州子ども劇場で用意していただいたという経緯がある。(劇団 A)
- 作品によって小ホール向き、中ホール向き、大ホール向きなど公演の規模が異なるが、北九州芸術劇場は、どの公演でも対応できる会場。スタッフワークや会場の使い勝手もよく、すごく見やすい。自分が経験した劇場の中でも上位クラスで、よい印象しかない。(劇団 A)

◎ 継続的に公演ができる環境、状況、条件が整っている

- 大阪を拠点に活動している劇団。年間2本の公演をベースに、1本は、大阪、東京、北九州、その他の都市で公演している。北九州芸術劇場を選択している理由としては、継続的に活動できる環境、状況、条件の提示があること。7、8年は公演を続けている。(劇団 E)
- 北九州芸術劇場が開館して2、3年は、集客できるような状況や劇場の受け入れ態勢、スタッフワークが整うまでの訓練期間でもあった。劇場のスタッフは、劇団のスタッフとも協調して、とてもいい関係で、公演を実施し、終了するまで、基本的に何も不満はない。(劇団 E)
- 開館準備の段階から演出家として地域の劇団との交流を深めていたことで、当劇団が公演をすることが、地元の劇団との交流、地元の劇団同士の交流、劇場スタッフと地元の劇団員との交流が生まれ、劇場を利用することにもつながる。お互いのメリットの循環があるから継続できている。(劇団 E)
- 北九州芸術劇場では、トップからの指示、指導が、担当の制作者や技術スタッフにいつも行き届いていると思う。当劇団が慣れているという面もあるので、劇場側の制作担当者の2名のうち1名は新人が付いて、スキルアップの場にもなっていると思う。(劇団 E)
- 北九州芸術劇場を貸館で利用することは、できないことではないにしても、経済的には難しい。東京や大阪では民間の劇場を使っているので、それに比べれば高すぎるわけではないが、九州となると旅費だけでもコストがかかるので、劇場費だけでも抑制されるとありがたい。(劇団 E)

- 北九州芸術劇場の場合は、事業の方針として「育成」を向いている。そういう場所で公演する場合に、動員を増やして興行性を高めていくことよりも、育成に寄与することの意味合いが強い。(劇団 E)

【利用実績のない団体】

◎招聘されていないから／人との関係がないから

- 東京を拠点にしている新劇系の劇団だが、北九州芸術劇場とは、今まで「ご縁がなかった」ということに尽きる。当劇団に九州に基盤がないということも大きい。過去に福岡で子ども劇場の招きで10日間くらい公演をさせていただいたことはある。(劇団 D)
- 当劇団の場合、地方の主催者から招聘されなければ公演しない。地方の公立ホールは、基本的に貸館の利用料金は高いため、劇団主催ではできない。また、地方には東京のような演劇人口があるわけではないので、チケットを売るための組織やプロデューサーがいないと難しい。(劇団 C)
- 九州や中国地方の公立ホールで、劇団の代表の人脈があるなど、先方にパイプ役になる人がいれば公演が可能。それがないところは、集客の手だての見当がつかない。(劇団 C)

◎収益を確保するとすると利用料金が安いから

- 当劇団は、東京だけでなく、各地方都市にも拠点があり、演劇の製作に加えてテレビ・映画の子役の派遣、俳優養成を手掛けている。この数年間、東京本体からの地方公演で、九州・福岡では学校公演を行っている。(劇団 B)
- 福岡本体の制作した公演は、九州では熊本市男女共同参画センター、北九州市立男女共同参画センター、福岡ではぼんプラザホールを使っている。多目的な平土間のスタジオのようなタイプの会場を使うことが多い。(劇団 B)
- 北九州芸術劇場を選択していない理由としては、他の会場に比べて利用料金が安いこと。北九州芸術劇場でできればいいと思っはいるが、2日間、4ステージ程度で収益を上げるとすると、料金が安い。コンテンツとしては、北九州芸術劇場はいいものをつくっていると思う。(劇団 B)
- 地元の子どもたちを集めた演劇を製作するにあたって、北九州で俳優養成のレッスンを受けているのが高校生ぐらいまでで、20歳以上で俳優を目指す大人がいない。福岡市から劇団員がサポートしに来なければならない。(劇団 B)

② 国内ツアー会場の選択条件

◎東京公演がベースで、地方の巡回公演を前提にした作品製作ではない

- 舞台芸術の流通環境という点では、全体的なステージ数は減少の方向だが、舞台を見せたいという創造団体は逆に増えていて、多様化しているので、今までどおりに芝居をつくって観ていただくだけではやっていけないかもしれないと思うときもある。(劇団 A)
- 基本は劇団として主催する東京公演がベース。地方公演で巡回させることを前提にしていない。地方公演では交通費や宿泊費といった経費だけでも高額になるため、東京から出演者・スタッフを全員同行させるのは難しい。チケットが完売する前提でない限り、経済的に厳しいと思う。(劇団 C)
- 東京で上演した作品を地方で上演するにしても、先の公演予定が決まっているので「来年に」というわけにいかない。また、東京の公演のあとに道具等を廃棄してしまうと、作り直さなければならないため、新作と同じ規模の経費がかかる。3、4か所の公演が繋がらないと難しい。(劇団 D)
- 劇団所属の知名度のある俳優がテレビに出演すると、テレビのギャラの一定割合が劇団の収入となり、それで東京での公演を成立させてきたため、地方への巡回公演に依存せずに来た。かつてのように劇団が巡回公演で収益を上げることは難しくなっているのではないか。(劇団 D)
- 劇団員のテレビ出演のギャラのパーセンテージで劇団経営を支えてきた構造も、次第に先細りしてきているため、年間の公演数を減らすという選択肢を取っている。今後は、地方に出て公演の仕事

を取りに行くことも必要ではないか、という内部の議論もある。ただ、東京での公演を成立させることが、まずは大事だという基本的な考え方もある。(劇団 D)

◎劇団が選択するわけではなく「パッケージ公演」の買い取りが基本

- 作品を製作するにあたっては、都内でのいわゆる「手打ち公演」だけでは経済的に難しいため、地方に巡回させたいという希望を前提にしている。まれに実行委員会と当劇団との「半手打ち(共催)」という場合もあるが、地方で手打ち公演を開拓するのは難しい。(劇団 A)
- 地方公演は基本的に公演をパッケージで買い取っていただいて、チケット販促は現地のリスクで行っていただくという形でしか、現実的には難しい。共催、会場費免除で劇団の手打ちでやってほしいというお声掛けもあるが、マンパワー不足で対応が難しい。(劇団 D)
- 当劇団の国内ツアーは、子ども劇場の主催や学校公演が多い。文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」の巡回公演事業のケースもある。九州地方はわりとよく公演を行う。公共ホールの自主事業で呼んでいただく場合もあるが、基本的にはパッケージ公演の委託契約なので、劇場を選択するというよりも、最初から用意されている形だ。(劇団 A)
- 当劇団では、この3年くらい文化庁の「文化芸術による子供の育成事業」の巡回公演事業で北関東エリアの巡回が割り当てられている。(劇団 D)

◎演劇鑑賞組織の会員数の減少、高齢化による流通の変化

- 新劇系の劇団には演劇鑑賞組織(各地の市民劇場などの全国演劇鑑賞団体連絡会議、以下「演鑑」と)のつながりを持つ場合が多いが、当劇団の場合は地方公演に消極的だったこともあり、伝統的に演鑑との関わりがなかった。(劇団 D)
- 巡回公演に関しては、日本児童・青少年演劇劇団協同組合による公演や学校公演がメインでやってきた。80年代に、おやこ劇場の会員が10万人いた頃は、3、4の演目が3カ月間ツアーに出て、年間300ステージ以上、フルステージのような時代もあった。かつて演鑑が「運動」だった時代は、劇団と「つくり合う関係」、演劇作品を通して地域の問題を訴えたいという思いがあった。(劇団 B)
- 演鑑は、高齢化と少子化の両方の煽りを受けてどんどん規模が小さくなっており、年間のステージ数がかかり減少した。現在では、演鑑の「周年記念」のような区切りの年でなければ招聘してもらえない。(劇団 A)
- 基本的に、東京での手打ち公演と、文化庁の巡回公演事業を間に入れることで、ギリギリだが経済的に成立できている。将来を見据えたときに、演鑑も会員数が激減している話を聞くと、巡回公演で演鑑に深く関わっていくことに、どれだけメリットがあるのか疑問。(劇団 D)
- かつては演鑑で呼んでもらう話もあったが、今となっては会員数も減少し、高齢化しているので、自分たちの劇団を呼ぶという話はないだろう。現在の若い世代が小劇場以降なので、演鑑で演劇に触れるという原体験を持たない。個人的な体験になっている。(劇団 E)
- かなり前に、おやこ劇場や子ども劇場に地方公演を頼るのは無理だと判断した。演鑑は、ある程度ネットワークができあがっている。そこに新規参入することが若干難しいので、その方向を計算にいれずに、独自のネットワークをつくっていくしかないという気持ちがずっとあった。(劇団 C)
- 人気投票のような形で作品を選ぶ演鑑もあると聞くと、今では関係性だけではやっていけないところが多い。学校公演にしても、子どもが少なくなっているということに加えて、保護者が学校公演のために費用を出さなくなってきたり、1人あたりの値段設定が低下して、映画を観る半分ぐらいの値段で要求される。その状況は最近ずっと変わっていない。(劇団 A)

◎地方公演の場合に求められる俳優の知名度

- 今までは、劇団所属のベテラン俳優の関係のある劇場から「〇〇さんが出ているから呼びたい」とい

うお声がかかっていた。人と人との関係性で地方公演に呼ばれることが多かった。地方公演では「芝居を観る」というよりは、「俳優を観る」という現実がある。東京もその傾向が強くなっている(劇団 D)

- 地方の劇場は「誰が」が集客に大きな影響がある。テレビで見たことのある俳優を起用すればチケットが売れることはわかっているが、俳優として売れば劇団をやめるし、ギャラも高騰するから巡回公演に連れていけない。(劇団 C)
- 公立文化施設が、指定管理者制度の導入によって、入場者数などの数字を上げられるものにシフトし、その対極に、いわゆる「ハイアート」を扱う劇場も数多くある。その間にある普通の公立文化施設が、どのような公演をやっていくべきなのかが課題。(劇団 B)

◎公共劇場の役割を自覚している人材、組織であること

- 会場を選択するうえで、ハード面で演劇ができる条件が整っていることが前提だが、基本としては、人材。公共劇場の場合、担当者だけでなく、組織の上層部も、文化振興拠点としての役割や、地域とどのように向き合うのか、基本的なあり方を自覚しているかどうか。(劇団 E)
- 地方での演劇振興を演鑑*が主導する時代から、現在は公共ホールが主導する時代に転換している。なおかつ、公共劇場が助成金などを獲得しながら、地域と密着するかというスキルが求められているのではないか。演鑑は公共ホールとリンクしていない気がする。(劇団 E)

③ 地方の文化施設との事業提携等の意向

◎市民参加や人材育成面での事業提携

- 当劇団では、大阪府内の公共ホールで、継続的に10年間くらい市民ミュージカルのお手伝いをさせていただいている。毎年、公演の契約書を交わしており、中長期の提携の協定などはとくにしていない。新潟の支部と新潟市内の公共ホールの共催で、両団体が運営する演劇学校の合同公演を行ったこともある。(劇団 B)
- 広島市内の区民センターがサポートしている演劇サークルに、劇団の代表が講師として夏の3週間ほど指導やワークショップと発表会をお手伝いしている。長く継続的に関わってきたが、今年が最後になる予定。地域の演劇人を育てる取組は、単発になってしまいがちだ。(劇団 C)
- 日本劇団協議会が文化庁の委託による平成27年度戦略的芸術文化創造推進事業で、当劇団の代表が広島と東京での公演の脚本・演出を担当した。地方で演劇をするためには、自分の余暇時間を使った活動、いわばアマチュアであることをある程度覚悟しなければならないし、仕事を持っている人たちは夜の3、4時間しか稽古ができないし、公演も土日で3ステージ以上は難しい。(劇団 C)
- 地方公演では、兵庫県立尼崎青少年創造劇場・ピッコロシアターとはご縁があって公演させていただくことが多い。かつて劇団の俳優がピッコロ演劇学校の特別講師を務め、先々代の故・山根淑子館長とも親しくしていたこともあり、公演をさせていただいていた。(劇団 D)
- 北九州芸術劇場と、とくに事業提携などを結んでいるわけではないが、例年、同じ条件での提携公演をさせていただいている。他の地方の公共劇場で、3年間継続して公演をやる約束を交わしたことはいくつかある。これも人との関係で、書面を交わしているわけではない。(劇団 E)

◎事業提携のための前提条件

- 主体が東京にあるので、地方では稽古が難しい。可児市文化創造センターが文学座を1ヶ月呼んで稽古ができるような状況を整えることができれば素晴らしいと思うが、なかなか難しい。(劇団 A)
- 可児市文化創造センターが開館した当初は、当劇団も子ども向けの演目を継続的に公演していた。そこでも人とのつながりが重要で、担当者が劇場を辞めたあとは続かなかった。現在、地方の劇場との事業提携はやっていない。何らかの事業提携を検討する前提として、そこにかかる人件費の手当

* 演鑑…全国演劇鑑賞団体連絡会議

が担保されていれば、公演以外のワークショップにしても協力を惜しまない。(劇団 D)

④今後の北九州芸術劇場の利用意向

◎ハード面での要件が適していない

- 当劇団が北九州芸術劇場でやるとすると、中劇場では大きすぎる。小劇場では少し小さく、基本的に平土間の空間なので、普通の演劇を観る環境としてはどうだろうか。非常にシンプルな現代演劇か、コンテンポラリーダンスには向いていると思う。(劇団 D)
- 大ホール、中劇場で1階席しか使わないという形でも、できないわけではないと思うが、演者と観客との距離という点でキャパシティは大事。(劇団 D)

◎集客を見込める環境が整うかどうか

- 実際に北九州芸術劇場を利用してみて、本当にいいホールだと実感している。この劇場で、私たちの劇団でなくてもいいから、いい作品をますます上演して、この劇場に来やすい状況をつくってほしい。そういう状況に呼んでいただければうれしい。(劇団 A)
- 北九州芸術劇場を使ってみたいとは思いますが、満席にする自信がない。作品にもよると思うが、ある程度劇場側が集客を担保することがあれば、少し考えることができる。(劇団 C)

◎観客や人材の育成面での劇場と劇団の協働

- 北九州芸術劇場は地域の活性化に対して強い思いを持っている劇場だと思うが、北九州にある支部からは、北九州で演劇を観る人口はそんなに伸びていないのではないかと話を聞いている。地域からの発信だけではなく、北九州市民の生活の中に舞台芸術を入れていくことを、一緒に考えていければいいと思う。(劇団 B)
- 自分の劇団だけの問題ではなく、演劇に関わる人たちが、演劇の観客を育てることができるようにならないかと常々思っている。そのサポートになるワークショップをやるということでお付き合いをさせていただくことができるといいとは思っている。(劇団 C)
- 劇団として35年間活動していると、経験年数の多い団員、少ない団員など様々な人材がいるので、様々なコラボレーションが可能にある。実現可能かどうかは別として、北九州芸術劇場の事業に劇団ごとに関わることができないか。例えば地元劇団との合同公演とか、劇場で稽古から新作を立ち上げるとか。(劇団 E)

◎舞台芸術の流通における北九州芸術劇場への期待

- 地方の公共劇場の役割として、北九州芸術劇場には、ぜひ九州出身の小劇場の優れたユニークな劇作家を発掘し、東京に紹介してほしい。例えば見本市のような形式で、短期間でいいので、九州の劇作家の作品を集めて、九州から東京に向けた発信をしてはどうか。(劇団 D)
- 北九州芸術劇場のような劇場が、3、4か所の劇場と連携してツアーを組むような体制ができればいいが、それも難しいだろう。当劇団のイニシアチブで劇場をつなげて時期を合わせて、手打ち公演をしていくことが正攻法かもしれない。ただ、そうすることで経済基盤の強化に効果があるのか、まだわからない。(劇団 D)
- 100席から200席くらいの小規模の劇場のネットワークは必要だと思う。九州・中国地方のネットワークを北九州芸術劇場がつくってバックアップしてくれればいいと思う。(劇団 E)

北九州芸術劇場事業評価調査(その12) 報告書

調査・発行 | 公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11
tel. 093-562-2655 fax. 093-562-2588

調査委託 | 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室
〒100-0073 千代田区九段北4-1-7
tel. 03-3512-1883 fax. 03-5211-1084

発行日 | 2016年3月

©(公財)北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
(株)ニッセイ基礎研究所
無断転載・複写を禁じます。